あなたの知らない 奈良の かつらぎさん

ーかつらぎガイドブックー

自由空間ゼロ + かつらぎ探険隊 + 大阪芸術大学デザイン学科
編著

出版にあたってのお断り

奈良盆地の南西地区は、古くから葛城（御所・大和高田・香芝・葛城・北葛城）と呼ばれてきました。この本「あなたの知らない奈良のかつらぎさん」は、この地域の小中高校生や市民グループの方々、さらには大阪芸術大学・デザイン学科の学生諸君の協力のもとに、葛城に暮らす人たち、あるいは過去に生きた人たちの営みを通して、葛城の魅力を多面的にとらえ、「本」にしてしまおうと企画されたものです。

しかし葛城は広く、また暮らす方々もユニークな方々が多く、どれ一つをとっても、とても一冊の本に紹介できるものではありません。当初、二五〇ページを予定していた本文も、三七〇ページまで膨れ上がりましたが、それでも足りるものではありません。

という次第で、ここに紹介する葛城は、あくまで一面にしかすぎず、取材対象も網羅的ではなく、恣意的に行われたものであることをお断りしておきます。

さらには北葛城といわれる地域も、広陵町のみを対象とし、河合町や上牧町、王寺町については、ついにカバーしきれませんでした。いつの日か、改めて再挑戦したいと願っております。

※各章のトビラデザインは、大阪芸術大学・デザイン学科の学生の方々に腕を振るっていただきました。編集にあたっては、統一感を出すことよりも、学生の方それぞれの個性が出るよう配慮し、章のタイトルについても漢数字、算用数字の統一はあえて行っておりません。

あなたの知らない 奈良の かつらぎさん

―かつらぎガイドブック―

推

もくじ

“かつらぎさん“発刊に寄せて ／ 広陵町長　山村好由 p4-5

多くの方々に、この本を読んでいただくことを期待しています
／ 大阪教育大学名誉教授　菅野耕三 p6

技

第一章　かつらぎのマイスター

刀剣の世界 p8-17
一、かき氷と刀／二、御刀研處・真澄庵／三、美術刀剣研師「大越明友」さん
紙でつくる昆虫の世界 p18-24
ドールハウスと大和鉄道 100 周年 p25-35
一、大和鉄道って何？／二、はしお元気村／三、箸尾駅舎完成／四、ドールハウスフェア／
五、広陵かぐや姫まつり
丸山手工ギター工房 クラフト M p36-39
晃炎陶芸教室 p40-43
コラム／ Paula（パウラ）のインスタ風かつらぎ 1 p44

動

第二章　かつらぎの動物たち

かつらぎの保護猫 p46-52
一、Cat Time NA-RA ／二、猫カフェ SHANA
コラム／田中美羽の「かつらぎたんさく日記」1 p53
御所のオオカミ犬 p54-63
一、蛇穴という地名／二、オオカミ犬／三、獣害対策／四、カムイとイブ／五、オオカミ犬と犬
おうちカフェわんこ堂 & わんダフルな仲間たち p64-79
一、おうちカフェ「わんこ堂」／二、パピー犬のオーちゃん／三．盲導犬訓練所入所式／
四、わんダフルなモーニング　わんダフルな仲間たち
コラム／馬見丘陵公園の小鳥たち p80-81
新庄乗馬クラブ　人と馬の関係 p82-89
一、トリビューンのこと／二、サラブレッドの歴史／三、新庄乗馬クラブ／
四、兵器としての馬の歴史／五、人間にやさしい馬たち
広陵町にあったメダカの学校 p90-93
コラム／ Paula のインスタ風かつらぎ 2 p94

子

第三章　かつらぎの子どもたち

かつらぎの子どもたちと本 p96-120
一、御所おはなしの会と大正小学校／二、絵本図書館をつくろう（河合町）／
三、香芝のまめ文庫（香芝市）／四、自遊空間ゼロ（広陵町）／五、広陵町立図書館（広陵町）／
六、香芝市民図書館（香芝市）／七、絵本作家を目指して

コラム／全国の葛木さ〜ん！ 日本で初めて孤児院をつくった葛木氏 p121

子どもたちを見守る市民活動 p122-137
一、ＮＰＯ法人 Ｔ-seed ／二、子ども取材班出動！／三、地域交流 空間エンジェル
四、子育てを応援する会／五、庭カフェ「ぽちぽっち」― こども食堂

関屋鉄道ミニ SL の夢 p138-143
一、関屋鉄道って… ？／二、ディズニーの夢／三、Ｃ５８２２を自宅に！

コラム／ Paula のインスタ風かつらぎ 3 p144

産

第四章　かつらぎの地場産業

かつらぎの酒 p146-167
一、梅乃宿酒造株式会社／二、油長酒造株式会社／三、奈良こそ清酒誕生の地 !!

御所のお薬 p168-176
一、配置薬と明治維新／二、反魂丹（はんごんたん）と三光丸（さんこうがん）／三、和薬の原点「陀羅尼助（だらにすけ）」
四、和薬 vs 漢方／五、紫微垣丸（しびえんがん）から三光丸へ／六、三光思想と三光丸

靴下の町 広陵町 p177-189
一、広陵町は靴下の町！／二、奈良県が消えた！／三、人間はいつ靴下を履いたのか？
四、日本の靴下の発祥／五、編み物としての靴下へ／六、大和木綿から靴下へ／おわりに

三宅町とグローブ p190-195
一、ベースボールから野球へ／二、三宅町がグローブの町に／三、ふるさと納税にグローブが！

コラム／ Paula のインスタ風かつらぎ 4 p196

珈

第五章　かつらぎのカフェ 南葛城編

郵便長柄館テガミカフェ p198 ／モリソンカフェ p200 ／さんろくカフェ p202 ／ほっこり村 p204 ／
酪農カフェ「酪」p206 ／中将堂本舗 p208 ／味のかけ橋 p209

コラム／阿弥陀如来の古民家「勝右衛門」 p210

男

第六章　かつらぎの古人　男性編

相撲のはじまりは公開処刑？ p212-219
一、天覧相撲／二、当麻蹴速（たいまのけはや） vs 野見宿禰（のみのすくね）／三、相撲神社とカタヤケシ

白鳥陵の倭武尊 p220-225
一、古事記のまつり／二、白鳥伝説／三、御所の白鳥陵

大津皇子と持統女帝 p226-243
はじめに／一、鵜野讃良皇女（うののさららのひめみこ）の誕生／二、大田皇女（おおたのひめみこ）／三、壬申（じんしん）の大乱／
四、讃良皇女（さららのひめみこ）、権力に目覚める／五、天武天皇の子供たち／六、大津皇子の悲劇／
七、大津皇子の刑死／おわりに

コラム／かつらぎの珍をてがき 的場大輝 p244-247

コラム／田中美羽の「かつらぎたんさく日記」2 p248

女

第七章　かつらぎの古人　女性編

かぐや姫はペルシャのお姫さま？ それとも葛城国のお姫さま？ p250-265

一、かぐや姫ミステリー／二、かぐや姫はペルシャの姫君？／三、かぐや姫は葛木国のお姫様？

大伯皇女と中将姫　巫女から尼へ p266-287

一、中将姫のものがたり／二、神さまの中央集権／三、初めて斎宮となった大伯皇女／四、斎宮を退下した大伯皇女／五、巫女の時代／六、仏教と巫女たち

コラム／お家に古墳！？ in 御所市 p288

中将姫物語　CHUJO PRINCESS p289-296

コラム／田中美羽の「かつらぎたんさく日記」3 p297

コラム／ Paula のインスタ風かつらぎ 5 p298

世

第八章　かつらぎから世界へ

金子みすゞと民芸品の店「和」p300-307

一、青いお空のそこふかく／二、民芸品の店「和」／三、ネパールみすゞ小学校／四、ネパール語「ほしとたんぽぽ」

国際理解セミナー　グローバル香芝 p308-321

一、香芝市国際交流市民の会「グローバル香芝」／二、マルチンさん、ポーランドを語る／三、国際理解セミナー／四、ユーラシア大陸 自転車オンナー人旅

ある英語教師の挑戦 p322-333

一、本州一の過疎の村へ !! ／二、杉本少年、英語に目覚める !! ／三、杉本青年、教育に目覚める !! ／四、全日本中学校英語弁論大会 !! ／五、杉本先生、教職を去る !! ／英語弁論大会に出場して／英語弁論大会スピーチ原稿「I am a treasure」

コラム／屯鶴峰地震観測所 p334

珈

第九章　かつらぎのカフェ 北葛城編

かぐやカフェ p336 ／Pancake＆Cafe そらみる p338 ／ cafe'de からん p340 ／大仏 Cafe p342 ／ Good Job! Center 香芝 p344 ／ココロ森のカフェ p346 ／Cafe クローバー p348 ／ふくみみ Cafe p350

コラム／田中美羽の「かつらぎたんさく日記」3 p352

防

第十章　かつらぎの自然と防災

p353-364

一、菅野耕三さんという地質の先生 ／二、石とは何か／ 三、葛城地区は、昔、海だった／四、人間が利用してきた二上山の石／五、約一〇〇万年前の海／六、アズキ火山灰層／七、自然災害に対する備え

ス

スタッフ紹介

p365-369

大阪芸術大学チーム ／応援団チーム
御所市チーム／ 香芝市チーム／広陵町チーム
編集工房 DEP チーム

〝かつらぎさん〟発刊に寄せて

広陵町長　山村好由（やまむらよしゆき）

葛城（かつらぎ）地域の情報をまとめて出版されることは、広陵町図書館のかぐやカフェで桐生さんにお目にかかったときに聞かせていただき、楽しみにしていました。いよいよ発刊できるので推薦文を寄稿（きこう）してほしいと要請を受け、ゲラ刷（ず）りの本文をいただき、わくわくしながら読み進めると、どのテーマも引き込まれるように感じました。そして、私が推薦文を書かせていただくなんておこがましすぎると思ってしまいました。

本当にすばらしい企画で、葛城地域の生き生きとした暮らしと歴史を紹介いただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

葛城地域は、古い歴史があり数々の文化財があります。その宝は、今日までこの葛城に住む人たちによって守られてきました。奈良や飛鳥、法隆寺などと比較しても劣（おと）らないものがたくさんありますが、情報発信力が弱く、あまり知られていないというのが本当のところです。

そんななかで、今回出版いただける「かつらぎさん」は、葛城の魅力（みりょく）を感じていただける、すばらしい編集になっています。ぜひ手に取っていただいて、葛城地域の魅力に浸（ひた）っていただきたいと思います。

「かつらぎさん」とタイトルがつけられていて、「ひと」をイメージして編集されていてあたたかさを感じます。葛城地域で活躍されている個人やグループ、動物愛護に取り組まれている方々や、きめ細かく取材されての文章に流れているのは「愛」です。

葛城地域は、金剛山、葛城山、二上山と神秘的な山々が連なり、その麓（ふもと）に開けた地域で、自然が豊かで、悠久の歴史に育（はぐく）まれたすばらしい地域です。その葛城地域を取り上げ、「かつらぎさん」出版を企画いただいた編集工房ＤＥＰ・自遊空間ゼロの桐生敏明様、大阪芸術大学の皆様はじめ編集に関わっていただいた方々に心から感謝申し上げます。

「かつらぎさん」発刊で、令和の時代の葛城地域の魅力が、更に高まると期待しています。

多くの方々に、この本を読んでいただくことを期待しています

大阪教育大学
名誉教授
菅野 幸三

「あなたの知らない奈良のかつらぎさんーかつらぎガイドブックー」の原稿、読ませていただきました。

多くの人が調査に出かけ、多くの情報を集められて原稿を作られていることによってこの本が出来上がることに、感心いたしました。

また、第10章に自遊空間ゼロで講演しました「かつらぎの自然と防災」を適切・簡潔にまとめ、本に載(の)せていただき、光栄に思います。

今、奈良県には人口減少が起こっています。それを防ぐには、多くの人たちに自分の住んでいる町の魅力を知ってもらうことが、重要だと思っています。

この本によって、かつらぎ地域のこれだけ多くの特色ある場所とユニークな魅力的な人がいることを知りました。この本はできあがれば、まさしくそれに見合った本になりうるわけです。

また、これだけ魅力のある町なら、「移り住んでみようかな」と思ってもらえましょう。

多くの方々に、この本を読んでいただくことを期待しています。

第一章　かつらぎのマイスター

大阪芸術大学 デザイン学科　的場大輝

刀剣の世界

大越明友（美術刀剣研師）
御刀研處・真澄庵

一．かき氷と刀

今からおおよそ八百年ばかり昔のことになりますが、大阪は三島郡の水無瀬というところに後鳥羽上皇の離宮がありました。今では、東海道本線の西側、「島本駅」と「山崎駅」の間に小さな「後鳥羽上皇水無瀬宮跡」の碑があるだけですが、この離宮で後鳥羽上皇勅撰の「新古今和歌集」が編纂されていたのです。

刀とどんな関係があるのかって？

そうですね、「和歌と刀」、一見関係なさそうですね。おまけに小見出しに「かき氷と刀」と掲げてしまいましたので、これではまるで謎かけ話です。

さっさと種明かしにかかりますので、しばらくお付き合いください。

後鳥羽上皇が天皇として即位されたのはまだ四歳の頃です。しかも同時期に平家のかつぐ安徳天皇は六歳で、源平合戦のさなか、二人の幼年天皇が両立していたことになります。この二年後、安徳天皇は、三種の神器を抱えたまま壇ノ浦に身を投げられ、平家は滅びるに至りました。

さて、この後、源氏の手で、海底から、三種の神器のうち、「鏡」と「勾玉」は回収されましたが、神剣である「草薙剣」だけは見つけることができませんで

した。となると、後鳥羽天皇は、史上初めて、神剣がないまま即位された天皇ということになります。

　これがコンプレックスになったのでしょうか、十九歳で土御門天皇に譲位され、後鳥羽上皇となられるや、紀新大夫行平という刀工を召し出し、行平から鍛冶の術を習われたと言うのです。そればかりか、この水無瀬離宮に番鍛冶と称して、刀鍛冶の工房を構え、二ヶ月交替で、四人の奉行、二人の刀匠に奉仕させ刀を打つようになりました。この番鍛冶に選ばれるのは大変な名誉でありましたが、上皇自らも刀を打たれ、上皇が打った太刀には菊花紋をつけ、これら太刀は「菊御作」の太刀と呼ばれるようになったと伝えられています。

後鳥羽上皇水無瀬宮跡の碑

　つまり、水無瀬離宮とは、和歌所として歌人たちのコミュニティの場でもあり、刀鍛冶の工房でもあったわけです。まさに文武両道に優れた後鳥羽上皇ならではの離宮運営であったと言えるでしょう。

　しかし、こんなエピソードがあります。夏のさかり、この離宮に藤原定家や鴨長明ら十四名の寄人、つまりは「新古今和歌集」編纂のためのスタッフになる訳ですが、彼らが汗をかきかき編纂や校閲作業にあたっているとき、これをねぎらうため、上皇自ら氷室の氷を取り寄せ、これを削って甘葛の蜜をかけ「かき氷」としてふるまったというのです。しかも、その氷を削ったのが、上皇自ら打った「菊御製」の太刀であったと言います。

　太刀は神事の道具から戦闘の道具へと進化し、馬上戦闘に適したよう直刀から今のようなそりのある刀へと変化していきました。想像してみてください。

上皇が、たすき掛けで、自ら打った刀を両手で持ち、氷室から取り寄せた氷にあてがい、かんなのように削っている様を……。

これではまるで「刀」というより、「包丁」を便利使いしている感覚です。これが後世になると、「武士の魂」だとか、「刀を手で触れる等もってのほか」となるのでしょうが、後鳥羽上皇だからこそできたパフォーマンスだと感心せずにはおれません。

二、御刀研處・真澄庵

「探してください、迷ってください、迷ったら町の人にたずねてください。」

これは、大阪市の平野区にある「平野町ぐるみ博物館」のキャッチですが、その触れ込みどおり「幽霊博物館」をはじめ、二十近い民家博物館が平野本町を中心に点在し、地図なしでは、なかなかに行き着くのに苦労します。

その一つにお目当ての「かたなの博物館」、正式には「御刀研處　真澄庵」があります。この博物館は、御所で刀剣の研師をする「大越明友」さんの師匠真津仁彰さんが運営されているのです。

ここでは常時、研磨作業の実演を見ることができますし、まずはここで刀剣に関する知識を仕入れておくことにしましょう。

現代刀は実際に使われるのではなく、美術品として進化してきたのですが、では、その美術品の刀剣をどのように鑑賞すればよいのでしょう。基本的に好きに鑑賞し、好きに感じたらいいと思うのですが、まずは「真澄庵」

さんから頂いた手引書で基本を押さえておきます。

1．まず、反り具合、身幅、重ね（厚み）、切っ先の大小などの姿がら、製作された時代を推察する。

2．折リ返し鍛錬された時に生じる鍛接面、いわゆる木材に現れるような、板目、柾目、杢目といった地肌により、国や流派の特徴を見る。

3．焼き入れによって生じた、刃文を電球にかざす事により、浮かび上がる焼き刃の形や働きと言われる「沸」「匂」「金筋」「砂流し」「足」「葉」などの状態を仔細に見る。

4．御刀の顔とも言われる、「帽子」（切っ先の刃文）を見る。

5．最後に「茎」と呼ばれる柄の中に納まる部分の形状や時代の錆色、「鑢目」、在銘であれば刻まれた刀工の銘を見る。

という具合です。

以上は、「御刀研處・真澄庵」から頂いたパンフレットから転載させていただきましたが、こんなことを少しでも知っておいたうえで鑑賞してみると、今まで漠然と、何を見たらいいのか分からず、「ただすご

いなあ、きれいだなあ」と感じていただけのものが、今度は、刀のほうから、あなたに向かって語りかけてくるかもしれません。

さて、僕が真澄庵さんを訪ねた時、幼さをまだ顔に宿した青年が応対してくれました。

聞けば新たに入門したお弟子さんだとか、彼も刀に心を奪われた一人なのでしょう。

それはさておき、下地研ぎ、仕上げ研ぎ、磨きと、一通りの工程を展示資料で見学させていただき、研ぎのあらかたを知ったうえで、いよいよ本番です。

御所市の美術刀剣研師「大越明友」さんについて紹介させていただきたいと思います。

真澄庵　真津仁彰さん

――が、「真澄庵」を去る前に、せっかくですから、師匠の真津仁彰さんに大越明友さんの印象をお聞きすることにしました。

真津さんは、大越さんについて

「とにかく研究熱心。刀剣の展示会があれば必ず出かけていき、目を肥やすことに労を惜しまず、資料を調べよく研究する。そのうえで分からないことや行き詰まったときは相談にやってくる。技術だけでなく、頭も使って伸びていく。これからの時代の人やなあ」

と感想を述べてくれました。

それを横手で食い入るように聞いている新しいお弟子さん。その幼い真剣さが心に響いてきました。

下の写真は、横綱白鵬の守護太刀を真津さんが研磨したときの写真です。

太刀自体は、月山貞利（がっさんさだとし）さんがつくり、綾杉肌（あやすぎはだ）の波紋を美しく出せるのは真津さんしかいないと、特に頼まれての仕事だといいます。

※大阪市平野区平野本町三―八―一
開館は、午前十時～午後五時
不定休
TEL 06-7657-8825

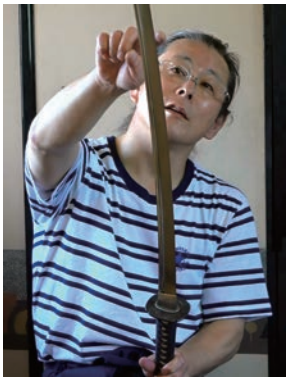
かたな博物館の外観（下）と入り口（上）

三．美術刀剣研師「大越明友」さん

二〇一八年七月二十日午前十時、近鉄御所線「尺土駅」で、大阪芸術大学のメンバー三人を拾い、車で御所市豊田にある大越さんの工房に向かいます。

普段はバラバラに取材活動を続けており、芸大のメンバーと共に行くのは今回が初めてです。

今回は、このメンバーの他に、御所市役所まちづくり推進課観光係の「御所ボーイM」こと宮橋秀之さんが同行してくださることになりました。その宮橋さんと途中で落ち合い、そこからは徒歩で大越さんの工房へ向かいます。



美術刀剣研師　大越明友さん

宮橋さんが歩きながら、「大越さんは、刀剣を研磨するという仕事がら非常に厳しい人です。現場では静粛にして、しっかり取材してください」と、学生たちに発破をかけます。

御所市役所　宮橋秀之さん

「大越さんってそんな人なのか」と、横で聞いているこちらのほうが緊張してしまいましたが、これが真っ赤な嘘。宮橋流のジョークってやつです。

大越さんは、住居とは別に、小さな古民家を持っておられ、その二階を作業場にしておられます。

後で聞いた話ですが、芸大の学生諸君は、日本刀の研磨と聞いて、大きな工房を想像していたようですが、それが連れてこられたのが、小さな日本間の一室。そこへ、宮橋さんから聞いていた話とは違って、紹介されたのは、厳しさとは縁遠いやさしそうな青年。髪を引っつめ髪にし後ろで束ねているところが、唯一、アーティストといった感じで、ほかは私たち

と何ら変わるところのない人物です。

ただ、彼が刀を研ぐ場に座る、あるいは刀を持つと、その雰囲気がたちどころに一変します。人は変わらないのですが、そこから醸し出されるオーラとでも言うのでしょうか、それが凛として漂い、まわりの空気を変えてしまうのです。

「職人さんとはこういうものか」と妙に感動してしまいました。

それはさておき、刀剣の文化というものが、刀を差さない庶民の間にまで如何に広がっていったかを示す実例があります。

それが言葉です。大越さんが、

「刀はすべてオーダーメイド、刀が仕上がってから、それに合うように鞘をあつらえます。だから刀と鞘は必ず合うようにできている。それが合わないという言葉が《反りが合わない》、そう言うと、

宮橋さんも「もとの鞘に収まる」と……。

大越明友さんの工房

刀剣から出た言葉はまだまだあります。たとえば「抜き差しならない」「鍔ぜり合い」「鎬を削る」「相槌を打つ」「伝家の宝刀」「恋の鞘当て」「懐刀」「身から出た錆」「切羽つまる」「折り紙付き」「付け焼き刃」「太刀打ちできない」「焼きが回る」「押っ取り刀」「抜き打ち」「研ぎ澄ます」「地金が出る」……

と、切りがありません。

刀を差す階層は、江戸時代、人口の七パーセントだったという話がありましたが、刀への関心は庶民全体

に広がっていたと思われます。

取材班から質問の声が上がりました。

「刀って人殺しの道具でしょう。大越さんが、それに惹かれるのはなぜなんですか？」

大越さんは、刀剣について、「斬れること」「折れないこと」「曲がらないこと」、この機能を追求した結果として「美」が生まれたと言います。

完全な機能美――それが刀の魅力なのだと。

大越さんは、合気道をやっており、その練習に真剣を使うことがあるそうですが、そこで刀の魅力に惹かれたのだと言うのです。

たしかに刀には他の工芸品と違う何かがあります。それは曖昧さを許さない峻厳さであり、向き合う者に「自分とは何か」を問い詰めてくる苛烈さであり、それは見る人によって異なると思いますが、自分の存在の根本を揺さぶるような「何か」が、そこにあるように思えてなりません。

学生たちに刀剣のいろはを教える教える大越明友さん

話が深刻になってきましたが、このあと、大越さんから刀剣鑑賞の実際を指導していただき、研ぎの実際も見学させていただき、大喜びで取材班は解散したという次第です。

この後、写真で大越明友さんの取材の模様を紹介させていただき、この項を終わらせていただきます。

※なお大越さんの工房は公開されていませんので、見学は大阪市平野区の「真澄庵」（11ページ参照）へ。

大越氏による刀の差し方の実演

鎌倉時代の太刀（蝦夷刀）

江戸時代初期の刀（名古屋城蔵）

太刀は刃が下を向くように腰に吊します。これを佩刀（はいとう）と言います。
これに対し、刀は刃が上を向くように帯に差します。これを帯刀（たいとう）と言います。
右の写真は直刀（上古刀）を腰に吊した和気清麻呂像（大手町）と、帯刀して石曳きを指図する加藤清正の像（名古屋城）です。

刀剣鑑賞の実際を指導していただく。

紙技工房2代目・斉藤健輔さんが造り続けている大作「蟻の巣」

紙でつくる昆虫の世界

斉藤卓治　斉藤健輔

大和高田に、親子二代で紙の昆虫をつくり続けている方がいます。

斉藤卓治さんと斉藤健輔さんのお二人です。

最初は精巧な折り紙ぐらいに思っていたのですが、斉藤さんのホームページ「紙技工房」（http://takujipapercraft.com/）を見ると、この思い違いは、たちどころに修正せざるを得ませんでした。

斉藤卓治さんの作品（紙技工房ｈｐから転載）

写真で見るかぎり、紙の昆虫とは思えない精密さです。その紙で作られた昆虫が擬人化されて表現されているのですが、まるで物語の一場面のように、そこにストーリーが感じられるのです。

早速に電話で取材申し込みをし、折から京都河原町の「ギャラリー佐野」で一週間開催されていた個展会場を訪問させていただくことになりました。

会場は、一階にお父さんである斉藤卓治さんの作品、二階に息子さんの健輔さんの作品が展示されています。

会場に入るなり、まず、その点数の多さに驚かされます。続いて、その一点一点を見ていくと、その精巧さに驚かされます。

中には、本物の標本と並べて展示されいるものもあり、どちらが本物か見分けが付かないほどです。

見ると、以前、ＮＨＫの番組「ワールドライフ」で紹介された「オオキバドロバチ」までが精巧に再現され展示されており、学術名までが記載され、工

芸品としての巧みさも勿論ですが、それ以前に大変な昆虫マニアであるように感じられました。

お聞きすると、子どもの頃からの昆虫好きで、好きが高じて、中学生の頃から紙で昆虫をつくりだしたと言います。そのときは二次元、つまり平面での再現でしたが、やがて立体的につくる工夫を考え、以来一万点以上の作品を手がけたと言います。

作品の流れとして、このようなリアルさを追求したものと、まるで絵本の中の一場面を抜き出したようなメルヘン性のあるものの二つの流れがあるように感じました。

メルヘン性のあるものは、忠実に再現された昆虫たちが擬人化され、ときにユーモラスに、ときに情感豊かにストーリーを語り出し、それはリアルな背景の中に置いても、その存在感は損なわれないという代物です。

カメルーン「オオキバドロバチ」

オーベルチュールカナブン（紙製と本物）

葉っぱの上のカマキリは、はさみとピンセットだけを使い、ほんの 15 分ばかりでできてしまいました。

ギャラリーの二階へあがり、息子さん健輔さんの作品を見せていただきました。

健輔さんの場合、よりストーリー性が高くなっており、一つひとつの作品の前で、その物語を披露してくれる語り口が、いかにも楽しそうで心に残りました。なかでも、冒頭、タイトルページに掲げた「蟻の巣」の作品は圧巻です。手がけて二年以上が経つといい、いまもつくり続けておられますが、「蟻」という漢字に見立てられた巣の中で、いくつものストーリーが輻輳しており、各部分のお話を想像するだけで時間が過ぎていきそうです。

二代目・斉藤健輔さん

この蟻の話をはじめ、蚊の話、テントウムシの話、いくつも聞かせていただいた中で、特に面白かった「蚊取り線香と蚊の兄弟」のエピソードを紹介させていただきます。

蚊取り線香の火を、なんとか消そうとする蚊の兄弟のお話です。お兄さんは、ノコギリで蚊取り線香を切り落とそうとしています。弟は、火を吹き消そうと、うちわで扇いでいますが、返って火の勢いが増し、兄に怒られるというストーリーです。

火の点いた蚊取り線香をノコギリで切り落とそうとする兄の蚊

蚊取り線香を消そうとウチワであおぎ、逆に火勢を強めてしまい、兄にしかられる弟の蚊

一つ一つの作品を眺めていると、さまざまなストーリーを思い描きながら、ハサミを動かし、ピンセットを動かす作者の姿が浮かんできます。

作品を見る機会がありましたら、ぜひ、そこにどんなストーリーが隠されているかを考えてみてください。作品の近くに、もし作者がいたら、聞いてみるのも面白いと思います。

健輔さんの作品には、このほか「ボトルに入った虫たち」のシリーズもあり、ビンの中に、擬人化された虫たちの生活の一シーンが収められています。

※紙技工房　奈良県大和高田市市場一五四―五

斉藤さん親子は、個展や催しに飛び歩いておられます。ホームページでスケジュールをご確認の上、たくさんの昆虫たちに出会いに行かれてはいかがでしょうか。

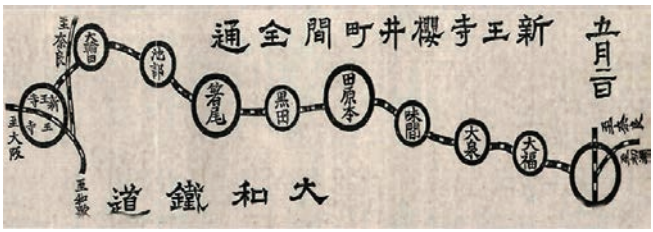
ドールハウスと大和鉄道100周年

植田定信
（ドールハウス作家）

一、大和鉄道って何？

その変遷をたどっていると話しが長くなるので端折らせていただきますが、要は奈良の北西部から中央部（新王寺～桜井）を走るローカル線で、元をたどると明治四十五年（一九一二年）七月十四日、田原本鉄道株式会社として設立され、大正六年（一九一七年）一月に大和鉄道株式会社と社名変更されました。

そして、その翌一九一八年（大正七年）には、新王寺～田原本（現在の西田原本）間が開業され、今年で一〇〇周年を迎えるという次第です。



大和鉄道全線開通時の路線図

全盛期には、新王寺から桜井間の一七・六kmを鉄路でつなぎ、その駅数も十二駅を数えていたのですが、昭和三十六年（一九六一年）には信貴山鉄道に吸収され、その二年後には田原本～桜井町間が廃線となり、昭和三十九年には近畿日本鉄道株式会社に吸収され、近鉄田原本線として現在に至っています。

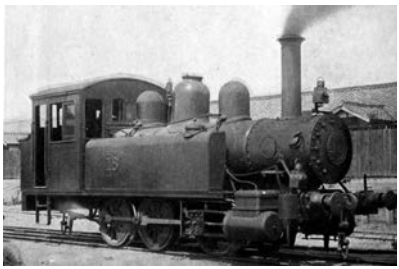
さて、その一〇〇周年記念行事が、

大和鉄道100周年記念切手シート

二〇一八年七月二十八日～二十九日にかけて、この広陵町でも箸尾駅を中心に、教行寺や旧商店街地域で盛大に開かれることになっていたのです。

ところで、この箸尾駅ですが、現行区間（近鉄田原本線）の「新王寺駅」から「西田原本駅」までのちょうど中間点に位置しています。

「新王寺駅―大輪田駅―池部駅―箸尾駅―但馬駅―黒田駅―西田原本駅」、こんな感じです。このため「箸尾駅」周辺は、今でこそ落ち着いた町並みに変わっていますが、一昔前は、駅前の商店街を中心に映画館あり、写真館ありと、随分と活気を帯びた町並みだったようです。


ボールドウイン社製の1001蒸気機関車

一〇〇周年記念にあわせ、広陵北小学校児童と、畿央大学の有志学生諸君の「まち調べ」がおこなわれましたが、これによると、駅を出て箸尾商店街へ入ったところに「箸尾劇場」という映画館があったようです。この劇場、屋根がトタン張りで、雨の日は「雨の音で映画の音が聞こえなかった」とか、なんとも興味深い記事が紹介されています。

このほかにも線路をはがして鉄砲に利用した話しや、最初に導入された車両が「ボールドウイン社製の一〇〇一蒸気機関車」（写真上）だったこと、その蒸気機関車から電車運転に切り替えられたのが、戦争が終わって三年後の昭和二十三年六月二十五日だったこと等々、なかなか興味深くきめ細かな調査がおこなわれています。

そして箸尾の町発展の中心となる「箸尾駅」そのものをミニチュアで再現しようと挑戦したのが、ドールハウス作

家の植田定信さんです。一〇〇年の間には資料も散逸し、古老の話を元に再現するしかないのですが、その復元作業が、広陵町「はしお元気村」の会議室で、約半年にわたっておこなわれました。

こうしてやっと、そのお披露目の日が来るというのに、なんと台風一二号が異例の進路をとり近畿地方を直撃したのです。

一〇〇周年記念行事は、「延期」でなく「中止」の決定がされ、植田さんの苦心の復元結果も、広陵北小学校児童と畿央大学学生諸君の「まち調べ」も、無念にも公開できないことになってしまいました。

ところがです。九月二十二日、二十三日の両日、恒例の「広陵かぐや姫まつり」が竹取公園で開催されましたが、ここで「大和鉄道一〇〇周年」のテントが設けられ、ようやく、これまでの苦労が日の目を見ることになったという次第です。

100 周年に合わせ復元車両が運行

二、はしお元気村

話を戻しましょう。

二〇一八年の六月十三日、この日、広陵町の広報で、「大和鉄道百周年記念行事」や「箸尾駅のミニチュア復元」のことを知り、「はしお元気村」で作業中の植田定信さんのもとを、はじめて訪問しました。

はしお元気村は、広陵町が運営する会館施設で、お風呂やリラクゼーション室も併設され、住民の憩いの場となっていますが、その「旧なかよし広場」で「箸尾駅のミニチュア復元」の作業がおこなわれていました。

正面入り口を入ったホール正面には「大和鉄道のこと、箸尾鉄道のこと教えてください！」というパ

ネルとともに、植田さんのドールハウス作家としての作品「お好み焼きのさとちゃん」と「小学校の校舎入り口」のミニチュアが展示されていました。

まずはその精密さに舌を巻くことに……。

「ツバメがいます。探してください」とありますので、探してみると軒下にツバメの巣が作られ、三匹の赤ちゃんツバメが口を開けてお母さんの帰りを待っています。ツバメばかりか、こちらまで、その精巧さに開いた口がふさがりませんでした。

目的の第一会議室に入ると、中央のテーブルいっぱいに線路が敷かれていますが、駅舎はまだ作成途中という感じでした。

テーブルの上のレールには、あの一〇〇一型と同タイプの蒸気機関車（ミニチュア）が走っています。

ミニSLやミニチュアに見とれている場合ではありません。肝心の植田さんはどこなんでしょう。

ふと横手に目をやると、こちらの反応を楽しむかのように微笑んでいるハンチング姿のお兄さんがいました。

これが植田定信さんでした。

駅舎の部分は仕上げを待つばかり、宿直室もつくられ、古老の聞き書きが次第に形となっていく。

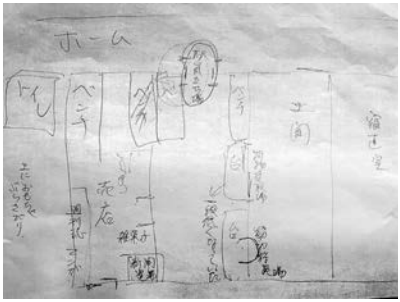
お話をお聞きすると、植田さんは、もともとはお肉屋さんだったと言います。

「お肉屋さん」と「ドールハウス」……？　どうもしっくりと結びつきません。そんな思いを察したのか、植田さんがドールハウスをはじめた経緯（いきさつ）を話してくれました。

◇

桐生さんはどうか知りませんが、普通の人は、仕事のストレス発散とかで、お酒を飲んだり、パチンコに行ったりしますよね。でも、僕はお酒がダメだし、パチンコ行っても、ちっともストレス解消にならないし、そこで、元来、ものづくりが好きなもので、プラモデルへ走りました。やってるうちに、よくプラモデルを買いにいく店の店長さんが、僕の作品を見て、「一度、コンテストに出したら」と声をかけてくれたんです。

では、というので、早速に応募したら、これが入賞してしまった。入賞するって認められるってことでしょう。これがうれしくてうれしくて、ストレス解消どころか、どんどんその世界にのめり込んでいきました。そのうち、プラモデルではもの足らず、プラモデルに地面や背景を合わせてつくるジオラマへと進んで



いったんです。

　これは楽しい……しかし、これにも飽きちゃって、もっと楽しいものはないかと行き着いたのが「ドールハウス」というわけです。プラモは最初から形がありますよね。それより一から木を削って自由な形を作り出す、このほうが面白いわけです。

　ただドールハウスというのは、部屋の中を作るんですが、僕はもともとジオラマをやっていたから「外」も作れるんです。だから僕のつくるものは「ドールハウス」＋「ジオラマ」というわけです。

　今回の箸尾駅を再現する仕事は、資料が、なんにも残ってないんです。当時を知るお年寄りが見取り図のようなメモを描いてくれましたが、この紙切れと、聞き取りだけが頼りです。

三、箸尾駅舎完成

二〇一八年七月二十四日、今日は二回目の現場訪問ですが、駅舎全体が形をなし、その精巧さに唖然としてしまいました。

前回、古老の記憶とメモだけを頼りに「箸尾駅」のミニチュア再現に取り組んでいると聞いていましたが、それにしては実にリアルに再現されています。

なつかしい当時のポスターから、自販機の形、ホームの雰囲気……。

何から何まで調べて形を組み立てていく。

ドールハウス作家というより、歴史考証に取り組む学者の仕事＋職人の仕事、そんな感銘を受けた次第です。

著書を持つ植田定信さん

四、ドールハウスフェア

復元作業中の長屋の模型……これが？

写真は、はしお元気村にはじめて植田定信さんを訪問したとき、「箸尾駅」のミニチュアとは別に展示されていたものです。江戸時代の長屋を復元しようというものですが、その制作途中のミニチュアです。

実は、このミニチュアの完成した姿と阪急百貨店（大阪梅田）で出会うことになりました。というのは、阪急百貨店では毎年「ドールハウスフェア」が開催されており、二〇一八年は「ドールハウス名作劇場」として、映画の名場面をドールハウスで再現するという試みが公開されました。「海底二万哩」や「レ・ミゼラブル」

「雨に唄えば」等々、おなじみの映画のワンシーンがドールハウスとして再現されており、なかなか見応えのある楽しい催しでしたが、その中に我が植田定信さんの「銭形平次捕物控」が堂々と展示されていたのです。

見れば「はしお元気村」で出会った、制作途中の長屋のミニチュアです。

そのときは、完成した姿はどうなるのか教えてもらえなかったのですが、

ドールハウスフェアに展示された銭形平次物語

「なるほど、これを造っておられたのか」と一人で合点し、ほくそ笑んでおりました。

この日、植田さんはというと、会場の一角で「ドールハウス体験レッスン」を指導されており、「かつらぎ探検ガイド」のスタッフも、モップづくりに挑戦させてもらった次第です。

五、広陵かぐや姫まつり

ドールハウスフェアが開催されたのが九月十二日～二十四日、それとオーバーラップするように、我が広陵町で九月二十二日（土）と二十三日（日）の両日、「広陵かぐや姫まつり」が開催されました。

初日九月二十二日は、午後一時からスタートする予定ですが、朝からすごい雨。

「大和鉄道一〇〇周年記念フェスタ」は台風にたたられ中止、今回「かぐや姫まつり」も豪雨で中止か……とヤキモキしましたが、幸いにも昼前には雨が上がり青空が広がってきました。

雨は上がったものの会場は水たまりだらけ、土砂

を運んでの整地作業が続きます。

しかし会場の竹取公園は水浸し状態。設営されたテントの間の地面はぬかるんで長靴が要りそうな状態。スタッフの人たちが、そのぬかるんだ地面に土砂を運び込んで修復していきます。開始まで二時間、広陵町役場スタッフの方々の必死の努力で、水浸しだった会場が整地されていき、めでたく予定通り開催されることとなりました。

ところで「大和鉄道一〇〇周年記念」のテントはどうなっているでしょう？

広陵町立図書館は、この二日間は閉館され、会場の資材や展示物の倉庫代わりに使われます。ここから必要な設備が運び出されますが、「箸尾駅」

のジオラマも、「まち調べ」のパネルも、ここからスタッフの人たちの手で運び込まれてきました。

設営の風景を撮影し終えて、しばらくして、再び「大和鉄道」のテントを訪れてみると、子供たちがジオラマと、そこを走るミニSLに見入っています。設営の時の真剣なまなざしとは打って変わって、植田さんの楽しさそうな表情が印象的でした。

紆余曲折はあったものの、「大和鉄道一〇〇周年記念行事と植田定信さんの紹介」、これにて一件落着とさせていただきます。

最後に、植田さんの「箸尾駅」以外の作品および、そのプロフィールを紹介させていただきます。

◇ 植田定信さんプロフィール

工房名　シック・スカート（クラフト工房シックパパ）

1962年　奈良県に生まれる

2011年　神戸新聞ジオラマ教室にて吉岡和哉氏に師事

2012年　全国JMC模型コンテスト「サポーターズ大賞」受賞

2013年　浜松ジオラマグランプリ「山田卓司賞」受賞

名古屋モノづくりフェスタ「最優秀賞」受賞

2015年　モデラーズフェスティバル実行委員長就任

※植田定信さんの主催するクラフト「シックパパ」については、次ページのQRコードをクリックしてください。 http://thick-papa.com/detail.php?id=59

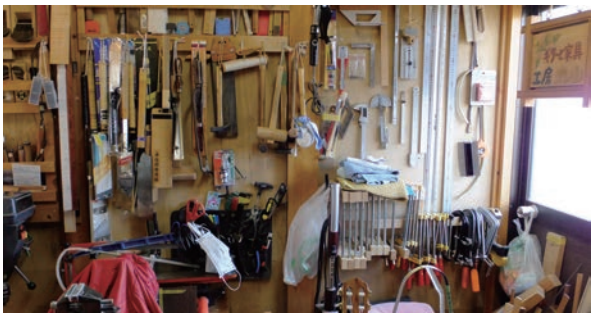
Cervi.V

丸山手工ギター工房 クラフトM　丸山利仁

丸山さんは、元は大手企業の会社員だったといいます。技術系の仕事に従事しておられましたが、自由に生きてみたいと会社の早期退職制度を利用し、一年間休職したうえで、その間、職業訓練校に通い家具づくりを学んだということです。

ただ家具づくりを選んだ背景には、次のような思いがありました。

在職中、趣味でウクレレ製作のキットを購入し、ウクレレづくりに挑戦されたことがあるそうですが、自分でつくったウクレレが音を奏でることに感動し、次はギター製作キットに挑戦されました。一年かけて、土曜・日曜は、ギターづくりを独学で励まれましたが、このときの充実感、楽しさが忘れられず、ギターづくりの基礎となる木工技術を家具づくりで習得しようとされたのです。



壁一面の工具類

一年の休職期間が明け、退職した当初は、「ギター家具工房」の看板を掲げ、知人や友人、親戚の発注してくれる家具をつくっておられましたが、これも一巡りすると、仕事も途絶えがちとなります。

それが二〇〇五年の第二回アマチュアギター製作コンテストにおいて、「音響製作技術において最優秀」と認められ、第二位に輝くとともに「特別審査員賞」まで受賞され、一躍、脚光を浴びることになったのです。次いで二〇〇七年には、クラシックギター発祥の地スペインに留学し、ギター製作の最高峰と言われている「ホセ・ルイス・ロマニリョス」さんに師事され、家具職人から、本格的にギター製作者への道を歩み出すことになりました。

ギターを志した経緯を語る丸山利仁さん

今では一般的になった、アルハープ（ARU Harp）という楽器（写真右）も、この丸山さんが考案されたものです。

「西洋の古代神話に登場するようなハープを弾きたい、音楽家も初心者も、そして障害者にも弾いてほしい、音楽療法にも使いたい……」

そんな音楽家の要望を、丸山さんが、二十五弦の、水瓶のような形をした、まったく新しい形のハープとして考案、製作されたものです。

「このほか、思い出に残る仕事は？」と伺うと、次の二つの仕事を教えていただきました。

一つは、浜松楽器博物館に陳列されていた十八世紀代の「ハープリュート」、「幻の楽器」と言われるものですが、これと同じものをつくってほしいという依頼を受けたそうです。現物は、いかにもバロッ

完成したハープリュート

ク調という華美な装飾が施されていますが、丸山さんとしては、こういう装飾は好みではなく、この装飾をはずして楽器としての製作ならという条件で受けられ完成したのが、写真の作品です。

今一つはと訊くと、丸山さん、傍らにあった小ぶりのギターを手に取られ、「ハープリュートと同時代のギターです。ほぼ完成しています……」と、軽くつま弾かれた後、僕に手渡してくれました。

持った感じは、驚くほど軽く、大きなギターを持った感じとはあまりにもかけ離れています。

調べてみると、十八、九世紀のバロックギターは、小さくて扱いやすく、単純な曲から複雑な曲まで自在に弾くことができ、幅広く愛好され、ルイ十四世など王侯貴族も競って練習していたということです。

では、いつごろ、どのようにして、ギターは今のように大きくなったのでしょうか？

丸山さんは、「小さいと、大きな音が出ないでしょう。大きな音が出せるよう、十九世紀後半、スペインで、ギター制作家アントニオ・デ・トーレスによって、今のようなクラシックギターが生み出された」のだと言います。

ギターに使われる木について説明してくれる丸山さん

最後に、ギター本体に使われる「木」について、お伺いしましたが、やはりどんな木でも良いというわけではなく、例えば裏板・横板について最も良いとされるのは、「ブラジリアンローズウッド」、これは超高級品で、なかなか手に入らない木だと言うことです。別名を「ハカランダ」とか「ジャカランダ」と言われ、日本で紫檀と呼ばれている木の仲間です。また同じローズウッドの仲間で「インディアンローズ」とか「マダガスカルローズ」などもよく使われると言います。

表面板用に国産の鳥取県の智頭杉や県産の吉野杉なども面白いのではと言われます。

しかし、ここまできますと、専門家でない身では、話についていくのが困難となってきましたので、まずはこの辺でお開きといたします。

※丸山手工ギター工房　クラフトM
奈良県御所市柏原三一八一一
TEL 0745-62-8349　080-3035-1804
http://craftm.ciao.jp/

KOEN-CERAMICS

晃炎陶芸教室

畠中光炎
晃子

御所市担当の楳原愛奈さんから、陶芸家・畠中光炎さんを取材した音声データが届きました。聞いていて、何か不思議な魅力を感じ、「何だろう」と、同送されてきた写真を見てみたのですが、その不思議さの謎は解けませんでした。

たしかに、それらしい原因は考えられます。まず、陶芸家という以上、「陶芸がやりたかった」とか、「土の手触りに魅せられた」とか、「自分には陶芸の道しかない」とか、常識的にはそんな類いの答えが返ってくる筈でした。またレポーターも、そんな答えを期待して「陶芸をはじめられた動機は？」と訊いたのだと思います。

ところが見事にはずされています。

「別に……これと言ってないですね。手に職を付けられれば何でも良かったんです。」

畠中さんは、生まれも育ちも京都だといいます。調べてみると、お父さんは、あの有名な日本画家・畠中光亨さん。お母さんも書道家で、「どうりでアーティストの血筋を引いているわけだ」なんて書くと、

本人はいやがるかもしれません。

しかし、僕が感じた限り、光炎さんにとっては、それもどうでも良いことなのだろうと思います。

京都府立陶工高等技術専門校、成型科・研究科を修了し、京都市立工業試験所の本科をも修了されました。

その後、ロクロ職人として働き、清水焼き団地内で工房を営んでいたといいますから、完全に陶芸を志し、陶芸家への道をまっしぐらって感じです。

しかし本人は、「京都には、陶芸が当たり前のように身近にあったから」だと、どこまでもクールです。

レポーターが訪ねたとき、素焼きを待つばかりになった、たくさんのイノシシの置物が並べられていました。すべて注文品だといいます。

今は、自分の作品をつくるよりも、請け負って焼き物をつくるほうが多いということです。

ネットを検索していると、「願随寺」というお寺さんのブログを見つけました。

そのブログには、住職継職法要をおこなった際に記念品をつくったが、その記念品の菓子鉢を「組内の住職であり陶芸家でもある浄宗寺住職・畠中光炎氏にお願いしました」という記事が書かれてありました。

光炎さん、陶芸家と思いきや、お寺の住職だというのです。しかも京都生まれの京都育ちと聞いてい

畠中光炎さんと畠中晃子さんご夫婦

陶芸用電気窯の扱い方を教えてくれる畠中光炎さん

たのに、なんと「浄宗寺」という奈良の御所市内にあるお寺の住職だというのです。

……？

楳原レポーターの録音データを続けて聞いてみて、その謎が解けました。

光炎さんのお爺さんが、浄宗寺の住職だったというのです。お父さんの光亨さんは画家としての仕事が忙しく、住職を継げない、そこで、光炎さんにお鉢が回ってきたという次第です。

こうして奥さんと二人、奈良の御所で陶芸の工房を開きながら、浄宗寺の住職の仕事もしているという訳です。録音でお声を聞いたとき、しゃがれたような、それでいてドスのきいたお声をしていると思ったら、お経で鍛えられた声だったのですね。

ちなみに奥さんの畠中晃子さん、この方は京都精華大学で日本画を専攻され、ご主人の仕事を手伝い、陶芸の絵付けを担当されています。

お二人で主宰されている「晃炎陶芸教室」が、ご夫婦のお名前にちなんでいることは容易に想像していただけると思います。

楳原さんから送っていただいた写真の中に、陶芸作品を撮ったものが何枚かありましたが、その中に、奥さんとの競作を思わせるものが何点かあります。

光炎さんの焼いたお皿や茶碗に、晃子さんの茶色をベースにした絵付けが見事にマッチして、どれも、力んでいないと言うのでしょうか、何ともホンワリした作品で、飾るより大事に大事に使っていきたいという作品ばかりです。最初に感じた「不思議さ」は、この力まない自然体から来ているのかも分かりません。

まさに晃炎工房の「青花（チンホワ）」ならぬ「美花（メイホワ）」と拍手を送りたくなってしまいます。

これからも御夫婦で素晴らしい作品を、御所（ごせ）から送り出していってください。

取材　楳原愛奈／記事　桐生敏明

※奈良県御所市名柄三三〇―一
営業時間は、午前九時～午後六時　要予約
TEL 0745-66-0037
http://koenceramics.wixsite.com/koen-ceramics-1

Paula（パウラ）の インスタ風かつらぎ

1

かつらぎガイドブックの制作するにあたって、
一番最初にリサーチに訪れた場所が当麻寺駅周辺でした。
このガイドブック制作のために集まったクラスメイト10名と一緒に訪れた
この日は、とてもいい天気で、風が気持ちよかったです。

まずは、相撲館「けはや座」に行きました。
実際の土俵に上がることができたり、相撲に関する多くの資料を見ることが
できたりと、とても貴重な体験ができました。

その後に、當麻寺中之坊の庭園を見に行きました。そこはとても美しく静か
な場所でした。残念ながら當麻寺全てを見にいくには時間が足りなかったの
ぜひもう一度訪れたいと思いました。

大阪芸術大学 デザイン学科 **Palau Paula**

大阪芸術大学 デザイン学科　津村凪咲

かつらぎの保護猫

Cat Time NA-RA
猫カフェSHANA

一、Cat Time NA-RA

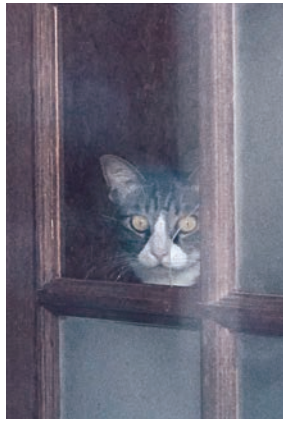
「Cat Time NA-RA（キャットタイム ナーラ）」のオーナーは、伊藤佐幸さんという、素敵なお嬢さんです。

大阪農芸高等学校資源動物学科を卒業し、大阪のペットショップに就職されましたが、お金で動物を売り買いすることに疑問を覚え、ペットショップを辞めトリマーの仕事を経て動物の保護団体と関わりました。それがきっかけで、年間殺処分一、二を争う奈良県の保護猫の現状を知り、奈良県の現状を変えたい、たとえ一匹でも殺処分から救いたいと、保護猫カフェの運営を思い立ったと言います。

夢を語る伊藤佐幸さん

奈良の広陵町に用意した建物をリノベーションするため、その費用を「クラウドファンディング」で募り、二〇一七年夏、なんとかスタートにこぎ着けることができました。

僕自身は、「かつらぎの動物たち」の情報を集めている過程



で伊藤さんのことを知ったのです。我が町広陵町にこんな人がいるのかと、早速、様子を見に出かけたのですが、近くまで行っているのに見つけることができません。

付近にお住まいの方、何人かに訊いてみたのですが分かりません。ただ一人、「あそこかも知れない、ペットを預かってくれるところがある」と、その場所まで親切に案内してくれたのです。

入り口にはペットたちの「里親募集」のポスターが貼られています。まず間違いなくここだと思われます。しかし、お休みのせいでしょうか鍵がかけられており、「ごめんください」と声をかけても返事がありません。

一匹の猫ちゃんがガラス戸越しに顔を出し、申し訳なさそうに「ニャー」と一声挨拶してくれました。

とりあえずポスターに書かれた連絡先に電話してみましたが、やはり応答がありません。

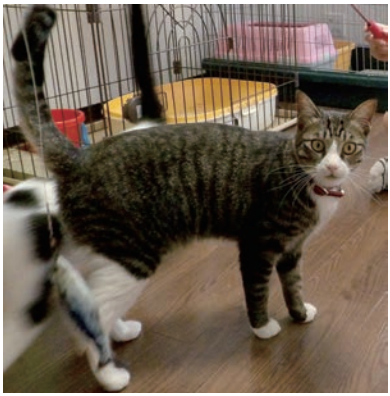
ここは、あきらめるしかなさそうです。

ところが、その夜のことです。僕の携帯に、当の伊藤さんから電話が入ったのです。

お話を聞くと、あの場所での運営は難しく、香芝市に移転を準備している最中だと言います。取材の申し込みをすると、移転が終わったらということで快く引き受けていただきました。

そして二〇一八年八月二十八日、移転したばかりのお住まいに訪問させていただくことになりました。

伊藤さんは、「今は資金を貯めるの


広陵町で挨拶してくれた猫さん

だ」と、夜勤の仕事をしながら頑張っておられますが、その日も夜勤明けでお疲れのところにお邪魔するという申し訳ないことになってしまいました。

それにしても部屋の中は猫たちのゲージだらけ。それも天井まで届く二階建て吹き抜けのゲージが所狭しと並べられています。

白地に黒の斑点模様のネコ、白黒がまだら模様になっている猫、尻尾がカギのように曲がっている猫、端正なキジトラもいれば、ゲージの影に隠れてこちらの様子を窺っている恥ずかしがり屋の子猫もいます。

それに……いました、いました。移転前の広陵町の家屋で「ニャー」と一言、挨拶してくれた猫。この子はキジトラですが、鼻のまわりが富士山のように白くなっているので、すぐ分かります。

「アー、あのときの……」

そんな感じでこちらを見てくれています。

本当に見ているだけで退屈しません。

でも、たまに来る分にはいいけど、これだけの猫の面倒を見るって大変ですよね。エサ代だってばかにならないし、こんなことしてると家の前に捨て猫されたり、聞けば、猫の場合、ほぼ人間が保健所に持ち込んでいると言います。

伊藤さんは普通の生活を捨てて、猫のために夜勤仕事までして、そんな状況を変えようとしています。でも、何が、彼女にそこまでさせるんでしょうか？

彼女の書いたこんな

文章があります。

現在お手伝いさせていただいている保護団体で、猫の預かりを一度したことがあります。

ドラ君という子です。その子は私が預かりをして約三カ月で亡くなってしまいました。

肛門腺ガンでした。

彼の最後は、肛門回りにできたガンで、どんなに頑張っても便が出ないためご飯も食べられない状態でした。ドラ君にとってはとても辛い時期だったと思います。（中略）

ドラ君は私の家に来て何を思っていたのでしょうか。ドラ君の本心はどうしてほしかったのでしょうか。ドラ君は一時でも幸せと感じられたのでしょうか。

以来、伊藤さんを悩ませる思い、それは接している一匹一匹の猫、その子にとって本当の幸せって何だろうということです。そして、それはとりもなおさず、自分自身にとって「本当の幸せって何？」って問い詰めていくことだろうと感じます。

彼女が「新しい保護施設」を目指して、必死に頑張っているのは、実は、この問いに向かい合おうとしているのでは……そんな気がしてなりません。

※奈良県香芝市平野四八二―二　二〇二号
TEL 080-9758-4750

二、猫カフェSHANA

近鉄大阪線「大和高田駅」を下車し、南に一、二分も歩くと、JR和歌山線の踏切に突き当たりますが、その踏切手前に目的の「猫カフェSHANA」があります。

入り口は二重になっており、最初の入り口を入ったところで靴をスリッパに履き替えます。消毒液が置かれていますので、入るとき、出るときには手を消毒しましょう。

カメラにじゃれつく小次郎

さて二つめのドアを入ると、一斉に猫たちの視線があなたに向けられます。それからは、あなたのスリッパをねらっての争奪戦が始まり、座ったら座ったで、あなたの膝の上に座ろうと争奪戦が始まります。とにかく人なつっこい猫ばかりで、猫好きにはたまらない空間になっています。

ここの子たちは、そのほとんどが保護猫なのですが、かといって保護猫たちに新しい飼い主を世話する施設というわけでもありません。

というのも、オーナーの上田悦子さん、無類の猫好きで、一度世話をした猫たちは「とてもじゃないが手放せない」というのです。

「いつからそんなに猫好きになったんですか」と訊ねてみると、

店長の遮那王（左）とキング（右）

「私が猫を保護しているみたいに見えますが、本当は私が猫に保護されているようなものです。私って小学生の頃はいじめられっ子で、猫が私の逃げ場所だったんです。以来、猫依存症で、猫を助けてるんじゃなくて、私が猫に助けられてるんです。」

その上田さん、もともとは介護の関係のお仕事をされていたそうですが、猫好きが高じて、二〇一四年十二月、協力してくれる相棒と共に、大和高田市で初の猫カフェを開かれたというわけです。

「今でこそリピーターも増え、何とかやっていける状態になっていますが、最初の一年は知名度も低く、本当にこのまま続けていけるのか、不安で仕方ありませんでした」と、

副店長に子猫（小次郎）の抱き方を教えてもらいます。

当時を振り返るように話してくださいました。

ところで、このカフェにはもう一人というか、もう一匹の店長がいます。その名も遮那王（源義経の幼名から命名）、キジトラの男の子です。のんびりするのが仕事のようなものですが、このほか、数え切れないほどのスタッフ猫や、紅一点じゃなかった、犬一点――つまりワんちゃんのスタッフだっているのです。

おまけに玄関には、フクロモモンガのモモ君とソガちゃんもいますので、ご来店の節は、「僕たちのことも忘れないでください」と、彼らに成り代わり挨拶したところで、この項をお開きといたします。

※奈良県大和高田市北本町一一―二上田ビル1F
TEL 080-3858-3870

なでられるのが大好きな茶々

ぎらさくつんかた日記

今回は、【猫カフェSHANA】に行ってきました。

超駅に近いから今回は迷わずに行けました。

なんか猫のポスターやらPOPやら少し騒がしい雰囲気。店の外からも店員さんの猫愛が伝わってきました。

猫カフェは初めてで恐る恐る入店。そしたら店員さんが優しくお出迎え。ドアをくぐるとそこには猫猫、猫！かわいい！

早速店員さんたちに挨拶しようとしたのですがそのまえに猫たちが私の膝を占領してきました。2匹で。

こんなに人懐っこいなんて、と驚きました。かわいい！

2匹も座るとさすがに狭くて座り心地が悪そうに見えたのですが、意地でもどかないと言わんばかりに座り続けるので、

私はその熱意に完敗しそのまま静かに過ごすことにしました。

大阪芸術大学 デザイン学科　田中美羽

御所のオオカミ犬

Wild Bullet犬舎

一、蛇穴という地名

ナビを頼りに御所の蛇穴にある「Wild-Bullet 犬舎」を訪ねました。ちなみに「蛇穴」は「さらぎ」と読むみますが、「さらぎ」は蛇がとぐろを巻く状態や蛇が巣を作ることを言うらしく、陶器のことを「さらき」というのも、紐状の粘土を巻き上げて造形していくことがとぐろを巻くのに似ているからだと言います。

ただ蛇という言葉は「水」や「農耕儀礼」と関係しているようですし、「さらぎ」という発音を重視し、「さらぎ」は「今来」を意味し、新来の人や帰化人のことを言うという説もあります。

ロットワイラー犬のイブ

二、オオカミ犬

地名談義はここまでとし、「Wild-Bullet 犬舎」を探しますが、ナビの指示通りに来たというのに、そんな看板の掛かったところは見当たりません。

ふと見ると「東又」さんの表札がかかった大きな敷地の家がありました。その庭にはたくさんのゲージが置かれてあり、その中の犬たちが興味深そうにこちらの様子を窺っているではないですか。

取材車と我々の様子を警戒するオオカミ犬ディーガ

お母さんは「ホワイトシェパード」、
お父さんが「オオカミ犬」のランちゃん

間違いありません。ここがお目当ての「Wild-Bullet 犬舎」です。

ブザーを鳴らすと、一見、強面、でも実はむちゃ優しい、そんな感じの男性が現れました。この方が、これから取材しようとする「Wild-Bullet 犬舎」のオーナー東又安彦さんです。

そして、今日の取材のお世話をいただくのが、オーナーの奥さんである東又弥生さんです。

「嫁は、今、片付け中なんで、少し待って……」と、ゲートを開けて車を敷地へと案内してくれました。

敷地へ入るや、真っ先に出迎えてくれたのが「イブ」というロットワイラーの雌犬。ムチャクチャ人なつっこく、大きな身体をすり寄せてきて、油断を

東又安彦さんと東又弥生さんご夫婦

していると、その重さでこちらが転びそうになります。その後ろをつかず離れずで、こちらの様子を窺（うかが）っている犬がいます。

この子が「ラン」。お母さんは「ホワイトシェパード」、お父さんが「オオカミ犬」で、オオカミの血は薄くなっていると言います。

しばらくして、オオカミ犬のお母さん的存在とも言える弥生さんがあらわれました。

これまたご主人に輪をかけたような人の良さそうな方。ただ一点違っているのは、すっごい美形だということ。

ゲージの中にいるオオカミ犬と、ゲージの外をうろついているオオカミ犬、それらがみんな、こちらの様子を窺っています。警戒している感じの子もいれば、人なつっこそうに好奇心いっぱいでこちらを見ている子もいる、そんな感じです。

あまりの多さに頭数をお聞きすると、全部で十九頭のオオカミ犬を飼っておられると言います。ロットワイラーを入れると実に二十頭になり、あわせて四十もの目が、弥生さんに話しかける僕を注視しています。好奇心いっぱいの目もあれば、中には、お

母さん（弥生さん）に変なことをしないかと身構えている目も……。

そんな状況の中、あえてオオカミ犬のほうは見ないようにしながら、「オオカミ犬を繁殖するようになった動機は？」と尋ねてみました。

弥生さん曰く、元来の動物好きが昂じてオオカミ犬の繁殖をはじめたといいます。

弥生さんの打ち解けた様子に、警戒していたオオカミ犬たちの視線も幾分やわらいだようです。

まずは一安心。

三、獣害対策

いただいた名刺を見ると、「獣害対策狼犬訓練所」とあります。

獣害……そう言えば、昨年のことになりますが、知り合いがジビエの関係の仕事をしており、そのツテを使って岡山県美作にある野生鹿の食肉処理場を見学させてもらったことがあります。

そのとき聞いた話ですが、美作では、いっとき野生の鹿がすっかり姿が見えなくなり、あわや絶滅かと騒がれたことがありました。そんなとき、子鹿を連れた母鹿が発見され、市をあげて保護に乗り出し

野生鹿の食肉処理場（岡山県美作市）

たそうです。

ところが今度は逆に、野生の鹿が大繁殖、植林の木の皮を食べて枯らしたり、作物を荒らしたりと、人間の生活を脅かすようになりました。

冬から春に向かうとき、雪解けを促進するために大量の石灰を山に撒くそうですが、そこに含まれる塩分ミネラルが、鹿を繁殖させる引き金になっているのでは……。それでは、というので石灰を撒くのをやめましたが一向に効果はありません。あげく、

オオカミ犬と散歩

鹿に賞金をかけ、殺した鹿を集めて食用にすることが考えられました。

それが、この施設というわけです。

そのとき職員の方に聞いた話ですが、オオカミを輸入し、それを山に放すことで失われた食物連鎖を再構築しようという計画が考えられたことがあるそうです。

その話しを弥生さんにぶつけてみると、

「私は反対です」と、即座に答えが返ってきました。

というのも、オオカミは頭の良い動物で、鹿や猪等の野生動物を狩るだけでなく、安易にえさを獲れることを知れば、人の生活区域を脅かすようにもなる。しかも彼らは犬と交配できるので、管理できないオオカミや野生のオオカミ犬が増え、人間にとって却って危険な存在となるリスクが強いというのです。

オオカミを導入することで一定の効果が出ているというのは、アメリカのイエローストーンなどの広大な地域で、日本のような狭い土地に人が密集して

東又弥生さんとオオカミ犬のカムイ

いるような地域では非常に危険なことになるというわけです……。なるほど納得です。

これに対し、管理されたオオカミ犬を、獣害のある場所を散歩させ臭い付けすることで、あるいはオオカミ犬の糞を一定区間に畑の周りに置くことで、猪や鹿等が畑を荒らさなくなり、獣害をなくすことができるというのです。

オオカミ犬のえさは肉食で、猟で獲った動物の肉を与えるほか、猟仲間の協力で、一頭丸ごとのイノシシや鹿をもらって帰り、それを弥生さんが捌いてからオオカミ犬たちに与えているそうです。鹿なら鹿で、同じ肉ばかり与えていると飽きてしまうため、鶏肉を与えたりもするそうです。

このように生肉を食べ続けているので、排泄物のにおいが、鹿やイノシシなどの動物に危険を感じさせ近づかないようになるという次第です。

これが名刺に「獣害対策狼犬訓練所」とある所以です。

昨今、獣害対策としてジビエへの利活用が盛んになってきていますが、人間が食する「肉」に加工するには、品質管理、衛生管理等々、手間暇がかかりすぎるのと、経済効果が悪く、ジビエの流れが市場とリンクするのは難しく、結局、廃棄される個体が増えていくというのが現状です。

ロッドワイラーのイブとオオカミ犬のラン

こうして廃棄される野生の鹿やイノシシの肉が、オオカミ犬の食料となり、新しい生命を生み出すばかりでなく、延いては、その排泄物が害獣避けともなっていけば、どうでしょうか。

弥生さんは言います。「オオカミ犬を通して、自然のリサイクル（命のリサイクル）の一助となれば」と……。

四、カムイとイブ

こういうして話している間にも、オオカミ犬たちの警戒心も随分やわらいできたようです。

そこで弥生さんに、ここにいるオオカミ犬の何頭かを紹介していただくことにしました。

ゲージの外をうろつき、こちらの様子をうかがっていたのが、「ラン」と「ディーガ」。

「ラン」は先ほども述べましたように、お母さんがホワイトシェパードで、お父さんがオオカミ犬で、オオカミの血は薄くなっています。それといかにもオオカミ犬という感じの「ディーガ」。この子が、弥生さんの様子を心配し、遠巻きに僕を警戒していた

子ですが、その警戒心もだいぶ薄らいだのか、弥生さんとの話が終わる頃には、ロットワイラー犬の「イブ」や「ラン」としきりに遊びまわっていました。

ゲージに移って、この犬舎のスター的存在の「カムイ」を紹介されました。

「カムイ」は、今年二〇一八年二月に公開された映画「東の狼」のオオカミ役を演じた子です。

映画「東の狼」の舞台となった
東吉野の日本オオカミの看板とオオカミ像

「カムイ」は、生まれたとき、授乳がうまく行かず、ロットワイラーの「イブ」が母親代わりになって添い寝したりかわいがったりしたそうですが、そのうち、子どもを産んでいない「イブ」からお乳が出るようになったといいます。

そんなせいか、「イブ」は弥生さんとともに、ここのオオカミ犬たちの母親的存在となり、オオカミ犬たちは、みんなイブに一目置いているように感じられます。

五、オオカミ犬と犬

その「カムイ」ですが、秋口にさしかかり季候もよかったせいでしょうか、本当に機嫌がよく、新参者の私たちにも甘えて撫でさせてくれ、少し怖かったですが、甘噛みさえしてくれます。このほかにもゲージから鼻先を突き出し甘えた仕草をする子、本当にどの子もかわいい子ばかりでした。

でも注意してください。それは、ここの「Wild-Bullet犬舎」の子だからということもありますし、ただこのときは機嫌がよかったからということもあります。

「オオカミ」が「犬」の先祖だというのは間違いなさ

そうですが、進化の過程で大きな違いが出てきました。

その一つが、先ほどもあげましたようにオオカミは「肉食動物」だということ。それに対し犬は人間と暮らす中で「雑食動物」として変化してきたということ。

肉食ですから、オオカミは狩りをします。狩りをして獲物を確実に捕らえるために、強靭な顎を持っていますし、犬の指先は丸くなっていますが、オオカミは先にいくにつれて細長い形をし、鋭い爪を持っています。

そして最大の違いが性格です。犬は人間への依存性が強く、飼い主に気に入られようとします。しかし、オオカミは本来警戒心が強く、人に慣れることはありません。

「オオカミ犬」は、狼と犬の交配種ですから、人なつっこい犬的な性格も持っています。でも、やはり「オオカミ」の面も強く持っており、人に媚びることはなく、機嫌の良いときはいいのですが、いやがっているのを追いかけ回したり、いやがっているのを撫でようとすると、とんでもない事故を起こすことがあります。

僕がここに書いたように、「オオカミ犬」は毅然としていて、それでいてかわいいので人気がありますが、危険な面もないわけではありません。もし見学されるようなことがあれば、かならずオーナーの指示に従い、無理に追い回したり、無理に撫でようなどとしないでください。

老婆心ながら申し添えて、この項を終わることにいたします。

WILD・BULLET 犬舎
奈良県御所市蛇穴一六―二
TEL/FAX 0745-60-2063

おうちカフェ わんこ堂 & わんダフルな仲間たち

一、おうちカフェ「わんこ堂」

近鉄五位堂駅前（香芝市）から広陵町の牧野古墳のすぐ近くまで、二・二キロをつなぐ自転車・歩行者専用道路「かつらぎの道」があります。この「かつらぎの道」の広陵町側からスタートしてすぐのところに、おうちカフェ「わんこ堂」があります。

おうちカフェ「わんこ堂」は週三日、土、日、月の朝八時から夕五時までオープンしているのですが、オーナーの吉田さんが開店準備をはじめると、看板犬のボンゴ君も一緒に出てきてお手伝いです。ボンゴ君は、ゴールデンとラブラドールのミックス犬で、実は日本ライトハウス盲導犬訓練所を卒業……？いや、

開店準備中 / オーナーの吉田さん(上)
おなじみさんと遊ぶボンゴ君（下）

卒業できなくてキャリアチェンジ犬となったという経緯があります。

ボンゴ君曰く「ちょっと兄弟たちよりもフレンドリーな性格でしたので、キャリアチェンジし、看板犬として新たな道を進むことに致しました。」……だって。

ところが、このフレンドリーな性格が幸いして、今では「わんこ堂」の超人気もの。今朝も、開店前からボンゴ君と朝食を共にしようと若いご夫婦が開店を待っています。

そこへ開店準備にご主人と一緒にボンゴ君が現れました。ボンゴ君、顔なじみの若いご夫婦を見るや、店の前の「かつらぎの道」を舞台に、ボンゴ君との楽しくも激しい交流会がはじまりました。

こうして「わんこ堂」の一日がはじまるのです。

基本的に、ここは犬も一緒に入れる「おうちカフェ」です。

わんこ堂の看板犬ボンゴ君

世に「猫カフェ」というものもありますが、「ドッグカフェ」と「猫カフェ」の違いをご存じでしょうか。「犬」と「猫」がちがう！確かにそうなのですが、「猫カフェ」はカフェに猫がたくさんいて、お客さんは、この猫を目当てにやってくる。これに対し、「ドッグカフェ」は、愛犬家の人たちが、犬を連れて、お茶を楽しんだり軽食を楽しんだりできるカフェということになります。

ボンゴ君を目当てに来るこの若いご夫婦は、犬が大好き、でも愛犬を亡くしたばかりで直ぐには次の犬が飼えない。そこで「わんこ堂」にモーニングを食べにやってくる、すると、ボンゴ君以外にも、たくさんの犬と出会えるというわけです。

わんこ堂は、広陵町内に限らず、多くの愛犬家が集う場所になっていますが、そんな愛犬家の方たちの、目下の課題は近隣の公園対策。広陵町では、どの公園に行っても「犬を連れて散歩にくるのはやめましょう」という看板が出ていて、どうしても肩身（かたみ）の狭い思いをしてしまいます。

愛犬家のマナーアップを目指してつくられた缶バッジ

広陵町に移り住む方の中には、一戸建て住宅に住んで犬を飼うのが夢、そんなご家族も多いのです。せっかく広陵町は住みよい町だと、都心のマンション暮らしから、初めて一戸建てに住むようになったのに、犬と散歩できる場所は限られている。「これでは大阪市内のほうが……」という声も耳にします。

確かに犬を飼う人たちにも問題があります。公園に犬がウンチをしても回収しようとしない「栄養不足」じゃなかった、「マナー不足」の人たち。では、そんな愛犬家のマナー向上から手をつけましょうと、このわんこ堂を拠点（きょてん）に「愛犬家の会」が誕生しました。

その名も「ワンダフルな街を創る会」‼ 写真のような缶バッジもつくられ、愛犬家の皆さんは、この缶バッジを散歩用バッグに着け、マナー向上のための運動を展開しているのです。

二、パピー犬のオーちゃん

さて、その「わんこ堂」オーナーの吉田さんは、退職を機に、この広陵町で奥さんと共に、大好きな犬たちや愛犬家たちに囲まれた新しい生活、おうちカフェ「わんこ堂」をスタートさせました。

スタッフは、奥さんのほかに、先ほども紹介したキャリアチェンジ犬のボンゴ君がいます。――が、もう一匹、パピー犬の「オーちゃん」が加わりました。

パピー犬というのは、ご存じの方も多いと思うのですが、盲導犬の候補生です。生後二ヶ月で、「パピーウォーカー」を希望する家庭に十ヶ月の間預けられます。

生まれたばかりの頃のオーちゃん

吉田さんも、二〇一七年、パピーウォーカーとして、オーちゃんを迎えました。

オーちゃんのお母さんは、その年、一〇頭の仔犬（こいぬ）を出産しました。この一〇頭の仔犬たちは、「O胎（オータイ）」として、みんな頭文字にO（オー）が付く名前を、パピーウォーカーさんから付けてもらいます。

この名前は、仔犬たちが将来、盲導犬になっても持っていくものなので公開はできません。そこで、ここでは仮に「オーちゃん」としているわけです。

オーちゃんは黒のラブラドールです。取材をはじめた頃は、ずいぶん大きくなっていましたが、人なつっこく、ボンゴ君と共に、「わんこ堂」の人気者になっておりました。

わんこ堂へ来て3ヶ月が過ぎました。

そんなある日、盲導犬訓練所の指導員の方が、オーちゃんの様子を見にくるというので、僕たち取材班も「わんこ堂」に向かうことになりました。中学生取材員の林珠理（はやしじゅり）さんも応援に駆けつけてくれました。

指導員のお姉さんに爪の手入れをしてもらうオーちゃん

指導員の方は、いかにも犬好きという感じの若い女性の方。吉田さんの奥さんと、その指導員の方の二人で、まずはオーちゃんの爪の手入れがはじまります。

それを、ボンゴ君が、じっと座って見ています。そして、爪の手入れが終わったあとのヒアリングの間も、まるで、年下の弟を気遣う兄貴のように、指導員とお母さんの話に耳を澄（す）ましていました。

さて、そのオーちゃんも、わんこ堂に来ていよいよ十ヶ月が過ぎ、訓練所への入所も間近にせまってきた、そんなある日のことです。

なんと「わんこ堂」にオーちゃんの兄弟たちが集まるというのです。さすがに一〇頭全員がそろうことは無理でしたが、僕たちも、その集いに参加させてもらいました。

オーちゃんたちの旧交の温めようといったら半端（はんぱ）ではありません。引っ張りあい、追っかけあい、はしゃぎあい、目の回るような兄弟の懇親会に、飼い主達はと言えば、頬が緩（ゆる）んだと思うと、次の瞬間には顔が引きつり、かと思うと大笑いがはじまる、なんともユニークな集いとなりました。

集まったパピーウォーカーの方たちに話を伺いました。はじめてパピーウォーカーになった家族がもう一組おられましたが、あとは何度も仔犬（こいぬ）たちを送

り出したベテランの方たちばかり。お話を聞いていて、パピーウォーカーというのは、仔犬たちのしつけをするというより、仔犬たちに楽しい思い出をつくってあげるのが仕事のような気がしました。

「人間とのやさしい、あたたかい思い出があるから、盲導犬として頑張れるんだなあ」なんて、ちょっぴり感傷的になってしまいましたが、そんな思いを吹き飛ばすように、パピー犬たちの大はしゃぎは止むところがありません。

そんな陽気で活発すぎるオーちゃん兄弟たち。そ

んな陽気な兄弟たちの集合写真を撮ってみたい。そう言った尻から、その思いつきが如何に無謀か思い知ることになりますが、それでも家族の方たちの協力を得て、全員そろってはいませんが、なんとか兄弟の集合写真を撮ることができました。

まさに一世一代の傑作？写真ができあがりました。

ボンゴ君とオーちゃん／一緒に仲良くお出かけ！

三、盲導犬訓練所入所式

視覚障害者のガイドとして初めて犬を訓練したのは、一八一九年のオーストリア・ウィーンだと言われています。その後、第一次世界大戦後のドイツで、戦争で失明した軍人を助けるため、ドイツ・オルテンブルクに盲導犬訓練学校が設立されました。

日本で盲導犬のことが騒がれるようになったのは、一九三八（昭和十三）年、盲導犬を連れて世界一周をするアメリカ人ゴードン青年が日本に立ち寄ったことが発端です。当時、陸軍第一病院で、その講演を聴いた三木院長は盲導犬に関心を持ち、翌一九三九（昭和十四）年にドイツ・ポツダム盲導犬学校より訓練

を受けた四頭を輸入します。これが日本における盲導犬の歴史のはじまりというわけです。その後、戦争で途絶えたものの、戦後、一九五七（昭和三十二）年には、塩谷賢一氏により盲導犬の訓練が再開されることとなります。

さて、オーちゃんが入所するのは、日本ライトハウスが、大阪府千早赤阪村で運営する「盲導犬訓練所」です。もともとは一九七八（昭和五十三）年、大阪市鶴見区の施設屋上に設けられましたが、和歌山県田辺市に移転し、さらに一九九五（平成七）年に、この千早赤阪村に移転し現在に至ったと言います。以来、六六〇頭以上の盲導犬が生み出されてきたそうです。

盲導犬訓練所の田原恒二所長と歩行訓練士の大西風季さん

二〇一八年八月二十六日、入所式当日、僕は河内長野駅でタクシーを拾い、千早赤阪村の盲導犬訓練所を目指しました。

施設に着いたのは式の始まる一時間も前のこと。参加者の到着を待ちながら施設を見学します。

ゲートを入った右手にはフェンスで囲まれた広大なドッグランが広がっており、左手には施設の建物があり、その前には、盲導犬の像や、幼くして亡くなっ

日本ライトハウス盲導犬訓練所（大阪府千早赤阪村）

盲導犬希望者が宿泊するゲストルーム

たパピー犬の慰霊碑があります。

建物に入ると、左手にホールがあり、ここが今日の入所式のメイン会場となります。右手には、盲導犬を希望するユーザーのためのゲストルームがあります。ユーザーはここに泊まり込んで、これから伴侶となる盲導犬と共に暮らし、トレーニングを受け、盲導犬の扱い方を習得していくのです。

見学しているうちに、パピー犬とパピーウォーカーたちの車が次々とゲートに入ってきました。

まずは車からパピー犬を下ろし、ドッグランへ誘導します。ついでゲージやエサなどの貸与品を返すべく、正面に止めてある訓練所の車に戻していきます。

ドッグランでは、パピー犬たちが元気よく走り回り、パピーウォーカーの家族の人たちと、最後の別れを惜しんでいます。かといって湿っぽい雰囲気はなく、陽気で楽しい時間が過ぎていきます。

入所式の時間がやってきました。この日は、吉田さんご夫妻と娘さん、それにボンゴ君が、オーちゃんの付き添いとして晴れの入所式に立ち会うようです。

係の方の指示で、オーちゃんをはじめ、パピーとそ

引き渡しを前に記念写真　吉田さん一家とボンゴ君、それにオーちゃん。

の家族たちが、ドッグランから会場へと向かっていきます。

やがて、入所式が始まりました。

日本ライトハウス盲導犬訓練所の田原所長が、まず挨拶をし、パピーウォーカーたちの労をねぎらい、その後、係の人の説明が続きます。その間、パピー犬たちはというと、家族の足下（あしもと）でおとなしく控え、騒ぎ出す犬は一匹もいませんでした。

説明が終わると、パピーウォーカーとしての最後の仕事が待っています。それぞれのパピー犬にマーカーで印を付け、他のパピー犬と一緒になっても誰が誰か分かるようにするためです。準備ができた家族から、再びドッグランに移動し、いよいよ引き渡しが行われます。

一頭ずつ順番にパピー犬の名前が呼ばれ、パピーウォーカーから指導員へ引き渡されます。指導員は、引き渡されたパピー犬を、ドッグランから訓練施設へとリードしていきます。

ほとんどの犬たちが、後ろを振り返ることもなく、指導員と共に歩み去っていきますが、中に、振り返り振り

返り行く犬や、戻ってこようとする犬もいます。十ヶ月というつかの間の絆でしたが、それぞれ共に楽しい思い出を紡いできたのでしょう。

ボンゴ君も、みんなと一緒になってオーちゃんを送り出しました。

「わんこ堂」にオーちゃんがいる頃、あまりに人なつっこく甘えん坊のオーちゃんを見ていて、僕たちは秘かに「盲導犬は無理だろう……」と思ったものです。

盲導犬訓練所に入所したオーちゃん、ほとんどの兄弟たちが盲導犬不適格としてはずれていく中、オーちゃんは精一杯頑張り続けたのです。

しかし、あと一歩のところで、やはりフレンドリーすぎてキャリアチェンジ犬に決まりました。

引き取られていった先は、なんと最初に紹介した、ボンゴ君を目当てに「わんこ堂」に毎週来られていたお若いご夫婦の家でした。

人の縁というのも不思議ですが、犬との縁も、また不思議なものがあると感じ入った次第です。

中学生記者・林珠理（じゅり）ちゃんの感想

「わんこ堂」では盲導犬になるための基本を覚えるパピー犬を預かり育てています。

私はお話を聞くまでパピー犬の存在をほとんど知らなかったので、いい勉強にもなりました。

また壁に貼られている、これまでパピーウォーカーさんが育てたパピー犬の写真や、「**盲導犬になると会えないけど、しっかりやっていると風の便（たよ）りで聞いたりします**」と笑いながら話しているパピーウォーカーさんの姿が、私の中で印象に残りました。

四、わんダフルなモーニング　わんダフルな仲間たち

犬たちの話しに夢中になって、肝心のカフェの紹介を忘れていました。

なんと言っても「わんこ堂」の目玉は、「セルフドッグセット」をはじめ、朝だけでなく一日中楽しめる、パン、ケーキ、ワッフル、サラダ、フルーツ等々が楽しめる六種類のセット。どれも美味しい飲み物がセットされて五〇〇円という「リーズナブル」なうえに「わんダフル」な逸品ぞろい。しかもドリンクだけなら三〇〇円で、美味しい珈琲や紅茶が楽しめ、珈琲は自家焙煎、紅茶もポットサービスで楽しめるというこだわりよう。採算度外視としか考えられません。犬連れでなくとも行きたくなるような空間であります。

わんこ堂に新しく来たパピー犬の「はーちゃん」

とはいえ、オーちゃんがいなくなって、何か歯が抜けたようで、少しさびしい感じもぬぐえませんでした。ボンゴも心なしか元気がなさそうです。

——ところが、ところがです。オーちゃんがいなくなって二ヶ月が過ぎた頃、なんと、新しいパピーが「わんこ堂」にやってきたのです。

今度はメスで、茶色の、ラブラドールとゴールデンレドリーバのミックス犬。H胎の一頭で、「はーちゃん」と呼ぶそうです。

彼女が来るのを待ちかねて、「わんこ堂」へ女房、

孫連れで押しかけました。

とてもかわいい仔犬で、これから十ヶ月の間、彼女の成長を楽しみながら美味しい珈琲がいただけるというものです。

さて、「わんこ堂」の「わんダフル」は珈琲やパピー犬だけではありません。たくさんの「わんダフル」な仲間たちが集まってくるのです。

嘱託警察犬ＯＢのエース君、現役当時に大活躍！

メンバーとして活動に参加している嘱託警察犬ＯＢのエース君（ブラック・シェパード、♂）は、現役当時、犯人追跡で見事な活躍！逃走中の犯人を発見し逮捕につながる成果をあげ、警察署から表彰されました。今も"ながら見守り"活動などを通じ、地域の防犯活動に大きく貢献しています。

嘱託警察犬及び指導者に対する警察署長感謝状の贈呈について

奈良県警察本部刑事部鑑識課

奈良県高田警察署管内で発生したひき逃げ事件に嘱託警察犬が出動し、高田警察署長より感謝状が贈呈されました。

1　出動警察犬等
嘱託警察犬（足跡追及）
エース　フォン　キューナー　ヘルト
（8犬・牡・4歳）
指導者
法隆寺ドッグスクール
公認二等訓練士　大谷　典子
所有者
福井　綱吉

2　事案の概要
平成30年9月10日に奈良県御所市内で発生したひき逃げ事件において、現場から逃走した犯人捜索のため、奈良県高田警察署から出動要請を受けたエース号と大谷指導者が現場出動しました。
エース号は、犯人のサンダルを原臭として、足跡追及を開始、住宅街を熱心に追及した結果、夜道を歩いている男を発見、同行していた警察官の職務質問により同事案の犯人と判明して検挙に至りました。
深夜の出動要請にもかかわらず、早期に現場出動し、粘り強く徹底した足跡追及により、犯人逮捕に大きく貢献した功労で、平成30年10月3日、エース号及び大谷指導者に対し、奈良県高田警察署長から感謝状が贈呈されました。

親子のピレネー犬が来るかと思えば、嘱託警察犬ＯＢのエース君だってやってきます。エース君と言えば、現役当時の平成三十年九月、奈良県高田警察の出動要請を受け、御所市内で発生したひき逃げ事件の犯人を、見事逮捕に導いたというブラック・シェパードです。

その他、本当にたくさんの犬たちが「わんこ堂」を訪れます。つい最近になって、「そら君」というジャックラッセルテリアと知り合いになりました。

「そら君」は、生まれつき三本脚なのです。

では最後に、この「そら君」のお母さん（飼い主）の言葉を紹介して、おうちカフェ「わんこ堂」の項を終わることにいたします。

◇

そらは四歳のジャックラッセルテリア。我が家の二代目のわんこです。

先代犬が亡くなって十ヶ月経った頃、ペットロスからやっと抜け出し、

「わんダフル」な仲間たちです

「我が家に来る運命の子はどこにいるの？」と、何軒もまわりやっと出会えたのが「そら」でした。

「そら」は産まれる時のトラブルで前脚が一本しかありません。三本の脚でぴょんぴょん歩きます。

「かわいそう、脚どうしたん？」

「よう頑張ってるな。私も頑張らなっ！」

「いつも見てるよ。勝手に、けなげ君って呼んでてん」等々……「そら」といることで、たくさんの方に声をかけてもらいます。

三本脚と聞くと、歩くのも大変だと思われるでしょうが、生まれた時からなので不自由なく駆け回っています。わんこ仲間からは「そら君が三本脚なの忘れてるわ」と言われます。

「そら」は大きなわんちゃんから、小さなわんちゃんまで、たくさんの友だちがいます。

お友だちはわんこだけではありません。保育園に通う女の子は、三本脚でぴょんぴょん歩く姿から「けんけんのわんちゃん」と呼んでかわいがってくれます。

登校中の幼稚園さんや小学生は大きな声で「そらくん！」と声をかけてくれます。

初めてのワクチン接種の時、獣医さんから「三ヶ月になるまでにたくさんの犬や人と会わせてあげてください」と言われ「友だち一〇〇人計画」を立てました。

そしてワクチン免疫が付く前から、抱っこして知り合いの家やわんこの集まっている場所に連れて行き一〇〇人以上の人とわんこに会わせました。

今、大きなわんこも初めて会う人も怖がることなくフレンドリーなのは「そのお陰（かげ）かな」と思ってます。

「そら」は自然に恵まれ、わんこ仲間もいっぱいいる広陵町で毎日楽しく暮らしてます。

もし見かけたら声をかけてください。

※おうちCafe わんこ堂

奈良県北葛城郡広陵町馬見北五―三―一二

営業予定日は、土・日・月　午前八時～午後五時

営業日はホームページをご確認ください。

TEL 0745-55-7065　http://wankodo123.web.fc2.com/

ベニマシコ・オス

ホオジロ

カワセミ・メス

エナガ

ヤマガラ

コゲラ

馬見丘陵公園

北葛城郡河合町佐味田 2202
中和公園事務所
TEL　0745-56-3851
http://www.pref.nara.jp/1780.htm

シジュウカラ

“cafe' de からん” マスターのとらえた

馬見丘陵公園の小鳥たち

ルリビタキ・オス

ルリビタキ・メス

モズ

ジョウビタキ・オス

メジロとサクラ

馬見丘陵公園は、香芝市・広陵町・河合町など3市町村にまたがる標高７０m 程度の東西約 3km、南北約 7km に及ぶ広大な丘陵公園です。

この公園の小鳥たちや花々をこよなく愛しているのが “cafe'de からん” のマスター**ダイスケ**さん。

ダイスケさんは、時間を見つけては、この馬見丘陵公園の花や小鳥たちを撮り続けておられ、今回、ご協力をいただき、その一部を掲載させていただきました。

新庄乗馬クラブ　人と馬の関係

一、トリビューンのこと

かつらぎエリアには乗馬クラブが二つあります。

一つは、御所市にある「乗馬クラブ・クレイン奈良」と、もう一つが、葛城市にある「新庄乗馬クラブ」です。

クレイン奈良が「手ぶらで参加できる」、つまり馬のことを何も知らなくても利用できる体験型の乗馬クラブであるのに対し、「新庄乗馬クラブ」は、ユーザーの方は、そのほとんどが馬主さん、つまり馬を持っている方のための乗馬クラブです。

世界中の競走馬が集まる新庄乗馬クラブ

これから紹介する「トリビューン」は、その「新庄乗馬クラブ」に籍を置く牡のサラブレッドです。二〇一一年二月十六日、北海道は日高町にあるダーレー・ジャパン・ファームに生まれ、競走馬として二〇一四年一月から二〇一五年十一月まで、九回のレースを戦い抜きました。

さて、このトリビューンのことに触

れる前に、まずはサラブレッド全体について基本的な知識を学んでおきましょう。

二、サラブレッドの歴史

サラブレッドの発祥（はっしょう）をたどると、十七世紀後半、サラブレッドの三大始祖と呼ばれる三頭の牡馬（おすうま）から、イギリスのサラブレッドが誕生し、現在におけるすべての競走馬はこの三頭を父系祖先としています。

新庄乗馬クラブのオーナー岡村実さん

その中で最古の一頭が、オスマントルコとの戦いで手に入れた「バイアリータ－ク」というトルコのサラブレッドです。ちなみに「バイアリタ－ク」という名前は、手に入れたバイアリー大尉（たいい）という軍人の名前に依（よ）っているように思います。

そして、もっとも新しいものが、一七二四年にイエメンで生まれ、チュニスの皇帝よりフランスのルイ十四世に贈られたゴドルフィンアラビアンです。しかし、ルイ十四世は、その価値が分からなかったようで、パリの町で荷車を引いているところを見つけた英国人のエドワード・コークによって買い取られイギリスに渡った

新庄乗馬クラブの朝／馬たちのケアーに余念のない岡村恵美子さん

至る所で人と馬の良い関係が見られる

と言われています。

最後に、最も重要なのが、一七〇四年、アン女王の時代、貿易商トーマス・ダーレーが、シリアのアレッポにて購入したダーレーアラビアンです。馬はその後、英国アルドビーパークにあるダーレー家が所有する牧場に送られますが、このダーレーアラビアンこそが、サラブレッドを作りあげた種牡馬（たねおうま）の中で最も遺伝的に優勢だと認められて、今、世界で活躍するサラブレッドの九五パーセントが、その子孫だと言われています。

ところで、現在、競走馬のほとんどを生産している「ダーレーグループ」は、アラブ首長国連邦の首相で副大統領、およびドバイの首長であるシェイク・モハメドが世界的に展開する競走馬の生産組織です。そのダーレーグループが、二〇〇四年に日本の旭川に設立したのが、ダーレー・ジャパン・ファームということになります。

三、新庄乗馬クラブ

トリビューンは、この、ダーレー・ジャパン・ファームで生まれたのですが、先にも述べましたように、

トリビューンと厩務員の間にも信頼関係が

競走馬の寿命としては、二年に満たない、比較的に短い期間で競走馬をリタイアしました。

というのも、レース中、二回の剥離骨折をし、それが原因で引退したのです。

その後、日高の牧場で手厚い介護を受け、現在は、この新庄乗馬クラブのオーナー岡村実さん、恵美子さんご夫婦の力添えで、馬術競技用の馬を目指し、第二の人生を歩み始めたところなのです。

トリビューンの世話をする恵美子さんにお話をお聞きしましたところ、トリビューンは頭が良く、最初に一から五まで教えたら、次には繰り返し教える必要がない。そればかりか、何より性格が良く、人間と良い付き合いができる馬だと言います。

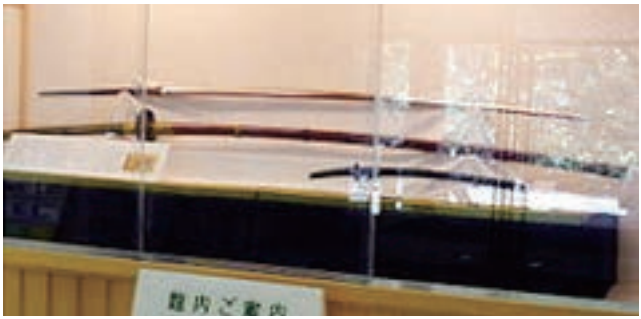
トリビューンについて話してくれる岡村恵美子さん

恵美子さんの友人で、トリビューンの新しい飼い主になろうという人も見つかり、取材させていただいた二〇一八年十月の段階では、トリビューンの特性を活かした「障害物競走」で「日本馬術連盟」に登録をしようという段階になっていました。

将来、トリビューンの名を、また耳にする日があるかもしれませんね。

四、兵器としての馬の歴史

しかし、すべての競走馬の老後が、トリビューンのように幸せなものとは限りません。殺処分され動物園のエサとして処理される等、過酷な最期を迎え



熱田神宮宝物館に展示されている斬馬刀　5尺3寸（約175cm）

る馬たちも多いと聞いています。

競走馬の歴史からして、兵器としての馬の利用からスタートしています。中国の小説「水滸伝」には「連環馬」といって馬同士を鎖で繋ぎ、密集陣形で突撃する戦法のことが紹介されています。この戦法に対して考え出されたのが、馬の脚を刈るという戦法です。まず長いたこつぼの列を掘り、その穴に、先端に鈎の付いた竿を持った歩兵を潜ませます。連環馬の騎馬隊が通り過ぎるところを狙い、穴から鈎を突きだし、馬の脚を、稲を刈るように斬るという残酷な戦法です。

日本にも、「将を射んと欲っせば、まず馬を射よ」ということわざにもあるように、まず馬が真っ先に狙われます。斬馬刀という、足軽が何人かで抱える巨大な刀があるぐらいで、馬は戦闘に重大な影響を及ぼす戦力として考えられていました。馬を戦いで利用するために馬具が改良され、馬上で弓矢が射れるよう、弓矢の羽根も平行翼から三枚羽根のロケット翼に改良されていきました。

このように、馬と人間の関係は、戦いの道具としてのスタートでした。農耕馬としての人間との関係もありますが、やはり馬と言えば戦の道具というイメージが強いと思います。

正倉院銀壺に見られるパルティアンショットの図柄
馬具と弓矢の開発により騎射が可能となった。

ところが、平和な時代の到来と共に、馬という存在は、競走馬以外、使い道がなくなってしまいました。

馬は、一般の人が、愛玩用に手を出せるような代物ではなく、ペットにも不向き、機械化の進展により農耕馬としても需要がない。

しかも競走馬にしたところで、その老後は決して安泰（あんたい）とは言えず、それを考えると人間の身勝手さを思い知らされるばかりです。

五、人間にやさしい馬たち

でも、少なくとも、この新庄乗馬クラブにいる三十頭近い馬たちは、やさしいオーナーや飼育員の人に囲まれて、トリビューンだけでなく、みんな、人と良い関係を築いている幸せな馬ばかりです。

僕たち取材班も、厩舎（きゅうしゃ）の取材中、何度も後ろから「こっちだよ」とでも言っているかのように馬さんに軽く突つかれたり、「こっちへおいで」とばかり、袖（そで）を咥（くわ）えて放してくれなかったりと「楽しい体験」をさせていただきました（上の写真）。

身勝手な人間に対し、馬のやさしさ、朗らかさが身にしみます。

たまたま厩舎の中を見せてもらっているとき、一つだけ「空」になった囲いがありました。地面には元気だったときの写真と好きだったリンゴやバナナが並べられています。横に付けられている表札を見ると、アメリカ生まれの十五歳のサラブレッドのようです。

お聞きすると、昨日、亡くなったばかりだと言います。人間で言えば六十歳という感じでしょうか。

この馬さんについては、半月前、最初に取材にお伺いしたとき見かけただけで、彼について何を知っている訳でもないのですが、でも、「人間のために頑張ってくれた一生だったね……」、そう思えてなりません。

本当にご苦労様でした。

今回は、馬さんたちから元気を頂くとともに、自分たち人間の身勝手さを思い知らされた取材でした。

と同時に、馬と接している厩舎の人たちの、馬に向ける温かい思いが身にしみる取材でもありました。

トリビューン

新庄乗馬クラブ
葛城市山口三七四―三
TEL　0745-63-2171
営業　朝8時～夕5時まで
定休日　なし（不定休）

広陵町にあったメダカの学校

谷國昌博

「メダカの学校」は、この本を出版する「自遊空間ゼロ」のすぐ近くにありました。

校長先生は谷國昌博さんで、お住まいの駐車場スペースを、すべてテントで覆い、そのなかにたくさんのメダカの教室（飼育容器）を設置されておられます。

その谷國校長にお願いして、生徒のメダカさんと校長先生との関わりについてお話しを聞かせていただきました。

十年以上前の話となりますが、友人のすすめにより、めだかの飼育を始めたのが、私がめだかにのめり込むきっかけとなりました。

楊貴妃

当時は今ほど種類はいませんでしたが、自分が認識しているめだかとは全く別物だと感じ驚いていたことを覚えております。

一番始めに驚かされたのが「楊貴妃」という名前のめだかです。ホームセンターなどで売られている「緋めだか」をもっと赤く改良された品種で、この「楊貴妃」、どう見ても金魚にしか見えない見事な朱色をしていたのです。

「めだかがこんなに赤くなるものなのか」と驚くとともに、俄然、めだかへの興味が湧いてきたのです。

更なる驚きは、現在のめだかブームの火付け役とも言われている「幹之めだか」を見たとき決定的なものとなりました。

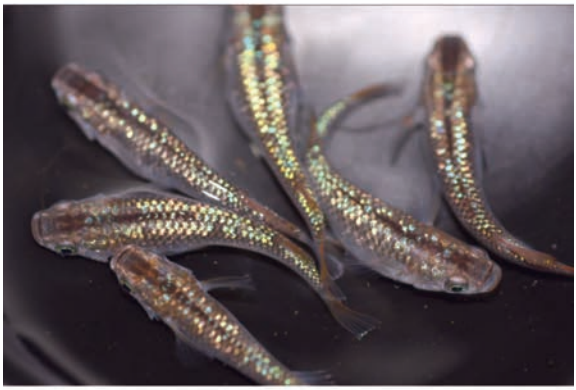
この「幹之めだか」、背中の部分に青く輝く一本の光（体外光）が入る品種であり、この体外光の長さが長いほど高価で取り引きされているのです。

写真は「幹之めだか」の中でも最高峰のフルボディと言われ口先から尾の先まで体外光が完璧にのったものです。

次に、まるでスパンコールのようにキラキラと輝

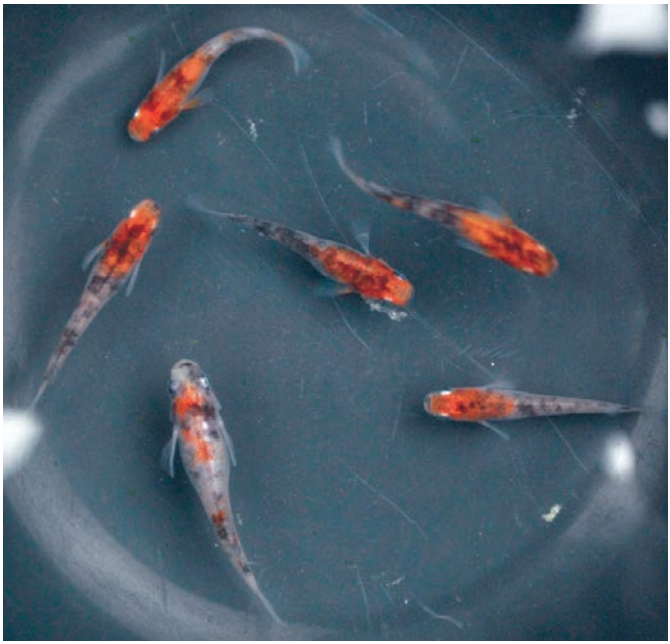
幹之（みゆき）めだか

紅白ラメ



琥珀ラメ

く「ラメめだか」があります。
写真は「紅白ラメ」と「琥珀ラメ」です。
めだかの進化はとどまることなく、更には錦鯉(にしきごい)を思わせるうような品種まで登場します。



写真は小さなめだかの体に見事に三色を表現した品種「三色錦」です。
様々な改良めだかを見ている内に、どっぷりとめだかの世界に入り込んでしまい自分でも何か改良めだかを作ってみたいという思いが強くなり、我流ではありますが、六年半、交配を繰(く)り返し、全身真っ黒なめだかを改良することに成功し、その改良めだかを「オロチ」と命名しました。めだかの世界では、自分で改良しためだかの名前を、個々に自由に名付けられるのが、ひとつの魅力でもあります。
この「オロチ」の特徴は、普通、めだかは保護色機能というものを生まれながらに持っていますが、私が改良した「オロチ」は、この保護色機能を著(いちじる)しく欠落させることとに成功した品種です。これにより、白い飼育容器、ガラスの飼育容器などのように、めだかの保護色機能が働く容器で飼育しても色がほとんど落ちないのです。「オロチ」は、私の代表作となった「改良めだか」なのです。

谷國昌博さんがつくりだした改良メダカ「オロチ」

「メダカ百華」vol.05 号に紹介された谷國昌博さんと飼育容器

Paula（パウラ）のインスタ風かつらぎ

2

ガイドブック制作のリサーチで、2回目に訪れたのは、
近鉄新庄駅周辺でした。この日の空は曇り気味。

今回は、私一人で屋敷山公園に行ってきました。
平日ということもあり、人は少なかったです。
ですが、とても美しい公園で、
自然との調和が素晴らしく安らぐことのできる公園だと思いました。

遊具などもあるので、家族や友達と楽しむことができそうです。
特に春には桜は咲いてきれいだろうなぁ。

第3章かつらぎの子どもたち

大阪芸術大学 デザイン学科　田中美羽

かつらぎの子どもたちと本

一、御所おはなしの会と大正小学校

「郵便長柄館・テガミカフェ」を取材しているときのことです。その日、午後から「御所おはなしの会」の催しがあるというのです。

ランチを済ませ、待つこととしばし、やがて喫茶のテーブルが奥の方へ寄せられ、お話の場が用意されていきます。窓際の壁には、今日演じられる紙芝居の題目が並べられはじめました。

「牛源さん」「天狗の面」「瓜盗人」「乳いちょうのはなし」「井戸がこわくなった仁王さん」「およし狐」「あわれみたまう地蔵さま」「若桜姫」「天狗の面」「梅の木とウグイスと小僧さん」。（これ、全部手作りです！）

数えてみると全部で十本！

（エッこれ全部やるの！何時間かかるんだろう？）

そんな心配を察したのか、

「全部やるんじゃなくて、リクエストしてもらうんです」と、テガミカフェの店長さんがカバーしてくれました。

「御所おはなしの会」代表者の木村昇子さん。手に持つのは同会発行の「御所のむかしむかし」

演じ手は三名、「ごせおはなしの会」と名前の入ったおそろいのTシャツで登場です。

ではというので、僕も「井戸がこわくなった仁王さま」をリクエストしてみました。

これが実に楽しいのです。お話がどうのというのでなく、話しぶりが本当に楽しそうで、思わず引き込まれてしまいます。

始まるまでは「どう見ても近所のおばさんだ」等と、なんとも失礼なことを思っていたのですが、お話をはじめると、本当に人が変わったように、生き生きと楽しげに話されるものですから、思わず身を乗り出して聞き入っておりました。

この日演じていただいたのは、「仁王さん」以外に「牛源さん」「若桜姫」「乳いちょうのはなし」「梅の木とウグイスと小僧さん」の五本でした。

お話が終わり、「御所おはなしの会」の代表、木村昇子さんを紹介していただきました。

この木村さんとは、それから何ヶ月か経って、御所の民泊第一号「さんろくカフェ・うめだファーム」で再会することになります。

うめだファームの楳田さんも、かつては小学校の校長先生をされていた方です。

御所市立大正小学校での読み聞かせ会は、題して「朝とく」。漢字にすると「朝読」と書いて「あさとく」と読ませます。

「読」と「得」を兼ねているように思います。

この「朝とく」、最大の特徴は、民間の有志だけでなく、先生方も一緒に参加することにあります。このため、共通のテキストをつくり、子どもへの読み聞かせの方法を工夫しておられます。

以下は、そのテキストの抜粋です。

◇絵本の持ち方《安定した持ち方》

・図のように片手で本の綴じのところをしっかり持ち、体の利き手の側にもっていくようにする。

・子どもから見て、絵本が読み手のかげにかくれて

「さんろくカフェ」の取材で一泊させていただいたときのことです。オーナーの楳田さんに、「御所で、子どもたちと本をつなぐような活動をなにかご存じないでしょうか？」と尋ねてみました。

楳田さん、「大正小学校で本の読み聞かせをしているグループがいる」と言うのです。

次の日、なんとその代表の方が、「山ろくカフェ」に来ていただくことになったのです。

その代表の方が、「御所おはなしの会」の木村昇子さんだったのです。

しまわない。

・本は親指のつけ根に背をもたせかけるようにして持ち、開いたページの下を四本指でしっかりおさえる。

・読んでいるときは、なるべく本をぐらぐら動かさない。本がぐらつくと子どもの集中が妨げられる。

◇読みはじめ

・どの子も前を向いて、これからの読み聞かせに注意を向けていることを確かめる。

・表紙を見せ、はっきりと本の題名・著訳者名を言う。

・見返し、タイトルページを順にゆっくりめくっていく。（見る）（読む）

・表紙から本文に至るページは、一軒の家の門から玄関に通じる道のようなもの。主人公を紹介し、話全体の雰囲気を暗示する大切な部分なので、急がずゆっくり見ていく。

聞き手の期待も盛り上がる。

◇めくり方

・ページをめくる時は、手をできるだけ絵本の上か下にかけるようにして、腕で画面をかくさないようにする。

・スムーズにめくれるように、ページのはしに手をかけ準備しておく。

（×もたつく　×二枚一度にめくる）

・ページをくるのも話のうち

◇読む速度、めくる速度

・ページをくることも話のうちと考えると、話の流れによってめくり方の速度もいろいろにかわる。

・文を読み終わるとすぐ次をめくるというのではなく、子どもたちに絵を見る時間を与える。

・文のない場面では、あわてず、子どもの前に絵本を近づけ、ひとわたりゆっくりみせてやる。

◇ページをくった瞬間は文は読まない
・新しい場面が現れたとき、ちょっと時間をとってから読みはじめる。

◇ゆっくりと心をこめて
・声をはりあげたり、登場人物のせりふに声色を使ったりする必要はない。
・自然で、読み手がその絵本を楽しんでいる気持ちが伝わればよい。
・くりかえし読み聞かせるうちに、子どもたちめ反応をたしかめることができるようになる。その反応によって、読む速さや間の取り方などを調整し、自分の読み方をみがく。

ざっとこんな感じですが、これ以外にも、先生と民間スタッフ、そして生徒たちをつなぐ、「全校朝読新聞」が出されています。この新聞に代表である木村昇子さんの書かれた記事がありますので、先生の代表・校長先生の記事をあわせて紹介させていただき、この項を終わることにいたします。

■スタッフ代表　木村昇子さん

朝読が始まって、十三年が過ぎました。その間、たくさんの先生方、たくさんのスタッフの方に絵本を読んで頂きました。

本当にありがとうございます。感謝、感謝です。お陰様で、子ども達は朝読が好きです。毎回、楽しみに待ってくれています。

初期の頃は、こんな風ではありませんでした。きっと子ども達は、先生以外の大人の人が教室に入って本を読むことに、ためらいがあったんでしょうね。けれども、回を重ね、年を重ねるうちに、スタッフのおばちゃん達に心を開き、よく聞いてくれるようになりました。

もちろん、先生方の力は絶大なものでした。

先生に読んで頂いてる子ども達は、本当にうれし

そうです。先生はすごいなあと改めて感心しました。

今では、朝、出会った子ども達に、「今日は何年生で朝読してくれるの？」「ぼくの教室へ来てもらえるの？」等、声をかけてもらえます。

「今日は二年一組だよ」と返事をしますと、「わあ、ぼくのところだ」とうれしい声。

スタッフは、「今日もがんばろう」と元気が出ました。

ずーっと、大正朝読が続きますように。

御所市立大正小学校「全校朝とく新聞」

■学校代表　椿隆一校長

先生は今年で大正小学校に来て、三年目を迎えました。

今までは、ずっと中学校で体育の先生をしていました。小学校は大正小学校が初めての経験でした。それに、絵本の読み聞かせがあると聞いて、「みんなの前で絵本を読むの？」「自分の子どもにも読んだことないのに、うまく読めるかな？」「みんな静かに聞いてくれるかな？」と不安でいっぱいでした。

でも、その不安は、学級へお話に行ってすぐ消えました。どの学級に行っても、「話をじっと聞いてくれる子」「うなずきながら聞いてくれる子」「目を輝かせて絵本を見ている子」聞き方はさまざまでしたが、どの子もみんな一生懸命聞いてくれました。

先生は、絵本の聞く態度はどの学校にも負けていないと自慢できます。朝読は、大正小にとって、とても素敵な時間だと思います。

二、絵本図書館をつくろう（河合町）

北葛城郡河合町に「豆山の郷」という総合福祉会館があります。職員の方にお聞きすると、普通に言われる総合福祉会館よりも、もっと大きな福祉の形を考えており、町民みんなを大家族として考え、その「いえ」としての建物を目指しておられるということです。

道理で町立の施設とは思えないほどおしゃれで立派な建物です。外観はヨーロッパの城塞のようでもあり、それが、のどかな田園風景に良くマッチして、不思議な風景をつくり出しています。

また内部に入って、二階のフロアーから吹き抜け部分を見上げると、まるで巨大な鯨の腹腔にいるような、はた

河合町総合福祉会館・豆山の郷

また帆船の竜骨を逆に見るような、何とも言えず面白い空間がつくりだされています。

一階のキッズコーナーといい、三階の入浴施設といい、楽しい設備が用意されているのですが、何より一番の見ものは、この建物自体と言えるでしょう。

その「豆山の郷」で、昨年二〇一八年十二月二十三日、面白い催しが開催されました。

題して「手作り寄贈絵本の集い」。ポスターには「絵本づくり、ケラ先生とつくろう」とか、「あしたかもとき氏と楽しもう!!」といったキャッチが添えられていました。

実は、この「豆山の郷」館内に「絵本図書館」をつくろうという動きが盛り上がってきています。

今回、そのキャンペーンの第一弾

として、みんなで手作り絵本をつくり、出来上がったものを寄贈しようという試みが催されたのです。

参加者は、絵本製作のキット（二百円）を購入し、白紙のページに画を描いたり、切り絵を貼り付けたり、思い思いに、世界に一冊しかない「自分だけの絵本」をつくっていきます。

これを指導するのが、地元でデザイナーとして活躍するKERAさんと、北海道から駆けつけてくれたイラストレーターあしたかもときさんのお二人です。

手づくり絵本の指導に当たるケラさんとその作品

ケラさんは小学生の頃からデザイナーになるのが夢。大阪モード学園を出てステージ衣装を手がけていましたが、結婚後は、シルバーアクセサリーや、レジンの造形作家として活躍しておられます。

ところで「レジン」というのは、そのまま訳せば樹脂のことですが、主剤と硬化剤を混ぜ合わせることで化学反応が起きて透明に硬く固まる素材のことを言い、これを使ってつくるアートのことを「レジン」と言うそうです。

ケラさんの、レジンアートとクリスタルガラスをコラボさせた「お祝い七色鶴」が、現在、河合町のふるさと納税のお礼品の一つとなっています。

また、あしたかもときさんは、北海道在住のイラス

コロコロ コロル君の原画と「あしたか もとき」さん

トレーターですが、北海道限定販売のぬいぐるみ「コロコロ コロルくん」絵本化にあたり、絵を担当された絵本作家さんでもあります。

ほっかいどうの どこかにある ふしぎな もり。
この もりに、ほっきょくうまれの
しろくまのこが やってきました。

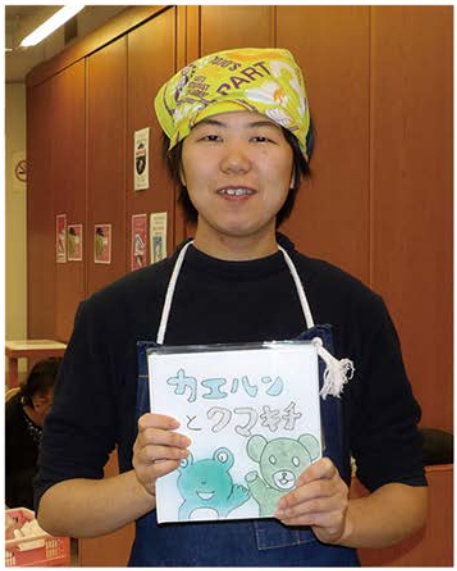
「コロコロ コロルくん」は、北極から来たシロクマが、北海道の自然の中で、女の子と出会い、妖精たちと出会う楽しい物語です。

河合町・絵本図書館に「あしたかさん」ご本人から寄贈していただいた最初の一冊です。

さて、こんなユニークなお二人に指導していただいての手作り絵本……どんな傑作（けっさく）が生まれるのでしょうか。

おうた
かく

KAMEN RIDER


PART
カエルン
クマ

三、香芝のまめ文庫（香芝市）

香芝市西真美郵便局の二件ばかり南隣に、黒板型のメニューボードが出されていることがあります。

「まめ文庫、午後二時から四時まで」

いつもではありませんが、毎月第三月曜日の午後二時から四時まで、無料でオープンしている「子ども図書室」があるんです。

図書室の名前は「まめ文庫」、オーナーは北野与志江さん。スタートしてから十年近くになるでしょうか。

ところで、香芝市と広陵町の、ちょうど境のところに「エコール真美」という大きなショッピングセンターがあります。その二階に、かつて子ども図書室が置かれていたことがあります。絵本が充実して揃えられ、買い物客だけでなく、この図書室目当てに来る親子連れがたくさんいました。

それが今から十年ぐらい前になると思うのですが、閉館することになったのです。

実は、北野与志江さん、この子ども図書室で司書をなされており、閉館にあたって、図書室が収蔵していた絵本や紙芝居など、そのすべてを北野さんが引き継ぐことになりました。

北野さん、自宅の一室を改造して図書室をつくり、こうして「まめ文庫」が誕生するに至ったのです。

現在、利用客の多くは近所の子どもたちですが、隠された絵本の宝庫です。絵本好きな方、一見の価値あり。

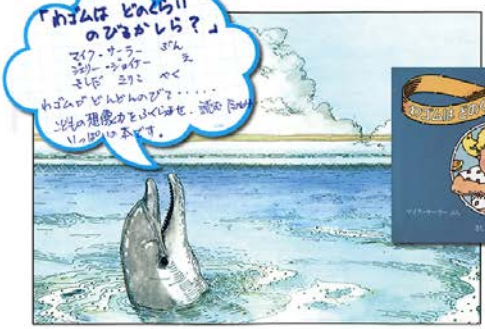
※まめ文庫

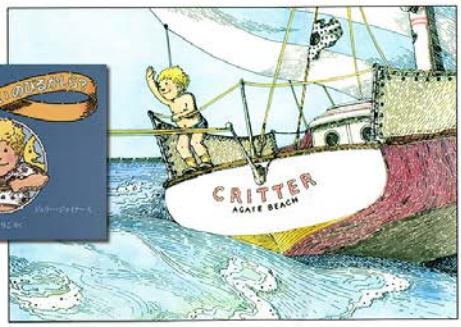
奈良県香芝市西真美三―一一―二二

開館は、毎月第3月曜日　午後一時～四時

オーナー／北野与志江

おすすめ絵本
よっちゃんの
まめ文庫





ふねは、ぼうやを のせて、

うみを こえて、

四、自遊空間ゼロ（広陵町）

「自遊空間ゼロ」は奈良県北葛城郡にある「まちライブラリー」です。基本的には「まちライブラリー」ですから、ここは「本」と出会える場所です。

でも、この空間は、本と出会う以外にも、さまざまな体験と出会える空間でもあります。

ネパールと日本の子供たちをつないでのお話し会

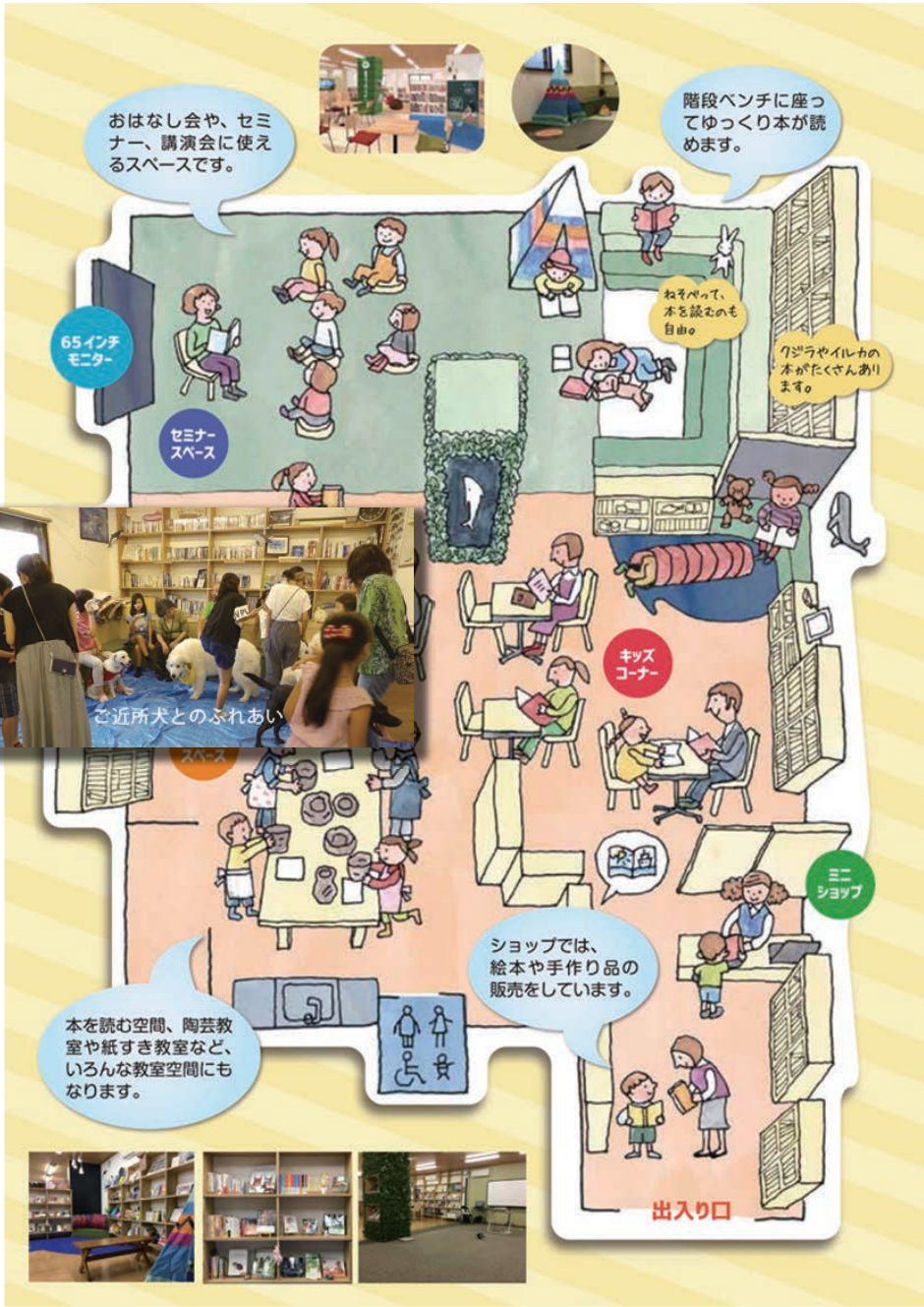
自遊空間ゼロでは、さまざまな催しや教室を通じて、あるときはインターネットを通じて、子供たちに世界とつながる空間を用意しています。

また、あるときは、お父さんと子ども、お母さんと子ども、それが土をこねたり、紙をすいたり、一緒に遊んだり、そんな作業を通して、親と子が出会える空間を用意する場所でもあります。

NPO 法人 T-seed さんとの共催で陶芸教室
陶芸指導は、おなじみの杉本洋之先生

このほか、ご近所の犬たちと出会う機会もあるし、いろんな本を通して、時には、いろんな先生のお話をとおして、自然と出会い、宇宙と出会い、過去と出会い、心と出会う、そんなさまざまな機会を用意しています。

※自遊空間ゼロ
奈良県北葛城郡広陵町三吉三四五―一四
TEL 0745-54-1218
無料開放日／毎週水・木・金　午前一〇時～午後五時
蔵書数／約二〇〇〇冊


おはなし会や、セミナー、講演会に使えるスペースです。
階段ベンチに座ってゆっくり本が読めます。
65インチモニター
セミナースペース
ねそべって、本を読むのも自由。
クジラやイルカの本がたくさんあります。
ご近所犬とのふれあい
キッズコーナー
ミニショップ
ショップでは、絵本や手作り品の販売をしています。
本を読む空間、陶芸教室や紙すき教室など、いろんな教室空間にもなります。
出入り口

五、広陵町立図書館（広陵町）

二〇一七年二月、小芝風花主演の「天使のいる図書館」が全国で公開されました。その主な撮影地の一つが、この広陵町立図書館になります。

映画のエンドタイトルでは、図書館が上空から空撮で捉えられ、カメラが引いていくと、竹取公園も、自遊空間ゼロの建物までもがスクリーンに映し出され、「オオッ」と、思わず歓声を上げたのを覚えています。

――失礼しました。妙なことで感動していては話が前に進みませんので、図書館の紹介に移ります。

この図書館、町立とはいえ奈良県でも有数の図書館でして、建物といい、蔵書といい、町民にとっては、本当に誇らし

いものになっています。

「本と子どもたち」、このテーマを取ってみても、子どもたちが「本」に出会う場所としての「図書館」、その役割をスタッフみんなが深く意識しておられるように感じます。なかでも「赤ちゃんから絵本を楽しもう」という取り組みには、館長自ら、催しの中で、若いお母さん方に語られるなど、その意気込みが感じられます。左の写真のような、手作りの「仕掛け手引き書」も何種類もつくられています。

若いお母さん方に話しかける尾藤館長

その内容の一部を書き出してみます。

「赤ちゃんはまだ本が読めません。でも……

赤ちゃんは本をポイポイするのが好き！ペラペラめくるのが好き！絵を眺めるのも好き！

そして一番好きなのは、お母さんお父さんにだっこしてもらって、本を一緒に見てお話してもらうこと。

大好きな人の声でお話ししてもらえば、赤ちゃんはとっても幸せ！きっと心豊かに育つでしょう。」

では、どんな本をという問いかけには、

「赤ちゃんにも好みがあるので、いろいろな本を読んでみて、喜ぶ本を探してみてください。

とにかく一緒に楽しんで、ゆっくり優しい時間を持つことが大事！そしてお気に入りの絵本は何度でも読んでほしいもの。「またぁ～」と思わずに何度でも読んであげてくださいね。」

では次に、あくまで参考ということで、尾藤館長と児童書スタッフの佐々木さんに、ゼロ歳～五歳までのお子さんに読んでほしい本をセレクトしていただきました。

広陵町立図書館
北葛城郡広陵町三吉三九六ー一
TEL:0745-55-4946
開館／午前九時半～午後五時
休館／月曜日（祝日の時は翌日）
　毎月第二金曜日
年末は十二月二十八～一月四日が休館となるほか、九月に特別整理日があります。

◎ゼロ歳児から二歳児までのおすすめ絵本

（尾藤肇子）

新井洋行作　えほんの杜

せなけいこ作　福音館書店

いりやまさとし作　講談社

わかやまけん絵　こぐま社

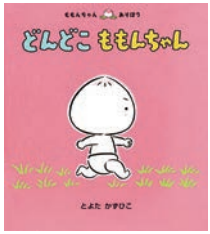
かがくいひろし作　ブロンズ新社

林明子作　福音館書店

◎三歳児から五歳児までのおすすめ絵本（佐々木早苗）

↙ゼロ歳児から（続き）

三浦太郎作　こぐま社



とよたかずひこ作　童心社

まつおかたつひで作　ポプラ社

寒竹孝子文　アリス館

佐々木マキ作　福音館書店

苅田澄子文　アリス館

唯野元弘文　すずき出版

佐藤雅彦作　福音館書店

ブリッタ・テッケントラップ作
ひさかたチャイルド

エリシャ・クーパー作
あすなろ書房

レイン・スミス作
BL 出版

六、香芝市民図書館（香芝市）

◎「えほんたいむ　どようび」を取材して

香芝市民図書館では、たくさんのボランティアさんが活動をされています。その中でも、私は図書館の司書さんと一緒に活動をされている「えほんたいむボランティア」さんの活動に興味を持ちました。市民活動をして感じることは、もっともっと市民と行政が手をつないだら、もっともっとすてきに皆さんによろこんでもらえる場づくりができるのに……と思っているからです。

開始前のミーティングの様子

二、三歳対象の「えほんたいむ　どようび」では、毎回の活動に、図書館司書とボランティア、各一人ずつが担当になり読み聞かせを行います。

この日の担当は、図書館の西川さんとボランティアの丹羽さんでした。

10時30分～打ち合わせが始まりました。

あらかじめ二人が選んだ絵本数冊を並べて、その中から選書をしていきます。絵本の順番と流れをてきぱきと二人で話合いながら、ミーティングが終了。

11時、サポートのボランティアさんたちが、お部屋の外でパペットを使って子どもたちに声かけをします。

「えほんたいむ、始まるよ～。」

子どもたちが、ニコニコと部屋に入ってきましたよ。

「みーせーて」の絵本を丹羽さんが読み始めると、部屋にバラバラにいた子どもたちが、自然と周りに

市民図書館の司書西川智子さん

集まってきました。

絵本を見る楽しい空気ができあがりました。

さてさて、絵本を見たり、歌を歌ったり、紙を使った遊びを見たり!? なんとも、盛りだくさんの楽しい時間は過ぎました。

終わった後は、展示をしている絵本を手に取ったりして自由に過ごします。

参加をしていた二歳の女の子を連れたお母さんは、「ここに来るといろんな絵本が知ることができる」と、うれしそうにお話してくださいました。

もう、開始から十五年も経つ「えほんたいむ」。

ボランティアさんと一緒に活動をするというのは、どうですか？と図書館の西川さんに伺ってみると

「市民あっての図書館なので、ボランティアさんはなくてはならない存在です」と答えてくださいました。

えほんたいむボランティアの丹羽秀美さん

ボランティアさんは、どうでしょう？

「活動は無理なくできるし、楽しいですよ。」

確かに、始まりのミーティングから、終わりのミーティングまで、皆さん、終始笑顔でした。

代表の宮田さんは、「ボランティアの皆さんは、各自のお仕事や時間を大切にしながら隙間の時間を親子連れさんの笑顔を励みに、当番をしてくださっています。なので、やむを得ない事情で、当番ができなくなった時は、お互い様の気持ちで気持ちよく交代し合っています。」

そんな風におっしゃっていました。

「楽しく続けられるのは、代表が宮田さんだからよ。」

そう言っていた、ボランティアさんの気持ちが、少し分かったような気がしました。

（多田美砂）

◎子どもを対象とした主な取組み

＊定例行事

・**「えほんたいむ」**／絵本の読み聞かせや手遊び等。ゼロ歳児、一歳児対象の「えほんたいむ・よちよち」と二歳児以上対象の「えほんたいむ・どうようび」を実施。三歳児以上対象。

・**「おはなし会」**／素話や読み聞かせ、手遊び等。月二回実施。

＊連携事業

・**保育所・幼稚園・認定こども園・学童保育所**

……団体貸出（施設を対象とした図書の貸出）

巡回文庫（図書館車「ぶっくる号」で施設を巡回し、貸出や配本、読み聞かせ等を実施）

図書館見学の受入れ

・**小中学校**

……団体貸出、資料搬送サービス

学級訪問（各学級を訪問し、ブックトーク〔本の紹介〕やおはなし会等を実施）

図書館見学・職場体験の受入れ

・**その他**

……図書館便りやブックリスト等の発行と配布

ブックスタート事業への協力

◎香芝市民図書館ボランティア・サークル一覧

ボランティア名	活動内容
サークル ラ・ボ	目や身体の不自由な子どもたちのために、「布の絵本」や「さわる絵本」を製作
香芝お話ローソクの会	図書館で、「おはなし会」を開催。市内の学校・幼稚園・保育所等へのおはなし配達（出前おはなし会）を実施
えほんたいむ ボランティア	職員とともに図書館で「えほんたいむ」を開催。
香芝ブックトークの会 たんぽぽ	学校からの求めに応じて、職員とともに出かけてブックトークを行う。
香芝絵本の会いちご（サークル）	定例会で絵本についての情報交換や学習会、絵本の読みあいなどを行う。学校や幼稚園等で「えほんのひろば」を開催。
あじさい	視覚障がい・高齢者・肢体不自由等、自力で本や雑誌、新聞等が読むのが困難な方への対面朗読の実施と市民図書館での「大人のためのちいさな朗読会」の開催。
香芝ブックレスキュー	市民図書館での本の修理、職場体験等における修理体験指導。依頼により、学校図書ボランティアに本の修理を指導。

オススメの絵本・児童書

『きつねのホイティ』
シビル・ウェッタシンハ 作／福音館書店

いたずらばかりのきつねのホイティ。でもなんとも憎めないきつねなのです。

『きょうはそらにまるいつき』
荒井良二 著／偕成社

まるいつきを追いながら、人々の営みを静かに感じる絵本。何度も「きょうはそらにまるいつき」と言葉にして、おつきさまを感じます。

『ジャーニー』
アーロン・ベッカー 作／講談社

字のない絵本。マーカーがつなぐ、冒険に目が離せません。『クエスト』、『リターン』とシリーズが続きます。

『いちご』
新宮晋 作／文化出版局

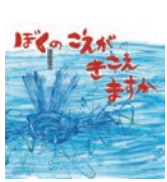
いちごの中に宇宙があります。その広がりに最後まで目が離せません。

『りんごりんごりんごりんごりんご』
安西水丸 著／主婦の友社

りんごりんごりんご♪　とりんごがコロコロころがっていきます。どこにいくのかな？りんごりんごと歌うように楽しめる絵本です。

『かんかんかん』
のむらさやか 文／福音館書店

「かんかんかん」踏切が閉まります。やってくるのは、食べ物列車に自動車列車。いろんな列車がやってきます。



『ぼくのこえがきこえますか』
田島征三 作／童心社

一体、戦争は何をもたらすのでしょうか。お母さんを残して戦死してしまった「ぼく」の声が聞こえますか？

『いえでででんしゃ』
あさのあつこ 作／新日本出版社

家出した子どもだけが乗れるオンボロ電車「いえでででんしゃ」。空を飛んで、海に潜って、行き先は、みんなが行きたいところ。それってどこでしょう？

『ジム・ボタンの機関車大旅行』
ミヒャエル・エンデ 作／岩波書店

ジムとルーカス、機関車エマの大冒険。ジムたちに次々と困難なことが襲いかかり、結構、ドキドキさせられます。続編『ジム・ボタンと13人の海賊』もあわせてどうぞ。

『ドリトル先生アフリカゆき』
ヒュー・ロフティング 作／岩波書店

動物語のわかる医者、ドリトル先生が病気のサルたちを救うため、アフリカへと旅立ちます。もし、動物と人間が自由にコミュニケーションを取れたら―昔からの岩波少年文庫版と新訳の角川つばさ文庫版があります。

七、絵本作家を目指して

香芝市に、「理学療法士」をしながら「絵本作家」を目指す青年がいます。その北川りょうさんの手記を以下に紹介させていただきます。

本人が言うように、彼の表現が、これからどう変化していくか、楽しみな存在です。

自遊空間ゼロの読書会で話す北川りょうさん

僕が「表現」を始めたのは、高校二年生のときです。始めた理由は「自分の心を救うため」です。

子どもから大人になるにつれ、ずっと無邪気に笑っていられるわけじゃなく、味わいたくない現実をどんどん突きつけられることになります。その中で悩み込み、辛い痛みを覚え、たくさんの暗闇が心に巣くいました。そんな状態でもやはり希望や自分の願いを捨てきることはできず、その羽交い絞めに苦しめられました。

そんな中、僕の心を前向きな方向に引っ張ってくれたものがありました。それが、たくさんの映画、音楽、本、芸術でした。

「自分に価値なんてない。」

そう思っていた僕に、「きみは幸せになっていいんだよ」って一緒にしゃがみ込んでくれた作品がいつもそばにいて、僕を救ってくれました。

そして、いつしか僕は自分でその芸術を生み出すようになっていました。ただひたすらに「繊細で傷つきやすい自分の心を守るため」に。

その中でも特に当時高校生時代の僕の心を救ってくれた「素顔」という自作詩を紹介します。

「素　顔」

人前に出ると　ついムッとした
不機嫌そうな　悲しそうな顔をしてしまうんだ
仮面をつけたままじゃないと
人前に出られないほど　さみしがりやで自信がないんだ
その仮面の下には　どんな顔の自分がいるのか
それさえ忘れかけるときもある
でも　思い出してごらん
夢中になって　虫やトカゲを追って
草むらを駆け回っていた　あなたの顔を
仮面をはいだあなたの顔はキレイじゃないかもしれない
でも　きっととても清々しい顔をしてるはず
誰が何と言おうとかまうもんか
僕が保証する
「あなたの顔は美しい」と

当時の僕もきっと孤独の中で葛藤を続け、それでも灯りを求めてもがき続けていたんだと思います。

そして、僕は社会人になり理学療法士として働き始めました。働く中で、自分の無力さ、ダメなところ、色んな感情に押しつぶされそうになりながら、仕事だけじゃ成しえないものがあると感じていました。そして二十三歳の冬に僕はある決意をしました。

「今まで自分が作り続けてきた作品を世界に向けて発信していこう」と。

思い立ったとき、僕は詩と絵を描き殴ったノートを片手に東京へ旅をしました。

不安でいっぱいの中たくさんの芸術家に連絡を取り、自

分の作品を見てもらい、アドバイスをもらいました。

そして、遂に記念すべき一作目の本『しあわせのぶどう』を自費で発行しました。そして僕は希望に胸を膨らませて本と一緒にイベントに出ましたが、結果は惨敗で痛烈な指摘をたくさん受けました。

その指摘を受け、「まっすぐな想いをそのまま表現したい」と思い作ったのが第二作目の本『こころの向きを』です。

そしてこの本が数え切れないくらい、かけがえのない出逢いを連れてきてくれたのです。

数は少ないかもしれないけど、この本をきっかけにとても大切な友達が僕に出来たのです。

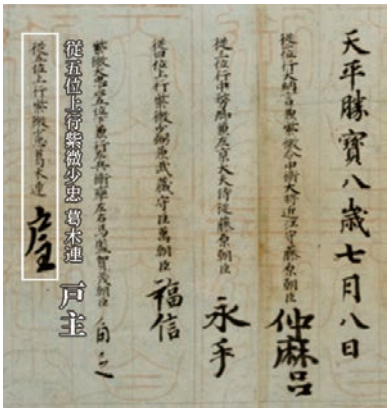
この本をきっかけに「僕は僕でいていいんだ」と心から思えるようになりました。

僕にとって表現は自分そのもので、内容も、僕の人生とともに変化を続けてきました。

これからどんな変化をするのか楽しみです。

毎年秋になると、奈良国立博物館では正倉院展が開かれます。

ご存知のように、正倉院御物というのは、聖武天皇のコレクションを、奥さんの光明皇后が、天皇の死後、東大寺に寄贈したもの。その寄贈の際、「国家珍宝帳」なる目録作りが行われました。それを仕切ったのが、滅ぼされた葛城（葛木）一族の末裔・葛木戸主という人物。国家珍宝帳の末尾には「従五位上行紫微少忠 葛木連戸主」との署名があります。位は従五位上とありますから貴族の端くれとなるでしょうか。



紫微少忠というのは、光明皇后の家政機関で、紫微中台の中間管理職ということです。そして、この「葛木戸主」に嫁いできたのが、道鏡事件で有名な「和気清麻呂」の姉、「和気広虫」です。

広虫も光明皇后に仕え、夫婦二人して、光明皇后の慈善事業を助けますが、個人的にも戦乱や疫病で親を失った孤児たちの面倒を見ることになります。

これが日本で最初の孤児院となるのですが、二人は面倒を見た子供たちすべてに「葛木」の姓を与えているのです。

全国に点在する「葛木」姓の方の中には、この子孫の方がおられるのではないでしょうか。

なお、この夫婦を主人公にした小説「天平冥所図会」（山之口洋著　文芸春秋）が出版されています。実に痛快で面白い作品です。ぜひ一読をお勧めします。

子どもたちを見守る市民活動

一、NPO法人 T-seed（ティーシード）

ボクが取材しました！

①**活動内容**／子育て支援や子ども支援、地域コミュニティなどのコミュニティづくりの場や、みんなが楽しめる場所づくりをしています。

②**名前に込められた願い**／ティーシードの「シード」とは、「種をまく」という意味です。笑顔の種をまいてその種が芽を出し、育って、花が開き、また種を落として……笑顔がたくさん広がるようにという願いがこめられています。

NPO 法人 T-seed 代表の多田美砂さん

③**活動人数**／活動人数は一〇人ほどで、いろんな担当で分担されています。

④**活動日**／活動日は、いろいろです。二、三歳児向けの「おやこであそぼう こんぺいとう」、〇、一歳児向けの親子ひろば「こんぺいとうプチ」、小学生、幼児向けのコミュニティ「みんなであそぼう！」。活動日は、変わることもあるのでホームページを見てください。

https://npo-t-seed.jimdo.com/

一番永い活動は、小学生が夏休みにいろんな学年の子とあそぶ「あそぼう会」です。二〇〇八年

から活動を始め、里山へ遊びに行ったりする体験活動が人気です。

⑤ **楽しいと思うこと**／楽しいと思うことは、「参加をしているみんなの楽しそうな顔を見ること」、そして「たくさんの人との出会いと繋(つな)がりができたこと」だそうです。

⑥ **気をつけていること**／活動しているとき、気をつけていることは、みんながケガをしないようにすることだそうです。常に「安全」を気にかけているとのことです。安心ですね。

夏休みはみんなであそぼう会

この活動を通して皆に伝えたいこと

「あそび」の大切さや「あそび」がどれほど大事なのかということ。小さい頃からいろいろなことを体験、経験してほしい。いろいろな人と出会い、繋がりをつくってほしい、ということだそうです。

◇編集後記

当日質問しているとき、多田さんは、とても分かりやすく丁寧に答えてくれました。活動内容がよく分かりました。○、一歳児向けや、小学生、幼児向けなど年齢に応じたイベントをしているのがとても良いなと思いました。このページから、もっともっとこの活動を、皆さんに知ってほしいです。これを読んで「こんな素晴らしい活動があるんだ」と思っていただけたらと、ぼくは思います。

取材　香芝市立五位堂小学校六年　西本昊結(にしもとてんき)

みんなであそぼう

二、子ども取材班出動！
― たこ焼きドーナツ ―

「この、たこ焼きおいしい！」

そう言って娘が食べたのは、モンテステラの〝たこ焼きドーナツ〟――。

そう、〝たこ焼き〟ではなく〝ドーナツ〟なのだ。

私が、娘と一緒に大笑いしたのが、このたこ焼きドーナツを取材したいと思ったきっかけだった。

まず、だまされたのは、この外観。パックに入れられた姿は、まるでたこ焼き！

それに加えて、口に入れた時に広がる、青のりと鰹節（かつおぶし）の香り。中には、もちろんタコと紅ショウガも入っている。

後味まで、まるでたこ焼きそのものだ。

なぜ、こんな物を作ろうと思ったのか？

私の疑問は、この後におこなわれた、たこ焼き好きの小学生たちとの取材で、すべて解決されるに至った。

取材に対応していただいたのは、社会福祉法人以和貴会「ナチュラルカフェ・モンステラ」の店長、大森祥貴（おおもりよしき）さん。

なんともさわやかな笑顔の大森さんが、子どもたちに優しく声をかけてくれたおかげで、緊張していた子どもたちにも笑顔が出てきて取材がスタートした。

だいきくん「どうしてたこ焼きドーナツを作ろうと思ったのですか？」

ひかりちゃん「どうしてこんなにモチモチとしているのですか？」

こんな質問に、大森店長が「たこ焼きドーナツの誕生秘話」を教えてくれた。

オープンは、二〇一三年の四月三十日です。たこ焼きドーナツは、その翌年の二〇一四年の十一月頃のデビューだそうです。

大人も子どもも、そして、モンステラの職人さんたちも、大好きなたこ焼きをパンで作れないかと考えた。

しかし、たこ焼きは、熱々をフーフーしながら食べるからおいしいのではないか!?

冷めてもおいしいたこ焼きを、どうすれば作ることができるのか?!

そこで、思いついたのはドーナツ。

ドーナツ生地で作れば、冷めてもモチモチしたおいしいたこ焼きドーナツが作れるのではないか。

早速、たこ焼きのように丸く作り、ドーナツのように油で揚げてみた。すると形が崩れてしまい、どうもたこ焼きのように丸くならない。

何度も何度もやり直し、油で揚げても形がくずれないように粉の分量を考えぬいてできたのが「たこ焼きドーナツ」だということだ。

りねちゃんの「隠し味はなんですか?」という質

問にも、大森さんはこう答えていた。

「おいしいと思ってもらいたいという、職人さん達の気持ちです。」

職人さんが、一生懸命考えて作っていることが伝わる答えに、納得！

大森さんが何でも優しく答えてくれるので、子どもたちの質問は途切れることがなく……

好きな色は？好きなケーキは？と、個人的な質問になってきたので、いよいよこの日の取材を終えることにした。

きっと、この日の出来事は、これからこのお店に来る度に思いだし、そしてたこ焼きドーナツの味は、大森さんと出会う前より、二倍……いや一〇倍はおいしく感じられることだろう。

物というのは、作る人によって、届ける人によって、もしかしたら語る人によって、命を吹き込まれるものかもしれない。

そんなことを、私は子どもたちと大森さんを見て考えた。

※Natural cafe Monstera
奈良県香芝市磯壁一丁目一〇五七―三 ボノボビル
TEL 0745-51-7107
午前九時～午後五時（日・月は定休）
国産小麦一〇〇％で湯種方式を使い、四つ葉バターにこだわった食パンがおすすめです！

取材　T―seed・多田美砂と
香芝の子どもたち

積極的に手を上げて
質問するだいきくん

緊張してたけど
終始ニコニコしていた
璃音ちゃん

閉店後のお店に入って
楽しかったという
ゆりちゃん

大森さんが優しく
教えてくれて
うれしかったという
ひかりちゃん

三、地域交流 空間エンジェル

平成二十八年四月一日に、子供からお年寄りまでの様々な方との「地域交流」を目的とした活動をしようという想いから「地域交流空間エンジェル」という団体名で、社会福祉協議会にボランティア団体として登録し結成。

地域とのつながりが薄れていく現代社会において、子どもの虐待（ぎゃくたい）やお年寄りの孤独死などが問題視されています。

代表の岸本は、そんな悲しい出来事を少しでも防ぐためには、「今こそ地域交流の活性化が必要だ」という思いのもと、私たち空間エンジェルは、日々の活動を行っております。

木の実アート体験のためにドングリ探し

地域の集（つど）いの場である公園の清掃活動や製作交流会、「えみふる市」というフリーマーケットイベントなどを通じ、地域の人たちと顔見知りになる。そうすることで、地域のみんなで子供やお年寄りを守る。人間関係が希薄（きはく）になりつつある世の中で、私たちの活動が少しでも地域交流の活性化につながり、みんなのが笑顔で安心して過ごせる地域になるように、そういう想いで様々な取り組みを行っております。

そこで、空間エンジェルの活動をご紹介していきたいと思います。

まずは、製作交流会と昔懐（なつ）かしい遊びや手遊びをご紹介致します。

毎月一回、奈良県大和高田市社会

福祉会館（ゆうゆうセンター）で場所をお借りして開催しております。もちろん参加費用は無料です。

自然のものを使用した製作をしております。

この日は、木の実のアート体験をいたしました。木の実は、空間エンジェルスタッフと子供たちで、近くの公園で集めてきます。

子供はもちろん、大人も宝探しのように、「こっちのドングリのほうが大きいで」と、大はしゃぎで集めました。

集めてきた木の実で、地域の皆さんとお話をしながら作る製作は、子供をはじめ大人にも大好評。

代表の岸本が介護福祉士ということもあって、レクリェーションで、

ご高齢者さんとしている手遊びや、昔懐かしい遊びの鬼ごっこ、「だるまさんが転んだ」を「くやしぃーっ」「まてーっ」と大声を出して年齢関係なく楽しんで走りまわっている姿に、自然と笑みがこぼれます。

製作交流の中で、一番大好評なのが手形アートで、今では様々なイベントに、「空間エンジェルさんに手形アート出店をしてほしい」とお声がかかるようになり、手形アートの出店もしています。

手形アートの体験をした子供からは、「手に絵の具をぬってベタベタするのが楽しい！」「手形が動物に変身したぁ！」

親御さんからは、「親子の記念になりました。さっそく玄関に飾ります。」

「敬老の日に、手形のプレゼントしたら喜ぶだろうなぁ。」

ご年配の方は、「手がフクロウに変身した。これは福が来そう！」と笑顔でおっしゃる姿が、私たちの幸せの瞬間です。

次に私ども空間エンジェルが主催している、フリーマーケットイベント「えみふる市」についてお話ししていきたいと思います。

笑顔があふれる大和高田市という思いで、「えみふる市」と名付けました。

「えみふる市」を通して、大和高田市の誇る千本桜で有名な大中公園を地域の皆様の集いの場に、また交流の場になれるように想いを込めて開催しております。

平成三十年十月二十八日に開催した「えみふる市」は、約四〇ブースほどのバラエティあふれる出店をはじめ、大和高田市のマスコットキャラクターの「みくちゃん」によるパレードや、ハロウィンが近いということもあり、スタッフ、出店者、お客様の仮装を企画。

出店者のカイロプラティックのスタッフからは「ミニオン姿で施術したのは人生で初めてです」と笑みをこぼしている姿。

海賊（かいぞく）姿の代表、岸本による紙芝居（かみしばい）では、みくちゃんまで観客席に。

子供たちからは、「みくちゃんの横にすわるー！」「みくちゃん、かわいい！」「あくしゅしてー！」と笑っている姿が見られました。

笑顔がいっぱいの「えみふる市」は、

四月の春と十月の秋の、年に二回開催していく予定です。

さて、最後に清掃活動についてお話しさせていただきます。

毎月二回、大和高田市の大中公園と高田川のゴミ拾いをしています。

きっかけは、代表の岸本が平成二十三年から高田に住むようになり、きれいな高田千本桜のある大中公園と高田川に、ゴミがいっぱい捨てられているのを見たことにあります。

せっかくきれいに咲いている高田千本桜がゴミで台無しになっている。

「これではあかん」と思い、またゴミを拾うことで地域の人と顔見知りに、交流になればという思いで清掃活動をはじめました。

清掃活動を続けるにあたり、色々なことがわかってきました。

家庭ゴミ、陶器破片、ミシン、フライパン、粗大ゴミが大量に捨てられており、拾ってもまた捨てられと、イタチゴッコの三年間。

この三年間で拾ってくれる仲間は増えたが、ゴミを捨てる人が一人も減らない。

平成三十一年度より、ゴミを捨てる人の心に少しでも、「捨ててはだめだ」と思ってもらえるよう、蛍（ほたる）を高田川に飛ばせるぐらいキレイにして、実際に蛍をいつか飛ばそうと目標をかかげ、行政とも日々、話合いをしている現状です。

平成三十年度最後の清掃活動が、十二月十九日に行われました。

この日、集まった人数は三七名。地

域の方以外にも、ＳＮＳを見て、大阪や東吉野からも駆けつけて清掃活動に参加くださいました。

年末だからか、この日は粗大（そだい）ゴミが多く捨てられており、皆で力を合わせて、川からゴミを引き上げる姿。子供からは「なんで川にゴミを捨てるの？」「ゴミはちゃんとゴミ箱に捨てなあかんで」と言いながら、ゴミを拾っている姿が見られました。

この日一時間のゴミ拾いで集まったゴミの量は、何とゴミ袋四〇袋分も集まりました！

まだまだ高田川に、ゴミが捨てられているのが現状です。

高田川は別名、大和川といいます。大和川は、御所、葛城、高田、広陵、上牧と流れている川です。

一人でも多くの方に清掃活動に参加していただき、この現状を知ってほしいのです。

このままで良いのでしょうか？

自分たちのために、子供たちの未来のために、一人でも多くの方に、この思いが届きますように。

「地域交流 空間エンジェル」は「継続は力なり」を信じて、これからも活動していきます。

空間エンジェル代表　岸本麻美

※空間エンジェル
奈良県大和高田市磯野町四―一六
TEL 090-3848-6622
Email／sakuramama1229@ezweb.ne.jp
主な活動場所／ゆうゆうセンター
大中公園、公民館

四、地域協働の子育て支援で、子どもが育つ
特定非営利活動法人家族・子育てを応援する会

私は、広陵町で生まれ、育ち、結婚・子育てをし、現在も住んでいます。また、三十年間教育現場にいて、さまざまな事情をもった親子と出会い、簡単には解決しにくい状態になっていると度々感じていました。

その中で、「子育ての入り口にいる親御さんを応援することが、子どもたちの健全な育成につながる」と考え、退職して大学院に行きました。

そこで、学んだことは対人援助を「協働」で行うことでした。その後、多世代・多職種・さまざまな立場のスタッフと一緒に、「家族・子育てを応援する会」を設立し、乳幼児の親子広場「子育ておしゃべり会」を月一回開催してきました。

子育てについて学べて、おしゃべりで交流ができ、親子ともが楽しく過ごせる、そんな会を目指して会を継続しています。参加されたお母さんの感想で多いのは、「みんな子育てに悩んだり不安になったりしている」「自分だけではなくて安心した」「思いを聞いてもらえて、力をもらった」、という感想でした。

子育ておしゃべり会

「子育ておしゃべり会」は、参加されたお母さんが、お父さんや他のお母さんを誘ってくださるようになり、今は、お父さんが当たり前のように参加してくださっています。三十七回目の会(二〇十九年五月五日)を終え、延べ一二〇〇人以上の親子が参加してくださり、回を重ねる度に、この草の根活動が、地域の方々の「協働」で開催できていることを感じ

ます。

また、オーナーの桐生敏明さんのご厚意で、自遊空間ゼロをお借りして、ゼロ歳児対象の親子広場「ゼロのワクワクプログラム」も始めました。あるお母さんは、「子育ては不安もいっぱいですが、こういう場へ参加させていただくと、前向きに楽しい気持ちになれるので、これからもずっと続けてください！」と感想を残されました。

ゼロのワクワクプログラム

孤立した子育てが社会現象になる中、誰かと寄り添って子育てをすることや地域全体が子育てを温かく見守ることで、親の気持ちが楽になり、子どもの健やかな成長につながります。そのためにも、親の思いや子育て支援についてご理解をいただきたいと、地域に毎月「おしゃべり通信」を発行しています。

ゼロのワクワクプログラム

両親が大変忙しかった私は、幼い頃から大家族と地域の皆さんに育てていただいた感があります。だからこそ、子どもや親御さん、家族の皆さんが、毎日少しでも笑顔で過ごせるように、地域の方々・スタッフと「協働」で、これからも家族・子育てを応援していきたいと思います。

理事長　新谷眞貴子

※特定非営利活動法人　家族・子育てを応援する会
会事務局 TEL 050-3136-6268
Email＼koryo.kosodate@gmail.com

五、庭カフェ「ぼちぼっち」
――こども食堂

庭カフェ「ぼちぼっち」はＪＲ香芝駅東側、住宅地の一角にあります。

教師だった青木恒子さんが、退職してご主人とともに「地域に貢献できることを」と、オープンしたのがこのお店です。

僕もカレーの食べ歩きをしている頃、この「ぼちぼっち」にも寄せていただいたことがあり、その時にお話をお聞きするまでは、今の世の中で経済的に食べられない子がいるなんて信じられませんでした。

しかし、青木さんは教職時代の経験で、「給食費に困っている家庭が現にありますし、現在、子どもの六人に一人が貧困家庭なんですよ」とやさしく教えてくださいました。

こども食堂のメニュー／今日はショウガ焼き

このことを踏まえて、青木ご夫妻の開かれた庭カフェ「ぼちぼっち」は、普段は、一般のカフェとして水曜日～土曜日の朝八時から午後四時まで営業されていますが、これ以外に、毎月第一日曜日のお昼十一時～午後二時までを「こども食堂」としてオープンし、高校生までのこどもは無料、ほかにも一人住まいのお年寄りなどにも来ていただいていると言います。

厨房を手伝うボランティアの皆さん

こども食堂のメニューは「照り焼きチキン」「煮込みハンバーグ」「トンカツ」「豚のショウガ焼き」などのメイン料理に、サイドメニューとサラダ、汁物、フルーツがつくという豪華版。こどもは無料ですが、大人でも、これが三〇〇円というのですから、ぜひ食べに行ってみたくなると言うものです。

大人の話はさておき、メニューには必ずフルーツをくわえるようにし、少しでもこどもが喜ぶようにと、お手玉やけん玉などの昔懐(なつ)かしい遊びを体験したり、くじびきで景品やお菓子の詰まった袋までお土産にもらえるとか。このほかにも、子どもたちのリクエストで、きなこ作りなど、様々な体験にチャレンジできるよう考えておられます。

庭カフェ「ぼちぼっち」さんは言います。

「私たちは『食』を通して地域のこどもたちを応援していこうと、喫茶店を母体にして『こども食堂』をたちあげました。

地域に開かれた『居場所』として皆さんをお待ちしています。こどもも、こどもでない方も、また地域にお住まいの方も気軽にお越しください。」

こども食堂を訪ねた濱田さん親子

最後に、ちびっ子記者・りねちゃんが、こども食堂を取材してくれていますので、その

取材記事を紹介させていただきます。

りねちゃんの取材日記

お店の人たちは、子どもたちが言ったことをちょっとでも実現するのが夢だそうです。

みんなを楽しませてあげたいという気持ちを持ちながら活動しておられます。

青木恒子さんを取材する りねちゃん

子どもたちが経験したことのない「きなこづくり」など、子どもたちがやったことのないことを、たくさん実現させてあげたいそうです。

お店の人へ質問しました

Q.「ぼちぼっち」の名前の由来はなんですか?

A. ゆっくり行こかという意味です。

Q. お店の中で工夫していることがありますか?

A. ゆっくりの気持ち。料理を努力しています。

Q. メニューは、どのようにして決めていますか?

A. 料理教室で、良いと思うものを選んでつくっています。

Q. どんな人に来てもらいたいですか?

A. いろんな人に。

Q. どうして子ども食堂をつくったのですか?

A. 身近でホッとする場所にして、子どもたちに来てほしいからです。

Q. これからどういう風に活動したいですか?

A. 子どもたちから何をしたいか意見を聞いて、少しでも実現できるようにしていきたいです。

※庭カフェ「ぼちぼっち」
奈良県香芝市下田東一―四六〇―四
TEL 0745-79-8153
カフェ営業日は、水～土曜日の午前八時～午後四時

関屋鉄道――ミニSLの夢

一、関屋鉄道って……？

香芝市内を関屋鉄道が走っているって？

大和鉄道一〇〇周年記念の取材をしている時、こんな話しを耳にした。

でも香芝市内に、そんな鉄道が走っているなんて聞いたことがなかった。

この話を紹介してくれたのは、香芝市で子育て支援の活動をしているNPO法人「T―seed」の多田さん。詳しく聞いてみると、ミニSLを自宅の庭に走らせている人がいるというのだ。

村本さん玄関に関屋鉄道の表札

それが「関屋鉄道」という次第。調べてみると、サンケイ新聞をはじめ、読売テレビ「大阪ほんわかテレビ」等々で紹介され、かなりの人気。これはぜひ「かつらぎ探検ガイド」に掲載したいと、まずは現地へ足を運んだ。

あいにくご主人は不在だったが、奥様から名刺をいただき、後日、電話で取材の許可をいただいた。ただし取材は「運行日にお願いします」と言うことになり、八月の運行日はというと十一日の祭日午後三時～五時となる。この

あと九月はお休みになり、次回は十月になるという。

本来なら、取材はT―seedの多田さんと香芝市在住の小学校六年生の西本君にお願いする予定だったが、T―seedの活動日と重なっていたり、サッカーの試合当日だったりで、とりあえず私が取材に行くこととなり、運行開始の一時間前に村本さん宅にお伺いし、準備を見学しながらお話しをお伺いすることとなった――。

二、ディズニーの夢

村本順三さんがミニSLに関心を持った発端は、ウォルト・ディズニーだという。子どものころ、日曜日の夜の番組で「ディズニーランド」という一時間番組があったが、その中で、ディズニー氏が自宅の庭にミニSLを走らせているシーンがあった。そのシーンが村本少年の脳裏に深く刻まれてしまったのだという。

ミニSLの夢を語る村本順三さん

調べてみると、ウォルト・ディズニー氏は大変な鉄道オタクだった。自宅の庭にミニSLを走らせるばかりか、そもそもディズニーランド自体も、アメリカの西部開拓時代の風景を再現し、そのなかを蒸気機関車や蒸気船が走るといった「交通博物館」のようなものとして構想されたという。

ウォルト・ディズニーの夢は、ディズニーランド内を走るサンタフェ鉄道、後のディズニーランド鉄道として形となったが、それぱかりか日本の少年の夢の中にまで根を下ろしてしまったようだ。

ところで東京の銀座に「天賞堂」という鉄道模型の店がある。本来は宝石・時計商だったが、一九四九年に、当時の社長・新本秀雄さんの趣味が高じて鉄道模型の販売をはじめた。

5インチレール幅の本格的ミニSL「C5822」

従来、倉庫に使っていた建物の二階部分を改装し、アメリカの大地を模した「第一次オメガ・セントラル鉄道」が作られ、以来、鉄道模型ファンの聖地的存在となっていった。

村本さんは学生時代、この天賞堂で、一台のミニSLと出会った。レール幅は三インチ半、人間が乗れる最小のミニSLだが、完成品として販売され、当時の金で一五〇万円だったという。当時、大卒の初任給が三万という時代、とても学生の身分では手が出せない。その時、村本さんは、「ともかく金さえ出せばミニSLが手に入る時代になったんだ」と、深く感じ入ったという。

その後、社会人となり、いったんはSLから離れていたが、今から二十年ぐらい前のこと、村本さんの会社でイタリア製の板金の機械を購入することとなり、その研修を兼ねて、販売店の社長とともに実際の機械をイタリアに見学に行くことになったという。

ところが、同行した販売店の社長は無類のSLマニアで、旅行中、オーストリアにSLを見るため立ち寄るなど、村本さんの埋もれていたミニSLへの思いを再びかき立てる

自宅につくられた 120 メートルの変化に富んだミニ SL のレイアウト

こととなった。実は、その販売店の社長、ＳＬマニアであるばかりか、ミニＳＬのマニアでもあったのだ。

かくして、この社長を師として、村本さんのミニＳＬ修業がはじまったという次第。

村本さん四十代後半のことであった。

三、Ｃ５８２２を自宅に！

最初は、小さな組み立て式キットのものからはじめたという。小さなキットとはいえ、一台一五〇万円はするという代物（しろもの）なのだが……。

大阪本社の小川精機という会社がある。模型用のエンジンを作る会社なのだが、この小川精機の先代社長が、やはりミニＳＬにはまっており、ミニＳＬのキット販売を開始したばかりのことだ。村本さんが最初に購入したキットも、この小川精機の製品だったという。

その小川精機が、法隆寺工場の裏手にミニＳＬを走らせ

るための固定レイアウトを持っており、ここでキットを購入したユーザーは、このレイアウトを使ってミニSLを走らせることができたのだ。村本さんも、最初は、この組み立てキットを作っては、月一回の走行会に持ち込んでは走らせていたという。

しかし、そのうち、もっと大きなものが作ってみたくなった……。

こうして二十年、今、村本さんが走らせているのは五インチというレール幅のもの。つまりレール幅が一二七ミリ、これを自宅の庭に敷設し、トンネルあり、鉄橋ありという一二〇メートルの変化に富んだレイアウトを作り出した。

このレイアウトを作成するため、土地を検討し、更地からレイアウトを設計、家屋もレイアウトに見合った家を建てるという熱の入れよう。

機関車も、窓枠など細部までこだわって再現した「C5822」というミニSL。

これが一二〇メートルにわたる変化に富んだレイアウトを疾駆するという次第で、こうなると、子どもやSLマニアでなくともワクワクしない筈がない。

◇

取材した日は、折からの猛暑、その中でミニSLとはいえ、石炭をくべ、窯の圧力を調整する作業はまさに灼熱地獄。そばで撮影させていただいても汗が噴き出してくる始末なのだが、当の村本さんは、淡々と作業をこなしていかれる。

やがて準備は整ったが、こんな猛暑の中、乗客も少ないのではと勝手に危ぶんでいたのだが、ふと外を見れば、なんと村本家の外には長蛇の列ができているではないか。三十六度という暑さの中、子どもばかりか、若い女性までが、開始時刻の三時を待つ行列に加わっていた。

※場所は、奈良県香芝市関屋北六―九―二七
運行情報は、http://ameblo.jp/sekiya-tetsudou/

C5822

Paula（パウラ）の インスタ風かつらぎ

3

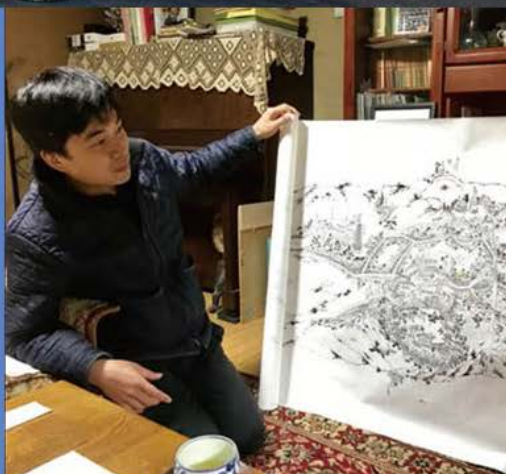
3回目のリサーチでは、
私の母国であるアルゼンチンのお友達も一緒に、
「道の駅 かつらぎ」を訪れました。
私たちは近鉄 新庄駅から 30 分ほどかけて徒歩で向かいましたが、
葛城市コミュニティーバスでも向かうことができるそうです。

「道の駅 かつらぎ」ではレインボースイーツが食べられる
ということでしたが、 残念ながらその日はもう売り切れでした。。。

ですが、道の駅という楽しい場所を見つけられて、いい運動もできたし、
とっても楽しい 1 日を過ごすことができました!

第四章
かつらぎの地場産業

大阪芸術大学 デザイン学科　地頭所 樹



かつらぎの酒

梅乃宿酒造株式会社
油長酒造株式会社

ここでは、かつらぎ地域の酒蔵を紹介するわけですが、かといってページ数の関係もあり、すべての酒蔵を紹介することもできません。

そこで、勝手な判断で恐縮ですが、新しい時代に、まったく違った対応で頑張っておられる二つの酒蔵を紹介させていただきたいと思います。

一つは葛城市にある「梅乃宿酒造株式会社」、もう一つは御所市にある「油長酒造株式会社」。この二つの酒蔵を訪問し、それぞれ新時代の若手経営者の方々に、興味深い話をお聞きしてきましたので、お酒の好きな方も、嫌いな方も、しばらくはお付き合いください。

一、梅乃宿酒造株式会社

梅乃宿酒造株式会社を選んだのは、男性中心の酒造りの社会で、トップから社員に至るまで、女性が活動の中心にいるように感じられ、伝統にとらわれず、新しい社会への適応を目指しチャレンジし続ける酒蔵のように感じられたからです。

そこで「梅乃宿」の女性社長吉田佳代さんに、いきなりインタビューを申し込みましたが、なんと、たちまち快諾いただき、今回の取材となった次第です。

以下に、吉田社長に取材させていただいたあらま

しを掲載させていただきます。

梅乃宿酒造株式会社は、創業して百二十六年目になると言います。

一般の社会では「ずいぶん古い会社だねぇ」なんてことになるのですが、日本酒の世界では若い会社ということになるそうです。このため「いつも新参者の気持ちでやってきました」と、吉田佳代社長（右の写真）は言われます。

吉田佳代社長

社名の由来をお聞きすると、蔵の向かいの本宅庭に樹齢三百年の梅の古木があり、毎年春になるとその木にウグイスがやってくることから、「梅乃宿」という名前がつけられたと言います。

吉田社長が「お酒って冬にしかできないのはご存じですよね？」と問いかけられました。

「えっ、知りませんでした！」と僕――。

「日本酒は冬に造るものなんです、逆に言うと冬にしか造れないものなんです。」

そこで、後日調べてみると、寒造りとは、最も酒造りに適しているといわれている十二月～翌年二月頃までの寒い季節に酒造りを行うことを言います。

なぜこの季節が酒つくりに向いているかというと、寒いことで雑菌が繁殖しにくい時期であることが第一に上げられるようです。また良いお酒を造るために、低い温度で管理したいことも、寒い冬に造る理由の一つです。

本邸宅にある樹齢 300 年の梅の木

この寒造りは江戸時代に確立されたと言われ、計器類がない時代に杜氏をはじめとする蔵人は、発酵状態によって変わる香りや味、肌に感じる温度変化などを頼りに、とぎ

すまされた感覚によって把握し、複雑な酒造りに対応してきたということらしいのです。

（吉田社長のお話に戻りましょう。）

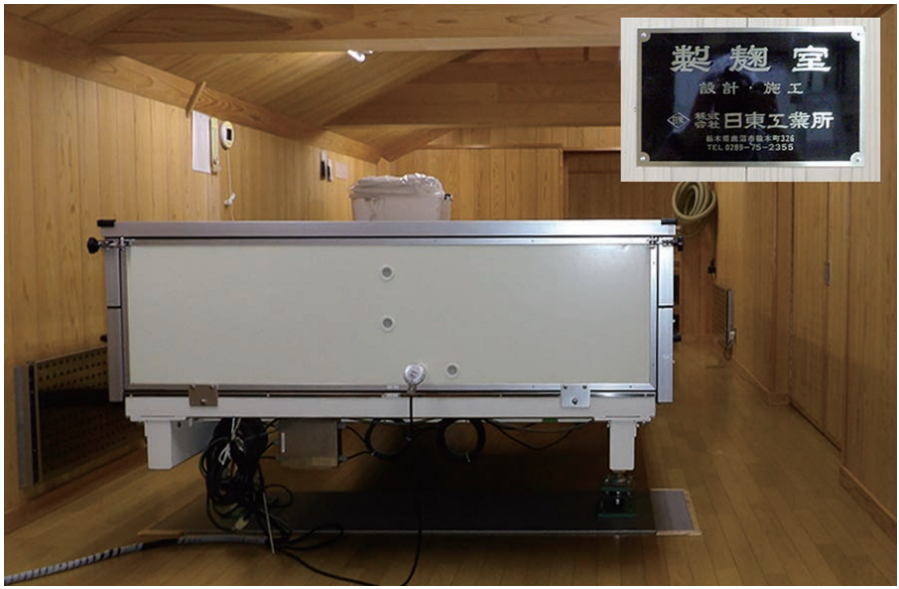
従ってお酒をどんな人たちが造っていたかというと、半年雇用、つまり地方の豪雪地帯のお百姓さんが、冬の間、出稼ぎで住み込んでお酒を造っていたんです。

伝統的な杜氏（酒造りの技術的責任者）は、夏場は自分の村で農業を営んで、秋に刈り入れが終わると、杜氏は自分の村の若い者や、近隣で腕に覚えのある者に声をかけて、その冬のための、いわば酒造りチームを組織します。杜氏は彼らを秋に引率して蔵元へ連れていき、酒造りが終わる春まで、約半年間寝起きをともにして働くことになります。

これが昔から日本酒を造っていた人たちの姿です。

梅乃宿では、かつては但馬杜氏（兵庫県）、二十年ほど前からは南部杜氏（岩手県）が、この酒造りを請け負ってくれていましたが、最近では杜氏の率いる酒造り集団が高齢化し、かといって、これまでの雇用形態では、若い人の参入も難しいという状況になってきました。若い人で専業農家をする人がいないこと、たとえあったとしても、半年間、奥さんや子どもと離れ、他人の家で住み込みで働く、こんな働き方は今の時代に合わないとなってきたのです。こうして酒造りの設備も販路もあるのに、作り手が高齢化でいなくなる、そんな状態になってきました。

今から約二十年前と言いますから、ちょうど二十一世紀に入るか入らない頃になるのでしょうか、冬場の半年雇用では人が集まらないため、この頃から年間雇用に切り替え、地元で人を採用するようにされたと言



お酒にとって良いと思うものは積極的に取り入れる

います。この人たちが、冬場にやってくる杜氏（とうじ）集団の人たちと一緒に働き技術の習得に励むようになった訳ですが、ここで困ったのが、冬場の酒造り以外の期間、余剰労働力をどうするかということです。

そこで思いついたのが「梅酒」なんです。梅の実は、五月、六月、七月に実が採（と）れますので、ちょうど酒造りの閑散期に「梅酒」が造れるということになったわけです。

普通、「梅酒」は焼酎（しょうちゅう）やホワイトリカーで漬けるんですが、酒蔵でやるんだから、同じ造るなら日本酒仕込みで梅酒を造ろうということになったわけです。

最初の年は試しにタンク一本分を造りました。これがあっという間に売れ、翌年は思い切ってタンク二本分を

造りました。これも、またあっという間に売れ、先代が「来年はタンク二〇本分造るんや」とムチャクチャを言い出したそうです。みんなの止める声も聞かず、三年目は「鶴の一声」で、梅の実も購入済みだからとタンク二〇本分の梅酒が造られることになりました。

ちなみにタンク一本分がどれほどの量か、吉田社長に教えていただいたところでは、「梅乃宿」の梅酒タンクでは、タンク一本で梅酒の原酒が七、〇〇〇リットル出来、これを製品にすると、一・八リットル換算で、約六、五〇〇本分になるそうです。

これが二〇本分のタンクとなると、一・八リットルの梅酒が一三〇、〇〇〇本分！となります。

これって素人が見たって、何が何でも無茶苦茶な数字ですよね。

ところがです！この年、全国的に梅酒の大ブームが起こったんです。ほかにも日本酒仕込みで梅酒を作っていたところはあったのですが、急激なブームでどこも在庫がない。梅酒造りは時期が限られており、しかも仕込みの期間が長いため、品切れしてしまうと品切れの期間も長くなってしまう。そんなとき、奈良の「梅乃宿」が大量に梅酒の在庫を持っているというので、一躍（いちやく）「梅乃宿」が注目を集めるようになったと言います。

これに輪をかけたのが、漬け込

んだ後の梅の実の再利用です。何十トンという大量の梅の実を廃棄するのがもったいないと、種を取り、すりつぶして一緒に入れてしまうことを考案しました。こうして「あらごし梅酒」が誕生しました。これが梅酒ブームに乗って更なる大ヒットを生み出したというわけです。

梅酒をはじめた頃は、伝統的な清酒づくりの酒蔵が、家庭でもできる「梅酒」に手を出したというので、蔵仲間からは批判され、バカにもされてきたのですが、今では多くの酒蔵が梅酒造りに参入しているという現状です。

「全国で、どれほどの酒蔵があるかご存じですか？」

またまた吉田社長からの難問が出ました。

予習してこなかったことを後悔して、ガマの脂汗よろしくタラーリタラリ……。

吉田社長から次々と難問が……

私と来た日には適当に答えるにも根拠がないと答えられないという困った性分。

「葛城で六件だから、奈良全体では何件かなあ……」と、しどろもどろのありさま。

見かねた社長が「全国で一、七〇〇軒もあるんですよ。かたやビールは大手四社で造っているんです。最近クラフトビールもありますが、九九・九パーセントぐらいは、この四社で造っているんです」と助け船。

このあと調べたところでは、全国にある酒蔵の数は、新潟の八八件がトップで、奈良は三一件あり、三重と並んで二一番目ということになります。

では社長の話に戻りましょう。

「次に日本国内のアルコール消費量を一〇〇とした

ら、だいたい六〜七割がビール。これをほぼ四社で作っている。これに比べお酒は、日本の国酒と言われているんですが、七パーセントを切って六・数パーセントとしか飲まれていないんです。それなのに日本の酒蔵はいまだに一、七〇〇件あるんです。これも少なくなっての数字で、最盛期の江戸時代には一万件を超えていたんです。これから酒蔵の数はまだ減っていくでしょうが……。

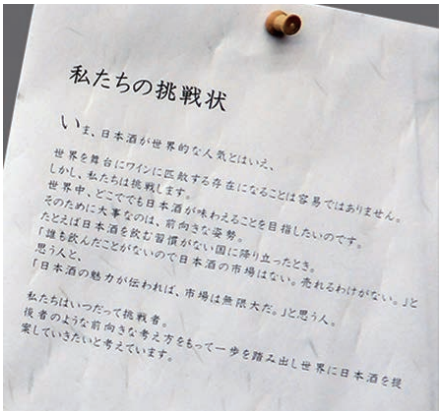
　では、これから日本酒は伸びるのかというと、日本の人口は減少傾向で、文化レベルが上がれば上がるほど一人ひとりのアルコールを飲む量が減っていくという傾向にある。そこへ飲まれるアルコールの種類が増え、日本酒を選んでいただくパーセントが減っていく、いわば三重苦という状況の中で、日本国内の日本酒を見たとき伸びる要素は全くないというのが本当のところです。」

　そこで考えられるのが、海外へ日本酒をひろめていくという方向になる訳ですが、これについて吉田社長は次のような話をしてくれました。

「いざ世界に目を向けてみると、和食がユネスコ無形文化遺産に認定されたことで、日本酒にとっては追い風になっています。その中で私たちは輸出に力を注いでおり、今、全体の売り上げの二割ぐらいが海外への輸出になっている

んです。多いのは、香港、台湾、中国、アメリカで、ほぼこの四つのエリアで輸出の八割ぐらいを占めています。実は、この売り上げの二割が輸出で占めているという数字は、大手さんも含め、ほぼベスト5に入るという状態で、梅乃宿が日本酒の輸出という面で大成功していると言えるでしょう。」

右ページの写真は、「新しい酒文化」を世界に拡げていこうとする「梅乃宿」さんの意気込みが感じられるパネル展示ですが、そこに一枚のレポート用紙が貼り付けられてありました。

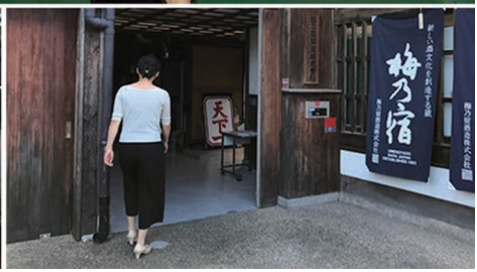


読みにくいと思いますので、その全文を以下に掲げ、このレポートの締めくくりにしたいと思います。

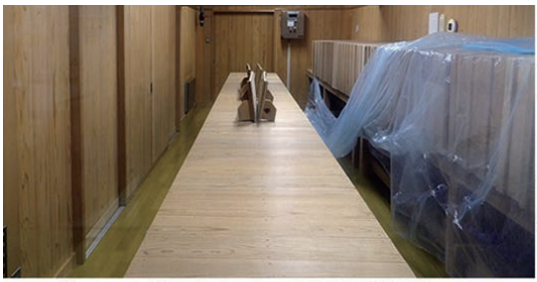
私たちの挑戦状

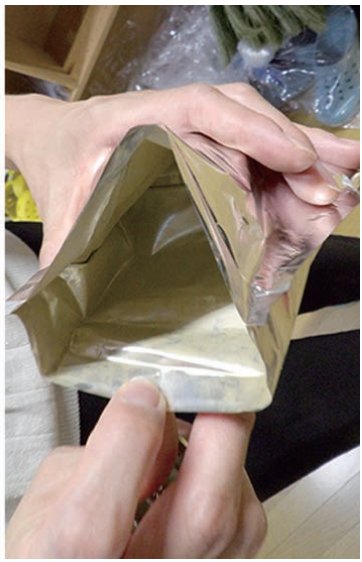
いま、日本酒が世界的な人気とはいえ、世界を舞台にワインに匹敵する存在になることは容易ではありません。
しかし、私たちは挑戦します。
世界中、どこでも日本酒が味わえることを目指したいのです。
そのために大事なのは、前向きな姿勢。
たとえば日本酒を飲む習慣のない国に降り立ったとき、
「誰も飲んだことがないので日本酒の市場はない。売れるわけがない。」と思う人と、
「日本酒の魅力が伝われば、市場は無限大だ。」と思う人。
私たちはいつだって挑戦者。
後者のような前向きな考え方をもって一歩を踏み出し世界に日本酒を提供していきたいと考えています。

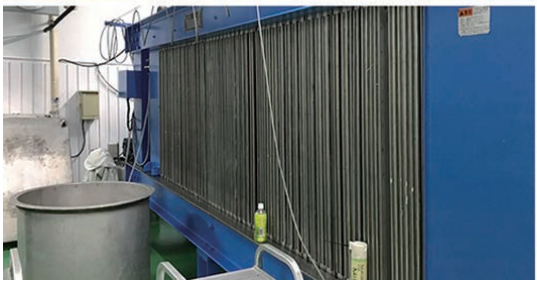
このあと、吉田社長自ら酒蔵を案内していただき、お酒造りの細かな興味深いお話をしていただきましたが、それはまた別の機会とさせていただきます。



写真上／吉田社長自ら酒蔵を案内していただきました。
写真中／奈良漬け　清酒発祥の地は奈良で、酒を造った後の酒粕で漬けたのが奈良漬けというわけ。
写真下／製麹室 (左上) とヤブタ式搾り機 (左下)、右は麹菌です。







二、油長酒造株式会社

奈良の食卓に上がるお酒でありたい！

純米酒「風の森」で有名な油長酒造は、城下町を思わせる御所市の町中にひっそりと静かにたたずんでいました。その噂はよく聞いていましたが、それまでそのお酒に出会うチャンスがなかったので、未知との出会いにワクワク感を抱えての訪問となりました。

前述の梅乃宿酒造の吉田社長のお話にもありましたように、現在、日本酒の消費量はアルコール飲料全体の七パーセントくらいしかなく、それを全国一七〇〇軒位の酒蔵でまかなっているというお話について、油長酒造の山本嘉彦社長のお考えを聞いてみました。

山本社長は、「日本酒は伝統産業でありながら飲んで美味しいものなので、次から次へと消費さえしてくれたら 割合に継続できる商売だ」とおっしゃいます。日本国内だけみていれば、どうしても人口は減っていくのでキャパは小さくなっていく。とは言うものの、七パーセントの人しか日本酒を飲んでいないわけですから 残り九三パーセントの人は日本酒の魅力を知らないということになります。

「知らない人に知っていただくというのが、私は一番かなと思います。」

気持ちがシャキッとするような逆転の発想です。

そして、熱く語られます。

「僕は奈良県民の食卓に「風の森」というお酒がスッと上がるような時代を作りたいと思います。ロンドンやパリで飲んでいただいてもありがたいんです。が、それより、おじいちゃんやお父さんが『美味しい美味しい』って飲んでいたら、子供も孫もいつか飲んでみたいなぁと思える飲み物になるんじゃないか、そうなったら日本酒も長続きするんじゃないかなあって思いますね。」

油長酒造株式会社　山本嘉彦社長

お聞きしていて、時間をかけて「風の森」の居場所が出来あがっていくんだと感じました。アットホームな家族の光景まで見えてきます。

「風の森」は特徴だらけです！

油長酒造では、従来の杜氏（とうじ）と呼ばれるような季節雇用の職人さんは一人もおらず、九人の社員さんで営（いとな）んでおられます。お酒を造りたいと熱意に溢（あふ）れたスタッフと自分たちの造りたい酒を設計して、それを市場に「美味しいでしょ」と訴える形になっているそうです。

酒造りを「設計」という言葉で話されるところは、さすが微生物学を学ばれた理系の方です。

「風の森」の特徴をお聞きしましたら、「そらもう、特徴だらけです！」と自信に満ちたお言葉に、またまたこのお酒に興味が湧（わ）いてきます。

「何に特化しているかというと、『無濾過、無加水、生酒』です。要は、搾りたてそのままの味わいをお客様に楽しんで味わっていただけるお酒です。

普通のお酒は五〇〇年も前の室町時代から火入れ（加熱処理）されているそうです。

それをすることで品質を安定させて、流通を容易にし江戸時代には上方で造ったお酒を下り酒として出荷されていったようです。

それが今の時代、いろんな技術や方法が研究開発され、昔では飲めなかったような生き生きとした搾りたてのすごく立体感のある味わいに仕上がるという訳です。

「父が二十年くらい前に「風の森」という銘柄をスタートさせてから、年間を通して安定的に出荷していく技術をずっと磨いてきているわけです。そこがこのお酒の一番大きな違いかと思います。

油長酒造株式会社外観

蔵元と酒屋さんは小さいコミュニティです

お話を聞いていて今すぐにでも飲んでみたいという気持ちになります。

「風の森」は、この蔵から直接クール便で届けている油長酒造のパートナーの酒屋さんで買えるとお聞きしました。この蔵のお酒を一所懸命に売りたいという強い気持ちで商売されている、全国で七〇軒くらいの酒屋さんで安心した接客を受けることができるようです。

「僕らは自分たちが造りたい

お酒に極力近付けていく。その思いを酒屋さんに伝える。酒屋さんはその酒を説明して、そのものの味をお客様に伝えてファンを作っていただく。僕の感覚でいうと、営業は酒屋さんの仕事です。」

造り手の思いも伝えやすいということなんですね。

「僕らの販路は小さいもんです。その代わりに太いです。私たち蔵元と酒屋さんは小さなコミュニティです。お互いがなくては商売が大変なんです。」

今までにあまりなかった、この造り手と売り手の関係は、とても新しいですが、商品に思いを込めて造る売るという私ちたが忘れかけていた商売の形のように思えます。

「無濾過、無加水、生酒」という変わった形のものだから、きちっと品質を確立して高いものにし酒屋さんに頑張って売っていただく。そういう関係でないと戦えないとおっしゃいます。

「風の森」ネーミングの秘密

「ところで蔵のなかの写真を撮らせていただけますか？」とお聞きしたところ

「設備とか造っている人間よりも、その土地の歴史であったり、田んぼがある風景であったりと、このお酒の背景を感じて飲んでいただきたいのです。」

そこには、「風の森」というネーミングの秘密がありました。

お父さまが二十年前に当時「無濾過（むろか）、無加水（むかすい）、生酒（なまざけ）」というような蔵人（くらびと）しか飲んでいないお酒を商品化して出すということになった時に、まず、奈良県の人に飲んでいただこうと思われたそうです。

そして、「秋津穂（あきつほ）」という奈良で広く作られていたお米を使っていこうとなったのです。

御所市の最南端「風の森」　秋津穂の圃場

特に御所市の最南端にある風の森峠のあたりの圃場がすごく綺麗で、そこのお米と土地の名前もいただいて「風の森」というお酒が誕生したわけです。

奈良の地図を広げられ、さらにこの峠のお話は続きます。

「奈良盆地の地形上、風が吹いたら全部この峠に集まってくるんですよ。そこは風の通り道で、いつ行っても風がピューピュー吹いているんです。二〇〇〇年以上も前の話ですけど、昔の人はそこに風の神さんがいると思いになられたわけです。その横に『風の森神社』ってのがあります。古事記にもありますがシナツヒコという神さまを祀った神社です。ほんまに、ええところですわ。」

金剛・葛城山が真近に仰げる自然豊かな土地（風の通り道）で育ったお米。そのお米（秋津穂）で造られたお酒のイメージは、ますます膨らんでいきます。

自ら案内を買って出てくれた山本社長

食用のお米でお酒造り

「秋津穂」というお米は本来食用のお米で、お酒造り専用のお米ではないのです。その点にもこのお酒造りへの意欲というかこの蔵の方々のチャレンジ精神を感じてしまいます。

山田錦や雄町などのお酒造り専用のお米と「秋津穂」という食用のお米の違いは、デンプンの組織にあるそうです。醪（酒母、麹、蒸米、仕込み水を入れて発酵させたドロドロの液体）造りでの溶解性（溶け方）が違ってくるそうです。食用のお米はお酒造り専用のお米に比べて溶解性が低いので、溶解力を高めたパワフルな麹を作る必要があると。そしてじっくり時間をかけて溶かすことで、味のいいお酒にすることができるそうです。

汚く感じたら雑味、ポジティブに捉えたら複雑味

私自身、最近日本酒に興味を持っていて、精米歩合（お米の磨き方）によって味が違うことは知っていました。

世間では、今、たくさんお米を削ってできたフルーティーで香りの良いお酒に人気が集まっています。

ところが、油長酒造さんには精米歩合八〇（あまり削らずに八〇パーセントのお米を使うこと）のお酒があるのです。このことに関し、山本社長は、

「そもそも磨けば美味しいというルールは全くないわけです。磨けば原料が高くなり、米粉が増えるだけです。お米本来のポテンシャルとかフィーリングとかその個性をお客様に感じてい

ただこうとすると、磨きをどこまでやらないかという勝負もあるわけです。」

日本酒に対する常識を覆され、小気味良さを感じます。

お酒を口に入れてスムースでスッキリしたものも美味しいのですが、そこにちょっとした酸味や渋みやえぐ味というようなものと旨みや甘味の部分とのシーソーみたいなバランスが成立すれば美味しい物だと断言されます。

「日本酒の業界は雑味を取り除くために磨くとおっしゃいます。汚く感じたら雑味ですが、ポジティブに捉えたら複雑味です。僕は、複雑味や奥行きのあるお酒が好きなんです。」

「風の森」はお父さまの時代からずっと、磨かないお米でいかに美味しいお酒を造るか、その試行錯誤の時間だったようです。

「磨かなくてもお米は喜んでいますよ。それが美味しいとなったら、原価も安くお客さんにも買っていただけるということです。」

味の変化を前提としたお酒造り

お米への愛まで伺って私はもう取材者の気分でなく、ただの呑兵衛に成り代わりそうでした。

「ところで生酒は開けたらどの位もちますか？」

「一般的な生酒は美味しい飲み頃の期間が短いと言われています。ですが、私は開けて二～三週間、冷蔵庫で出し入れしながら飲んでいます。その間に味の変化があるというところが、この生酒の一番

面白いところです。変化を前提としたお酒造りですと社長。

絞ってそのままのお酒を瓶詰めされているので、開けた時は発酵時の炭酸ガスなどが少し混ざっていてシュワっとしたフィーリングも感じられるそうです。でも三〜四日たったら炭酸ガスは無くなり、酵母が作り出した酸味と渋みやお米が溶けたことによる甘味や旨味が舌でしっかりと捉えられるようになるということです。

また、加熱していないということは、お酒の中に酵素が残存しているということ。

「口の中でご飯を一〇〇回噛んだら甘くなりますよね。それと同じものがお酒の中に浮遊しているんです。てっことは、お酒もちょっとずつちょっとずつ旨味が増していくんです。そして底たまりになると、まるで美味しいお酒のエキスみたいに濃縮されたようなリッチな部分を味わっていただけるのです。」

生酒でありながら、時間をかけてそれぞれの飲み時・飲み頃の味わいを楽しむ。それが「風の森」を味わう醍醐味なんですね。

「お酒を生花に例えると、硬い蕾を極力キープするように冷蔵管理するのです。そして、パートナーのみなさんと協力しながら、ちょっと花びらが見え始めたかなぁというくらいでお客様に飲んでいただき、最後に咲き乱れて枯れるところまで楽しめるように設計しているわけです。

私たちが提供するお酒の九割以上が生酒という、こんなメーカー日本中どこにもないと思います。』

本当にそう思います。奈良への郷土

愛や、そこでの人々との生業を大切にされながら、これからもこの蔵のドラマは続いていきます。これから先の物語りの展開がとても楽しみになります。

（朝日江美）

三、奈良こそ清酒誕生の地!!

以上は、大阪でお酒の販売に携わるゲストレポーター朝日江美さんの純米酒「風の森」に関するレポートでした。これからは歴史部門を担当する桐生がバトンタッチし、やはり油長酒造の山本社長からお伺いした「清酒誕生」にまつわる貴重なエピソードを紹介させていただきます。

従来、清酒の誕生は、山中鹿之助の長男鴻池新六が奉公人の恨みを買い、濁り酒の樽に灰を投げ込まれ、それが逆に「双白澄酒（清酒）」を生みだすきっかけになったというお話が一般に流布しておりました。

天正年間（1570）菩提山正暦寺全図
オレンジのマーキングされた箇所が現存する福寿院

これが十七世紀に入ってすぐの頃、伊丹の鴻池村でのお話です。

ところが、清酒の誕生はもっと古く、室町の頃と言いますから、十五世紀から十六世紀にかけて、しかも個人的なお話ではなく、もっとスケールの大きなお話となってきます。

奈良市の南に菩提山正暦寺という寺院があります。

86 坊の僧坊中、唯一残された福寿院

今では福寿院のみが残っておりますが、最盛時は八六坊の僧房が菩提仙川の渓流を挟んで立ち並ぶ一大宗教都市として、その威容を誇っておりました。

正暦寺という名前も、一条天皇の治世、正暦三年（九九二年）に勅願寺として創建されたためであり、興福寺、春日大社とともに、藤原氏ゆかりの寺社として、平安の都・京都の後背を守り続けてきたのです。

しかし、宗教都市と言っても、お経ばかり上げているわけではありません。むしろ今の総合大学といった感が強く、全国から選りすぐられた学僧たちが勉学のために集まる学園都市でもあったわけです。

この正暦寺で清酒は生まれたのです。

膨大な僧侶や学僧たち、はたまた藤原氏の子弟といった貴族僧たち、これらを養う経済力が必要です。

一条天皇の勅願寺、しかも権勢を誇る藤原氏の息のかかった寺院ですから、四〇〇年の平安の時代は、

中央の支援を受けて、何を案ずることもありませんでした。

ところが室町期を迎え、幕府の力や天皇の権威が弱まっていくなかで、いわゆる「下剋上」の時代を迎えると、中央に金が集まってこなくなります。

地方に豪族が割拠し、年貢は彼らのもとにとどまり、その豪族同士が領地を巡って争うという戦国時代へと入っていくのです。

正暦寺の経済を支えるため、「僧坊酒」という寺院で造られていたお酒に注目が集まります。

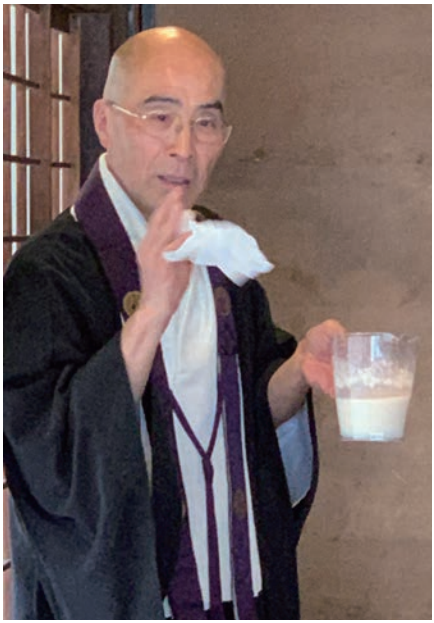
しかし、当時のお酒は白濁酒、いわゆる「どぶろく」で、生きものですから、日持ちもせず、商圏も狭く、せいぜい歩いて売れる範囲にとどまります。

そこで開発されたのが「清酒」というわけです。

よく透明な酒が「清酒」と思われる方がおられますが、「どぶろく」でも濾せば透明になるわけで、造り方自体が違うのです。しぼりと言って醪から、発酵する酵母を酒と酒粕に分け、次にしぼった酒を火入れして「清酒」はつくられます。こうしてつくり出された清酒は日持ちするため、商圏が一気に拡大されることになったのです。

そこへもってきて桶づくりに大きな技術革新がおこりました。酒づくりが瓶から、潤沢な木材資源を利用した木桶に取って代わられ、さらに技術革新によって、より大きな仕込み桶がつくられるようになったのです。

『多聞院日記』には天正十（一五八二）年正月三日



正暦寺で開発された菩提酛という技法による酒母づくりについて説明される大原弘信住職

の条に、「若い女性が誤って十石入りの仕込桶に落ちて死んでしまった」という記事があります。これによって奈良では、すでに仕込み桶の大型化と酒の大量生産が始まっていたことが推測されます。

清酒づくりと、その販路の拡大で息を吹き返した正暦寺でしたが、織田、豊臣、徳川と続く天下統一の過程の中で、次第にその力を失っていくことになります。

宗教勢力を断ち切って政権を安定させたいと願う為政者たちにとって、単独寺院ならまだしも「宗教都市」という一大勢力は見逃しがたい存在でした。このため、徳川幕府が天下統一を果たすや、菩提山正暦寺は知行が削減され干殺し状態に追い込まれていくのです。

福寿院では、よみがえった菩提酛清酒が販売されている。

平安時代から六〇〇年、権勢を誇った正暦寺も、その力をそがれ、「僧坊酒」もなくなり、酒づくりの技術は民間へと流れていくことになります。

これと時を同じくして、「鴻池」の清酒づくり伝説が流布されるようになってきたのです。これを、正暦寺の「僧坊酒」の技術が、伊丹へ流れていった「証」と考えるのは、編者のうがった見方でしょうか？

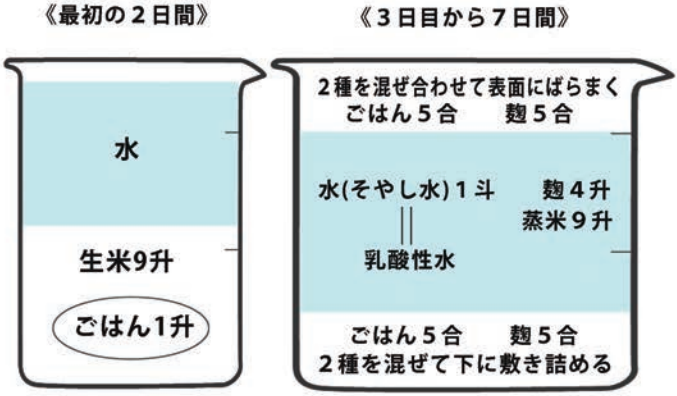
梅乃宿酒造株式会社
奈良県葛城市東室二一〇
TEL 0120-713-550

油長酒造株式会社
奈良県御所市一一六〇
TEL 0745-62-2047

菩提山正暦寺・福寿院
奈良市菩提山町一五七
TEL 0742-62-9569

1.『御酒日記』に記された菩提泉の造り方

時期は夏（立秋の頃から造る）

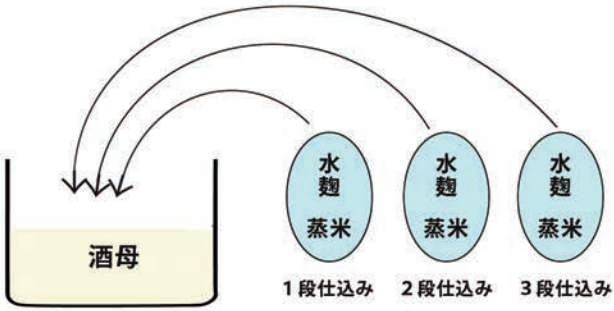


菩提泉の仕込み配合

ごはん	１斗（40%）
麹	５合（20%）
水	１斗（40%）

2．清酒造りの基本は酒母造り

酒母を１ｔ造れば13ｔの均質の清酒を醸造することができる
（酒母米は総米の７％を基準とする）



上記のような仕込みを酘方式の仕込み（段仕込み）という

御所のお薬　三光丸クスリ資料館

一、配置薬と明治維新

置き薬、今では配置薬といわれますが、団塊世代の人間にとってさえ、それは懐かしい思い出になってしまいました。私たちが子どもの頃には、定期的にやってきては薬箱や薬袋の中味を点検・交換し、紙風船などのお土産をもってきてくれる薬売りのおじさんがいました。

小さな頃は、着物を尻からげにし柳行李を背負っていたと思いましたが、長じるに従って、訪ねてくる姿は、いつしか　　姿に変わっていき、そして薬というと、今では薬局やドラッグストアで買うものだとなってしまいました。

昭和 10 年頃の子供用販促品（クスリ資料館）

とはいえ、この配置薬のシステムは今も健在で、地方ではちゃんと機能しているところも多いといいます。夜間の急な腹痛や発熱にはとても便利だし、お年寄りには話し相手になったり、安否確認にも役立つという、とても便利なシステムです。

しかし、明治以来、何

柳行李

でもかんでも近代化の名の下に切り捨てられる風潮となり、この配置薬のシステムも、明治新政府は目の敵にしたようです。

先人の経験を経て培われてきた生薬や漢方薬の知識を、西洋医学の観点からしか見ようとせず、売薬の類いは、検証を伴わない迷信であり「無効有害」であると、配置薬に重税をかけ、これを淘汰しようとしたのです。これに対抗し、伝統的な売薬業者は、富山や奈良を中心に独特な組織体制をつくり、「先用後利」「個別販売」といった経営理念で、今日まで生き残ってきました。

二、反魂丹と三光丸

ところで売薬や置き薬というと、すぐに思いつくのが「越中富山の薬売り」となってきます。江戸時代初期、加賀藩から分かれた富山藩は、生産性の低い領地のため財政を維持するのが一苦労。そこに登場するのが、二代目藩主の前田正甫公。この殿様、大の薬好きで、自ら合薬の研究を始めるほど。こうして生まれたのが「越中富山の反魂丹」。

この反魂丹が、江戸城で急な腹痛を催した三春藩のお殿様に服用され「効き目は抜群」ということで、この成果によって富山の薬が全国展開するきっかけとなります。それというのも、前田の殿様、この期を逃さず、富山の薬売りが、領地から出て全国どこでも商売ができる「他領商売勝手」を発布し、次いで、城下での製薬店や薬種業者の自主的な商売を保護し、売薬を奨励したのです。

こうして富山藩は、他に先駆け、

三光丸クスリ資料館

黄柏（三光丸クスリ資料館）

全国的かつ組織的な売薬システムを確立していったのです。

これを追いかけるようにして登場したのが、大和売薬です。ただ歴史的には、大和売薬のほうがずいぶん古いということになります。大和売薬の中心にあるのが、「三光丸」ですが、一四世紀初めには、その前身である「紫微垣丸」がすでにつくられていました。この後、一四世紀中葉には、後醍醐天皇から「三光丸」の名を賜り、名門「越智氏」の中で「米田家」が「三光丸」を継承していくことになるのです。

では三光丸は何に効くのかというと、「大人小児はらのいたみ、胃病　しゃく　りういん、食あたり、はきくだしによし」と効能書きにあります。「はらのいたみ」は腹痛、「しゃく（癪）」とは、胸や腹が急に痙攣を起こして痛むこと、「りういん（溜飲）」とは、酸性の胃液がのどに上がってくること、「はきくだし」は嘔吐と下痢ということですから基本的に胃腸薬ということになります。

越中富山の「反魂丹」もそうですし、役小角（役行者）がつくったという「陀羅尼助」、そして「三光丸」と、いずれも黄柏やせんぶり等の薬草を主成分としてつくられた胃腸薬ということになります。

なかでも「陀羅尼助」は和薬の元祖といわれており、その主成分である黄柏利用の歴史は古く、縄文時代の住居跡から発掘され、考古学上、最古の生薬とされているのです。

富山の売薬が、全国から薬を仕入れて販売していたのに対し、三光丸を中心とする大和売薬は、「薬の歴史は奈良の歴史」と言われるように、古代から、仏教、山岳修験道とともに発展し、いわば製造直売

と言ったところです。

三、和薬の原点「陀羅尼助」

それにしても和薬の名前というのは不思議な名前が多く、富山の「反魂丹」などは、その筆頭です。意味的には「死者の魂をよみがえらせる」というのですから、今なら誇大広告と言われても仕方のない話です。

「陀羅尼助」、これも奇妙な言葉の響きですが、意味からいうと実にまっとうなものです。「陀羅尼」とは、仏教において用いられる呪文の一種です。つまり、この部分だけは意味を訳さず、サンスクリットでそのまま唱えるもの、これを「ダーラーニー」というのですが、無念無想の境地に入るために唱えられるものです。

もし、これに「意味」があれば、返ってその意味に捉えられてしまいます。そこで意味のない梵語を唱えることで、無念無想の境地に入っていこうというものです。しかし、このような形は、ともすれば眠りを誘うこともあるわけです。意味のないことをつぶやきながら瞑想するわけですから、眠くなるのは当たり前ですよね。そんな時、この薬を口に含み、その強い苦みにより眠気を妨げようとしたのです。

つまり陀羅尼を唱えながらの瞑想を助けるから「陀羅尼助」という名前が起こったわけです。

ただ、クスリそのものは、先にも述べましたように、

吉野金峯山寺の役小角像

山岳修験道の祖と言われる「役小角」がはじめてつくり、病に苦しむ人々を救ったと言われています。

和薬の出発点は、実に、この「陀羅尼助」にあると言われ、ここから様々な和薬が派生していくことになるのです。

四、和薬 vs 漢方

ところが、途中八世紀になって、修験者の合薬や造薬が禁止されるという事態が発生しました。この背景には、国家仏教と山岳修験道との間に対立があったのかも知れません。

このころ、海外から疫病が持ち込まれ、これに対して国は、仏教とともに伝わった舶来の最新医薬（漢方）で対処しようとしました。ところが、修験者たちのつくる和薬の方が、庶民には馴染みがあって、しかも、すぐ手に入るし安上がりです。

手の届かない高価な漢方薬より、修験者様から、ありがたいお経とともにいただける和薬のほうが、庶民にとっては魅力的だったのです。

それともう一つ大きな理由が、修験者のような私度僧を取り締まるという意味もあったのだと思います。苦役や重税を逃れようと、国の認定を受けず勝手に山野に逃げ込み「僧」を名乗る者を優婆塞といいますが、修験者のような優婆塞が増えれば国家の礎がなりたたなくなります。要は、そんな修験者の

復元された遣唐使船／遣唐使船は、大陸や半島の文物を運んでくるだけでなく、天然痘など疫病をも運んで来ることとなった。

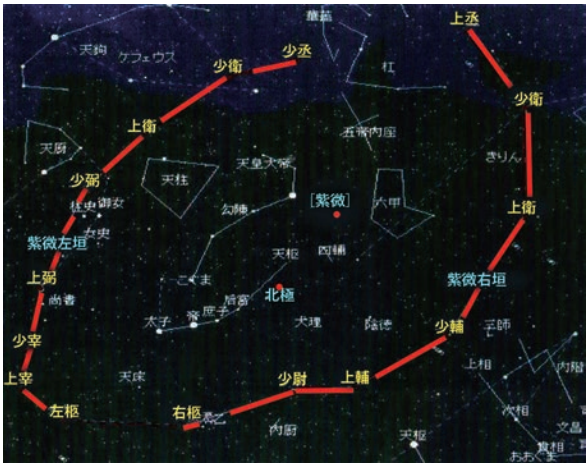
経済的背景を絶つ必要があったのだと思います。

そこで、「あんな民間療法は迷信で効くはずがない」と、国家が出したのが、「修験者による合薬・造薬禁止令」だったのではないでしょうか。

これと似たことが、明治になってからも起こってきます。明治新政府は、最新の西洋医学を奨励し、和漢の生薬を根拠のない民間治療薬として過大な税をかけることで迫害するようになったのです。

ともあれ、八世紀初頭に発せられたこの禁止令以後、生薬の祖とも言われる黄柏エキス薬は歴史の表舞台にはあまり顔を出さなくなりました。

そして十三世紀中葉、奈良西大寺において、漢方を主とした「豊心丹」がつくられ、以来、各寺院で、こぞって薬がつくられるようになりました。これが「大和売薬」のはじまりとなっていくのです。



北極星と紫微をとりかこむ「紫微垣」の星々

五、紫微垣丸から三光丸へ

こうして、大和売薬の花形選手「三光丸」の登場となるわけです。これは「陀羅尼助」と同じ胃腸薬なのですが、「黄柏」や「センブリ」など日本原産の生薬以上に「ケイヒ」や「カンゾウ」等の漢方の生薬が主成分となっているのです。

つまり、和薬と漢方が対立するのでなく、融合調和して生み出された胃腸薬というわけです。

うがった見方ですが、そこには「三光丸」の命名に関するお

話も関係しているように思うのです。

でも、まずは「三光丸」の命名の由来に入る前に、その前身である「紫微垣丸」について勉強しておきましょう。

三光丸クスリ資料館から出されている「クスリ資料館だより」によりますと、「紫微垣」というのは、星座の名前だと言います。

「北の空には、北極星を中心として垣根のように取り囲む十五個の星があり、古代中国の占星学では、この星座を紫微垣と呼んだ」というのです。（クスリ資料館「三光丸今昔物語」）

三光丸クスリ資料館・浅見潤館長

「紫微」とは天帝を指す言葉ですから、これはまた雄大なネーミングと言えましょう。

さて、この薬を生み出したのは先にも紹介した大和の名族「越智氏」。当時、大和の豪族は、その多くが興福寺の下にあってその荘園管理を任された武士団でした。越智氏もまたしかりで、興福寺の下にあって、「越智党」あるいは「散在党」と呼ばれる強大な武士団を形成しておりました。

その興福寺の中に「多聞院」という子院があります。ここは薬を専門に処方するところでもあって、この興福寺・多聞院での薬の製法が、越智氏の一族である米田氏に伝わったのではないかと言われています。

米田氏は、越智一党と興福寺や春日大社を仲介する役割を果たしていたようなのです。

こうして、「三光丸」の前身である「紫微垣丸」が生まれ、「三光丸」へと発展していったのです。

六、三光思想と三光丸

この「三光丸」の命名については、後醍醐天皇が

吉野に移られた頃、この薬を試され、その効験に感じ入って、以後「三光丸と名乗るべし」と詔された のだと言います。

これについては、次のような壮大な話が、「三光丸クスリ資料館だより」に掲載されていますので、その一部を紹介させていただきます。

「ところが、一昨年のこと、資料館に寄せられた一通の手紙が、この問題（三光丸の命名）に一筋の光明を投げかけてくれることになった。

それは、東京大学史料編纂所で中世史を研究されている黒田智氏からの便りである。

それによれば氏は、中世の「三光思想」を研究されており、史料をたどるうちに、三光丸にたどりついたというのである。

早速、当館が所有する関連資料をピックアップしてお送りした。後に届いた氏からの礼状によれば、「三光思想」とは日・月・星をもって天皇の権威を象徴する思想であり、三種の神器と三光を関連付けた考えもあるという。すなわち鏡を日（太陽）にたとえ、玉を月の精、そして剣が星の気で表すことができるというのである。この思想は中世において、特に後醍醐天皇周辺で話題となっていたらしいということであった。

詳細は氏の研究を待たねばならないが、いずれにせよ、三光丸命名の真相に向かって大きな一歩を踏み出したことは間違いないであろう。」

後醍醐天皇が、なぜ「三光思想」をクスリの名前に当てはめたのか、その辺のところは「謎」でしかありません。ただ、「三光丸」の前身「紫微垣丸」にしても「天帝思想」が反映しており、「三光丸」の命名は、「反魂丹」や「陀羅尼助」の命名とは次元の違う何か、たとえば後醍醐天皇の悲願が反映した命名、そんなことさえ感じさせてしまいます。

時は南北朝時代、都は南北に分かれ、後醍醐天皇は吉野に逃れ南朝を興しました。その背景には、後醍醐天皇が、寺院勢力や新興豪族勢力を味方に付けようとしたばかりか、修験道や山の民の隠然とした力にも期待していた節が見られます。

三光丸の誕生は、役小角からはじまる生薬づくりに、仏教導入に伴う漢方の思想や生薬が合わさって生まれたと思うのです。

それは取りも直さず、大和の豪族勢力、さらに山の民の勢力が、後醍醐天皇への合力を約束した、その結果として、つまり、

日＝後醍醐天皇
月＝南都の寺社勢力
星＝大和の豪族や山の民の勢力

これら三つの力が大同団結した、その象徴として命名された、そんな気がしてなりません。

以下のエピソードは、いかにも象徴的です。

「お体の具合を損ねられた後醍醐帝に、一族の秘伝薬として紫微垣を献上したところ、瞬く間に快癒された。その効験に驚かれた帝は、日（太陽）、月、星（金星）の神が与え給うた秘薬であると称えられ、以後「三光丸」と名乗るようにと詔された」と言うのです。

以上、三光丸クスリ資料館を訪問して感じたことを、思うままに書き綴ってみました。ここに掲げたのは、まさに何の根拠もない、取材者が、ただそう感じただけのお話です。

素人考えと、お聞き流しください。

靴下の町　広陵町

一、広陵町は靴下の町！

広陵町は「靴下の町」「日本一古墳の多い町」を売り物にしています。町の至る所に「靴下の町・日本一古墳の多い町、広陵町へようこそ」の看板が出ています。「日本一古墳が多い」――この点については、実際には問題がありますが、雰囲気的にはなんとなく納得できそうです。でも、どうして奈良の広陵町が靴下の町なのでしょうか？

またぞろ物好きの虫に火がつき、調べてみることにしました。

日本靴下組合連合会が調べたところでは、全国で一年間に作られるソックス（短靴下）の約五割が奈良県産で、その大半を、広陵町、大和高田市、香芝市で占めていると言われています。

なぜでしょうか？

靴下のことを調べていて、もう一つ気付いたことがあります。靴下に関しての出版物が一冊もないということです。履き物、衣服、着物については、結構な数の出版物が出され

ているのに、靴下の歴史や文化について書かれたものは、ほとんどないのです。

確かに、他人から「どんな靴下はいているの？」と尋ねられて、即座に答えられる人は少ないでようです。靴下がいかに顧みられていないかの証ではないでしょうか。

となれば、よりによって靴下のことを本にする人なんていませんよネ。

ところが、なんと我が町・広陵町靴下組合から、詳細な靴下の歴史を扱った本が発刊されていたのです。題して「広陵町の靴下百年史」、ほかにも同じく靴下型をしたかわいいパンフレットまで出されていました。

ということで、これら資料を参考に、我が町広陵町の靴下についてリサーチしてみることにしました。

メリヤスカバーに入った「広陵町の靴下百年史」

パンフ「靴下の豆知識　広陵靴下 100 年」

二、奈良県が消えた！

広陵町は「竹取物語」の舞台となったところ、四国の讃岐氏がここに移住し、朝廷に「竹」を納めていたと言われています。それだけに、「竹炭」とか竹製品日本一というなら分かるのですが、「靴下がなぜ？」そう思うのは私だけでしょうか。

広陵町は経済基盤が脆弱です。広陵町どころか、奈良県自体、経済基盤が脆弱だと判断され、明治の御代には、「奈良県」という存在がなくなった時期があります。「県」という行政区分は、ご存知のように江戸末期から明治にかけての「廃藩置県」で生まれました。実際に「奈良県」が誕生したのは、廃藩置県の三年前、一八六八（慶応四）年のことだといいます。ところが出来てすぐに「奈良府」と改称され、翌年にまた「奈良県」に戻りました。その後、旧大和国内に十五の県が乱立しましたが、三年後の一八七一年に、それらは奈良県に統合され、今の「奈良県」に近いかたちが出来上がったのです。

ところがです。この五年後の一八七六（明治九）年、奈良県は隣県の「堺県」に併合され、奈良という地名が消滅することとなりました。奈良一県では財政基盤が脆弱で「県」として成り立たないというのです。こうして「堺県」は、河内・和泉・大和の三国を管轄する巨大県となりました。このため行政事務がすべて堺に移り、奈良は火の消えたようになってしまいました。火が消えただけならいいのですが、事務手続きの多くが、奈良で処理できず、奈良住民は何かというと堺へ出向かなければならなくなりました。

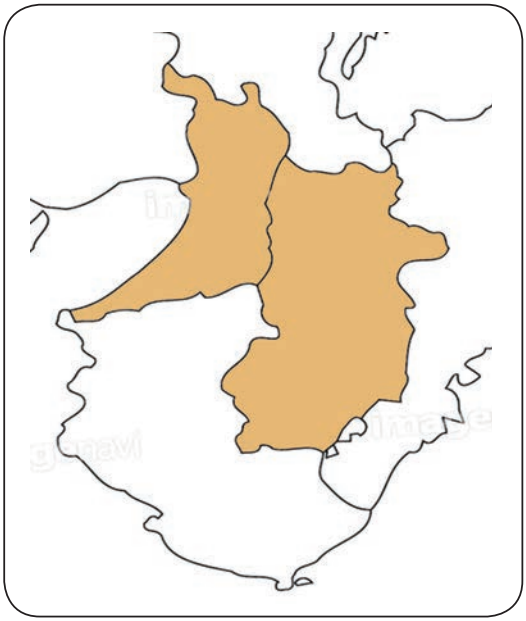
本願寺堺別院に残る堺県庁跡の碑

現代でさえ、奈良から堺へ行くのは不便だというのに、交通未発達の時代では、泊まりがけでないと用が足せないという有様です。

「堺へ出向くということは、多額な出費を伴い、住民の生活を圧迫する」と、一時、県庁を近くに移動

する案や、「堺県」からの分県も検討はされたのですが、これも実現されないまま、一八八一年、今度は「堺県」自体が「大阪府」に併合されてしまいました。

今回の併合は、悪化している「大阪府」の財政救済が狙いだといいますから、奈良住民の不満はおさまりません。かくして奈良住民は再三上京し、「奈良県」再設置の請願運動が繰り広げられました。この頃、東京の町は幕末に結ばれた不平等条約の改正案をめぐる反政府運動が盛んで、上京委員は反政府運動と同じでないことを、まず証明しなくてはならなかったということです。



奈良・堺を併合した大阪府が誕生

しかし、そんな苦労も甲斐なく、むなしく年月が過ぎ、大阪府からの独立が認められたのは、「堺県」に併合されてから十年後の一八八六（明治二〇）年のことだといいます。

三、人間はいつ靴下を履いたのか？

まあ、そんなわけで親分の奈良県がこんな状態ですから、広陵町は、それに輪をかけて財政基盤は脆弱だったわけです。一九一〇年頃と言いますから、明治四三年になりますが、広陵町の吉井泰治郎という方が、広陵町にも産業を興し財政基盤をしっかりさせようと、アメリカから靴下編機を導入したのです。

では靴下編機というのはいつごろ作られたのかということになりますが、その前に、いったい人間はいつ頃から靴下を履きだしたのでしょうか。

冒頭に紹介しました「広陵町靴下百年史」をみると、紀元前二、三世紀頃にアラビアの遊牧民が靴下の原型を作ったとされています。

またアパレルメーカー「ナイガイ」さんのホームページでは、四世紀～五世紀にかけてのものと見られる「完全な編物で作られた指付きの子供用の靴下」が、エジプトの墳墓や、アンチーノの町から発掘されたといいます。

いや靴下の歴史としてはもっと古く、今から五三〇〇年前、アルプスのエッソ渓谷氷河で発掘された男性ミイラ（アイスマン）が、靴に柔らかな草を保温用に詰めていたのが靴下のはじまりだという意見もあります。

このほか「広陵町靴下百年史」には、記録に表れた最も古い例として、イギリスのヴィンドランダで発掘されたラテン語の一文を紹介しています。

「ヴィンドランダは、正暦一〇〇年ごろローマ帝国が現在のイギリスであるブリテン島にまで勢力を伸ばしていた時代のローマ軍の砦の跡で、ローマの文化を知る上で重要な遺跡です。一九七三年に発掘された板は、ローマにいる家族からローマ軍兵士へと

イギリスのヴィンドランダ遺跡
http://www.vindolanda.com から転載

宛てられた手紙で、『二組の靴下、二組のサンダル、二組の下着を送りました』とラテン語の草書体で記され、そこに書かれた『undones』がローマ時代の靴下と考えられています。古代ギリシャやローマはその温暖な気候のため、靴下のようなものを履くことはあまり一般的ではありませんでしたが、ヴィンドランダはスコットランドの東海岸に位置し、ローマに比べるとかなり寒冷な気候であったため、靴下を必要としたのでしょう」――と。

これらをまとめてみると、

①アルプスのエッソ渓谷で、発掘された五三〇〇年前のミイラは、靴に柔らかい草を内部にめることで寒さを防いでいた。

②アラブの遊牧民は、紀元前二、三世紀頃には、高温の砂や小石から足を守るため、靴下の文化が発達していた。

③靴下が記録として現れる最初の例は、西暦一〇〇年頃、ローマ軍の遠征先に、兵士の家族が靴下を送ったことがあげられる。

④四、五世紀頃には、エジプトの墳墓から編物で作られた指付きの子供用の靴下が発掘された。

このように、五〇〇〇年前には、靴に詰め物をして寒さを防いでいたのが、紀元前三世紀頃には靴下の利用が見られるようになり、四、五世紀に至っては、指付きの靴下が登場しています。

では、次に、日本ではどのようだったのかを見ていくことにしましょう。

四、日本の靴下の発祥

日本では、靴下の前身ともいえる「襪」が、応神天皇の時代に大陸から入ってきたとされています。

次ページの写真は、平城遷都一三〇〇年祭の時に撮った「衛士の交代」の模様ですが、隊長の足下を

注目してください。沓の中に白い足袋状のものを履いています。これが「襪」です。

平城京の場合、衛士の服装は、「養老衣服令」により、儀式の際に用いられたという黒服に鎧を着けたスタイル。隊長は、六位の武官の朝服で、冠は柔い黒絹製。紐をあごで結んでいます。位襖と呼ばれる衣服は六位相当の深緑色のもの、下に半臂を重ねて白袴をはき、烏油の腰帯をしめて、黒漆の横刀を組紐の緒で吊り木製の笏を持っています。足は白の襪という足袋に烏皮の沓を履くという出で立ち。

さて「広陵町靴下百年史」

によれば、この襪は西暦四〇〇年ごろの古墳時代に大陸から入ってきたといわれ、「古事記」にも襪沓との記載があると言います。さらに「足袋のように先は分かれておらず、また伸び縮みしない布を使った巾着袋のようなもので、そこに足を入れて足首をひもで縛って固定するような履物になっています」と、その形状について記載されています。

この「襪」について、株式会社岡本の庄健二氏が次のように述べています。

1．織物生地を足形に縫製した布の靴下である。

2．用途は現在の靴下と同様に足脚部を覆い保護する役割である。

3．経錦（たてにしき）：漢代に発達した経糸に色糸を用（もち）いて柄（がら）を出す織り方の生地を使用。

4．織物なので生地の伸縮性がなく、足首部をひもで縛って着用する。

5．奈良時代までは、机・いすに座って執務していたため、木靴などの靴とともに着用された。

この後、平安時代に入って、襪（しとうず）は、足趾（そくし）割れ紐付きの「足袋（たび）」へと発展し、室町時代に足袋へと発展していくと言われていますが、高貴な身分の文化が庶民に流れることは考えられず、足袋はまったく別物として生まれたという説もあるようです。

五、編み物としての靴下へ

ところで海外では、十一世紀、イスラム圏（けん）で初めて編み物としての靴下が作られ、それが十字軍の遠征でヨーロッパに伝えられ、十六世紀には、イギリスでウイリアム・リー牧師が靴下編機を発明し、早くも江戸時代初期には、大航海時代の波に乗って、「メリヤス靴下」が日本に将来されることになるのです。

天正遣欧使節の少年たち

日本で発見された最も古いメリヤス靴下は、茨城県の瑞龍寺（ずいりゅうじ）という徳川光圀（とくがわみつくに）の菩提寺の長持ちから発見された七足の長靴下であり、これによって日本で最初にメリヤス靴下を履いたのは水戸の黄門様ということになってきます。しかし、確認されていないだけで、舶来好（はくらいごの）みの織田信長も履いた可能性はありますし、天正遣欧使節も上半身の洋装の肖像しか残されていませんが、もちろん下には靴下をはいていることが容易に想像されます。

それはさておき、以下、靴下編み機の歴史を年表風に見ておきましょう。

一六一〇年　ウイリアム・リーの弟ジェームス・リーがロンドンに靴下の新工場をつくる。

一七六九年　サミュエル・ワイズが手動横編機を機械化。

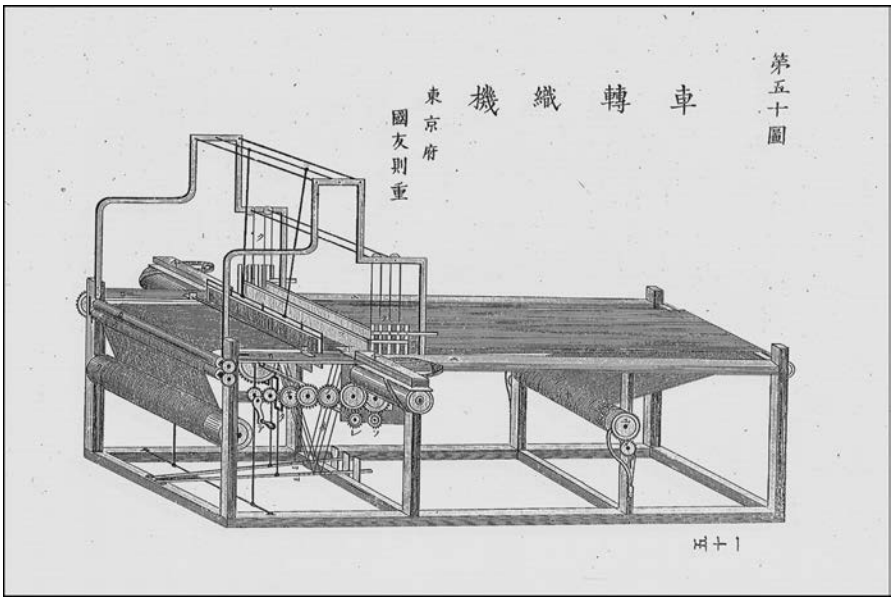
一八四七年　アメリカで、モーズ・メラーによって丸編機が発明される。

一八六三年　同じくアメリカで、アイザック・ウイリアム・ラムが、Vベット型横編機を発明。

一八六八年　日本で初めて佐倉藩の西村勝三によって、アメリカから手回し式靴下編機が輸入されています。

一八七四年　国友鉄砲鍛冶・国友則重によって国産第一号の編機が製造される。

※この国産第一号機については不明ですが、この四年



後の一八七八年、国友則重は「興産社」として内国博覧会に「車転織機」を出品し、最優秀賞を受賞。これは靴下編み機ではありませんが、国友則重によって「織機」が設計されていたという事実自体が知られていなかったことであり、ここに場違いかもしれませんが掲載させていただきました。

日本ニット株式会社に残されている明治初期の手回し編機。国内最古のものと言われ、吉井泰治郎さんがアメリカから輸入したものと同機種ではないかと推測される。(日本ニット㈱様のご厚意により撮影させていただきました。)

こうして一九一〇年頃となって、いよいよ我が広陵町の吉井泰治郎翁が、アメリカより手回し編機を導入することになるわけです。

では、その辺の事情を、「広陵町靴下百年史」から転載させていただきます。

六、大和木綿から靴下へ

広陵町は昭和三十年（一九五五年）に、馬見町と瀬南村、百済村が合併し、箸尾町が編入して成立しました。（中略）古代の律令制による区画では広陵町は大和国広瀬郡に属しています。江戸時代の初めには農家の副業として、大和木綿、大和絣（やまとがすり）を算出していました。

さて、この地で靴下作りを始めたのは北葛城郡馬見村疋相の、吉井泰治郎といわれています。地主の分家の二代目だった泰治郎は明

治四十三年（一九一〇年）、手回しの編み立て機を購入し、工場をつくり、靴下生産に活路を見いだしました。時は近代、紡績・紡織は機械により大量生産され、メリヤス工業が盛んとなり、大和木綿や絣は廃れていました。木綿の機械織りに代わる農家の副業として、靴下製造を開始したのです。そのせいでしょうか、今でも広陵町では靴下を「織る」といいます。

既にそのころ、東京や大阪、名古屋、兵庫などで産地が形成され、国産の半自動機械も完成していました。馬見村の業界参入は後発でした。しかし、手回し編みの技術を学んだ農家の人々が、納屋などで細々と始めた靴下作りが広まって、今日の広陵町の靴下産業へと連綿とつながってきたのです。

戦後、ウーリーナイロン糸の登場により広陵町の靴下は飛躍的に発展し、現在では「靴下生産量全国一」の伝統ある産地に成長しました。

参考資料

靴下の町 広陵

千田正美 著

一九一〇（明治四三）年奈良県北葛城郡馬見村（現、広陵町）疋相の吉井泰治が親せきのひとりがアメリカでクリーニング商を経営しているのをたよって渡米し、三カ年後、帰村して靴下製造のことを話した。これを聞いた吉井泰治郎が斑鳩町吉川政之助に依頼して、横浜の川崎鉄工所から靴下編立機を購入した。この当時は一台に一人はつかねば仕事にならない手回機であった。そこで吉井泰治郎は付近の婦女子を集め授産場として職長に大村某（兵庫県出身）を迎えて仕事を開始したのである。同じころ野村藤蔵が長男秀太郎、次男久三郎に大和木綿では商売にならなくなってきたので、靴下製造をすすめた。秀太郎は大阪の松浦鉄工所で手回し片口靴下編立機（一台二〇〇円の品）を一〇台購入して、久三郎と協力して靴下製造業を開始する。技術の習得は斑鳩町神南の木地でわずかな日数であった。このとき秀太郎は旧箸尾高等小学校を

毎年、春と秋に竹取公園で開かれる「靴下の市」

卒業したばかりの一六歳の少年であったので、わざわざ横浜から靴下にくわしい末吉という男を職長として迎え、仕事を始めた。その後、彼の一九歳のとき自動編立機があることを知って輸入商吉住を通じてアメリカ製B式編立機を六台購入し、動力運転で量産に着手したのである。製品はまったく輸出物で神戸の商館、グリヤース、英一番、英五番の商館を通じて輸出していた。おりから第一次世界大戦が開始され、ヨーロッパ諸国は靴下が品薄となり輸出はますます好調で、一九一九（大正八）年にイギリスのグリヤース会社から二〇〇万ダースの大量注文があって、事業はこのときより軌道（きどう）にのったのである。(1)

当時、馬見村には七戸の靴下製造業者があり、また他の町村にもあったが、馬見村は県下における主産地となっていた。このように馬見村ではじめた靴下製造が割合に早く各地に受け入れられたのは、大和木綿の賃織が一九一〇（明治四三）年ごろから衰退（すいたい）し、さらに大正期にはなお減少して、最初三三一六戸の大和木綿織屋組合員が一九二六（大正一五）年三六五人となっていた。(2)このため馬見村で靴下

製造をはじめた吉井は「かせや」といって糸商であり、野村藤蔵(秀太郎の父)は綿布商であり織屋をしていた。また織屋の一人、疋相村木綿屋市次郎は年額七〇〜八〇疋を取り扱った。[3] この木綿屋の支配範囲は今日での広陵町はもちろん、隣村の大和高田市、香芝町、斑鳩(いかるが)町、橿原市の一部におよんでいた。結局、靴下発生の由来は大和木綿の賃織の副業をしていた地域に靴下製造が、最初は賃織（手回機）により就職難の農家の娘さんたちを救済する意味もあって、成立したのである。

注（1）野村秀太郎談話　野村秀太郎　明治二九年生

（2）大和木綿沿革史　天理図書館蔵

（3）広陵町史　三五二ページ

『地理』古今書院第20巻第1号

おわりに

現在、広陵町をはじめ北葛城(きたかつらぎ)の靴下は、中国、韓国等から安価な輸入品が大量に流入してきたことにより、国内での生産量が減少傾向にあります。また生産拠点を海外に移転していく傾向の中で、空洞化の状況も起こってきつつあります。

このような状況の中で、従来の大量受注は望むべくもなく、特色ある製品作り、たとえば冷え取り健康法に対応した靴下であるとか、個性的なルームソックスであるとか、個々のニーズに合わせた小ロットの靴下作りへ舵を切り直している、というのが北葛城の靴下産業の現状と言えるでしょう。

これから、どんな個性的で楽しい靴下が誕生してくるか、大いに楽しみです。

コンピュータ制御された最新の靴下編み機
日本ニット株式会社（香芝市）

三宅町とグローブ

吉川清商店

取材に寄せていただいた三宅町は、北葛城郡ではなく、磯城郡にあります。したがって今の行政区分から言えば「かつらぎガイドブック」で取り扱う地域ではないかもしれません。

しかし本文中にも述べているように、三宅町は微妙な場所にあって、四世紀の昔から、大和朝廷は、葛城を見すえてこの地を直轄領にしていたように思えてならないのです。

ここで取り扱うのは、三宅町の地場産業としての「グローブ・ミット」であり、そんなことは関係ないのかもしれませんが、あまり堅いことは言わず、しばらくはお付き合い願いたいと思います。

取材に寄せていただいた吉川清商店

なお取材に当たっては、三宅町商工会の置本佳司会長、吉川清商店の吉川雅彦代表ほか従業員の方々、それに三宅町財政課の山本文美主事に、それぞれ貴重なお話しや資料をご提供いただきました。

一、ベースボールから野球へ

アメリカでベースボールが考案されたとき、まだグローブやミットというものは存在していませんでした。グローブが誕生した経緯については、いろいろなストーリーがあるようですが、そのうちの一つに、ダグ・アリソンと言われるキャッチャーが、試合中に左手を負傷してしまい、それを保護するためにグラブを使用したのが最初だというお話しがあります。これが一八七〇年のことだそうですが、それから五年後の一八七五（明治八）年が、グローブが正式に使われ出した最初だと言われています。

そのベースボールなるものが、日本に伝わり、東京一ツ橋にあった開成校で初めて披露されたのが一八七三（明治六）年のこと。つまりベースボールが日本に伝えられた時点では、まだグローブは使われていなかったように思われます。

仕事をしながら話してくれる吉川雅彦代表と吉川誉将さん

この頃、アメリカから帰国した鉄道技師・平岡熙氏により初めて「新橋倶楽部・アスレチック」というチームが編成され、「保健場」と呼ばれる球場までが作られました。この球場にはベースボールを広めるため、大学や旧制高校の学生が招待され、それが明治二十年の「一高野球黄金時代」へとつながっていったという次第です。そして、この頃、一高雑誌で中馬庚が初めて「野球」という訳語を使い、以来、「ベースボール」は「野球」として日本の土壌に根を下ろしていくことになります。

さて、グローブですが、スポーツメーカーのミズノが野球グラブの販売をスタートしたのが一九一三（大正二）年のことですから、それまでのグローブは、恐らくアメリカから輸入されていたものが使われていたと思われますが、これについては定かではありません。

二、三宅町がグローブの町に

奈良の三宅町は、かつての「葛城国」と「大和朝廷」の接点にある町です。四世紀に大和朝廷の直轄領として屯倉が設けられたのも、葛城という地域をにらんでのこととも考えられます。曽我川を「葛城」と「大和」の境界とするなら、三宅町の一部は、曽我川をまたいであり、微妙な位置付けの場所だったように思えてなりません。

グローブの金型

その三宅町ですが、今では全国的にも二番目に小さい町、奈良県下ではもっとも小さな町（面積四・〇六平方キロ）として知られていますが、その三宅町こそ、グローブ・ミットの町として、一九七〇年の最盛期には、三宅町を中心に桜井市、河合町が主産地となって全国生産量の九〇パーセントを担うという、野球ファンにとっては忘れてはならない町にに発展していきました。

革を縫製するためのミシン

三宅町役場の編纂になるパンフレット「三宅町のグローブ・ミット」によると、

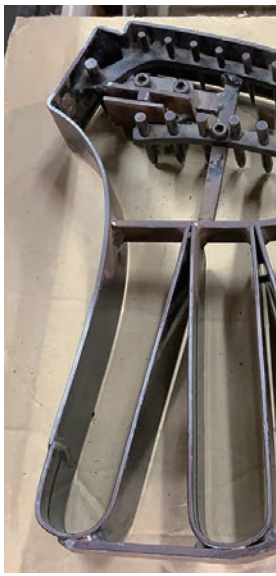
「三宅町において、最初にグ

ローブの製造をおこなったのは一九二一（大正十）年頃に坂下徳治郎さんたちによってはじまった」ということです。

グローブは、二十以上のパーツが縫い合わされてできています。材料は、そのほとんどが牛革です。というのも、牛革が、耐久性、弾力性、柔軟性というグローブに求められる三つの機能を満たし、なおかつ手軽に入手できるということが大きな要因だと思われます。

何げに置かれた革の切れ端に「KIP」の文字

同じ牛革でも、幼い牛のものは「キップ」と呼ばれ、なめらかで丈夫で、高級品になります。一般に普及しているのは「ステア」という成牛から得られる皮で作られます。



ところで、この牛革を裁断し縫い合わせるという技術は、農耕民族である日本人には、あまり馴染みのなかった方法です。狩猟民族である欧米人は、革製品を切ったり縫ったりする術に長けていました。その端的なものが革靴です。日本でも富国強兵の必要から軍隊が創設されますが、そこで革靴の製造が急務となり皮を扱う技術が次第に定着していきました。

三宅町でも、グローブを町の産業として興すためには、革を裁断し、縫い合わせる技術が不可欠でした。そこで坂下さん、靴の甲皮師（製甲師）の職人を呼び寄せ、二人してグローブを解体し研究を重ね、ついにグローブの商品化に成功したのです。

ときに大正十年、ミズノのグローブ販売開始から八年遅れで、ついに三宅町のグローブが市場に出回り始めたのです。

三、ふるさと納税にグローブが！

こうして三宅町を中心とするグローブ生産は、一九五六年には本格的対米輸出がはじまり、一九七〇（昭和四十五）年には、五八七万個ものグローブ・ミットが輸出されるまでに成長します。ところが、その後の二回にわたる通貨調整により輸出が大打撃を受け、グローブ・ミットの製造技術が台湾・韓国に流れたこともあって、その後、次第に縮小化の道を歩みはじめました。最盛期一〇〇軒を越す製造者も、今では二〇軒近くに減少し、国内生産量も大幅に減少してしまいました。

しかし、反面、一〇〇年近く培（つちか）ってきた技術とノウハウを個人的に求める野球愛好者の声が強まってきたのも、また事実です。

今までは大量生産の波に押され、個人の希望が届かなかった業界に、「一生使う自分だけのグローブが欲しい」「既成のグローブ・ミットでなく、完全オーダーメイドの、世界に一個のグローブが欲しい」、そんな声が届くようになってきました。

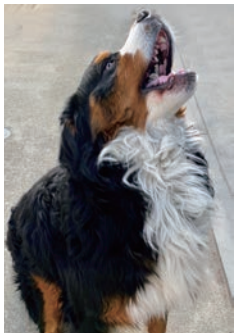
東京から、広島から、九州から、全国から、野球マニアが、自分だけのグローブを作ろうと、奈良の三宅町を訪問してくるケースが増えてきたのです。

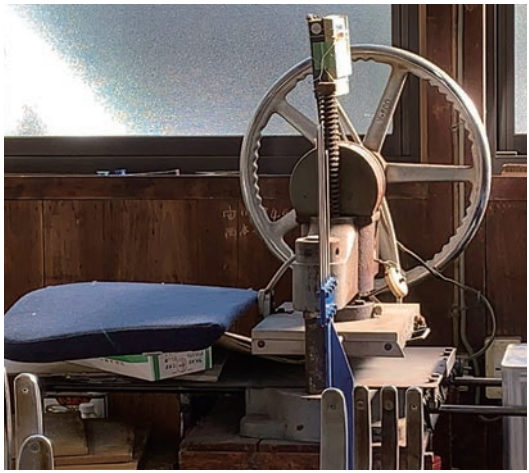
その手近な窓口として「ふるさと納税」があります。

二〇一六（平成二十八）年四月から、ふるさと納税の返礼品の一つに野球グローブが選ばれ、既製品（きせいひん）としてのグローブはもちろん、完全オーダーメイドのグローブも、返礼品として受け取ることができるようになったのです。

二〇一七（平成二十七）年の三宅町のふるさと納税の実績では、その八割強をグローブが稼（かせ）いでいることになります。

今、三宅町のグローブは、大量生産から個別対応の道を歩み始めようとしている、そんな印象を強くして三宅町を後にしました。





三宅町商工会
奈良県磯城郡三宅町伴堂六八五―三
TEL 0745-44-4628

三宅町役場財政課（ふるさと納税）
奈良県磯城郡三宅町伴堂六八九
TEL 0745-44-3071

吉川清商店
奈良県磯城郡三宅町大字但馬三九五―一
TEL 0745-56-2427

Paula（パウラ）のインスタ風かつらぎ

4

最後のリサーチでは、2人のクラスメイトと一緒に、
日本刀専門の研師、大越明友さんのもとを訪れました。

刀剣の部分の説明、刀剣ができるまでのプロセスなどのお話
を聞かせていただき、たくさんのことを学びました。

実際に刀剣を持たせていただくこともできて、
ずっしりとした重さの感覚や、刀剣の鋭さを体感することができました。

貴重な体験をありがとうございました!!

大阪芸術大学 デザイン学科 **Palau Paula**

第五章

かつらぎのカフェ

南葛城地区編

大阪芸術大学 デザイン学科　髙山ひなの

郵便名柄館
テガミカフェ

ミュージアム＆カフェ

旧名柄郵便局は、大正二年に建てられた木造平屋建て、寄棟屋根の建物です。明治末期に建設が進められ、明治三十九（一九〇二）年に郵便受取所として開設され葛城地方の郵便事業の核となりました。その旧名柄郵便局がリニューアルされ、2015年5月3日に郵便の歴史を学べるミュージアムと地元の食材を使ったカフェが併設された施設がオープンされました。郵便資料館は、見学のみの入館も可能です。（入館無料）その当時に郵便物を運ぶのに使われていた、人車や古い郵便ポスト、セパレート型の電話機などがあり実際に触れてみるとタイムマシーンに乗ってその時代に時間旅行したような気分になれます。

天使のパフェ ¥600

天使のパフェ！

手紙カフェのランチやスイーツは、その季節の地元の食材を使っていて、味も彩りも楽しむことができます。さらに、2017年公開の邦画「天使のいる図書館」で主人公の小芝風花さん（吉井さくら役）が、映画の中で注文した天使のパフェが食べることができます。そしてテガミコーヒー（600円）を注文するとオリジナル切手（150円）が付いており、机の引き出しにあるハガキや色鉛筆で友人や家族へ手紙を書き、帰りにカフェの入り口にあるポストに投函するのも楽しいです。

イベントも開催♪

ここでは、地域活性化のさまざまなイベントが開かれており、この日は御所お話しの会」による紙芝居「御所の昔話」が、上演されていました。

御所市名柄 326 - 1
[御所駅から車で約15 分]
TEL 0745 - 60 - 8386
営業時間：11:00～16:00
定業日：火曜日・水曜日
祝祭日は営業時間の変更あり
「郵便名柄館」で検索

モリソン万年筆＆カフェ

モリソンカフェ

夜にはバーに変身

モリソン万年筆&カフェは御所市で江戸時代に栄えた陣屋町「御所まち」の一角にある古民家をリニューアルしたカフェです。ここは万年筆の有名メーカー「モリソン万年筆」の発祥地でもあります。その跡地でカフェ&バーとして生まれ変わったモリソンでは、昼にはカフェとして、夜にはバーとしてオープンしています。近隣には、油長、千代、葛城酒造などの造り酒屋さんも多く、おいしい御所の地酒も取り揃えてあります。

万年筆といえばモリソン

昭和中期に関西の万年筆業界を牽引した国産万年筆のブランド「モリソン万年筆」モリソン万年筆は、大正7年 創設者 谷川寅次郎により万年筆の製造、販売業を開始し、特に関西では評価が高く「万年筆といえばモリソン」という時代もあり、書き心地の良さとモダンなデザインで、かつてはプラチナ万年筆やセーラー万年筆などの大手と分かつほどの勢いがありました。しかしボールペンの普及や、スーパーマーケットの増加による価格破壊により、自社製品のモリソン万年筆は製造を停止。職人も減ってしまったことでアフターケアも難しくなり在庫品の販売も停止となりました。現在では、社名をモリソンファクトリーに変え、他社製の万年筆やボールペンの販売を行っているそうです。モリソンカフェの店主、谷川岳彦さんは「御所でするから意味がある。御所町のまもり人になれるといいなぁ。」と、おっしゃっていました。

オーナー 谷川岳彦さん ご夫妻

こちらのボールペンはお買い求めいただ

オーナーおすすめ「ごせまち酒粕カレー」

タイカレーに似た味わいですが、ヨーグルトの代わりに「油長酒造」さんの「酒粕」と、「仕込み水」を使った逸品です。まさに御所のカレー。ぜひお試しください。

御所市西町 1069
[（JR・近鉄）御所駅から徒歩約6分]
TEL 0745 - 63 - 1881
営業時間：[cafe] 11:30～16:00
[bar] 19:00～22:00
※祝祭日は営業時間の変更あり
定業日：月曜日のbarタイムと火曜日終日
「モリソン万年筆＆カフェ」で検索

さんろくのおうち

さんろくカフェ

「さんろく自然塾うめだファーム」

御所市増 606
[御所駅から車で約 15 分]
TEL 080 - 4010 - 3600
カフェの営業日時：水曜日、土曜日の 9:00～18:00
民泊は要予約！[1 日 1 組限定]
「さんろく自然塾うめだファーム」で検索

御所市の民泊第１号!!

ここはカフェでもありますが、御所市の民泊第１号でもあります。オーナーの楳田さんご夫妻は、ご主人は大学の先生で医学博士、奥さんは元小学校の校長先生。と言っても、かた苦しい雰囲気からは程遠く、とても気さくなご夫婦です。今回は、このうめだファームに泊めていただきましたが、一日、一組しかお世話できないと言うことで、お泊まりの場合は必ず予約してお出かけください。

楳田さんご夫妻

ちょっとした冒険気分

泊めていただいたこの日の夕方、大学から帰ってこられたご主人にお願いして、畑を荒らすイノシシ対策の「罠」の点検に同行させていただきました。何カ所かの罠を一緒に回らせていただきましたが、イノシシはかかっていなかったものの、陽の落ちるか落ちないかの夕まぐれ、罠を見て回るのはちょっとした冒険気分です。

帰りには灯りがともりだした橿原の町を見下ろす場所に連れて行っていただき、御所と橿原の地が意外と近いことにビックリした次第です。夕食は、御所市の取材スタッフ楳原愛奈さんとの打合せも兼ねていましたが、豪華でとっても美味しいブルコギ、二人でも食べきれないほどの量です。それは今日、自転車取材で消費したカロリーを上回っており、痩せようとの思いは、オーナーの楳田さんの好意の前では断念せざるを得ませんでした。

茶房ダムカレー

カフェメニューにはカレーメニューがあり、「茶房ダムカレー」という一品。聞けば、御所市商工観光課の名物男宮橋さんが名付けの親だとか。たしかに「砂防ダム」と、「茶房ダム」をかけたしゃれっ気が、いかにも宮橋さんらしいです。さて、このダムカレーというのは、ご飯を堤防にして、カレーをダム湖に見立てるというもの。そして、そのカレーは、すじ肉とタマネギでコクを出したもの。最初は甘口に感じられますが、食べるほどにスパイシーさが口にひろがっていくというもの。一度、機会があればお試しあれ。

この後も、奥さんにはお世話のかけっぱなしで、取材のお手伝いまでしていただき、後ろ髪を引かれる思いで「うめだファーム」を後にした次第です。誌面を借りて、お二人に感謝の意を伝え、この項を終わりといたします。

kokoro cafe ほっこり村

心にも、身体にも、
やさしいじかんを
お過ごしいただきたい。

「おやこカフェ ほっこり村」改め「kokoro cafe ほっこり村」。店名も新たにリニューアルオープン。お子さま連れのママさんだけでなく、どなたでもほっこりしていただきたいという思いから間口を広げた店名に変更。「ほっこり村からの帰り道は、少しでも軽やかに、笑顔が増えていただけていたら何よりも嬉しいです。」という事でした。

● 毎週木曜日 10:00 から 11:00頃まで

リトプレのじかん [要予約] 約60分 1ドリンク付き 1500円

リトミック+プレイ(演劇・遊び)の要素を中心に、紙芝居や絵本で物語・造形・季節感をプラス！
未就園児対象。就園児～大人の方は、別の日時で相談の上、開講いたします。
公民館・幼稚園・保育園・各種イベント・出張も応相談。

● 毎週水曜日 と 日時応相談

営業スケジュール！

糸脱毛のじかん [要予約] 約30分 3000円

お顔にやさしいシルクの糸でうぶ毛を毛根から、古い角質を取り除きます。
一皮むけたようなツルピカのお肌を体験してください。

● 第3火曜日 14:00 から 19:00頃まで

あなたのピアノのじかん with まさし

ピアニストのナカイマサシさんと一緒に、「あなたが奏でたいピアノを探していく」
というような豊かなピアノレッスンの時間です。

● 毎週水曜日 14:00 から 19:00頃まで

カフェのじかん

ケーキセット[800円]・ケーキ２種盛りセット[1000円]・ドリンク[400円〜]
心を込めてお作りし、お待ちしております。
※「ランチのじかん」は4名様以上のご予約で、日時・内容は応相談。
Facebookのメッセンジャー、メールにてお気軽にお尋ね下さい！

おすすめメニュー

となりの畑でとれた季節の野菜や
果物を使ったスイーツとドリンクのセット

畑でつみたて春菊のシフォンケーキセット ¥800

ほっこりスイーツセット
（おまけスイーツ付きの時も…！）

２種類のスイーツ＋１ドリンク ¥1000

となりの畑か奈良県内でとれた栄養たっぷりの旬の野菜や果物、
米粉、米油、砂糖はできるだけ甜菜糖か、きび砂糖を使用した
身体にやさしいものを取り入れているほっこり村のスイーツです。

奈良県葛城市八川245

尺土駅から徒歩10分

「おやこカフェほっこり村」で検索

ランチのじかんのご予約などは、
facebookのmessengerか、
hokkorimura2010@gmail.comまで

ライダーに大人気！！

酪農カフェ

「酪」

レトロな隠れ家カフェ

古民家というよりも、古農家を改良したレトロな建物です。入り口も農家の玄関そのままですので、小さな「酪」という看板や「OPEN」という黒板が出ていなければ、気がつきにくい入り口ですが、一歩足を踏み入れると、昭和初期を感じさせるノスタルジックな雰囲気に包まれます。

すごい！ 葛城最強プリン！！

メニューの中でもお薦めは、牧場牛乳の超ハードなプリン。写真のように、挿したスプーンが立ってしまうほどです。

伝承イラストレーション

マスターの住野秀樹さんは、葛城の伝承をパソコンを使い、イラスト化することに取り組んでおられます。初期に取り組まれた「葛城の妖怪行列」は、古老たちに「縁起が悪い」と相手にされませんでしたが、ご覧のようになかなか面白い作品になっています。

「葛城の妖怪行列」

最近では、「役小角（えんのおずぬ）」の架空の曾孫を萌えキャラ化した「役小角奈（えんのおずな）」ちゃんを生みだし、これが役行者誕生の寺「吉祥草寺」からも63代目役行者として公認され、「小角奈祭」が催されるほどの人気ぶりです。

役小角奈ちゃん

葛城市山田 310
近鉄 忍海駅から約 1.6 km
TEL 080 - 5714 - 0251
営業時間：9:00～18:00
定業日：火曜日
（ご確認してご来店下さい）

葛城の里に昔から伝わる味

中将餅

「中将堂本舗」

葛城市當麻 55 - 1
[当麻寺駅から徒歩 1 分]
TEL 0120 - 483 - 203
営業時間：9:00〜18:00
休業日：7月と、8月後半

当麻寺名物、中将餅

中将姫にちなんで名付けられた一口大のよもぎ餅。甘みを抑えた上品な餡とヨモギの香りがたまらない逸品です。昔から当麻の里では、餡を重箱に敷き詰めて、その上によもぎ餅や白餅を置いて、折々にご近所などへ配っていたといいます。それが昭和のはじめに商品化され、中将餅本舗として現在にに至っているといいますから、かれこれ 100 年近く営業されていることになります。

中将堂本舗は、中将餅を販売する菓子補なのですが、一角が和風の落ち着いた喫茶空間になっており、冬場になると、よもぎ餅をアレンジした、「ぜんざい」や「きなこがけ草餅」などのメニューも楽しめます。

当麻のご当地グルメ

ねり天バーガー

「味のかけ橋」

葛城市當麻 350 - 1
[当麻寺駅から徒歩 20 分]
TEL 0745 - 48 - 8410
営業時間：10:00～20:00
定業日：月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日に振り替え)

"当麻"と"下関"のかけ橋

下関の漁師町で生まれた老舗の天ぷら屋さん。そこは、おしゃれなレストランであり、カフェでもあるというモダンな癒やし空間。オーナーにお話を伺うと、奥さんの実家が天ぷら屋さんであり、関西に嫁いで来られた際に、ご夫婦でこの店を始められたそうです。

ここでは、ねり天以外に下関名物の瓦そばが食べられます。これが絶品。ぜひ試してほしい逸品です。そして最近はじめられた、当麻のご当地バーガー。これがなんとねり天バーガーなのです。つまりはご当地バーガーというよりは、お店の名前通り、「當麻」と「下関」の「味のかけはしバーガー」といったところです。

古民家の宿 勝右衛門 in 御所市

ご主人中嶋宏高さんと楳原愛奈レポーター

住宅宿泊管理業者「古民家ぐらし」番頭の中嶋宏高さんは、江戸期の文政七年（一八二四年）築のご自宅を民泊として、二〇一八年十一月十三日にオープンされました。

一泊九、〇〇〇円（二人から追加八、〇〇〇円）一日一組限定で、一家族最大六名で利用が可能！

〝古と和〟を基調とした伝統の大和古民家ですが、宿泊用のミニキッチンや洗面所、トイレなどは、最新式のモダンな設えとなっています。

従来の日本旅館業の一泊二食付きではなく、**宿泊と食事を別にし**、お泊まりいただいた方に、その周辺の地域でお食事していただいて、その地域の活性化を図ろうと考えておられます。

食事は自炊・持ち込み・仕出し（料理屋さんと提携している）・御所近辺での外食と四つの形態です。

この古民家は、御所市の一番奥まった場所にあります。家主の中嶋さんは、「大和の伝統的古民家を、国内外の多くの人に体験していただきたい」と、おっしゃっています。

寝室のある奥座敷は書院造の離れ座敷（うち二間）で、大正三年（一九一四年）に中嶋さんの祖父が増築しました。

女将の松本ゆきさん

女将の松本ゆきさんは、「お客様に昔ながらの雰囲気を味わっていただきたい！おかえりなさいと暖かくお出迎いしたい」と、おっしゃっていました。

所在地　御所市今住一六六
TEL 0745-67-0548
駐車場有り（数台）

御所市担当　楳原愛奈

第六章

かぐらぎの古人

男性編

絵　京田信太良

大阪芸術大学 デザイン学科　筒井拓哉

相撲のはじまりは公開処刑？

当麻蹴速（たいまのけはや）
野見宿禰（のみのすくね）

相撲の呼び出しにもあるように、相撲は東西戦になります。今では「東西」というと「関東」と「関西」と考えられがちですが、これは近世のお話しで、この「天覧相撲」がおこなわれた三世紀から四世紀の頃って、「東京」とか「江戸」とか、なかったわけです。では「東西」とは、どことどこ？となるわけですが……。

ここでヒントになるのが天皇です。中国では「天子南面」と言って、「天子様」（日本では天皇）は南に面して存在するという考え方があります。

一、天覧相撲

「天覧相撲」ってご存じでしょうか？「相撲」は「すもう」ですから、日本の国技なわけで、日本人なら子どもだって知ってますよね。では「天覧」とは、一体、なんでしょうか？

これは天皇がご覧になっているという意味です。

「東〜〇〇山、西〜△△海」っていう

葛城市相撲館の土俵

曽我川にかかる磐余橋から二上山を見ています。

そこで「天覧相撲」の場合、天皇は「北」に座して南で対戦する相撲をご覧になるという寸法です。そうすると「東」と「西」の取り組みになるわけです。

これが後になると、天皇がいる場所が「北」となって、当麻（葛城市）の相撲館に見られるように、実際の東西とは逆になる場合もあるということです。

これは当麻相撲館の小池館長から聞いた「相撲の東西」のお話しです。これともう一つ大事な「東西」のお話しがあります。広陵町文化財保存センター・河上所長にお聞きした話ですが、当時（三～四世紀）の奈良は、曽我川を挟んで東西に真っ二つに分かれていたというのです。

東が「磐余」を中心にした大和朝廷発祥の地、西が大和朝廷にまつろわぬ人々の住む「葛城」という地です。「まつろわぬ」とは「従わない」とか「反抗している」というぐらいの意味で、こういった人々は大和朝廷側からは「土ぐも」と総称されていました。

上の写真は曽我川にかかる磐余橋から二上山を見

葛城市相撲館　小池弘悌館長

ていますが、古くは神武天皇が、この地で大和に敵対する「土ぐも」を如何に処理するかを、帰順したニギハヤヒと策を練ったと伝えられています。

こういった当時の情勢を把握しておいた上で、日本初と言われた「天覧相撲」について考えてみましょう。これについては、葛城市にある「当麻相撲館　けはや座」の小池館長が非常に詳しいので、お話をお聞きしました。

以下、小池館長のお話を要約しておきます。

二、当麻蹴速 vs 野見宿禰

まず対戦したのは、「当麻蹴速」（葛城市当麻）と「野見宿禰」（桜井市出雲）の二人ですが、この名前については象徴的に使われているように思います。「宿禰」という「名」は大和朝廷初期の役職名というか、天皇の配下の位を表す言葉です。当時、制定された「八色の姓」のうち、真人、朝臣に次ぐ三番目の位が「宿禰」になるわけです。しかも「宿禰」は武人とか行政官を表す称号でもあるわけで、これから見ても、「野見宿禰」は、大和朝廷側の重要ポストにある人物と考えてよいでしょう。

これに対し、「当麻蹴速」は、被征服豪族である「葛城氏」の一族で、力自慢で蹴り技が得意な無頼漢、そんな風に位置づけられています。

つまり、この勝負、最初から「野見宿禰」が勝つことが決められているのです。

日本書紀に書かれていることを思いっきり意訳すると、

時は垂仁天皇の七月七日のこと、天皇は、かねが

ね「俺より強い者はいない」と力自慢を鼻にかける「当麻蹴速」が煩わしくてなりません。「誰か、こいつの鼻を叩き折る者はいないのか」ということで、出雲国の「野見宿禰」が「即日」呼ばれ、垂仁天皇の前で相撲を取ることになります。この頃は、相撲はスポーツというより「戦闘」つまりは殺し合いです。土がついたら負けということではなく、どちらかが死ぬか、動けなくなるまで戦うというものです。

けはや塚（葛城市・上）と腰折田（香芝市・下）

こうして筋書き通り、「当麻蹴速」はあばら骨を踏み折られ殺されてしまいました。勝者である「野見宿禰」は、葛城にある「蹴速」の土地を天皇から与えられることになります。それが今も香芝市に「腰折田」として語り伝えられていますし、「当麻蹴速」を悼んで建てられた「蹴速塚」も、葛城市の相撲館「けはや座」の近くに残されています。

では、東西の話しに戻って、この天覧相撲を眺めなおしてみましょう。

日本初の天覧相撲がおこなわれたのは、垂仁天皇七年の七月七日、おそらく三～四世紀のことと考えられます。

この頃、葛城はまだ大和朝廷に完全に服従しているとは考えられません。それが雄略天皇四年の日本書紀の記事（五世紀の半ば）では、葛城の神「一言主」つまりは葛城氏そのものを指すわけですが、その「一言主」が雄略天皇の一行を曽我川まで見送ったというのです。このことは、葛城と大和朝廷の境

界線が「曽我川」だということを物語ると同時に、雄略天皇が葛城氏の懐柔に成功したことをも物語っているのではないでしょうか。

同じ頃、岡山の吉備氏と奈良の葛城氏の関係を巡って、雄略天皇が横やりを入れたことが「日本書紀」にあがっています。吉備氏のリーダーである吉備田狭が、「自分の妻ほど美人はない」と自慢しているのを、雄略天皇が知り、彼を朝鮮半島の任那に派遣してしまい、その留守中に、彼の妻である稚媛を自分の妃にしてしまったのです。

当麻蹴速と野見宿禰の天覧相撲
（葛城市相撲館）

その稚媛というのが葛城氏の娘でした。

要するに、雄略は稚媛を奪うことで、葛城＝吉備連合に楔を打ち込んだことになり、同時に葛城の血の中に、天皇一族の血を残そうとしたことになります。

つまり、これまでは、「大和」は「葛城」を抑え込むため、なりふり構わず策を弄しているように思えるのです。

こう考えると、この天覧相撲、大和朝廷が、葛城氏の不穏な動きを封じ込めるための「見せしめ」だったような気がしてきます。つまり当麻蹴速は、葛城氏の中で、大和朝廷に抵抗する過激派のリーダーだったのでは……。

想像をたくましくすれば、捕らえた蹴速を天覧相撲という公開の場所でやっつけてしまう。当時の相撲は、先ほども述べたように、スポーツではなく、戦闘そのものであり、相手が死ぬか動けなくなるまで続けられました。葛城氏の不穏分子を踏み殺すこ

とで、大和朝廷の力を見せつける――天覧相撲とは、天皇臨席の公開処刑だったのではないでしょうか。

三、相撲神社とカタヤケシ

そこで、「野見宿禰（のみのすくね）」について見てみましょう。日本書紀では「出雲国」に「野見宿禰」という力自慢がおり、これを呼び寄せ「蹴速（けはや）」をやっつけさせ、勝った報償に大和朝廷に召し抱えたと言っています。

冒頭（ぼうとう）にも述べましたように、「宿禰」は「八色（やくさ）の姓（かばね）」という位階制度の上から三番目にあたる重要なポストです。いきなり相撲に勝ったからと言って手に入れられるようなものではありません。

桜井市の十二柱神社／左上は宿禰の墓と言われる五輪塔

「野見宿禰」は、名前からして、もとより大和朝廷側の重要なポストにある人間だったと思われるのです。

そう考えると、「出雲国」とは島根県の「出雲」でなく、大和朝廷の勢力圏である桜井市の「出雲」と考えるのが妥当です。書記にも「即時に召す」とあり、島根県では「即時」に呼び寄せることは不可能です。

現に桜井市の「出雲」という地には、「十二柱神社」の敷地内に「野見宿禰」の墓と言われる五輪塔が残されています。もともと

桜井市　相撲発祥の地と言われる相撲神社

は、やはり「出雲」の「太田」というところにあったものが、明治に、この「十二柱神社」の境内に移されたということです。

さて、この稿を閉じるにあたって、「当麻蹴速」「野見宿禰」、この二人の決戦の場と思われる、桜井市の「相撲神社」を紹介しておきましょう。

我が町、広陵町から自転車で一時間半、山辺の道から少し外れたところに「纒向珠城宮伝承地」の案内板があります。このあたりが垂仁天皇が宮を営んだ地と言われ、ここから自転車でさらに数分奥へ入ったところに、日本で最初に天覧相撲が開かれた場所「相撲神社」があります。

穴師坐兵主神社の入り口近くにあって、祭神は「野見宿禰」、境内には新たに置かれたと思われる「力士像」と「勝利之聖　野見宿禰」の祈念碑が建てられています。

ここで気になるのが、右の案内板。「国技発祥の地」ではじまる案内文はすべて無視していただいてかまいません。ただ「赤」のラインで囲まれた文字にだけ注目してください。

「カタヤケシ」ゆかりの土俵において……

では、この「カタヤケシ」とは一体、何のことでしょうか？

当麻相撲館「けはや座」の小池館長に質問をぶつけてみました。

館長の言うには、「カタヤ」というのは、相撲の土俵のことを言うそうです。「ケシ」は「消し」と考えてもいいのでは……。

館長のお話を聞いて、つまりは「土俵でやっつけ

てしまえ」「土俵で殺しちゃえ」みたいなニュアンスにも取れる、そう思ってしまいました。やはり日本初の「天覧相撲」とは、天皇臨席の「公開処刑」！そんな印象を強くした次第です。

なお、この考えは、相撲館「けはや座」の小池館長や、広陵町文化財保存センターの河上所長のお考えではなく、お話しをお聞きしているうちに浮かんできた編者の「白日夢」のようなものとお考えください。

それはさておき、これ以降、七月七日が「相撲節会（すもうせちえ）」という行事となり、全国の力自慢が大和に集められることとなります。それは、ただ単なる「相撲大会」のようなお遊びでなく、大和朝廷の「軍事力強化」という一面をもっていました……。

こうして大和朝廷に歯向かってきた葛城という地は、五世紀の雄略天皇の時代、次第に大和朝廷に組み込まれていったように感じます。

（文責　桐生敏明）

桜井市相撲神社のカタヤケシ

相撲館「けはや座」
葛城市當麻八三番地一
問合せ／TEL 0745-48-4611

腰折田
香芝市磯壁六丁目三一六―一
問合せ／香芝市役所　TEL 0745-76-2001

十二柱神社
桜井市出雲六五〇
問合せ／桜井市役所　TEL 0744-42-9111

相撲神社
桜井市穴師
問合せ／桜井市役所　TEL 0744-42-9111

白鳥陵の倭健尊（やまとたけるのみこと）

「古事記のものがたり」作者による歴史紀行

一、古事記のまつり

奈良県では「本物の古代と出会い、本物を楽しめる奈良」を実現するためのプロジェクトの一環として、毎年「古事記のまつり」が開催されています。

奈良県知事・荒井正吾氏の朗唱

そして二〇一八（平成三十）年一月十三日、第五回の「古事記のまつり」が奈良春日野国際フォーラム甍（いらか）において開催されました。その冒頭、奈良県知事・荒井正吾さんが、倭健（やまとたける）の「望郷の歌」を朗唱されたのが非常に印象的でした。

倭（やまと）は　国の真秀（まほ）ろば　たたなづく　青垣（あをかき）
山籠（やまごも）れる　倭（やまと）し麗（うるは）し

この「古事記のまつり」のメイン・イベントが「古事記朗唱大会」、この年は三十三組の参加者が古事記の朗唱に喉を競（きそ）われましたが、そのなかに「古事記のものがたり」の著者、小林晴明さん、宮崎みどりさんも「古事記を楽しむ会」として参加されていたのです。因幡（いなば）の白ウサギのお話しで知られる「大（だい）こ

くさま」の歌を、メンバー全員で、本当に楽しそうに合唱されていました。

ところで「古事記のものがたり」は、一九九九年の初版発行から、間もなく二十刷りを迎えるというロングセラー、しかも、これが自費出版というからビックリします。二十刷りは、小林晴明さんの味わいのある挿絵が加わり、新装「古事記のものがたり」として読者の前に登場する予定だと言います。

そのお二人に、無理を承知で「御所の白鳥陵」の取材をお願いしたのです。

宮崎みどりさんと小林晴明さん

白鳥陵は「古事記のまつり」冒頭、荒井県知事により朗唱された倭健尊の陵であり、白鳥伝説のエンディングの場所なのです。一般には大阪府羽曳野市の白鳥陵がよく知られているのですが、それがなんと奈良県の御所市にもあるというのです。

その詮索はさておき、あまり馴染みのない「御所の白鳥陵」を、この機会にぜひとも「かつらぎガイドブック」にも紹介したいと、お二人に取材をお願いした次第です。

御所白鳥陵を訪ねた宮崎みどりさん

二、白鳥伝説

その前に、まずは、知られているようで案外知られていない、「倭健の白鳥伝説」について、あらましお話ししておきましょう。

「倭健尊」は、一般には「日本武尊」と表記されますが、「古事記」の表記では「倭健」となっています。

でも、以下は面倒なので「ヤマトタケル」と片仮名表記することにします。

そのヤマトタケルですが、景行天皇の子どもで、大変な乱暴者だったと言われています。

兄が天皇の命令をないがしろにしたと怒って、その四肢を引きちぎって投げ捨てるような凄まじさです。

この凄まじさに、父の景行天皇にさえ恐れられ、熊襲征伐に九州へ派遣されますが、ヤマトタケルは熊襲を征伐するだけにとどまらず、反抗的な出雲にまで遠征し、「出雲健」をも、だまし討ちのようにして殺して凱旋します。

しかし天皇は喜ぶどころか、さらに恐れ、今度は東国の平定のため「東征」を命じるありさまです。

御所市冨田　かつての大和琴弾原の地

東征は着々と進みますが、大詰めで、伊吹の神を素手で討ち取ろうとして、却って伊吹の神に大氷雨を降らされ、ヤマトタケルは病に倒れることとなります。その後、弱った体で故郷を目指しますが、三重の亀山に至って、ついに「倭は国の真秀ろば」と望郷の歌を残し、この世を去ってしまいます。

その魂が白鳥となり、伊勢を出て河内の国志幾まで帰ってきたというのです。

その飛行ルートが、能褒野

（三重県亀山市）→大和琴弾原（奈良県御所市）→河内古市（大阪府羽曳野市）とされ、その三箇所に陵墓が作られたのです。

白鳥陵が奈良の御所と大阪の羽曳野の二カ所にあることの理由が分かったところで、バトンを、小林晴明さん、宮崎みどりさんに渡し、以下に御所の白鳥陵を紹介してもらうことにいたします。

三、御所の白鳥陵

主人（小林晴明）との共著「古事記のものがたり」の本を自費出版（一九九九年）して二十年近くが経ちました。

御所市富田の日本武尊御陵

当初は『古事記』という名前自体も知名度が低く、一部の歴史マニアか国文学専攻の方々にしか興味を持って頂けなかった日本神話ですが……二〇一二年の古事記編纂一三〇〇年記念の年をきっかけとして日本神話や神社、パワースポットブームが起こり一躍若い方にも古事記が知れ渡りました。

私たちの本「古事記のものがたり」では古事記 上つ巻の神話の部分だけを小学生にも読めるようにやさしくフリガナを付けて物語として読みやすく書き下していますので、中つ巻のスーパーヒー

ローの美男子ヤマトタケルのお話は登場していません。

ヤマトタケルの御陵は一般的には大阪にある古市古墳群の中の宮内庁指定の白鳥陵とされています。

しかし今回かつらぎ探検ガイドブックの本を出すにあたって御所にも宮内庁指定のヤマトタケル陵があることを知り、さっそく現地を訪ねてみることにしました。

御所市富田琴弾原（宮内庁管轄地）

「日本武尊は幾多の苦難の末、東国を平定されたが、大和に帰る途中、息吹山の神との戦いに敗れ能褒野（三重県亀山市）で故郷を偲んで「大和は国のまほろば、たたなずく青垣、山籠れる大和し美し」と歌い、亡くなられ白鳥となって大和に飛び去った……」との伝承が残っています（抜粋）」

と看板に書かれていました。

富田の御陵は民家の裏山にあってとても判りにくい場所なので、何度か村の方に道を訪ねてやっとたどり着きました。そこは宮内庁の看板が無ければ単なる雑木林にしか見えない小さな丘だったのです。

手入れもされていなくて訪れる人も無く、あまりにも荒れて寂しいというのが現地に着いた第一印象でした。三分ほどで一

周できる墳丘の裏側に回ると小さな竹林がありました。少し小高くなっている場所から古墳の中を見渡すとどこからともなく一陣の風が吹き、まるで私たちを歓迎してくださるかのような強い光が差し込みました。

その時ヤマトタケルさまはもしかしたら大阪の古市の御稜（周囲にお堀が張り巡らされて立派な白鳥陵）よりも、人里離れた御所の富田の長閑（のどか）な古墳の方が気に入っておられるのかもしれない？

そんな気がして心が温かくなりました。

今はすっかり観光化してしまった明日香村の五十年前の風景を思い出して、御所はこのままで静かに後世まで残して置いてほしいなと……

そんなことを話し合いながら、富田の御陵を後にしました。

宮崎みどり

大津皇子と持統女帝

はじめに

大津皇子については、ネット記事にせよ、論文や小説、紀行等の出版物にせよ、語り尽くされた感があります。とりたてての新しいネタといってはないのですが、ここでは彼を謀反の罪で死に追いやった義母・持統女帝の立場から大津皇子について振り返ってみようと思います。そこには、被害者、加害者という関係を超えて、権力に翻弄される人たちの悲しみがあらわれているように思うからです。

一、鵜野讃良皇女の誕生

鵜野讃良皇女は、姉・大田皇女とともに、中大兄皇子（のちの天智天皇）を父に、蘇我倉山田石川麻呂の娘・遠智媛を母に生まれました。

石川麻呂と言えば、蘇我一族を裏切り、大化の改新において中大兄、中臣鎌足に与して蘇我一族を滅亡に導いた人物です。ことを起こすにあって、中臣鎌足が中大兄に対し、ぜひ蘇我倉山田石川麻呂を味方に引き入れておくべきだと、そのためにも石川麻呂の娘・遠智媛を妻にもらうことを提案したのです。

こうして中大兄皇子と遠智媛は結ばれ、二人の間には、大田皇女を筆頭（生年不詳）に、鸕野讃良皇女（六四五年生／以降、讃良皇女と表記）、建皇子（六五一年生）の一男二女が誕生したのです。

なかでも、のちに持統女帝となる讃良皇女の誕生年に注目してください。大化の改新が起こったと同じ年、六四五年に生を受けているのです。蘇我氏滅亡という歴史的緊張状態の中での誕生です。さらにその四年後、父である中大兄が、母方の祖父であり大化の改新の功労者である蘇我倉山田石川麻呂を謀反の罪で自害へと追い込んだのです。

大化の改新の舞台となった飛鳥板葺宮

この事件は、中大兄皇子と中臣鎌足の陰謀だと言われていますが、これにより一族を裏切り生き残りをはかった石川麻呂も亡くなり、主だった蘇我一族のビッグネームは粛正され尽くされた感があります。

讃良皇女の母・遠智媛にとっては、夫が父を殺すという異常事態を受け入れがたかったのでしょう。その二年後、建皇子を産み落として程なく、自ら命を絶ちます。母体が精神的な苦痛に追い込まれてい

大化の改新／飛鳥板葺宮で中大兄らに殺害された蘇我入鹿の首塚

たせいでしょうか、建皇子は生まれつき口が聞けず、しかも短命（八歳で没）だったと言います。

母が亡くなるや、讃良皇女は、姉の大田皇女や弟の建皇子とともに、祖母である皇極上皇（のちの斉明女帝／以後の表記は混乱を避けるため斉明で通します）に引き取られました。斉明天皇は中大兄皇子の母にあたるわけですが、彼女は生まれついて口もきけない健を哀れみ溺愛したようです。

なぜ、そんなことが分かるのかというと、「日本書紀」の斉明四年五月の条に「皇孫健の王、八歳にして薨りたまひき」とあり、さらに斉明女帝（皇極上皇）が「哀に忍へず、傷みたまふこと甚だしく（中略）万歳千秋の後には、かならず朕が陵に合せ葬れ」と宣したと言うのです。

また大田皇女は、その母・遠智娘によく似た美しい娘で、父・中大兄にも祖母の斉明天皇にもかわいがられたようです。

というのは、「日本書紀」には、斉明天皇が亡くなるや、その子・中大兄は、斉明の陵墓に、自分の妹である間人皇女を合葬したというのです。さらに「この日、皇孫大田皇女を陵の前の墓に葬りき」とあります。つまり中大兄は、自分の愛した三人の女性、斉明は母として、間人皇女は妹としてまた愛人として、大田皇女はお気に入りの娘として、同日、同所に合葬したというのです。これからみても、大田皇女は、中大兄皇子や斉明天皇に愛されていた存在のように感じます。

これに対し、讃良皇女はといえば、姉や弟のように誰からも愛されるような性格ではなかったよう

蘇我倉山田石川麻呂の墓とされる仏陀寺古墳（大阪府太子町）

で、父・中大兄皇子にとっても、祖母・斉明天皇にとっても、讃良皇女の影が非常に薄いのです。

のちの持統天皇、つまり讃良皇女について調べていくと、骨肉相争う環境の中で、祖父を父に殺され、それがもとで母も不幸な最期を遂げ、祖母・斉明天皇のもとに迎えられたとはいえ、誰に愛されることもなく孤独な少女時代を過ごした、そんな姿が見え隠れしてくるのです。

二、大田皇女

その讃良皇女が十三歳で嫁いだ相手が、中大兄の弟・大海人皇子、後の天武天皇です。しかも、ライバルとも言える姉の大田皇女とともに、二人して大海人皇子に嫁いでいるのです。

ここで登場してくるのが額田王です。美人としても歌人としても超有名ですが、この時点で額田は、すでに大海人皇子の娘、十市皇女まで産んでいます。十市が誕生したのが六五三年前後とされていますので、大田皇女・讃良皇女が大海人に嫁したときは、五歳前後になっていたでしょうか。その額田王を、大海人の兄・中大兄が見そめたのです。あげくは、自分の妃として差し出させました。そして、あたかもその見返しであるかのように、自分の娘である大田・讃良姉妹を大海人皇子に嫁がせていたのです。

これが本当だとすると、気の強い讃良皇女にとって、こんな屈辱的なことはないと思います。しかも嫁いでまで大海人をめぐって、姉と競い合わねばならないのです。

やがて讃良皇女が十七歳の時、大海人との間に草壁皇子が誕生しました。六六二年のことだと言います。姉に先んじて大海人皇子の子ども、それも男子を産んだのですから、こんなにうれしいことはありませんでした。

ところが、その翌年には、今度は姉・大田皇女と

近江大津京遺跡

大海人との間に大津皇子が誕生してくるのです。しかも成長するに従い、我が子・草壁の凡庸さに比し、大津は文武ともに優れた才人ぶりを発揮してきます。

大田皇女と讃良皇女の関係が、草壁・大津兄弟に、一体、どんな影響を与えたのでしょうか？

その大田皇女が、六六七年二月、突然に亡くなります。讃良皇女が二十二才の頃ですから、それから見ても、随分と若くして亡くなったことになります。母に似て、繊細で透き通るような美しさを持った人だったと言われています。

讃良皇女にとって、ついに最大のライバルが消えてしまったのです。

三、壬申の大乱

その五年後、父・天智天皇（中大兄が斉明天皇の没後に即位）が亡くなります。

これが引き金となり、古代史上最大の内乱と言われる「壬申の乱」が勃発するのです。

兄をはばかり、出家し吉野に籠もっていた大海人皇子が、兄が亡くなるや否や、吉野を脱出し、東海の勢力を結集して、天智天皇を失った近江朝に戦いを挑んだのです。

この戦いの背景には、韓半島を三分していた百済が、新羅・唐の連合軍に滅ぼされるという東アジアを揺るがした大激震が関係しています。百済が滅ぼされた後、残る高句麗も滅ぼされ、新羅が韓半島を統一することになったのです。

大和朝廷はかねてより親百済の方針を貫いてきました。この方針を継承した天智体制は、百済支援のため日本から援軍を派遣したのですが、白村江で大敗を決し、あわや新羅・唐連合軍が日本まで攻め込んでくるかもしれない、そんな危機的状況に追い込まれたのです。

その対策の一環として、太宰府に水城が築かれるほか、飛鳥から近江への遷都が決行されました。

最悪の事態を避けられたのは、新羅と唐の間に分裂があったためです。唐は、百済滅亡後、高句麗征伐に乗り出し、その頃から、同盟国である新羅さえもターゲットとし、韓半島全体を傘下に収めようと動き出していたのです。この動きを察知した新羅は、日本と手を結ぼうとします。しかし近江朝すなわち天智体制は、唐に服従し手を結ぶ路線で動き出しています。反面、百済難民を受け入れ、あわよくば百済の復興をバックアップすることで、韓半島に大和の支配権を及ぼそうとも考えていたようなのです。

これに対し、大海人皇子は、親新羅を背景に、大友皇子（天智の子）率いる近江朝廷軍に戦いを挑んだと思われます。

白村江の敗戦で、近江朝は唐の冊封国となる道を

白村江の戦い　唐・新羅・百済・高句麗・日本の動き

選びました。その日本国で内乱が勃発したのです。宗主国である唐は近江政権を守らねばならず、この内乱を口実にして、唐が日本に介入することになったかもしれないのです。

この唐の動きを阻止したのが新羅です。

百済、高句麗の滅亡を機に、韓国をその支配下におこうと動き出した大唐帝国に対し、新羅が、今度は、百済や高句麗の遺臣とともに反撃を開始したのです。

吉野から伊勢を目指すと、高見山が迎えてくれる。

この韓半島での動きに助けられて、大海人皇子の軍は内乱を決行し、近江町を滅ぼすに至ったのです。

壬申の乱とは、ただ単に兄弟同士の権力争いでなく、大唐帝国の進出、韓半島の統一、大和朝廷の新体制確立、これらのパワーバランスのうえで、起こるべくして起こった争乱のように感じます。

四、讃良皇女、権力に目覚める

こうして勃発した壬申の乱は、讃良皇女にとって大きな意味を持っていました。

この決起によって、大海人皇子と讃良皇女との関係は、夫婦の絆を超えて政権簒奪を目的とした同志的なつながりへと発展していったようです。

天武政権は、天皇が軍事、神事、政治すべてを直轄し、絶対王権を確立したものでしたが、ただ一つ、鸕野讃良皇后だけにはすべてを相談するという、夫婦

共同統治体制だったように感じられます。

このようなことから見ても、壬申の乱にいたる計画の背後には讃良皇女（さららのひめみこ）がフィクサーとしてあるように感じられてなりません。

日本書紀には「皇后は、終始天皇を助けて天下を安定させ、常に良き助言で、政治の面でも補弼（ほひつ）の任を果たされた」と、鸕野讃良皇后が積極的に政治に関与していたことを述べています。

夫・大海人と協力し、吉野を脱出し、近江政権打倒のために辿った道程は、彼女にとっては忘れがたい思い出であり、ワクワクするような政治的冒険行だったように思われます。

夫婦でつくり出した王朝――。

彼女は、これを誰にも渡したくなかったのではないでしょうか。特に、姉・大田皇女の子「大津皇子」にだけは渡したくなかった筈です。

と同時に、我が凡庸な息子「草壁皇子」にも渡せない。肉親の情は抜きにして、大津、草壁、どちらが政権を取っても、不満が残り、その不満を火種として、第二の壬申の乱が起こるに違いないのです。

天武が崩御した後の動きを、政治家・鸕野讃良皇后は、このように推測していたと思われます。

五、天武天皇の子供たち

天武のおもな子供たちを列記してみます。

◎兄・天智の娘たちとの間には、

皇后である鸕野讃良（うののさらら）との間に「草壁皇子」

大田皇女（おおたのひめみこ）との間に「大伯皇女（おおくのひめみこ）」と「大津皇子（おおつのみこ）」

大江皇女との間に「長皇子（ながのみこ）」と「弓削皇子（ゆげのみこ）」

新田部皇女との間に「舎人皇子（とねりのみこ）」

◎有力豪族の娘たちとの間には、

藤原鎌足の娘・五百重娘（いおえのいらつめ）との間に「新田部皇子（にいたべのみこ）」

蘇我赤兄（そがのあかえ）の娘・大蕤娘（おおぬのいらつめ）との間に「穂積皇子（ほづみのみこ）」

◎地方豪族の娘たちとの間には、

尼子娘との間に「高市皇子」
額田王との間に「十市皇女」
宍人𥭴媛娘との間に「忍壁皇子」と「磯城皇子」

と、分かっているだけを拾い出しても、十二名が数えられます。

このほか、兄・天智天皇の息子二人、「河島皇子」と「芝基皇子」をあわせ十四名。うち男子十二名が皇位継承候補者となり、さらに家柄等を考慮していくと、現皇后が生んだ「草壁皇子」と、現皇后の姉が生んだ「大津皇子」の二人に絞り込まれます。

天武という英雄が亡くなった後、どのようにして皇位を継承し、どのように政権を引き継いでいくか、簒奪して得た王権だけに、ここで武力による革命をストップし、安定した体制をつくり出す必要があります。にもかかわらず、天智vs天武という、自分たち兄弟の争いが、自分の死後にも起こりうる可能性が大なのです。本人たちにその気がなくとも、二人を取り巻く人間関係が、自分たちに有利な天皇を立てようと争乱が起こるのは必至です。

そこで天武は、主だった息子たちを集め、鸕野讃良皇后とともに、「壬申の乱」発端の場所、吉野山へとやってきました。目的地は、吉野の奥、宮滝にある「吉野宮」。伴ってきたのは、草壁皇子を筆頭に大津皇子、高市皇子、忍壁皇子、それに天智の子、河島皇子、芝基皇子の六名です。

現政権のスタート地点に立って、天武天皇が諸皇子に問いかけます。

「朕、今日、汝らとともに庭にて盟ひて、千歳（千年）の後にことなきことを欲す。いかに。」

そこで、皇位継承の筆頭・草壁が答えます。

「天神地祇および天皇、証らめたまへ。吾、兄弟長幼併せて十余り、各々、異腹より出でたり。然れども、同じきと異れると別かれず、倶に天皇の勅に随ひ、相扶け忤ふることなし。もし今より以後、この盟ひの如くにあらずは、身命滅び子孫絶えむ。忘れじ、失せじ。」

続く大津以下五名も同様に、「母は違っても兄弟力

を合わせ、天皇の言われるよう、千年の後までも争うことなく政権を維持してまいります」と、それぞれが誓いを立てたのです。

　これを「吉野の盟約」と言いますが、この「吉野の盟約」を提唱せざるを得なかったほど、後継者問題は深刻だったように感じます。

吉野宮の所在については、吉野郡吉野町の宮滝遺跡であることが、ほぼ確定しています。

六、大津皇子の悲劇

　では次に、大津皇子とはどのような人だったのかを見ていきましょう。これがまた、画に描いたような逸材ぶり。反逆罪で処刑された人にもかかわらず、体制側が編纂した「日本書紀」にさえ、文武両道に優れ、姿形もすばらしいと褒めちぎっているのです。

　では「壬申の乱」で大活躍した人かというと、長兄の高市皇子は大活躍したのですが、大津皇子はというと、天智帝に愛され、近江朝に留め置かれていたのです。それは天智のお気に入りの娘・大田皇女にそっくりなうえ、リーダーとしての資質に優れていたということもあるのですが、僕の思うのは、人質だったのではないか、そう思えてなりません。

　大津は天武帝の若い頃にそっくりだと言われ、ルール破りの英雄気質。こんな奴を出家したとはいえ大海人皇子のもとに置いた日には二人で何をしでかすか分かったものではありません。膝元に置いて監

視し、なおかつ人質として大海人皇子の足枷にするのが懸命というものです。

こんな訳ですから、天智帝が崩御してからも、大津は、近江朝に留め置かれました。

これを助けたのが、額田王だと思うのです。もとは大海人の愛人だったものを、天智帝に気に入られ、大海人皇子との間に十市皇女まで生まれているというのに、天智の妃とされた人物です。

その額田王が、壬申の乱勃発に際し、大津皇子を近江から脱出させ飛鳥へと逃したようなのです。

額田王って、いったい何者なのでしょう？

話が逸れてしまいました。

その大津皇子ですが、天武帝が没するやいなや、謀反の罪で捕らえられます。

日本書紀には、「朱鳥元年（六八四年）九月九日、天武天皇が崩御され、皇后は即位の式もあげられぬまま、政務を執られた」とあり、続いて

「冬十月二日、皇子大津の謀反が発覚して、皇子を逮捕し、合わせて皇子大津に欺かれた（中略）新羅の沙門行心と帳内礪杵道作ら三十余人を捕らえた。」

天武崩御後、一月も経たぬ間に大津皇子は捕縛され、翌日には処刑されるという慌ただしさです。

「三日、皇子大津に訳語田の舎で死を賜った。時に年二十四。妃の山辺皇女は髪を乱し、はだしで走り出て殉死した。見る者は皆すすり泣いた。皇子大津は天武天皇の第三子で、威儀備わり、言語明朗で天智天皇に愛されておられた。成長されるに及び有能で才学に富み、とくに文筆を愛された。この頃の詩賦の興隆は、皇子大津に始まったといえる。」

あまりに急すぎます。謀反の罪が発覚したのも急なら、捕縛も急で、翌日にはろくろく取り調べもなされず刑が執行されています。

反対派の動きを恐れての急な処置でしょうが、ともかく殺してしまえば、後は何とでも取り繕える、そんな感じです。

しかも、この月の末には、逮捕された関係者のほと

天武天皇の殯宮（もがりのみや）が営まれた飛鳥浄御原宮跡。板葺宮跡と同じ。

んどが許されています。大津一人が悪者で、みんなは欺されただけ「止むを得なかった」、「従者で皇子に従った者は、みな赦す」というのです。

その謀反の張本人を「日本書紀」は、「威儀備わり、言語明朗で（中略）成長されるに及び有能で才学に富み、とくに文筆を愛された。この頃の詩賦の興隆は、皇子大津に始まったといえる」と、誉めそやすのです。

為政者側に後ろめたさがあって、このような表記になったのでしょうか。普通なら、蘇我氏の例にもあるように、朝廷をないがしろにした大悪人に仕立て、仕方なく処罰したとするのが常套手段です。

それをしなかったのは、大津の人となりを知る人間が多く、あまりにも嘘くさいことは言えなかったとも考えられます。

でも実際のところは、「天武天皇崩御後、政権を平和裡に存続させるにはどうするのがベストか？」

これに対する鸕野讃良皇后の究極の答えが、この措置だったように思えます。大津、草壁、どちらが政

権を取っても、不満が残り、その不満を火種として、第二の壬申の乱が起こるに違いないのです。

大津を処置した後、残るは、我が子草壁の処置です。草壁が天皇位を継いでも、彼には治められないし、反対派を抑えることもできない。憎んだ姉とは言え、その子・大津を、どんな理由があるにせよ殺してしまった自分を、鸕野讃良皇后は許すことができなかったのではないでしょうか。最終手段を取った以上、我が子・草壁も処分する方向へ突き進む以外、彼女には、道は残されていませんでした。

姉の子も、自分の子も、二人共々に殺したという罪悪感と苦しみを背負って、鸕野讃良皇后は、持統天皇として、六九〇年二月、即位いたしました。

こう考えてくると、草壁皇子の不自然な死も理解できるというものです。

七、大津皇子の刑死

大津皇子を扱うはずが、取材原稿を綴っていくうちに、持統女帝の胸の裡を窺う内容になってしまいました。

書き始めるや、こちらが企画したものと違う方向へ走り出してしまったのです。持統女帝の心の叫びが乗り移ったのかもしれません。

しかし、最後だけは大津皇子に立ち戻り、処刑前後の皇子の行方を追ってみたいと思います。

六八六年十月一日（朱鳥元年九月九日）、天武天皇が崩御し、その二日後、飛鳥浄御原宮の南庭に殯宮が設営されました。殯というのは、遺体を仮安置し、別れを惜しみ、死者の復活を願う儀式のことです。

この頃、仏教は導入されていましたが、未だ火葬は行われておらず、遺体が白骨化し、「死」が確かなものになるまで殯は続きます。その殯の期間、遺体を安置する建物を殯宮と言うのです。普通は半年ぐらいの期間なのですが、天武の場合、二年二ヶ月に

大津皇子の屋敷があったとされている訳語田幸玉宮跡（おさださちたまのみやあと）

及んでいます。これだけ長期間の殯は、史上例を見ないのですが、それは、この殯中に大津皇子の謀反が発覚したためかも知れません。また迷い動く皇后の心を反映しているのかも知れません。

かくして、十月十六日（九月二十四日）、殯が開始されましたが、その八日後、大津皇子の謀反が発覚したのです。おそらく大津は、その殯の場で捕らえられ、訳語田にある彼の屋敷まで引き立てられていったのではないでしょうか。

大津皇子が住んだ訳語田の屋敷跡は、現在は春日神社となって、繁華な町の一角で、ここだけ巨木の茂る不思議な空間になっています。木の根元では昼寝でもしていたのでしょうか、野良猫がむっくりと起き上がり、珍しそうにこちらを見やっています。

映画「空海」では、楊貴妃の棺を守る黒猫が登場しますが、まるで大津皇子の屋敷跡を守ってでもいたかのような登場ぶりには、そこに猫がいるとは思っていなかったため頗るびっくりさせられた次第です。

この訳語田の屋敷跡から磐余池の跡地までは、約二・五キロ、自転車で十分ばかりです。現在は埋め立てられていますが、当時は船遊びが出来るほどの大きな池だったようです。

大津皇子は、飛鳥の地から、訳語田の屋敷へ引き立てられる途中、この池の畔にさしかかり、「ももづたふ磐余池に鳴く鴨を今日のみ見てや雲隠りなむ」の歌を詠んだといわれています。

飛鳥浄御原宮跡からこの磐余池跡までは、ほぼ三・六キロ、自転車で走っても十五分ぐらいの距離です。

ところで、日本書紀には、大津皇子は自宅で死を賜ったとなっていますが、僕の幻覚なのか、大津は、この池の畔で、顔を水に浸けられ窒息死させられたように思えてならないのです。

この頃は、血は汚れとして忌み嫌われ、特に皇族や神事に携わる者は斬り殺されることはなく、縊り殺されるのが普通でした。しかし、大津の場合、なぜか水のイメージが付きまといます。水に溺れなが

磐余池の跡と大津皇子の歌碑

ら、遠くに鴨の声を聞いていたのかもしれません。

大津皇子は、この池の畔で刑死し、その遺骸が馬で運ばれ山辺皇女の待つ屋敷へと運ばれたのではないでしょうか？遺骸となって帰った大津を見て、悲しみのあまり、山辺皇女が、後を追って殉死したのでは……？

磐余池のあった場所に立ってみると、そんなイメージが頭の中に広がっていきます。

（磐余池跡に置かれた岩塊には、「ももづたふ磐余の池に鳴く鴨を　今日のみ見てや雲隠りなん」と、大津の辞世が刻まれていました。）

おわりに

大津の刑死から二年が過ぎた六八八年（持統二年）十一月、天武天皇の遺体が大内稜に葬られ、二年二箇月におよぶ殯が幕を閉じました。

翌年五月、草壁皇子が、二十七歳で即位することなく急逝します。

そして翌年一月（西暦では二月）、持統天皇がいよいよ即位することになるのです。

ところで、大津皇子の墓所として知られているものが、二上山の雄岳山頂にあります。また、その麓の鳥谷口というところにも被葬者不明の古墳が存在し、これこそ大津皇子の墓所ではないかといわれています。

この二箇所ともに何度か訪問させていただきましたが、最初の印象では、鳥谷口古墳こそが大津皇子の墓所に違いないと感じたものでした。

ところが今回、この本をつくるにあたって、持統天皇の側から大津皇子をたぐっていくと、別な閃きを感じるのです。

それは、「どちらも共に、大津皇子の墓所に違いないのでは……」と感じるのです。

小字名「鳥谷口」――地名から、この地が風葬地であったことが感じられます。仏教が伝わるまでは、火葬という風習はありませんでした。仏教が入ってからも、下々の者の遺骸は火葬されず山に捨てられていました。

京都の鳥辺野では、遺体は木に吊され鳥に肉を食らわせるという鳥葬が行われていました。

鳥谷口は、二上山の麓というか谷ともいうべき地。二上山山頂が「天の二上」と呼ばれる「天の水」を得るための聖地であるなら、まさに、この鳥谷口は「地の二上」――死者の国とも呼ばれる風葬・鳥葬の場所だったのではないでしょうか。

謀反の罪で刑死した大津皇子の墓所として最初に営まれたのが、この鳥谷口古墳だったように思います。

この後、草壁皇子が変死を遂げますが、その変死の原因を大津皇子の祟りにすることで、草壁の死因をぼかしてしまうことが計画されました。

大津の呪いを解くために、その墓所が、鳥谷口から二上山雄岳山頂へ移され厚く葬られることになりました。しかし、その甲斐なく、草壁は急逝してしまう、そんなストーリーが紡がれていきました。

おそらく、この一連のシナリオには藤原不比等が、皇后の軍師として関与していたと思うのです。

こうして、鸕野讃良皇后が持統天皇として即位することで、彼女の描いたビジョンが一区切りすることになったわけです。

争いによることなく皇位が継承され、夫・天武天皇との合作である、新たな律令国家を目指す第一歩が踏み出されたのです。

（文責　桐生敏明）

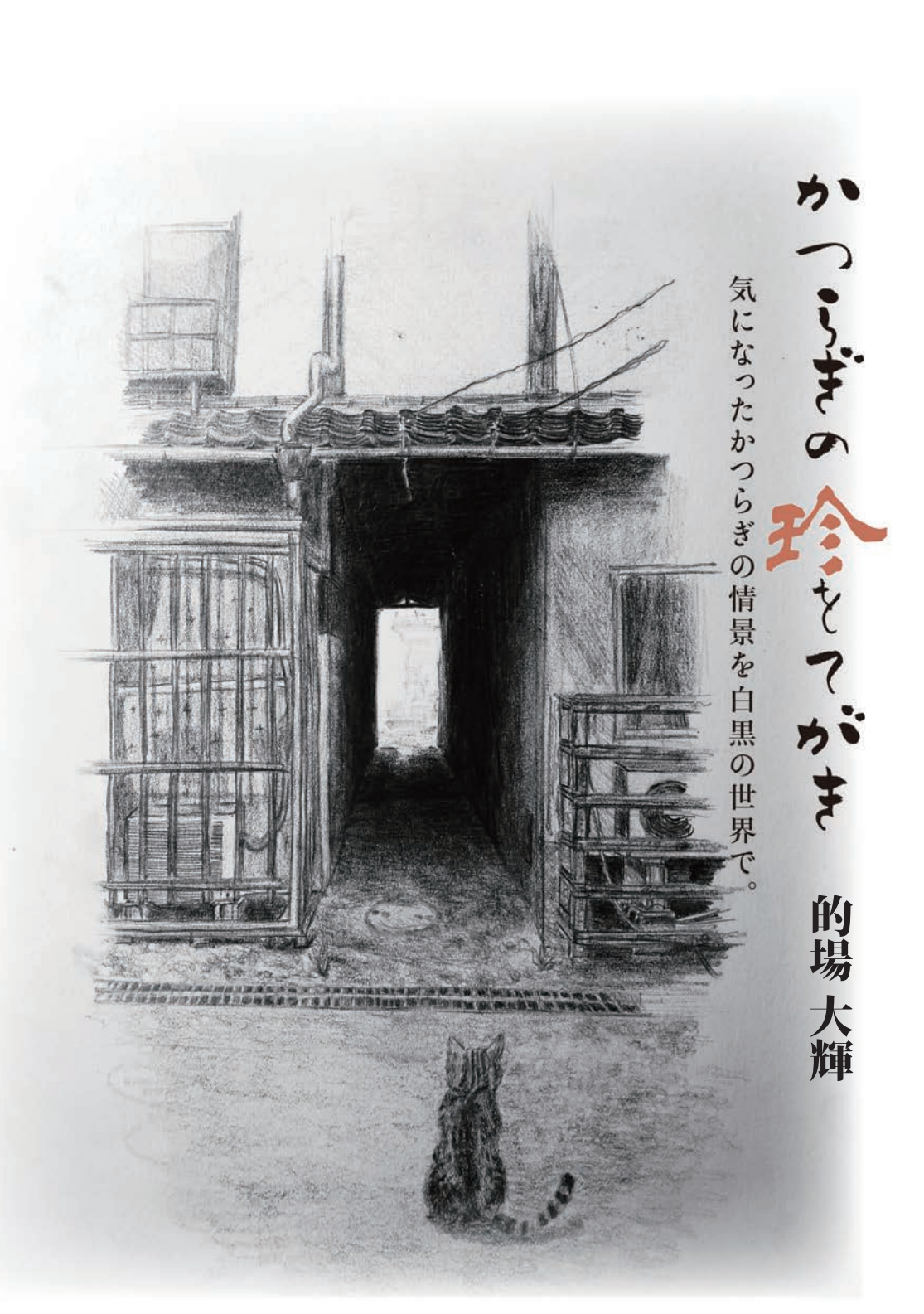
その後も、大津皇子の祟り話はなくならなかったようです。新しく造営された藤原京も、完成を見ずに、平城京へ遷都されることになりますが、藤原京には大津皇子の霊を慰めるための「龍王社」が元薬師寺につくられていました。その「龍王社」も平城遷都に伴い、薬師寺と共に移されることになったのです。

写真は、奈良市「新薬師寺」境内にある「龍王社」（左）と、同じく新薬師寺境内に植えられた「持統桜」（右）です。この持統桜は、702 年、持統天皇が三河行幸の際、自ら手植えされた桜が、「奥山田のしだれ桜」として今も残り、その一本が記念にと里帰りしてきたものだと言います。

かつらぎの珍をてがき

気になったかつらぎの情景を白黒の世界で。

的場 大輝



龍寶院　（水掛不動尊）

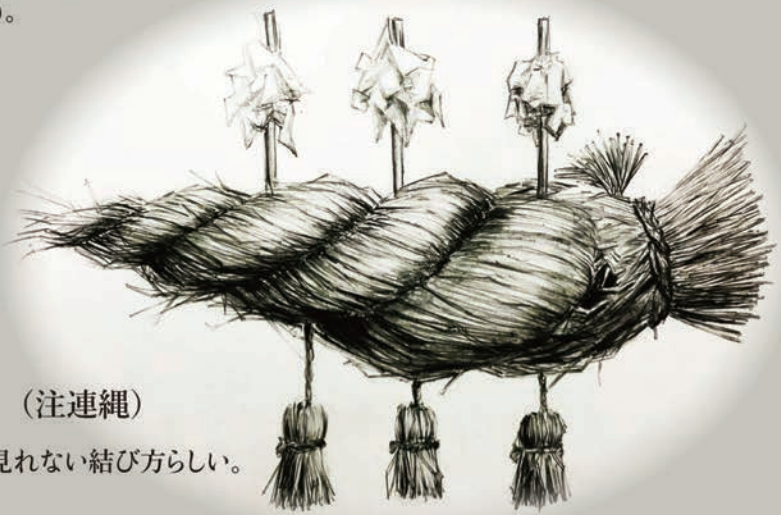
水をかけられるのか分からないが
すごい存在感だった。

當麻寺周辺　（缶の風鈴）

誰が何のために作ったのか
300円で売られていた。

長尾神社　（なでガエル）

ご利益があるそうだ。
僕も撫でよう。



當麻寺周辺　（注連縄）

かつらぎでしか見れない結び方らしい。

大和高田（天神社）

高さが5mほどあった。
倒れないか心配だ。

コラム担当の的場です。
今回かつらぎのまちを散策し、かつらぎの魅力、趣のある街並みなど素晴らしく思いました。
そんないいまちかつらぎをたくさんの人に伝えたく面白いなと思ったものを手描きにしてみました。

かつらぎさくたん日記

今回は、【竹内街道】に行ってきました。

駅を降りてすぐ案内看板を発見！やっぱり有名な所なんだな、と期待が高まります！さっそく行ってみると、ひたすらにきがわっさわっさ生えている場所でした。自然に優しいね！

本当に昔からある街道みたいで、それも相まってとても良い雰囲気が漂っていました。

やっぱり自然は良いなぁと思わされます。

歩いているとふと、1つ思ったことが。

その木が生い茂っているのが片道のみなんですが、そのせいで体が勝手に傾いてしまう！

自然の気迫に押されて体を傾かせながら、私は竹内街道を楽しみながら歩いていきました。

大阪芸術大学 デザイン学科　田中美羽

第7章

かつらぎの古人

女性編

大阪芸術大学 デザイン学科　原口　萌

かぐや姫は ペルシャのお姫さま それとも 葛城国のお姫さま

一、かぐや姫ミステリー

かぐや姫のお話はみんなが知っています。その元となった「竹取物語」についても知らぬ人はいないでしょう。ところが、では「かぐや姫のモデルは？」とか「何のために書かれたの」ということになると、諸説入りみだれて、これぞという決定打がありません。暗に藤原氏の専横を批判するために書かれたとも、道徳的な啓蒙書とも言われ、「香久山」と「かぐや姫」を結びつけ、天照大神との関連を匂わせたり、かぐや姫の前世譚まで登場し、賑々しいことこのうえもありません。

藤原氏批判の書ととらえ、「光明皇后（光明子）」や「県犬養三千代」の姿を浮かび上がらせ、「かぐや姫」ばかりか「中将姫」のお話も、当時の女性たちの悲劇を反映していると説く「関裕二説」には説得力があります。

しかし、ここでは、ことの真偽を云々するのではなく、もっとも突拍子もないお話しを二つ紹介させていただきたいと思います。

ひとつは、ペルシャのお姫様説、もう一つは葛城国のお姫様説。どちらも、とっても突拍子もなくて、それでいて、とっても説得力があり魅力があります。

広陵町は箸尾元気村に造られた「かぐや姫」の像。里中満智子さんの画をもとに造られていますが、なぜかエキゾチックに感じられます。

私たちは歴史家ではありません。だから歴史に接するとき、何かを証明しようとか、誰かを説得しようとか、新しい説を打ち立てようとか、認められようとか、そんなものとは無縁です。

私たちが歴史に接するとき、そこに何を感じるか、何を思うか、それしかありません。

そんな思いで、「かぐや姫ミステリー」を取材させていただきました。

しばらく与太話にお付き合いください。

二、かぐや姫はペルシャの姫君？

「かぐや姫のモデルはペルシャの姫君だった！」

これが本当に根拠のない絵空事なのか、あり得る話なのか、読者に「あんがい否定できない話かも?!」、そこまで思っていただければよいのですが……判断は読者にお任せするしかありません。

広陵町三吉にある讃岐神社の境内

さて僕の仕事場ですが、そこは「自遊空間ゼロ」という名称で、子どもと親のフリースペースだったり、僕の気に入った「本」を編集するアトリエだったりするのですが、この事務所の前に「竹取公園」という大きな公園があります。公園ばかりか、裏手には「讃岐神社」までがあり、地名まで「広陵町三吉」と呼ばれています。「三吉」は今では「ミツヨシ」と発音しますが、その昔は「散吉」と書いて「サンキ」とか「サルキ」と呼ばれていました。ご想像の通り「サンキ」や「サルキ」は「讃岐」の転訛であり、「讃岐神社」があるのも四国の「讃岐氏」がこの地に移り住み、飛鳥の朝廷に竹を献上していた、そこから「竹取物語」が生まれたということになります。

「竹取物語」の舞台となったと言われる場所は日本に数多くありますが、登場人物としてあげられる五人の貴公子、彼らは「壬申の乱」前後を生きた実在の人物であり、その彼らが「かぐや姫」のもとに通っていたとなると、地理的にも広陵町が最有力候補にあげられる所以であります。

ところがです。

散吉神社の由来とかぐや姫について、最近、とんでもない異説を唱える出版物と出会いました。この出版物の中から、我が広陵町と関わる、最も気になる一

讃岐神社と竹取翁
かぐや姫
讃岐神社境内に置かれたかぐや姫の由来

文を以下に転載いたします。

「およそ三百年前、飛鳥時代のことである。大和国のこの社の辺りにトカラから来たという人々が住んでいた。そこに、ある日突然、どこからとも知れず美しいトカラ人の娘が住むようになったという。その美しさは、今まで誰も見たことがないほど異様で、まるで伝説の天女が舞い降りたかのようであった。しかも天女の伝説のように、トカラ人は徐々に豊かになっていった。その異様さの評判を目の当たりにした隣村百済に住む大将兄弟（大伴氏か?）が、娘のあまりの美しさと異形に、宮中参内の手配をしてしまった。異形は神のお印であり、めでたいことである。ところが参内の前日、娘は急死してしまった。大将さしまわしの一行が迎えに来ると、家人は、娘は死んだと言う。が、遺体もない。瑞祥の天覧は、死体でもよいのだが、家の主は、娘は天に帰ったと空を指すばかりである。命令を受けていた迎えの使者は、せっぱつまり、家主であるトカラ人の翁と、止めに入ったもう一人を斬ってしまった。そして、その年より天変地異が起こり始め、三年後、大将兄弟が相次いで亡くなるまで続いた。人々は、口々に祟りだと言い合い、畏れて、祠を建て、この二人のトカラ人の御霊をご祭神として祀った。以後、神社は村人により守られ、国からは幣帛を受けている。ご祭神の神階は、二柱とも従五位下である。」（孫崎紀子著「かぐや姫誕生の謎―渡来の王女と道真の祟り―」より転載）

これは菅原道真の孫にあたる菅原文時が、内記の時代、全国の五畿七道の神社およびその祭神について調べ、その位階や誄りをただす仕事をしていたときに、散吉（サルキ）神社から寄せられた資料なのだと言います。

ここでは「散吉」は「サンキ」ではなく「サルキ」と発音されていたようです。

これがどこから出た資料なのか詳らかではありませんが、トカラ人というと、確かに日本書紀に記載があります。まずは、その訳文を抜き出してみましょう。

◎孝徳天皇の白雉五年（六五四年）四月の条

「吐火羅国の男二人、女二人、舎衛女一人、風に遭い日向（宮崎）に流れ来たる。」

次いで、斉明天皇の三年七月三日（六五七年）の条に「覩貨邏国の男二人、女四人、筑紫（福岡）に漂泊す。彼らは初め海見島に漂泊したという。すぐに駅馬を使って召す。」

さらに「七月十五日 須彌山の像を飛鳥寺の西に造る。また、盂蘭盆会を設ける。暮に覩貨邏人に饗たまう。或本に云わく堕羅人という。」

◎斉明天皇五年（六五九年）三月十日には

「吐火羅人、妻の舎衛婦人と共に来る。

斉明天皇六年（六六〇年）七月十六日には

覩貨邏人乾豆波斯達阿、本土に帰ることを欲して、送使を求めて請いていう、「願わくは、後に大国の朝廷に仕えたい。このゆえに、妻を留めて私の意志を表明したい」と。

◎天武天皇四年（六七五）正月一日

大学寮の諸学生、陰陽寮、外薬寮および舎衛の女、堕羅の女、百済王善光、新羅の仕丁等、薬および珍異な物などを捧げ進上する。

六五四年に宮崎に漂泊したトカラ人がどうなったかは記載がありませんが、ここで漂泊した人たちが、再び船出し、六五七年に奄美に流れ着いたと考えることも出来ます。彼らは福岡へ呼び寄せられ、さらに飛鳥の朝廷まで旅をすることになります。

飛鳥では、彼らを遇するため、飛鳥寺の西に須彌山の像を造ったと言います。今、近鉄電車で飛鳥の駅に降り立つと、この須彌山のレプリカに迎えられ

近鉄飛鳥駅前の須弥山石（レプリカ）とかぐや姫像

ますが、多くの人が、その歴史的な背景については知ることがありません。

またトカラ人を遇するに盂蘭盆会を催したとあります。これはお盆の行事のことです。ところで日本では、先祖の霊がお盆に帰ってきて、それを迎え、送り出す行事がお盆となっていますが、本来、仏教にはこのような習慣はありません。たしかに「盂蘭盆経」という仏教の経典はありますが、これは餓鬼道に堕ちた母親を、その子モクレン（ブッダの弟子）が供養して救うという話しです。毎年、定期的に帰ってくる祖先の霊を迎え、ともに過ごし送り出すという行事ではありません。これはゾロアスター教の行事で、日本に漂着したトカラ人がもたらし、飛鳥の朝廷も、彼らを遇するために、わざわざ盂蘭盆会を設けたということになるのです。

同じように、お水取りの行事も、仏教の行事でなく、ゾロアスターに起源を発し、奈良時代もしくは飛鳥時代に日本に伝えられたものと思われます。

では、日本に漂着した、このゾロアスター教を信奉する「トカラ人」の正体は？ということになるのですが、当時の世界状況から考え、同じ頃に滅ぼされたササン朝ペルシャの王族と考えるのが妥当ということになっています。

アジアとヨーロッパの接点とも言える地域、中央アジア、古くは「バクトリア」とも「トハリスタン（吐火羅、覩貨邏）」とも呼ばれ、そこはペルシャ人とスキタイ人（遊牧騎馬民族）によって共同統治された地域でした。それが七世紀に入って、アラビア半島に起こったイスラム勢力によって滅ぼされることになります。その際、故国復興を願い逃亡した王族が中国や日本にもやってきたというのです。この辺の考証は繁雑になりますので、興味のある方は調べていただくとして、そのトカラ人が住まいしたのが、なんと、我が事務所のある広陵町の三吉だというのです。

トカラ人の顔を写したのではないかと言われる人面石
（左が本物で右はレプリカです）

日本書紀では、このトカラの王族は、失われた王国再建を目指し、六六〇年七月に日本を離れることになりますが、その際、妻や娘、その付き人たちを「将来、大和朝廷に仕えたいので、その証として」残していくということになるのです。

トカラの王妃は、その娘とともに朝廷に人質として残り、他のトカラ人たちが暮らしたのが、「サルキ」、つまり「散吉」（今の三吉）となるというのです。

この娘も十五才の成人を迎えるまでは、母とともに朝廷に残っていたのですが、成人してからは母から引き離され、「サルキ（散吉）」へ移されることになります。

ここでいよいよ「かぐや姫」の登場となるわけです。

「サルキ」の村に突然、エキゾチックな美貌の娘が現れたのです。この噂を聞きつけた大伴氏が、彼女を奇瑞として朝廷に参内させようとしますが、娘が早く亡くなったため、願いを果たせず、怒りにまかせて、世話をしていた付き人の老夫婦を斬り殺してしまいました。以来、さまざまな天変地異が続き、関わった大伴兄弟が亡くなるまで、この異変は続いたというのです。

広陵町三吉に隣接して百済の村がある。

村では、異国の人の祟りであると畏れ、その霊を鎮めるため出来たのが「サルキ（散吉）神社」だということになります。

孫崎紀子説は、このお話を元に、菅原道真の孫、菅原文時が、このかぐや姫の物語を生み出したのだと言います。文時は、神社の名前こそ「讃岐神社」としたものの、物語に登場する翁の名を「さるきのみやっこ」として、「さぬき」でなくあえて「さるき」の音を後世に残したというのです。

この説が成立するためには、菅原の文時が見たという「サルキ神社」の由緒書きが存在しなければなりません。今、著者の孫崎紀子さんに手紙で、その辺の経緯を問い合わせしたところ、丁寧なお返事をいただきました。ただ、決定的な証拠となる文書は残念ながら存在しないということです。

確かなことは、この時代に滅ぼされたササン朝ペルシャの王族が日本の飛鳥までやってきたようだということ、その王族は、日本を離れるに際し、その

妻と娘を日本に残していったこと、これだけは、ほぼ間違いなく言えることだと思います。

母親は、人質の身として亡くなりますが、残された娘がどんな人生を歩んだか、今となっては知るよしもありませんが、そこから「かぐや姫」のモデルではという話も起こってきたということになります。と同時に、このペルシャのお姫様が、大津皇子の妃、山辺皇女ではないかという説（小林恵子著「西域から来た皇女」）まで起こってくるのです。

もし読者が「広陵町立図書館」や「竹取公園」に来られる機会があれば、ぜひ、今から一三〇〇年以上も昔、はるばる極東の地を目指し、その地で亡くなっていった人たちに心を向けてみてください。

御所市の柏原にある神武天皇社（大和誌には「橿原宮、柏原村に在り」、また本居宣長の「菅笠日記」 にも「畝傍山の近くに橿原という地名はない」と記されています。）

三、かぐや姫は葛木国のお姫様？

ここでもう一つ、かぐや姫について面白いお話を紹介します。

初代神武天皇から数えて九代目の天皇が開化天皇になるのですが、その開化天皇の血筋に「古事記」には「迦具夜比売命（かぐやひめのみこと）」という女性が登場してきます。

この迦具夜比売命こそが「かぐや姫」のモデルではないかというのです。たしかに、その読みも「かぐやひめ」と同音です。父は大筒木垂根王（おおつつきたるねのきみ）、開化天皇の孫にあたります。つまり、迦具夜比売（かぐやひめ）は、開化天皇のひ孫にあたるわけです。「古事記」には更に、迦具夜比売命の叔父として讃岐垂根王（さぬきたるねのきみ）が登場してきます。そうなると、物語の「かぐや姫」の育ての親「讃岐造（さぬきのみやつこ）」と歴史上の「讃岐垂根王」

橿原市　畝傍山北東の麓にある神武天皇陵

の類似性が出てきて、ますます「かぐや姫」モデル説が濃厚になってきました。

「古事記」にはその迦具夜比売命が、今度は第十一代垂仁天皇の妃の一人として再登場してくるのです。

第十代崇神天皇をはさんで、迦具夜比売命がその前後に二度登場してくるのです。しかも、この十代崇神天皇のとき、何か大きな変革があったように感じられます。

天皇のお名前（諡号）を見ていると、「神」がつく天皇が三人おられます。

「初代神武天皇」「第十代崇神天皇」「第十五代応神天皇」、この三名の天皇以外は、百二十五代の今上天皇に至るまで、誰一人「神」のつく天皇はおられないのです。しかも「初代神武天皇」が「始馭天下之天皇」、「第十代崇神天皇」も御肇國天皇、ともに漢字こそ違え、「はつくにしらす すめらみこと」と呼ばれているのです。つまり、二人ともに「日本の国をはじめた天皇」だと言われているのです。

崇神天皇王朝の都があったという磯城瑞籬宮（桜井市金原）

そこで出てくるのが、十代崇神天皇以降が実在であって、九代までは架空の天皇だという考え方です。

たしかに、この頃の天皇の寿命を考えると、神武が百二十七才、五代孝昭天皇が百十四才、六代孝安天皇が百三十七才と、化け物的に長生きしています。架空だと言いたくなるのも無理はありません。ところが十代崇神天皇も百十九才、十一代の

垂仁天皇も百三十九才、十二代景行天皇に至っては百四十三才と、実在だと言われる十代以降も、やたらと長生きなのです。そして、この長生き傾向は第十六代仁徳天皇（百四十三才）まで続きます。

これについては、第三十三代推古天皇の時代に中国から「暦」の思想が入ってきました。推古十二（六〇四）年のことですが、この暦の考え方が反映していると思われます。暦の考え方のもとになるのが六〇進法であり、十干十二支と五行陰陽説です。詳しい話は抜きにして、その考え方のなかに「辛酉革命説」というものがあります。辛酉、つまり六十年に一度巡ってくる「辛酉」の年は、ものごとが改まる「変革」の年だという考え方です。

この考え方では、干支が一周する六〇年を一元とし、これを二一倍した一二六〇年を一蔀とし、一蔀した辛酉の年には大革命があるとします。

そして、推古天皇の九年がこの年に当たるとされ、そこから一二六〇年前の、西暦で言えば紀元前六六〇年こそが、日本のはじまりの年でなければならないとなったのです。

そこへ知られている「天皇」を当てはめていきます。寿命が分かっている天皇の歳は改竄できないので、それ以外の天皇は、やたら寿命が長くなったという次第です。

少し話がややこしくなってきましたが、何が言いたいかというと、架空の天皇をつくり出すなら、もっと人数を増やし、現実的なものにすることもできたはずです。それを増やしも減らしもせず不自然に天皇の寿命を延ばしたのは、まさに、その実在を否定できなかったせいではないでしょうか。

神武天皇、崇神天皇、二人ともに日本を創始した天皇であり、その間の八代の天皇も実在したということです。

結論から言ってしまうと、まず「神武天皇」が、半島から九州を経て葛城地方に進出し、「土蜘蛛」と呼ぶ土着勢力を制圧し、征服王朝としての「葛城王朝」

をつくりだしました。

そこへ後発の、やはり半島から進出してきた「崇神天皇」が、「葛城王朝」を滅ぼし「大和王朝」を曽我川の東に打ち立てた。それが「磐余」として大和王朝の聖地となった。

さらに十五代応神天皇も、河内を中心に勢力を築いた征服王朝だと考えてよいのではないでしょうか。

神武、崇神、応神――この三代の天皇によって古代日本がつくりあげられ、かぐや姫の物語とは、その王朝交代劇の狭間に生まれた悲劇が背景になっているように感じてなりません。

つまり「迦具夜比売」は、崇神に滅ぼされた葛城王朝の最後の血筋ということになってきます。

その大和王朝の二代目、葛城王朝から数えて十一代目の垂仁天皇が、未だ反抗的な葛城氏の懐柔策として「迦具夜比売」を妃に迎え入れたのか、もしくは生き残った葛城氏が大和朝廷への服従の証として「迦具夜比売」を妃として後宮に入れようとしたのか、そのどちらかではないでしょうか。

その辺の事情を、中津攸子さんは、その著「かぐや姫と古代史の謎」で次のように語っておられます。

> 開化天皇の周辺に起こった政変を私は次のように考えます。
>
> 開化天皇が崇神天皇によって滅ぼされた時、開化天皇の兄である大彦命、子の比古由牟須美命、孫であり、迦具夜比売命の父である大筒木垂根王等は戦死なり刑死なり、なんらかの変死を遂げたと思われます。
>
> まだ嬰児である迦具夜比売命は助命され、叔父の讃岐垂根王に引きとられ育てられます。

誉れ高い天皇の座を崇神天皇に奪われ、一族は滅亡し、父も兄も戦乱で失った悲しみと、いたいけな迦具夜比売命の幼くして翻弄されている痛みとを思い、叔父である讃岐垂根王は心から大切に迦具夜比売命を育てたことでしょう。

やがて姫が成人すると、讃岐垂根王は葛城王朝の血を新しい日本の統治者に注ぐべく、また迦具夜比売命の栄達や幸せをも考えて、迦具夜比売命と新王朝の天皇とが結ばれることを望んだものと思われます。

全くの好意と葛城王朝の血を永続させるために。しかし父も祖父も場合によっては母さえも奪っていった新王朝に仕える人々や、天皇にかしずくことは亡き両親への激しい思慕を抱く迦具夜比売（かぐやひめ）にできることではなかったのでしょう。

両親を死へ追いやった一族の流れを汲む人に嫁ぐことは、人間である迦具夜比売命にとっては死ぬことよりはるかに耐え難かったことでしょう。

古事記には、迦具夜比売命は垂仁天皇に嫁ぎ袁邪弁王（おなべのきみ）を産んだとありますが、父をはじめ多くの人々を殺害された悲しみを深く胸に秘めている迦具夜比売命が、どうして敵方の垂仁天皇に嫁ぐことができましょう。

事実は、迦具夜比売命は妃にと求められながら応えることなく自害し、あの美しい月の世界へと永遠の旅立ちをしたのだと思われます。その伝承を作者は知っていたのでしょう。

この迦具夜比売命の深いいたみと、人の力ではどうするすべもない非情な世の変遷とが作者の心を動かして、竹取物語を生む一つの要因となったのだと思われます。

ですから、迦具夜比売命が垂仁天皇に嫁し、袁邪弁王（おなべのきみ）を産んだという記録は、葛城王朝と大和朝廷の断絶を結ぶための後世の操作であると思われます。

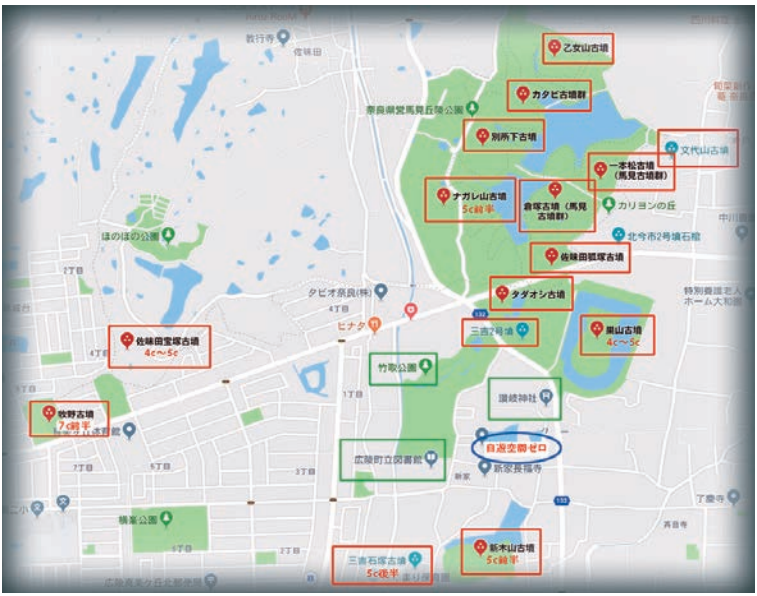
以上、「かぐや姫と古代史の謎」から引用させていただきましたが、この「本」と私の住む「広陵町」との間には、「かぐや姫」を介して次のような深い関わりがあります。

この本の初版が上梓されたのが一九八〇年のこと。以降品切れ状態が長く続いたようですが、一九九四年になって、当時広陵町のまちづくり振興課の吉村元伸さん、宮田宏さんが、作者である中津攸子さんのもとを訪ね、「かぐや姫」による町の活性化を提案され、これがきっかけで十四年ぶりの再版が実現されたという経緯があります。

そのことはさておくとしても、数ある「かぐや姫」を扱った本の中でも、「かぐや姫」を歴史上の人物として、その悲しみを浮かび上がらせた、実に良くできた本であり、一読をお勧めして、この稿を終わらせていただきたいと思います。

（文責　桐生敏明）

讃岐神社・竹取公園周辺の古墳



数ある古墳の中に、迦具夜比売（かぐやひめ）の古墳があるかもしれません。

ナガレ山古墳

三吉石塚古墳

佐味田宝塚古墳

新木山古墳

牧野古墳

巣山古墳

大伯皇女と中将姫 ―巫女から尼へ―

一、中将姫のものがたり

中将姫のお話をご存じでしょうか。葛城やその周辺に住んでいる人なら誰でも知っているお話なのですが、この地域を離れると意外と知っている人は少ないようです。

白雪姫のお話はご存じの方が多いと思うのですが、中将姫のお話の前半は、まるで白雪姫のお話しそのままなのです。だからといって「これって、白雪姫のパクリだ」なんて言わないでください。というのは、白雪姫のお話が登場するのは、十九世紀、グリム兄弟の「グリム童話」。ところが「中将姫」はというと、八世紀の天平時代を生き、奈良の当麻寺に伝わる「当麻曼荼羅」という刺繍で仏の世界を織り上げたとされる人物なのです。しかも、このお話は説話として永く語り伝えられ、鎌倉時代の当麻寺の縁起「当麻寺流記」で文章化されているんです。つまり、白雪姫よりも、ざっと三〇〇年以上も前に読み物になっているんですから。

この本でも、大阪芸大デザイン学科の津村凪咲さんが、現代風にアレンジして「中将姫物語」を楽しく絵解きしてくれています。

でもまずは、中将姫のお話をかいつまんで説明し

ておきましょう。

奈良に都があったころ、右大臣　藤原豊成は、「紫の前」という美しい妻をむかえ、仲むつまじく暮らしていました。二人は長谷寺の仏様に「どうか子どもが生まれますように」と願をかけ、やがてかわいい娘「中将姫」を授かり、大切に育てます。

親子は幸せに暮らしていましたが、しかし「中将姫」の母が重い病にかかり、やがて死んでしまうのです。

中将姫が剃髪したというカミソリ

豊成は、二番目の妻に「照日の前」をむかえました。「照日の前」は美しい人でしたが、嫉妬ぶかく、自分より美しく、しかも誰からも好かれる「中将姫」が目障りでたまりません。大声でしかりつけたり、いじわるをしたり、あげくは「あの子さえいなければ……」と、豊成が地方赴任で留守にする時を狙い、家来に命じて、姫を殺させようとするのです。

しかし、殺害を命じられた家来は、素直で愛らしい姫をとても殺すことが出来ません。そこで「照日の前」には、山中に連れて行き殺したと報告し、その実、姫を山奥にかくまい、妻と二人で育てることにしたのです。

地方の赴任先から帰ってきた豊成は、姫が死んだと聞かされますが、ある日、山で狩りをしていて、死んだと思っていた娘に再会することになります。家来からすべてを知った豊成は、さっそく姫を都へ連れて帰ろうとしますが、姫は、亡くなった実母との別れる苦しみや悲しさ、意地悪な継母でさえ、抑えきれない心ゆえに苦しさを抱え込んでいる、そんな人間の業の深さ、悲しさを嘆き哀れみ、それら人々の心とともに自

当麻寺蔵「中将姫物語」絵解きの一部

分自身をも供養したいと当麻寺で尼となる決心をするのです。

如何にして、人はその苦しみから救われるのか、そんな寺での自問自答の日々、一つの声が姫の心に響きます。

「蓮の茎を集め、その糸を紡いで曼陀羅を作りなさい」と。

こうして苦労の末に「当麻曼荼羅」を織り終えた姫は、仏に迎えられ、母の待つ世界へと旅立っていくのです。

ざっと、こんなお話なのですが、中将姫と「当麻曼荼羅」に思いを向けていると、もうひとりの女性の姿が思いの中に浮かび上がってきます。

それが、中将姫よりさらに古い時代を生きた大伯皇女、そう、前章でも取り上げた悲運の皇族・大津皇子のお姉さんです。

大津皇子と中将姫を結びつけた作品には、折口信夫さんの「死者の書」があまりにも有名ですが、「死者の書」を読んでいると、折口さんも、中将姫と大伯皇女のイメージが深く重なっていることをどこかで感じておられたのでは……そんな風に思えてしまいます。

二、神さまの中央集権

少し前章の「大津皇子」のお話を思い出してください。大伯皇女と大津皇子の兄弟は、天武天皇を父に、大田皇女を母に生まれました。大田皇女には妹の鸕野讃良皇女がいますが、二人ともに天武天皇に嫁いでおり、妹と天武の間には、大津皇子より一歳上の草壁皇子が誕生しています。

本来なら大田皇女が皇后になり、その子、大津皇子が、天武の皇太子となるはずでした。ところが大田皇女は早くして亡くなり、大伯皇女と大津皇子の姉弟は、後ろ盾を亡くしてしまうのです。

しかも叔母である鸕野讃良皇女は、母のような美しくやさしいタイプではなく、政治力もあり、夫とともに壬申の乱を戦い抜くような権力志向タイプの女性です。夫とともに近江朝を倒し、皇后として権力の座についた時点で、彼女にとって大津皇子は邪魔な存在になってきました。こうして大津皇子の悲劇が起こるのですが、これについては前章の「大津皇子と持統女帝」を参照していただくとして、ここでは大伯皇女についてお話を進めていきます。

こちらこそ大津皇子の墓ではないかと言われる鳥谷口古墳とその周辺

天武天皇は、壬申の乱に勝利し飛鳥浄御原宮に都を営むや、戦後処理にかかります。最重要課題が豪族らの中央集権化です。天武は、その方法として豪族らが祭る神々の中央集権化を、まず計りました。

戦勝は東海の豪族たちの力があったからこそです。そして、彼らの崇拝する太陽神、天照大神の加護があったからこそ戦いに勝てたのだと、天照大神を国家神として祀り、その下に各豪族の神々を、天孫降臨の時に付き従った神々を「天つ神」、土着の神々を「国つ神」として、神さまの中央集権化をおこなったのです。

このため、国家神である天照大神のお世話をする女性が皇族の中から選ばれることになりました。斎宮制

度がスタートすることになったのです。

では斎宮とは何でしょうか、少し前、僕が斎宮制度について書いた紀行文がありますので、まず、それを紹介させてください。

三、初めて斎宮となった大伯皇女

伊勢に仕事で出かけることがありました。

旧伊勢街道を息子の運転する車でドンドン走り、櫛田川を越えた辺りで「斎宮の森」「斎宮歴史博物館」「斎宮歴史体験館」を示す表示板に出くわしました。

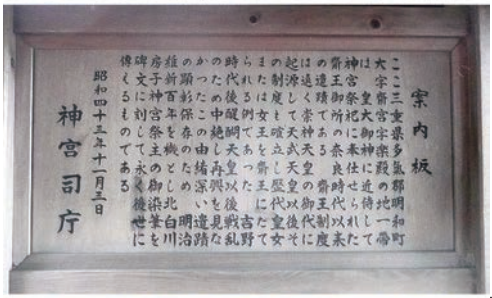
その表示を見るなり、それが気になって仕方がないのです。息子に「悪いけど、ここへ寄ってよ」と頼み込み、道を右折し、一路、斎宮の森を目指すこととなりました。

斎宮は、「さいぐう」とか「いつきのみや」と読みますが、では斎宮とは何でしょうか。一頃の僕は、近世の日欧交渉史に興味を抱き、キリスト教を中心とした文化摩擦のことばかりほじくり返していました。それも「孤児たちのルネサンス」を書き上げたことで、ひとまず自分の中では決着がつけられるようになったのですが、その後に登場したのが、関東から関西へ帰ってきて落ち着いた引っ越し先、「北葛城郡広陵町馬見」という場所です。

復元された齋宮の10分の1模型

日本という国が成立した舞台、つまり欽明、敏達から推古を経て天武に至る古代史のまっただ中へ降

り立った、そんな感じなのです。散歩コースにある牧野古墳は敏達の息子・押坂彦人大兄皇子の墓と言われています。同じく散歩コースの新木山古墳、その近くには十市皇女の墓があると言われる「赤部」、高市皇子の墓と言われる見立山古墳（見立山近隣公園）。行くところ行くところが、古代史の、しかも日本という国が成立した時代の舞台となった場所。法隆寺は自転車で三十分、飛鳥は自転車で一時間半、



斎宮の森

卑弥呼の墓と言われる箸墓古墳や大神神社、それに元伊勢と言われる檜原神社へは自転車で一時間。二上山登り口へは自転車で三十分。そんな場所にいて古代史に心が向かないわけがありません。

特に二上山と、そこに眠る大津皇子。そうなんです、大津皇子について語ろうとすると、どうしても出てくるのが、大津皇子とは同母の姉・大伯皇女。彼女も伊勢の斎宮でしたが、大津皇子が謀反の罪で刑せられたため、斎宮の任を解かれました。そんな彼女が遠く伊勢の地で、刑死した弟を思って歌ったのが、「うつそみの人なる我や明日よりは二上山を弟と我が見む」の歌。二上近辺には、この歌を彫った石碑がい

葱華輦（そうかれん）という輿（こし）

ろんな場所に置かれています。

恥ずかしながら、斎宮については、皇室の女性が任じられるんだろうぐらいの知識しかなく、場所も漠然と伊勢神宮の中にあるんだろうか？そんな按配で、本当のところは何も知らないのが実情でした。そればかりか斎宮の名前すらも、それに対する思いも、いつの間にか意識の底のほうに深く沈んでしまっている状態です。それが伊勢に来て、「斎宮の森」の標識に触れ、いきなり意識の表面に噴きあがってきたのです。

斎宮跡に文部省が立てた説明表示がありますが、これによると、「斎宮跡は、斎王の御殿とその事務を取り扱った役所の跡」だといわれ、「その創設は遠く飛鳥・奈良時代」にさかのぼるらしい。

では斎王もしくは斎宮と呼ばれるのはどんな役割で、どのようにして選ばれたのか。中野イツさん著すところの「斎宮物語」によると、「幼少の皇女から、うら若き皇女まで、六十有余人の高貴な媛君が、伊勢の海辺近くの、穏やかな風光の地において、ひたすら、神に奉仕する清浄な日々を送られた」と言います。

つまり天皇に代わり、伊勢神宮に仕えるため都から派遣される未婚の皇女が、斎宮とか斎王と呼ばれる存在と言うことになります。

斎宮制度は、先に登場した大津皇子の姉・大伯皇女のときに確立し、それ以降、最後の祥子内親王までおよそ六百六十年間続いたと言われ、最年少が二歳、最年長が三十歳であり、内親王から選ばれるのが普通ですが、内親王のない時には、親王の王女がなられたと言います。天皇が代わるごとに斎宮も交代しますが、その多くは未婚の内親王または王女の中から占いに当たった方が斎宮となったようです。斎宮に選ばれると、

宮中の一箇所に初斎院が設けられ、ここで身を清め、斎宮にふさわしい知識を身につけることとなります。

右ページの写真は葱華輦という輿で、斎王はこの輿に乗って、鈴鹿峠を越え、都から伊勢の地へやってきました。

斎王は、普通は天皇の代替わりで退下し都に帰るか、両親のどちらかが亡くなったとき「退下」し都に帰ることになりますが、先に掲げた大伯皇女は、弟・大津皇子の罪により解任されています。このような場合「事故」として都に連れ戻されるのですが、このほかにも斎王が男女関係を持ったときも、やはり「事故」として都に連れ戻されるようです。

斎王が無事任務を終え帰るときは、「退下」といって伊勢に群行した道を行列を整え帰るのですが、「事故」で連れ戻される場合は、別の道を密かに帰らねばならなかったと言います。

斎宮御所内で遊ばれた貝合わせ

四、斎宮を退下した大伯皇女

では次に、大伯皇女の人生を、分かっている範囲で年表風に記してみます。

六六一年　天武天皇を父に、大田皇女を母に生まれる。名前の由来は、筑紫に向かう船が岡山県の大伯にさしかかった時に生まれたからだと言われる。

六六三年　弟・大津皇子が生まれる。

六六七年二月　二人の母・大田皇女が亡くなる。

六七二年一月　二人にとっての叔父・天智天皇が崩御する。

同年七月　壬申の乱が起こる。

六七三年　天武天皇、斎宮制度を創始し、大伯皇女、初代斎宮に任ぜられる。

六七四年　大伯皇女、伊勢に下向し斎宮に入る。

六八六年十月　大津皇子、飛鳥において処刑される。（この少し前に、大津皇子、男子禁制の斎宮に姉のもとを訪ねている。）

同年十一月　弟が謀反で処刑され、大伯皇女、事故として斎宮を退下させられる。

（十六年間の空白）

七〇二年一月　大伯皇女、薨去す。四十一歳か。

大伯皇女が退下してからの消息が不明です。死亡年月日は分かっていますが、どこで死んだのかも分かりません。ただ、こんなことが言われています。

平安時代の『薬師寺縁起』という文献に、大伯皇女は伊賀国名張郡に天武天皇の供養のために「昌福寺」というお寺を建立したというのです。

「大伯皇女は最初は斎宮なり。神亀二年（七二五年）をもって、浄原天皇（天武天皇）のおんために昌福寺を建立したまう。夏見と字す。もと伊賀の国名張郡にあり。」

しかも、この寺院が、天武天皇の供養のために建立されたというのは表向きで、実は大津皇子の冥福を祈るためだとする説があるというのです。

ただ、『薬師寺縁起』は、昌福寺の創建年を神亀二年（七二五年）としています。七二五年だとすると、大伯皇女が亡くなって二十年以上も経っているのです。

年代が間違っているのか、この考証はさておき、ここで問題にすべきは大伯皇女が発願して寺院を建立したという一事です。大伯皇女は、斎宮に選ばれた皇族です。斎宮とは、天照大神のお世話をする、いわば神事を司る巫女のトップにあたる人間です。それが天武天皇供養のため仏教寺院建立の発願をしたというところが引っかかるのです。

たしかに神仏混淆という言葉もあるように、仏教と神道、どちらが「国家護持」の効き目があるかが

問題であり、特に区別をすることもなく境界線も曖昧な時代ではありました。

では、この時代、斎宮であった大伯皇女に、仏教思想が、どんな影響を与えたのでしょうか？

少し時代を戻し、仏教が導入されるまでの「巫女の役割と文化」について考えてみることにします。大伯皇女や、その延長線上にある中将姫の心を垣間見る手がかりとなるかも知れません。

貝の腕輪（上）と腕輪を多数装着した腕（下）

五、巫女の時代

巫女とは

古墳時代初期には、二つの石室を持つ古墳がよく見られます。それら一方の石室には「ゴホウラ」や「イモガイ」の貝輪を右手に多数装着した人骨が発掘されるケースが多くあります。

この貝輪は女性が腕にはめる装身具なのですが、それらを子供のときから右手に多数装着した人物というのは、通常の労働をしなくても良い女性司祭者でありました。

そしてもう一方の石室に葬られているのが男王である軍事的指導者です。

つまり一つの古墳に「神事を司る女王」と「軍事を司る男王」が共に祀られているわけです。これが後期古墳になると夫婦が一つの石室に祀られるケースが出てきますが、この頃は夫婦でなく、姉弟ある

いは兄妹というペアで祀られています。

このような形態を「姫彦制」というのですが、このような古墳に祀られるのは、いわば巫女と言っても女王と呼ばれるトップクラスの女性達です。

もちろん、その下に仕える巫女達も存在したわけで、以下は、そんな巫女達の姿を見ていくことにしましょう。

巫女病と沖縄

巫女病という病があるそうです。思春期の女性に多く現れる精神性の疾患で、沖縄に多いと聞いています。統合失調症の一種で、神の声を聞いたり、自分とは違う人格があらわれたり、俗に言う神がかり的な現象に悩ませられ、沖縄では、これを克服すると立派なノロになるのだといいます。

「精神病」と「沖縄」がなぜ……最初そう思いましたが、調べていくうち、県外に比べ沖縄に精神病患者が多いのは、「宗教」と「精神病」というものが密接な結びつきにあり、そのことと関係しているらしいということがおぼろげながら見えてきました。つまり沖縄という宗教的な土壌は、霊的に過敏な女性たち、巫女的な人たちを多く生み出してきたということです。

そんな霊的に敏感な人たちが多く存在するということと、いわゆる精神病といわれる人たちが多く存在するということが比例しているのが沖縄という精神風土のように思われます。

ただ「沖縄海洋博」が開催されるまでの沖縄では、精神的に不安定な女性たちを特別視したり、隔離したりするということがなく、集団の中でごく普通に生活し、普通に治癒していく人も多かったということのようです。

ところが沖縄海洋博が開かれるということになり、皇太子が沖縄を訪問されるということが決まったときに事情が変わってきました。今まで小集団の中で生活していた、そういう精神的に不安定な人たちが、

「このままではまずい」と、精神科のある病院に収容されることになったらしいのです。今ある病院だけでは足りないので、新設の精神病院が数多く誕生したとも言われています。

なぜ、こんなことを書くかというと、古代でも同じことが起こっていたと思うからです。今以上に、古代は神とか霊とかに敏感な時代でした。女性は多かれ少なかれ、家庭とか地域という小集団の中で巫女的な役割を果たしていたようです。

鳥装の巫女（唐古・鍵考古学ミュージアム）

そのなかでも特に霊的に敏感な人たちがいました。この人達は、思春期に「巫女病（みこやみ）」と言われる症状を発症し、これを乗り越えて巫女となり、「部族」という共同体に受け入れられ祀り上げられました。乗り越えられなかった人たちは狂人となって、それでも部族の中で共同体の一員として養（やしな）われていたと思われます。

巫女の役割

では、村あるいは部族、あるいは国家という共同体の中で、巫女（みこ）はどのような役割を負（お）ってきたのでしょうか。

①死者を神へと導く

日本の古代で「神」といえば、古くは自然そのものを崇拝するアミニズムが盛（さか）んでしたが、そこへ渡来系の人たちが増えてくるにつれ、先祖を神と祀ることが多くなってきました。

渡来（とらい）系の人たちが村の構成要因の主体になってくると、死者は、村はずれに葬（ほうむ）られるようになりました。それ以前は村の中心の広場に死者を葬る場所があり

ました。発掘された遺跡を見る限り、縄文人は死者を中心に、それを取り囲むようにして生活していたようです。先祖に護ってもらおうという思いがあったのかも知れません。その名残りでしょうか、先祖を神と祀る信仰と一体となり、やがて氏神という共同体の神が生まれ、それが共同体を守っていくという信仰が芽生えてきます。

沖縄では、「人家相継して七世に及べば、必ず神を生じて尊信す」と言われており、死んだ先祖の霊魂は、相当の年月と複雑な儀式を通して「神」に進化すると思われていました。

ただ放っておいて年月が経てば勝手に「神」になるというものではありません。その霊魂を指導し、神へと進化させる人間が必要になってきます。その儀式を執り行うのが巫女の仕事でもあったようです。

同様に一族のものが死ぬと、先祖神の許へ送り届けるのも巫女の役割のようでした。黙っていてはどこの馬の骨か分からぬ。そこで「いついつ死んだ某は、あなたの何代後の子孫でありますから、迎えていただきますようお願いいたします」、恐らく、そのようなことを言上げしたうえで、目印のための家印を付けて送り出したようです。この家印をつくるのも巫女の仕事でしたが、この家印が後々、家紋として発展していきます。

② 神の託宣を聞く

高天原に在す神々を地上に降し、その神託を聞くことは神祭りを執り行う指導者として女王（巫女王）の重要な仕事でありました。そして、その神を降ろすために次の二つの方法があったといいます。

一つの方法は、蘿（ヒゲノカズラの古名）を襷掛けにし、真拆の葛を髪に挿したうえで、笹の葉を手に持ち、空の桶を伏せて、その上に乗って踏み轟かし、跳躍して神憑りの状態に入るというものです。

また、もう一つの方法は、まず吉日を選んで斎宮に入り、琴を弾かせ、審神（託宣を読み解く人）に

問答体を以て託宣を聞かせました。その期間は七日七夜にわたり、託宣は韻文的な律語を以てなされたといいます。

分かりにくいので少し解説を加えておきます。一つの方法は、踊り狂うことで神憑り状態になる方法です。その小道具として、ヒゲノカズラを襷にかけ、ツルマサキという植物を髪に挿し、笹の葉を手に持って、空の桶の上に飛び乗って踊り狂いトランス状態に入っていくものだそうです。

もう一つの方法は、吉日を選んで斎宮に入ります。

琴を弾く男性の埴輪

斎宮は後々には、伊勢神宮に奉仕した斎王の御所を言うようになるのですが、この時代にはそのようなものはなく、祈りの場所、祈るための部屋ぐらいに考えておけば良いでしょう。

その場所で琴を弾かせます。琴と言っても今のような大きなものでなく、手で持てるような小さなもの。これは鈴の場合もあるし、梓弓と言って、弓の弦を鳴らす場合もあります。そのうえで審神を同席させ、問答形式で神の託宣を聞くというものです。その場合、託宣は唄の形式で語られます。この唄の形式が後々、和歌へと発展していくことになるわけです。

③予言者としての巫女

巫女の最も重大な役割が予言です。

天候、戦争、狩猟、疾病、航海等々、巫女が、あるいは巫女王が神聖なものとして崇拝されるのは、この予言をするためであり、これを完全に遂行するために、呪文を唱えたり、神憑りの状態に入ったり

するのです。

この方法は、霊媒者としての役割と重複しますが、預言もまた唄の形式で伝えられるため、歌謡体の文辞を綴ることが、巫女の修養の一つになっていきました。

④ 戦争と巫女

巫女は戦争の勝ち負けを占うだけでなく、戦争にも参加しました。

後の古代豪族に物部氏という神事を司った一族がありますが、「物部」は「もののふ」という言葉に転嫁するように、物部氏は同時に軍事氏族でもあったのです。その物部氏に「八十少女」という巫女集団がありました。「八」は日本では最高数とか満数ということですから、実際に八十人いたということでなく、たくさんいたという程度に考えておけば良いでしょう。

水祭りを再現した模型（橿原考古学研究所）

この巫女集団は、戦争にあっては、戦場に臨んで兵士達の背後に布陣し、戦勝を祈り、口々から「フーッフーッ」と吐息して敵陣に吹きかけます。これによって相手を呪詛すると共に、味方の士気を鼓舞したというわけです。

⑤ 農業と巫女

灌漑用水の例でも見ましたように、米の収穫高イコール国力になるのですから、国にとっても農業は最も重要な事業となります。灌漑用水のため溜池をつくるのはもちろん、「穀物神」、さらには米の収穫を左右する天候を司る神々、たとえば「水は広瀬神」、「風は龍田神」、「雨は丹生神」を祭り、これら神々の荒ぶることを恐れて、専らそれを鎮めるべく呪術

的祭儀が工夫されました。時には荒ぶる神を鎮めるために人身御供さえ辞さなかったようです。

この祭儀に、巫女王や巫女が関わったことはもちろんですが、巫女自体が人身御供にされることもあったと思われます。ただし、巫女が犠牲になった事実は、文献をはじめ考古学的資料、民俗学的資料をもっても証明することは出来ません……。

⑥医者としての巫女

卑弥呼の例にも見られるように、初期道教には、懺悔によって病を癒やすという医術があり、これによって「太平道」の教祖・張角が人心を収攬し「黄巾の乱」を起こしました。黄巾の乱は鎮圧されたものの、これによって中国国内は乱れ三国鼎立の時代を迎えます。このとき発生した中国難民のうち日本に移住した者が少なからずありました……。

時を同じくして、百余国が争う倭人の国が、その一国である邪馬台国に、女王卑弥呼が忽然と登場することによって統一されたのです。

そこで卑弥呼一族は、中国からの帰化人ではないか。灌漑技術と冶金技術、さらに医療行為によって、人心を掌握していったのではないかというのが僕の考えなのですが、こういった医療行為が持ち込まれる以前にも、病を呪いで治す行為のことを「クスル」（薬の語源）というように、神憑りによる医療行為が存在したことが明らかになっています。

そこで巫女による医療行為を見てみると、薬などは使わず、単なる祈祷か呪術によって「病」を癒やそうとするものと、祈祷と平行して薬となるものを与えるという方法がとられていました。その薬となるモノも、神に捧げたモノ、いわゆる「お下がり」を薬代わりにするモノと、純粋に薬草などを与えるモノがあったようです。

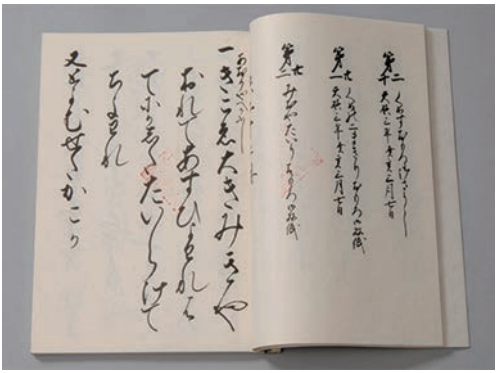
さらに古代人の遺骨に頭頂骨を穿たれたものがありますが、これは憑依などが原因の病に対し、医療を目的とした呪術として行われたようであり、その

施術は巫女によっておこなわれたのではないかと言われています。

⑦ 収税者としての巫女

税という字は扁の「禾」は稲を意味し、作りの「兌」は冠を被った人の意味。

即ち神に仕えた巫女が、民衆から稲を収めさせたのが「税」の字の起りだそうです。



おもろそうし

古代にあっては、巫女の収税は、神への「いやじり」の名で行われました。つまり神の保護を受ける為に捧げる誠意の発露として布帛や米などを納めたというのです。

このような経緯から、時が進み、「租・庸・調」の法が確立し、収税の官吏が設けられるまでは、巫女が主として徴税の職務にあたっていたと考えられます。

ここでまた沖縄の話なのですが、沖縄のオモロ（神歌）「しよりゑとのふし」の一節に、「かまへつで、みおやせ、あけしのの、おやのろ」というものがあります。

いとも頼りない訳ですが、「租税を積みましょう、あけしのの、大祝女に」という位の意味だと思うのですが……、要は、同地の巫女が租税を取立てて歩いたことを語ったものだというのです。

何かというと「沖縄」の話をいたしますが、それは沖縄には、内地の古俗が、そのまま化石化して残っていると言われているためなのです。

⑧ 航海の安全を祈る

航海の安全については「持衰」というものが「魏志倭人伝」に記されているので引用しておきます。

「倭の者が船で海を渡る時は持衰が選ばれる。持衰は人と接せず、虱は取らず、服は汚れ放題、婦人を近づけず、肉は食べず、まるで死んだ人間のようである。船が無事に航海できれば褒美が与えられるが、船に災難があれば殺される」と。

この場合、「持衰」とは「婦人を近づけず」とあるように男の役割で、巫女とは違います。僕自身、船には女性を「けがれ」があるから乗せないのだと理解していました。ところが、このような考え方は近世のモノであって、古代の航海では、この反対に、遠路の航海には、必ず女性を同船させる慣習となっていたようです。持衰が船艙に閉じこもり、船内の悪や汚れを一身に吸着させ、船を神聖な空間に保つ役割を果たしていたのに対し、巫女は航海の安全を祈願する役割を果たしていたのでしょう。

しかし、船が海難に遭えば、持衰は「不摂生をしたためだ」と殺されますが、そのとき巫女はどうなったのでしょうか……。

ところで旅の安全を願う思いは、洋の東西を問わず、どこにでもあります。それを誰が願ってくれるかと言ったとき、世界的に、それが女性であるときが圧倒的に多いのを感じます。

昔、仕事で何度かネパールへ旅行しましたが、ネパールの友人の家では、彼の家のお婆さんが巫女の役割を果たしていました。僕たちがネパールを離れ日本へ帰るときは、その友人の家に必ず招かれ、お婆さんが巫女として道中の安全を祈願してく

旅の安全を祈る儀式（ネパール）

額にティカを付けてもらう

れるのです。その儀式の最後には、赤いティカという小麦を練ったようなものを額に付けてもらい、これで儀式は終了します。ティカはすぐ落ちるのですが、その跡が赤く残り、額に赤い印を付けたまま日本へ向かうことになります。これはこれでネパール国内や空港では便利です。何をしてくれるわけでもないのですが、この印があると、役人はじめ、みんなが親切に接してくれるというわけです。

斎宮制度の誕生

邪馬台国が大和朝廷へと律令国家への道を歩み出すに伴い、土俗の中で発生した巫女達もいつしか国家体制の中へ組み込まれていきました。

律令国家という中央集権体制の中で、地方豪族の先祖神も、ともに国家という枠組みにすくい取られていきます。

国家神・天照大神を頂点とする神々の中央集権がなされ、地方豪族のまつる先祖神も「国つ神」としてその中に位置づけられていきます。

国家神道の誕生です。そして天照大神のお世話をするため、天皇の血筋の皇女が選ばれその任に当たるという斎宮制度が設立され、その初代斎王として大伯皇女が選ばれるのです。

しかし、この時代、すでに仏教が日本にも伝えられており、国家鎮護の役割は「仏教」と「神道」の二本立てでおこなわれるようになっていったのです。

六、仏教と巫女たち

さて、そろそろ結論に入ります。

沖縄の巫女病の箇所でも触れたのですが、巫女に

なるためには精神的なリスクを伴います。まかり間違えば狂ってしまうことも多いわけです。

古代において巫女の役割は大きく、敵を呪う、国家の未来を占う、病人を癒やす、雨乞い等の豊年を念じ、怨霊を鎮め、国家の繁栄を祈願する……どれをとっても過度な精神的負担を伴い、失敗すれば殺される場合もある訳で、非常にリスキーな仕事だったわけです。かといって何の保証もなく、廃人になれば捨てられる。トップクラスの巫女となるか、廃棄されるか、そんな過酷な世界に生きてきたのが、古代の巫女という存在でした。

崇仏戦争で聖徳太子が戦勝祈願をした大勝軍寺（八尾市）

土俗信仰の時代は、村などの共同体が、神憑りになった女性の面倒を見ていたようですが、国家神道の時代になって、このような巫女たちは使い捨て状態。精神に破綻を来した巫女など、いったい、誰が面倒を見るでしょう？

このような女性たちに救いの手を差し伸べたのが仏教でした。後の世になると、女人禁制だとか言われるようになりますが、日本に仏教が伝わった頃、命がけで仏教を広めようとしたのは女性たちでした。男たちが政治の道具、あるいは国家鎮護の道具として扱っていた仏教を、精神面から受け入れたのは女性たちだったのです。

善信尼という女性をご存じでしょうか。

敗れた物部守屋の首塚（大勝軍寺）

初瀬川・仏教伝来の地

六世紀後半、帰化人である司馬達等を父として生まれ、十一才で日本初の尼僧となった女性です。

時代は、仏教受容派の蘇我氏と、反対派の物部氏が争っており、やがて国内を二分する崇仏戦争へと発展していきます。

物部氏は、仏教受容派への見せしめとして、この十一才の少女善信尼と、続いて得度した二人の少女、恵善尼と禅蔵尼の三人を捕らえ、海柘榴市の駅舎で半裸にして鞭打ちの刑に処します。

少女たちの仏教への思いは、これで萎えるどころか、ますます燃え上がり、ついには仏法を求めて百済へ渡ることになるのです。

五八八年、善信尼、十五才。遣隋使が初めて派遣される十年も前のことなのです。

では、どうして女性なのかと言いますと、仏教受容時、日本側は「ほとけ」というものを、外来の「神」として捉えていたのです。神に仕え、神の言葉を伝えるのは、巫女という女性の役割だった——そんな風に捉えていた形跡があります。

しかし、女性たちが仏教に接してみて、そこに、精神面での「救い」という、日本の神々にはなかった思想に出会うことになります。

使い捨てのように国家に仕え、神々に仕えてきた巫女たちが、「女性でも救われる」、「極楽浄土へ生まれ変われる」という救いをそこに見いだすのです。

大伯皇女へ話を戻しましょう。

日本初の「斎王」として天照大神に仕えてきた大伯でしたが、弟・大津皇子が「謀反」という無実の罪で殺され、自らも「斎宮」を退下させられます。

世の無常をいやというほど味わった大伯の行き着いた心の拠り所が仏教でした。

無念の死を遂げた弟の苦しみ、同じように弟を死へ追いやった継母の苦しみ、そして自分自身の心の苦しみ、それらの心を癒やすために「ほとけ」という救いが、大伯には必要だったのではないでしょうか。

善信尼らが鞭打たれた海柘榴市

これは一人、大伯ばかりではなく、たくさんの巫女たちが行き着いた答えでもありました。

心を酷使する巫女の生活の中で、彼女たちは、「心を救う」という今までなかった考え方に出会ったのです。仏師が仏像をつくるように、巫女たちが、尼となって、また織り姫となって、刺繍で仏をつくり、刺繍で極楽の世界を描いていったのではないでしょうか。

飛鳥時代、日本で最初の造像は繍仏（刺繍の仏像）だったと言います。

中将姫が蓮糸を使い、一日で織り上げたという「当麻曼荼羅」は、実は錦の綴織りであり、刺繍のあらゆる技術が使われていると言います。それは手慣れた織子たちが何十人も、そして何十日にもわたってつくられたものではないか、と推測されています。

中将姫の伝説の背景には、大伯皇女の悲劇が投影されていると思われますが、同時に、たくさんの巫女たちの悲願が込められているように思えます。

仏教の到来とともに、「呪い」に、「祈り」にと精神を酷使し、豪族を支え、国家を支えてきた巫女たちも、心の救いを求めて「尼」へと変化していったのではないでしょうか。

（文責　桐生敏明）

お家に古墳!? in 御所市

水泥古墳（みどろこふん）は、西尾さんの邸宅内にあります。

約一〇〇メートルの間隔を隔てて存在する水泥北古墳と水泥南古墳を併せて、二基一括で昭和三十六年に国指定史跡に指定されています。

一五〇〇年ほど前の古墳で、今から一八〇年前にお家に古墳があることに気づいたそうです。普段は施錠されています。見学を希望される方は御所市観光協会にご連絡ください！

【水泥北古墳】

西尾邸内にある、直径約二〇メートルの円墳で両袖式の横穴式石室を有します。

石室は、全長一三・四m、玄室の長さ五・六m、同幅約二・九m、同高さ約三・三mの大規模な石室で、花崗岩の大きな石を用いて構築しており、六世紀中頃の築造だそうです。

現在すでに棺はないですが、元は石棺が安置されていたと推測できるそうです。また、副葬品などは知られていませんが、追葬時に瓦質円筒状の配水管を使用していました。

【水泥南古墳】

南古墳は六世紀後葉に築造された、直径二五mの円墳とみられます。北古墳に比べると規模は小さいですが、横穴式石室が南方向に開口しており、石室の全長は約一五m、玄室の長さ四・六m、幅二・四m、高さ二・六mです。玄室の床面には拳大の礫（れき）が敷かれていました。

石室のこの礫床の下部には排水溝が造られており、この溝は羨道部（せんどうぶ）を通って石室外に出て、さらに南方向に延びたのち東に曲がって谷の方向に続くことが判っています。

石室内には、玄室と羨道にそれぞれ一基ずつの家形石棺が置かれています。

特に注目されるのは、羨道にある石棺蓋の縄掛け突起で、小口部の縄掛け突起には蓮華文（れんげもん）があり、古墳文化と仏教文化の結合の一例として有名です。

平成七年度の調査で、高杯（たかつき）・瑞（はそう）・台付瑞（はそう）・台付長頸壺などの土器（須恵器）や、羨道にある石棺内から金銅製の耳飾り（耳環）が出土しました。

なお記事作成にあたっては、「御所市観光ガイド」を引用させていただきました。

御所市担当　楳原愛奈

所在地：御所市古瀬 904
問合せ：御所市企画部商工観光課
TEL: 0745-62-3001 FAX: 0745-62-5425

中将姫物語

CHUJO PRINCESS

THE BEAUTIFUL PRINCESS STORY

大阪芸術大学 デザイン学科　津村凪咲

むかしむかし
奈良に都があった頃のお話

右大臣の藤原さんは
ムラサキさんという
美しい妻と結婚し
仲良く暮らしていました。

なかなか赤ちゃんができない２人は〝可愛いBABYが産まれますように〟
と長谷寺の仏様に願いました。

やがて驚くほど美しい女の子が
産まれたのです。

名前はCHUJO姫。

MUMMYとDADDYは大切に
姫を育てました。

coming
Baby ♥

しかしムラサキさんは体を悪くしてなくなってしまいました。

姫はとても悲しみました。

やがて藤原さんは二番目の妻のテルさんと結婚しました。
そんなテルさんは
キレイでみんなに好かれる姫がとても嫌でした。

テルさんは姫にたくさん意地悪をしていました。
それなのに心がとてもやさしい姫は何も言わず
テルさんと暮らしていました。

館の者たちの話し声がいつものように聞こえてきました。

〝テルさんもキレイだけど
やっぱりCHUJO姫には
かなわないよねえ！〟

〝いかにも
いなくなったムラサキさん
みたいだねえ！〟

そんなウワサを聞いてしまい
さらに姫が嫌になります。〝あの子ったらなんなの…〟
という思いがだんだんと大きくなっていきます。

姫の歌声がほめられたときには
悔しくて仕方がありません。
〝姫は素晴らしいなあ！〟
そういって嬉しがるみんなを見ると
より姫がきらいになります。

藤原さんが地方へ出かけている間に
家来の六さんに＂姫を殺しなさい＂
と言いました。

藤原さんには
＂姫はチャラついた男と
一緒に家を出て行ったわよ＂
と言いました。

六さんは姫を連れ山へ向かいましたが
小さい頃から知っている可愛い姫を殺すことなんて絶対にできません。

もう我慢できずに
＂ごめんなさい＂と姫に全てを打ち明けました。

六さんは
姫の悲しそうな姿を見てかわいそうに思い
バレないように都へ戻り奥さんを呼んで
姫といることにしました。

こうして３人きりの寂しい山の生活が始まりました。

六さんと奥さんは、とても小さな小屋を建て
木の実をつんで姫と３人で暮らしました。
姫もなれない小さな手で薪をとり、
川の水をくんだりして過ごしました。

柔らかくキレイだった手はカサカサで硬く汚れて、
キレイだった洋服も汚れてしまいました。
からだも日に日に弱っていき六さんと女房も〝かわいそうに〟と
ため息をつくほどでした。

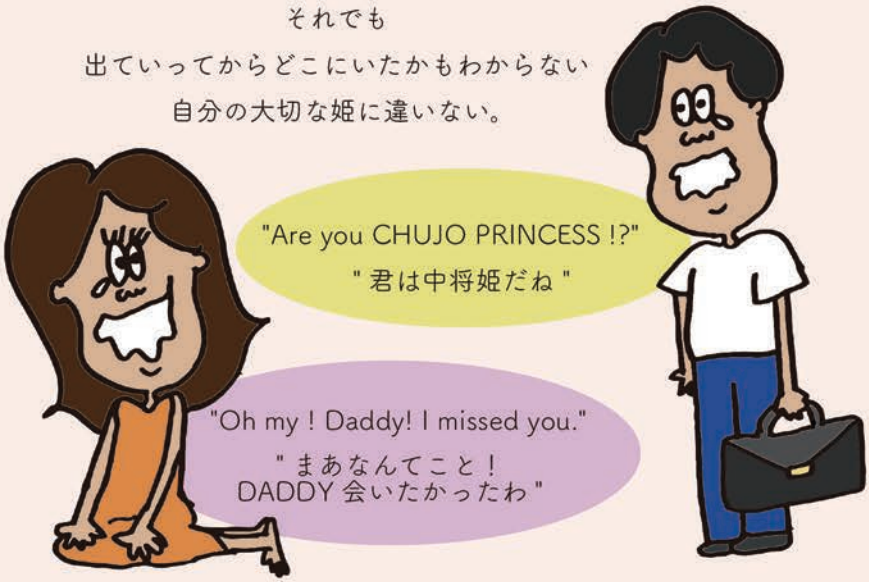
秋、厳しい寒さの山の冬
やがて３度目の春が巡って来ました…

今日は藤原さんが仕事をする日です。宇陀（UDA）までやって来ました。

ここは雲雀山（HIBARIYAMA）。
どんどん奥に入っていくといつの間にか道に迷っていました。

山で迷いどうしようかと悩んでいると、１人の女の子に出会いました。
"EXCUSE　ME？" そう呼びかけると、はっとしました。

変わり果てた姿でした。
それでも
出ていってからどこにいたかもわからない
自分の大切な姫に違いない。



六さんから全てを知った DADDY は
さっそく家に連れて帰ろうとしましたが
姫は首を振り
" もうお家には帰らないわ。
これからは仏 sama と一緒に暮すの。"
姫の想いがかたいと知った DADDY は
姫の願い通り大和の当麻寺へ連れて行ってあげました。

当麻寺に来てからは毎日祈り続けました。
" 仏 sama お願い。MUMMY に会わせてください。"
体は大丈夫かなと心配されるほど
一生懸命祈っていました。

ある夜、お祈りをしていると、どこからか声が聞こえて来ました。

" 寺中の蓮の茎を集め、
その糸で曼陀羅（MANDARA）を作るといいよ "

とても優しい声。あれはきっと仏 sama のお声だわ。

姫はたくさんの蓮の茎を集め、
一本一本糸をとっていきました。

21 日の夜

曼陀羅はついに出来上がりました。
かすかな光に照らされて天女（TENNYO）たちが踊っています。
うっとり見とれていた姫は、すぐ気がつきました。

織りこまれた人々のなかに、
静かに微笑む MUMMY を見つけました。
静かに差し出す MUMMY の手を握りしめると、
曼陀羅はまばゆい光を放ち始めました。

朝の光がお堂のなかに差し込んで来ました。

やわらかな光は姫の体を優しく照らし出しています。

MUMMY のもとへと旅立った姫の顔には
それはそれは
おだやかな笑みがうかんでいました。

おしまい

かつらぎさくたん日記

今回は、【長尾神社】に行ってきました。

周りには木が生い茂っていて自然！って感じでとても良い雰囲気。

奥まっている感じだけど、けっこう大きく立派な神社でした。さあさっそく入ろう！

神社の入り口には何故かカエルがいました。かわいいけど、なんでいるんや！

狛犬の代わりなのかな、と思いましたが狛犬もちゃんと別の場所にいました。

この神社には竜が住んでいると言われていたり、蛇を祀っていると言われていたり、カエルがいたり狛犬もいたり。

もうすっごい動物がいる神社だなぁと思いました。

長尾神社っていう名前も、蛇の尻尾を祀っている場所。という意味でついたみたいです。なるほど。

大阪芸術大学 デザイン学科　田中美羽

Paula（パウラ）のインスタ風かつらぎ

5

日本刀の貴重なお話を聞かせていただいたあとは、
みんなで「手紙カフエ」でランチをしました。
とっても可愛いレトロな空間でした。

かつらぎの郵便の歴史を感じられる場所です。
庭に、綺麗な切手の展示もありました。

私たちの質問にも答えていただき、
昔使われていた公衆電話なども見せていただきま した。
食事も全て美味しく、あたたかい人たちに囲まれて、
とても楽しかったです。もう1回行きたいな〜!!

大阪芸術大学 デザイン学科 **Palau Paula**

第八章

かつらぎから世界へ

大阪芸術大学 デザイン学科　鈴木將輝

金子みすゞ と 民芸品の店「和」 そしてネパール！

一、青いお空のそこふかく

「金子みすゞ」ってご存じですか？

青いお空のそこふかく、
海の小石のそのように、
夜がくるまでしずんでる、
昼のお星はめにみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。

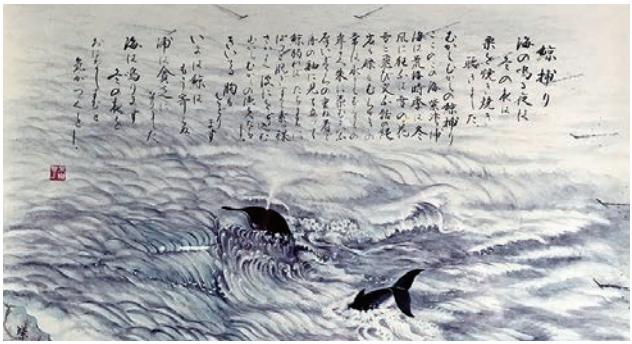
金子みすゞ記念館近くのモザイク画とJR仙崎駅

最近、テレビのコマーシャルでよく耳にするようになった、彼女の詩「星とたんぽぽ」のワンフレーズです。詩など縁遠い僕ですが、CMの朗読が耳に入ってくるなり、そこから流れるやさしい言葉の響きに、たちまち「金子みすゞ」のとりこになってしまいました。

そんな僕が「金子みすゞ」について更に関心を持つようになったのは、山口県長門市の「くじら資料館」へ取材に行ったときのことです。

資料館の壁に掲げられてある「鯨捕り」という額に、自然と目が行きました。

「海の鳴る夜は 冬の夜は、栗を焼き焼き 聴きました。
むかし、むかしの鯨捕り、ここのこの海、紫津が浦。
海は荒海、時季は冬、
風に狂うは雪の花、
雪と飛び交う銛の縄。」



たちまち、この言葉の響きが頭から離れなくなってしまいました。作者は？とみれば「金子みすゞ」とあります。瞬時にテレビのコマーシャルで流れていた「昼のお星はめにみえぬ」の一節が頭によみがえってきました。

このあと鯨の過去帳があるというので、向岸寺に取材に向かいましたが、ここでも「駆けてあがったお寺の石段……」という彼女の「かたばみ」という詩に出会いました。

向岸寺への坂道と金子みすゞの詩

「おまいりすませて降りかけて、なぜだか、ふっと、おもい出す。」

彼女の詩のフレーズが、頭の中をリフレーンします。

だめ押しとばかり長門に帰るバスでも、バスが仙崎という町にさしかかったとき、オープンしたばかりの「金子みすゞ記念

館」の建物が車窓に飛び込んできたのです。降りることもできず、ただすれ違っただけですが、以来、金子みすゞという女性が、僕の心の一角に根を下ろしてしまったようです。

二、民芸品の店「和（かず）」

それがです、意外な場所で彼女と再会することになりました。

民芸品「和」の植本茂さんご夫婦

この「かつらぎガイドブック」のネタ探しをしているときのことです。自遊空間ゼロによく来られる女性の方から当麻（たいま）寺の門前にある民芸品の店「和（かず）」のことを教えていただきました。この店が驚いたことに、全国で初の「金子みすゞファンクラブ」だと言うのです。

奈良の片隅が、金子みすゞ発信の原点……？

ことの真偽を確かめるべく、早速、当麻寺門前にある、民芸品の店「和」を訪問させていただきました。

入り口には筆書きで「金子みすゞ 奈良みすゞの和」という看板が出ています。

店に入ると、上品そうな奥さんに迎えられました。来意を告げると、アポなしの突然の訪問にもかかわらず、ご主人（植本茂さん）を呼んでくださり、お二人そろって、いろいろとおもしろいお話を聞かせてくださいました。

お二人が、金子みすゞのことを知るようになったのは、詩人矢崎節夫さんとの出会いがあったからだと言います。

もとは当麻寺門前で、相撲の祖と言われる当麻蹴速（たいまのけはや）にちなんだ「けはやの忘れもん」というオリジナルの佃煮（つくだに）などを販売していましたが、その店先へ詩人

の矢崎節夫さんが訪問されたのです。

矢崎さんと言えば、当時、無名だった大正の童謡詩人「金子みすゞ」を発掘し、世に送り出したことで有名な先生です。今では仙崎の「金子みすゞ記念館」の館長もされていますが、民芸品店「和」を訪ねられた頃は、まだ、無名だった金子みすゞを取り上げ、その童謡集「わたしと小鳥とすずと」を出版されたばかりの頃でした。

奥さんが、「普段は本嫌いな次男が、この本だけは勧めないのに読みますねん」と、感慨深そうに話されます。するとご主人が、「それからです、矢崎先生の金子みすゞ童謡集をこの店にも置くようになりました」と相づちを入れられます。

これが縁となり矢崎節夫さんとのつながりができ、金子みすゞ愛好者の会「奈良みすゞの和」が発足するに至ったというのです。

みつまた紙の現場で働くネパールの女性たち

三、ネパールみすゞ小学校

今では、その会員数も約二〇〇人となっていますが、その「奈良みすゞの和」で、何か社会に役立つことを……そう思ったとき出てきたのが、ネパールに学校をつくろうという動きだったと言います。その頃、ネパールに学校をつくろうという運動が日本でも広がろうとしていた矢先でした。ネパールは貧富の差が激しく、貧しい子供たちはインドに売られる、そんなことが問題にもなっておりました。

「金子みすゞ」から「ネパールの子供たち」へとつながったのです！

話をお聞きしたとき、本当にびっくりしました。

というのも、僕も前職の「大阪官報」時代、ネパールと関係したことがあります。お札の原料の「みつまた」、これが国内だけではまかないきれなくなっており、僕のボスである田中久雄氏が大蔵省印刷局（現国立印刷局）の勧めもあって、ネパールに自生するみつまたを扱いだしたのです。お金を寄付するより、ネパールで産業を興し、ネパール自体を少しでも豊かにしよう、ネパールでみつまた栽培農家を増やし、その利益で学校をつくろうと、「かんぽうネパール」という会社がネパールのパタンにつくられました。

二〇一六年十二月、田中久雄氏は、ネパール赤十字代表のプラダン氏から、ネパールへの多大の貢献を顕彰して賞状とケープが贈られました（写真上）。

その「かんぽうネパール」の責任者が、僕の官報時代の友人シュレスタ・ハリ君だったのです。今では、ハリ君は独立し「ネパーミ」という会社を興し、みつまた栽培や手漉き和紙の生産を通して、ネパールの女性や貧しい方々の仕事の場をつくり、一方で紙幣の原料を日本に輸出することでネパール全体を活性化させようと動き出しています。

シュレスタ・ハリ氏

この間、「奈良みすゞの和」に集う「みすゞファン」有志の方々も、ネパールの子どもたちのためにと「金子みすゞ小学校」を二校

民芸品の店「和」でひらかれた矢崎節夫先生お話し会

も、ネパールにつくっておられたのです。

「奈良みすゞの和」と、ハリさんの仕事が、知らず知らずのうちに同時進行していたようにも思います。この話を知ったとき、金子みすゞさんを媒介に、かつらぎ、ネパール、長門市仙崎（みすゞの故郷）がつながったと、強く感じました。

そんな次第で、「民芸品の店 和」で「矢崎先生お話し会」という催（もよお）しが開かれたときには、この席へ、ネパールのシュレスタ・ハリ君を連れていかずにはおれませんでした。

というのも、金子みすゞさんの詩集を、ネパール語に翻訳し、ネパールの子供たちに届けられないものかと思ったのです。

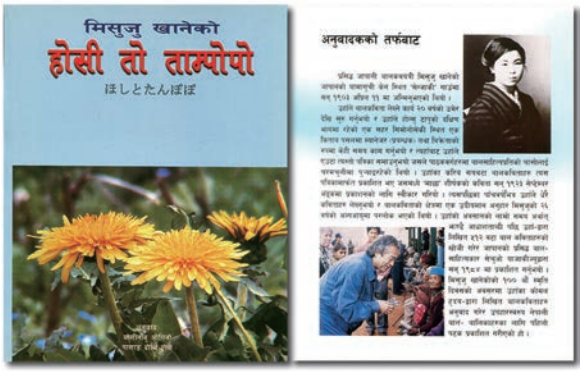
四、ネパール語「ほしとたんぽぽ」

「和（かず）」のご主人植本茂さんご夫妻のご厚意で、ハリ・

シュレスタ君を、詩人であり、金子みすゞ記念館の館長である矢崎節夫さんにつなぐことができました。

しかしその席で、ネパール語版の童謡集「ほしとたんぽぽ」は、すでに発行されていることを知りました。

それでも……という思いはありましたが、後日、「金子みすゞ顕彰会」から送っていただいた本を手にし、この本が五千部も作られたことを知った時、もう、その必要はないと感じた次第です。



しかし、金子みすゞさんを通じて、たくさんの善意と通じ合うことができました。これから先、「金子みすゞさん」と「ネパールの子供たち」、どんな展開をし、どんな芽が顔を出していくのか、本当に楽しみです。

当麻寺門前にある「民芸品の店 和」。そこは「みすゞの会」にとどまることなく、人と人をつなぐ場所でもありました。それも鳴り物入りの大仰な活動ではなく、ひっそりと、でも着実に……。

店のホームページは、「私共は今後も目に見えないものですが、人と人とのつながりを大切にしていきたいと考えております」と結ばれてありました。

※本文中に掲載した詩は「金子みすゞ全集」（ジュラ出版局）より使用させていただきました。

※民芸品の和
奈良県葛城市当麻一七八
TEL 0745-48-4552
営業時間は、午前九時三〇分～午後五時
定休日なし

「奈良みすゞの和」有志の方々がネパールのみすゞ小学校を訪問。画面中央に矢崎節夫先生、画面左には植本さんご夫妻の姿も見受けられる。

当麻寺門前にある民芸品の店「和」

国際理解セミナー

香芝市国際交流市民の会 グローバル香芝

バル香芝の誕生は、一九九四年から一年間、香芝市が主催して「国際理解セミナー」が開催されたことに端を発するのだといいます。といいますのは、そのセミナーが終了するにあたり、受講生たちから「このまま解散するのはもったいない、市と市民で残していこう」という声が上がったのです。それが「グローバル香芝」誕生のきっかけになったのだと言います。

当初は、「国際交流」といっても、香芝のどこに外国の方がお

一、香芝市国際交流市民の会「グローバル香芝」

香芝市国際交流市民の会「グローバル香芝」という市民団体があります。長ったらしいので「グローバル香芝」でお話を進めますが、その代表小椋宏子さんや、以前に代表をされていた神野俊幸さんにお話をお聞きする機会を得ました。

お二人のお話によると、グロー

現代表小椋宏子さんと神野俊幸さん

られるのかも分からない状態で、まずは大阪教育大学、白鳳女子短期大学の留学生たちと交流を持つことからのスタートでした。その後、地道な草の根的国際交流に取り組み、一九九八年には「世界に開かれたまちづくり」に貢献していると「自治大臣表彰」を受けるに至りました。

こうして二〇一五年には二〇周年を迎え、今年二〇一九年四月には二五周年を迎えると言います。

実に息の長い活動で、その活動内容も、国際理解セミナーのほか、スポーツ交流、国際料理教室、日本語勉強会、日本文化を楽しむ集い、ホストファミリー交流会等々、数え切れないほど多肢にわたっており、なかでも、外国の方に人気があるのが、「日本文化を楽しむ会」の着物の着付け。これはあまりの人気で昨年からは新たに「浴衣（ゆかた）を着る会」が増えることになったそうです。

そして日本の方に人気なのが、年に二回開かれる「国際理解セミナー」です。

僕も昨年の七月に開催された第58回国際理解セミナーに参加させていただきました。

二、マルチンさん、ポーランドを語る

第58回国際理解セミナーのテーマは「ポーランド」、講師はマルチン・タタルチュックさん。

マルチンさんは、一九八三年ワルシャワ生まれ。ワルシャワ大学では日本学科で「江戸時代の怪談」を研究課題にされ、二〇〇九年に来日してからは、京都大学二〇世紀学専修博士課程に籍を置き、現代日本の不思議な話をテーマに日本のことを研究されているといいます。

さて、セミナーは、「ポーランドはどこにある」と、その位置探しからはじまり、ポーランド人の八六・九パーセントがカソリックだという宗教の話へと移っていきました。キリスト教、それもスラブ信仰の影響が強く、キリスト教以前のポーランドは多神教で、世界を四つの方向に分け、その四方位を守る神が存在したのだと言います。これなどは中国や日本の青龍（東）、白虎（西）、朱雀（南）、玄武（北）という、方位を守る「四神」の話とよく似ているように感じました。このほか古い信仰が伝統として残る行事に「夏至祭」があります。この日、女性は花リース（花環）を頭に飾り、それを川に流します。離れたところにいる男性が競ってリースを取り合い、めでたく勝ち取った男性が、リースの女性を探し出すという行事です。日本古代の歌垣にも、ちょっと似ております。

ニコラウス・コペルニクス

そんなポーランドにキリスト教が伝えられ、九六六年ポーランド公国が誕生します。国家としての歴史は、ここから始まるわけですが、マルチンさん、この一〇〇〇年にわたるポーランドの歴史を二時間で語り尽くそうというのです。

聴くこちらも、その流暢な日本語とその語り口に魅了され、あっという間に二時間が過ぎていきました。中でも興味深かったのが、四人のポーランド人の話。一人はニコラウス・コペルニクス、言わずと知れた「地動説」を唱えた人物で、その著書は一九六八年までバチカンから禁書、すなわち読んではいけない「本」とされてきました。

この禁書扱いを取り消したローマ法王が、二人目の人物、ヨハネ・パウロ二世。これ以前、ヨハネ・パウロ一世は、はじめて「ヨハネ」と「パウロ」という二人の聖人名をローマ法王の名前にした人物で、バチカン内部の経済的な不正を正そうとして、あくまで風聞ですが「暗殺」されたと言われています。この法王の名前を敢えて継いで就任したのが、ポーランド出身の法王ヨハネ・パウロ二世という次第です。この法王は史上初のスラブ系法王であり、コペルニクスの「地動説」をバチカンの禁書目録から外したばかりか、他宗派や他宗教・他文化間の対話を呼びかけ、世界平和に貢献し、バチカン内部の改革にも力を尽くしたカソリックの良心とも言える法王です。

そして三人目は女性で、マリ・キュリー夫人。彼女はフランスに住んだポーランド人で、放射線の研究で、一九〇三年にノーベル物理学賞、一九一一年にはノーベル平和賞と、二度のノーベル賞を受賞し、パリ大学初の女性教授に任命されたといいます。

ヨハネ・パウロ２世

最後、四人目の人物がフレデリック・ショパン。彼については、「音楽家」であることぐらいしか知りませんでしたが、お父さんがポーランド人で、お母さんがフランス人だといいます。「それって重要なことなの？」と思いましたが、当時のポーランドは、名前こそポーランドを冠していましたが、実質は、ロシアの皇帝が国王を兼ね、ロシアの一部という状態でした。国家主権を奪われたポーランド人が、ロシアからの独立運動を断続的に行っていましたが、その頃、フランスではフランス革命が起こり、それに触発されてポーランド独立運動が激しさを増していったのです。フランスにいたショパンも、このポーランド蜂起に心を動かされ、革命に参加せんとポーランド入りしたものの、父親に「音楽家と

して生きるよう」諭され、パリへ戻ったといいます。

以来、ショパンは、革命に与したとされ、二度とポーランドへは戻れなくなったのです。

死後、遺体はパリに安置されましたが、その遺言により、彼の心臓は取り出され、姉の手によってポーランドへ帰ったといいます。彼の作品一〇第一二のハ短調練習曲『革命』は、ワルシャワ陥落に衝撃を受けて作られたものだそうです

このほか、第二次大戦下、ポーランド在住のユダヤ人の話も衝撃的でした。

ショパンの墓（パリ、ペール・ラシェーズ墓地）

戦前、ポーランドのユダヤ人は、「品質の良いスーツが買いたかったら、ユダヤ人の店に行け」と言われるほど、市民間の評判も良く、その人口も三二五万人に達していました。それが二〇一〇年には、ポーランドのユダヤ人人口は三二〇〇人になっていたといいます。

いかにドイツのユダヤ人政策が過酷であったかが窺い知れます。

三、国際理解セミナー

マルチンさんの話が終わり、「これはすごい、グローバル香芝の国際理解セミナー、これを見逃す手はない」と即座に思いました。では、というので、ほかにはどんな内容のものがあるのか調べてみますと、タイトルだけ見ても「いのちのペダル　ガンを越え、自転

車世界一周へ」、「ゴスペルを歌おう」、「大草原からの話・中国民族音楽との出会い」、「私の母国 アフガニスタン」、「シルクロードが結ぶペルシャと日本の架け橋」、「ユーラシア大陸自転車オンナ一人旅―ロマに憧れ二四カ国一四〇〇〇km―」、「カナダ出身の落語家・桂三輝（サンシャイン）さんの落語とトーク」、「私の母国ハンガリー　人々の暮らしそして文化」、「レクチャーコンサート　聴いて、弾いて、感じる二胡の調べ」、「激動の世界と世界の中の日本」等々……と、一部を拾ってみただけでも、こんな感じです。これが六〇回、二十五年も続いていることになります。

講師陣も、様々な国の留学生、様々な国のアーティスト、様々な国の知識人と、実に多彩です。よく見ると、日本人、しかも香芝の女性が講師陣の中にいるではないですか。

ということで、ここから先は、その西畑由香さんご本人にお願いして、彼女が講師を務めた国際理解セミナー「ユーラシア大陸自転車オンナ一人旅―ロマに憧れ二四カ国一四〇〇〇km―」を、あらためてお話していただきました。

これによって、読者が、グローバル香芝の「国際理解セミナー」のおもしろさを感じ、自分も参加してみたい、それどころか、自分も世界にチャレンジしてみたいと思っていただけたら、これに勝る喜びはありません。

四、ユーラシア大陸自転車オンナ一人旅

自転車で世界を旅したい！高校生のころからでしょうか、妄想のような夢を温め続け、ようやく叶える時が来ました。二〇〇七年五月、ユーラシア大陸自転車ひとり旅に出発しました。「なぜ自転車で？」とよく質問されるのですが、私にとって、自転車が最適だからです。自転車なら、その土地の暮らしや文化を感じ

られ、出会いも多く、より近くダイレクトに五感で感じることができます。生活用品などの装備を積んだ自転車は重く、スピードも出ませんので、子供でも簡単に呼び止められるスピードで、ゆっくりと景色を楽しみながら旅をします。少し進んでは、土地土地の人たちと話したり、気になるところで立ち止まったり、電車やバスを使った旅では、通り過ぎてしまうような場所も味わいながら旅することができるのです。

ルートは、ネパールからインド・ラジャスタン州を経て西へ。パキスタン、新疆（しんきょう）ウイグル自治区、中央アジア諸国、イラン、コーカサス諸国、トルコ、ブルガリア、東欧・バルカン諸国、二四カ国をめぐる旅です。心惹（ひ）かれる場所を縫（ぬ）うようなルートで計画したのですが、もうひとつのテーマとして、大好きなロマ（ジプシーと呼ばれる人々）が、流浪の民となり放浪したであろう道のりを辿（たど）ってみることにしました。ロマの音楽は、何代にもわたる放浪生活

の中で、流れ着いた先々の音楽や楽器を取り入れたり、少しずつ演奏スタイルや旋律も変わっていきますが、根底に脈々と流れる彼らのアイデンティティは消えることなく、独特の個性を放つ音楽に心が惹かれてやまないのです。喜怒哀楽が露わな心揺さぶる音楽を求め、西へ西へと向かい旅をしました。

スタートの場所には、ネパールの首都カトマンズを選びました。ネパールには一九九七年に初めて訪れ、自転車で旅をしたのをきっかけにネパールの虜になり、ネパール語を学び、さらに好きが高じて、ロイヤルネパール航空に就職し、何年もネパール漬けの日々を送っていました。ネパールには何度も何度も訪れ、友人もたくさんでき、私にとっては第二の故郷と呼べる場所で、そこを出発の地に選んだのです。

インド人青年と知り合いに……

オンナひとり自転車旅、不安がないわけはありませんが、たくさんの友人・知人に見送られ、いよいよペダルをこぎ始めました。

カトマンズ盆地を出て、数日ひたすら山道を上り、途中の集落や村の家に泊めてもらいながら、ようやく二八〇〇mほどの峠にたどり着きました。タライ平野に向かう山道をくだり始めたころ、自転車に乗ったインド人らしき男性二人組とすれ違いました。ここまで上ってきて自転車に乗った人は、ギアのついたMTBに乗った青年一人だけでした。「なんでこんなところに自転車に乗ったインド人？　カトマンズから上ってきたの？」ととても不思議に思っていました。峠からの下

りは快適で、写真を撮ったりしながら進んでいましたが、例のインド人二人組を抜いたり、抜かれたり、何度もすれ違いながら下っていました。山道で、主要道路でもないので、他に人や車もほとんど通りません。彫が深く、強面（こわもて）な彼らになんとなく警戒していました。女性一人で旅をしている身、力の強そうな男性二人組と距離を置きながら進んでいましたが、なぜか何度もすれ違い、怖くなってきていました。そしていよいよ、少し先で自転車を止めて、こちらを見ながら待っている様子の二人の姿が見えました。行こか戻ろか？逃げるならどっちがいいか？などと考えながら、なるべく自然にこぎ進み、護身用に持っていた唐辛子（とうがらし）の粉の入ったケースの場所を確認して、万が一の時にそれを彼らの目に向かってかけるイメージトレーニングをしながら進みました。いよいよ彼らの横を通過しそうになったその時、「エクスキューズミー」と呼び止められました。警戒して心臓がバクバクしながらも立ち止まると、自転車の空気が抜けて困っているから、空気入れを持っていたら貸してほしいと言うではありませんか。少しホッとしつつも、油断することなく、持っていたポンプで、空気を入れようと試（こころ）みました。しかし、タイヤのバルブの形式とポンプの形式が合わずに、お役に立てませんでした。すれ違い際に、あいさつだけはしていたものの、それ以外に言葉を交（か）わすことはなかったのですが、ここで、彼らと少し話す機会ができました。

彼らは、数百km離れたインドのビハール州にある小さな村から、自転車でカトマンズのヒンドゥー教寺院、パシュパティナートへ巡礼に行き、家路につ

青空学校で子供たちと……

いている旅の途中だそうで、同じ自転車の旅人だとわかり、うれしくなりました。そして途中の街まで旅路を共にすることになったのです。この出会いは、運命の出会いでした。彼らと別れる予定だったタライ平野の街に着くと、「君も僕たちの村に一緒に来ないか？」と誘われ、計画ルートも予定も大きく変更して、思い切って彼らの村へ一緒に行くことに決めました。村までの旅路は、雨季前の灼熱の中、ブッシュを越え、川を越え、ここには書ききれないほどのアドベンチャーでしたが、その中で、少しずつ信頼が生まれて、友人になりました。

やっと着いた村では、彼らの家族、親戚、友人などたくさんの村人たちが歓迎して迎えてくれました。小さな農村で、電気、ガス、水道などの供給はなく、トイレも整備されていない家が多く、車も走らないのどかな村でした。チャイを淹れるにも、かまどに火をおこすところから。水は手漕ぎポンプで地下からくみ上

げます。牛乳は、村で乳牛を飼っている家から毎朝買ってきて、チャイを作ったり、自家製ヨーグルトを作ります。これがとても味わい深くおいしいのです。シャワーはないので、バケツに汲んだ水で足りるように水浴びをします。夜は暗闇の中、オイルランタンのほのかな灯りをともして過ごし、早々に寝ます。暑いので、屋内ではなく、家の屋上に布を敷いて、家族みんなで雑魚寝したり、庭に簡易ベッドを出して、薄い布にくるまって寝ます。宇宙にいるのかと思えるほどの無数の星がきらめく美しい星空を、目を閉じるのを惜しんで眺めながらいつの間にか眠りに落ちる幸せな夜でした。

村では青空学校で子供たちと過ごしたり、農作業を手伝ったり、料理を教わったり、寺院をめぐったり、日々の村の暮らしを体験しながら、村人の一員となったように過ごしました。不便で素朴な暮らしや村人との交流の中で、学ぶこと、感じることの多い、とても素敵な時間を過ごすことができました。気がつけば、二ヶ月半も滞在していました。心配する村の家族を説得し、再び旅へと出発したのでした。

ノウルーズ（新年）のピクニックに行く道中（イランの砂漠の村）

インド各地を巡りながら、ロマの源郷と言われるラジャスタンを目指しました。ラジャスタンの砂漠の街ジャイサルメールでは、カラカールコロニーと呼ばれる芸能集団が住む集落を訪れ、ラーヴァンハッターという弦楽器を演奏する楽師一家の家を訪れました。街を走っていても、小さな子

供がカルタールと呼ばれる二枚の板で、カスタネットのように複雑なリズムを刻む楽器を器用に操っていたり、歌い踊る子供たちに出会ったり、大好きな音楽に満ち溢れていて、ロマの源郷と呼ばれる土地の持つエネルギーを感じました。

その後、非常事態宣言が出されたパキスタン、ウイグル民族と漢民族の暮らす新疆ウイグル自治区を旅し、中央アジアのキルギスに入国する頃には、雪が降り始めていました。積雪の三五〇〇mほどの峠越えは、マイナス一五～二〇度の寒さで、初めて覚えたロシア語は、「ホーラドナ！（寒い！）」でした。中央アジアの国々では、それぞれトルコ語系の自国の言葉がありますが、旧ソ連だったこともあり、外国人に対してロシア語で話すことが多かったです。国境で、職員たちがしきりに「ホーラドナ、ダ！（寒いね！）」と、身振りつきで話しかけて来るので、すぐに覚えたのです。言葉は、そんな調子で、その後の交流の中で少しずつ覚えて行きました。ロシア語を覚えておけば、続くカザフスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタンと、コーカサスの国々でも役に立ちます。

ピクニックでスティックダンスをしたり、お茶を楽しんだり（イラン）

四十年ぶりの大寒波が訪れた極寒の中央アジアでは、寒さと雪に泣かされましたが、土地の人々に助けられ、親切を受けることも多く、家に泊めてもらったりして、家族の温かみを感じながら、交流を深めることができました。

トルクメニスタンを抜け、イ

ノウルーズで帰省した家族でにぎわう砂漠の村に滞在（イラン）

ランに入国する頃には、春を迎えていました。イランは、厳格なイスラムの国という印象だったり、戦争のイメージが強かったりするせいか、周りから入国を反対する声が多く聞かれましたが、私は、どうしてもイランを旅したかったのです。なぜかとても心惹かれるところだったのです。イラン映画のイメージもあって、ぜひとも自分の五感で感じたいと思ったのです。

旅する中で大切なことは、心を開くことです。悪い先入観で心を閉ざしてしまうと、きっと見えてくる世界も出会いも違ったものになります。

イランは、入国したとたん、なんとも言えず懐(なつ)かしいような感覚とワクワク感を感じました。とても心地良く感じたのです。陽気で優しい人々との交流を重ね、それはそれは色鮮やかな布を織り上げるような素晴らしい時間を過ごすことができました。ペルシャ語もどんどん覚えました。心が通じ合う友人もたくさんでき、

隣の国アゼルバイジャンとの国境を越え、イランを出国する時には、名残惜しくて、何度も何度も振り返っては、立ち止まりながらの出国でした。

イランでは髪を覆い、長いコートを着て走行

その後、初夏の緑が美しいコーカサスの国々、夏のトルコを旅し、いよいよヨーロッパへ渡りました。ブルガリア、ルーマニア、ハンガリー、スロヴェニア、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、セルビア、モンテネグロ、アルバニア、マケドニア、そしてその年に独立したばかりのコソボを旅しました。

東欧諸国やバルカン諸国には、ロマの人々がたくさん住んでいて、各地でロマの人々を訪ね、音楽を聴きました。ルーマニアでは、海外でも活躍するロマミュージシャンたちが住む村にも訪れました。有名なバンド、タラフドゥハイドゥークスのメンバーの家に泊めてもらい、村を散策すると、誰が楽器を持っても、ものすごい演奏をすることに感動しました。暮らしに音楽があふれていました。

旅を終えて、心に残ったのは、出会った人たちとの交流や、興味深い文化、暮らしで彩られ、キラキラと輝く宝石のような大きな宝物でした。

ひとり旅ですが、決してひとりで成し遂げたわけではない、たくさんの人たちに支えられての旅でした。

西畑 由香

ブッシュや橋のない川を越え、見た美しい夕陽の風景（インド）

ある英語教師の挑戦

杉本洋之

一、本州一の過疎の村へ!!

二〇一八年九月十六日（日）、朝八時十五分、車は奈良県大塔村（おおとうむら）にある道の駅に到着しました。ここでトイレ休憩の後、いよいよ本州一の過疎の村「野迫川村（のせがわむら）」を目指します。

推計人口三八六人。取材対象の野迫川中学はこの時点で生徒数九名、そのうちの二名が、四日後に開かれる「奈良県中学校英語スピーチ・レシテーションコンテスト」に出場することになっています。三年生の子一名がスピーチ部門、一年生の子一名がレシテーション、つまり暗唱部門に参加しますが、今日はその最終の練習日になっているのです。

大塔村・道の駅

そして、その野迫川を目指し車を運転しているのが、彼らの英語指導に当たる杉本洋之先生という次第。僕はその練習風景を取材するべく、杉本先生の車に便乗させていただき現地へと向かっているというわけです。

四日後の県大会で選抜されれば、「高円宮杯（たかまどのみやはい）全日本中学校英語弁論大会」

という全国への道が開かれることになります。

「過疎の村の子どもたちに、自信と誇りを持って社会へ出ていってほしい」、この野迫川村村長・角谷喜一郎さんの思いに応えたのが、彼の盟友・杉本洋之さんというわけです。杉本先生は、子どもたちに自信を持たせる手段として「英語」というツールを使います。英語のスピーチで県大会に出場し、さらに全国大会で東京を目指す。そのチャレンジによって、子どもたち全員に希望と自信を持たそうというのです。こうして昨年度は、見事、野迫川村の子が、県大会を勝ち抜き、東京の全国大会に出場したのです。

野迫川・雲海の名所

村では早くから国際交流に力を入れ、一、二年生全員を村費でグァムに研修旅行に行かせるという熱の入れよう。

さて、その野迫川村ですが、広陵町からの標高差は一一一四メートル、この大塔村からでも、距離にして一三・三キロ、標高差三三五メートルを、更にのぼらなければなりません。すでに道は山道にさしかかったという感じですが、杉本先生、慣れたもので、危なげもなく淡々と運転を続けておられます。

ならば運転中ですが、こうなった経緯をお聞かせいただいても問題なかろうと、車中、早速に取材活動を開始させていただきました。

二、杉本少年、英語に目覚める‼

杉本先生は、何とも不思議な人物です。「かつらぎの子どもたち」の章でも一部紹介させていただきましたが、この杉本先生、わが「自遊空間ゼロ」で、子どもたちの陶芸の先生をしていただいています。かと思うと素人落語で達者な芸を披露し、みんなを笑わせることを使命のように思われています。

天満家賑九として落語の高座に。

写真の腕も相当なもので、個展を開かれたり、コンテストに応募して賞を取ったりと……、「一体、あなた、何ものなの？」と首をかしげたくなります。

しかしです、この杉本先生の本職は、まさに英語の教師であって、それを証拠に、夢だって英語で見てしまうという始末です。

……？

まあ、これは冗談半分ですが、たしかに、杉本先生が胸に抱いている「夢」は英語で子どもたちを育てていく、これには間違いないと思います。

そこで、どうしてそんなに英語が好きなのかと尋ねてみました。

子どもの頃は、成績はそ中途半端だったといいます。それが中学へあがるなり、杉本少年が憧れる「オンナ先生」があらわれたのです。そのオンナ先生の担当が英語だったのです。こういう次第で英語が大好きになり、英語だけは、試験の成績も一年生の一学期は中間一〇〇点、期末九八点と群を抜いた成績でした。それを何が災いしたのか、二学期の中間試験では、三八点という点を取ってしまいました。

そのとき、件の英語の先生が心配し、「杉本君、どう

したん」とやさしい声をかけてくれたというのです。

ただでも感動屋の杉本少年、しかも声をかけてくれたのが憧れの「オンナ先生」ときたから大変です。猛烈に頑張り、期末は見事「一〇〇点」に返り咲きました。そのとき、オンナ先生、みんなに聞こえるように「杉本君、答案用紙を貸して」と声をかけたのです。ということは「答え合わせの必要はありません、杉本君の答案は全問正解です」と、みんなに宣言したようなものです。

この粋な計らいが忘れられず、中二以降高三まで、英語の先生が、ずっとオトコ先生だったにもかかわらず、杉本少年の英語熱はずっと冷めることがなかったのです。そして関西外大・英米科をを卒業後は、英語を通して子どもたちを教育する、つまりは教師の道を一筋に歩んでいくことになりました。

エッ、一筋じゃない、落語や陶芸、それに写真はどうなるのかって？

それは、まあ趣味の範疇ということで……それにしては、どれも気合いが入っていますが、どれもこれも、結

第 57 回富士フイルムフォトコンテストで優秀賞を受賞した杉本洋之さんの作品
野迫川の雲海を撮影した「神降臨」

局は、教育という先生のお仕事に収斂していくのであります。

元来、対人恐怖症、赤面症だった先生は、それを克服すべく、大学ではＥＳＳ（English Studying Society）に所属し、人前でしゃべるスピーチに没頭したということです。

ウーンッ、これでは英語が好きになった理由は分かるが、「杉本青年」から「杉本先生」への移行、つまり杉本さんが教育の道へ入っていった理由が分かりにくい。

さらに、なぜ、広陵町の英語の先生が、過疎の村、野迫川中学校の生徒を指導するようになったのかも不明だ……なんて、「猜疑心」じゃなかった「探求心」の強い方は、そんな疑問を持たれるかも知れませんね。

三、杉本青年、教育に目覚める!!

ちょっと待ってください。

車が奇妙な神社の前に停まりました。

「天財辯……？」あっ、逆さまでした。左から右じゃなくて、右から左へ「辯財天」と書かれていたのです。昔は、横書きの場合も右から左へと書かれていたのです。

「変わった狛犬があるので見ていきましょう」。

杉本先生、そう言うが早いか、狭い急な屋根付きの階段を登りはじめました。

「百聞は一見にしかず」なんて、言葉

があ りますので、くどい説明は省いて写真を見ていただきましょう。顔は「獅子」というより「カラス天狗」か、はたまた「カッパ」かって感じです。たしかに変わった狛犬です。

「杉本先生は……」と見ると、必勝祈願でしょうか、本殿に向かい真顔で手を合わせておられました。

ここから目的の野迫川公民館へは、まだしばらくかかりそうですし、ということで、先ほど出た疑問も含め、杉本先生へのインタビューを続行しましょう。

大学時代は、お父さんが重い腎臓病を患っていたため、学費やらなにやら、学業は自力で続けねばならなくなりました。

そこで、大学三回生ではじめたのが英語の私塾。ここで杉本青年、教えるうれしさ、楽しさに目覚めたのです。テストで一〇点ほどしか取れなかった子が、二〇点、三〇点と取れるようになり次第に成績が上がっていく……それがうれしくてたまらない。子どもを教える喜び、子どもと触れあう喜びを知り、杉本青年の中で「英語」と「教育」がドッキングしたという次第です。

かくして、今の「杉本先生」の原型が誕生したというわけです。

四、全日本中学校英語弁論大会!!

大学卒業後は、河合第二中学校に赴任しました。勤めて二年目のことです。杉本先生は、英語教育の一環として中学生英語弁論大会の指導にあたるこ

とになったのです。目指すは「高松宮杯全日本中学校英語弁論大会」。幸いにも指導した子が、小学生のころから英語を勉強してきたという経緯もあって、見事、県大会を勝ち抜き、東京での全国大会に出場することとなったのです。

先生の初陣は大勝利‼

ところが、後が続きません。

続く十一年間、どうあがいても奈良県大会で落ち、全国大会まで上がっていけないのです。

そして真美ケ丘中学校に転勤しますが、そこで杉本先生が受け持った三年生のクラスの中に、一人のハーフの少年がいました。何ごとにも活発でクラスの中心となるような子ですが、彼のお父さん「ジョージ」との出会いが、局面を打開する突破口となったのです。

ジョージさんは、スピーチを専攻されていた方のようで、杉本先生がつくったスピーチ原稿を、どんなに忙しくても、いやな顔一つせず添削し、きめ細やかなアドバイスをしてくれたといいます。

そのジョージさんも昨年二〇一八年七月、残念ながらお亡くなりになりました。

「高円宮杯全日本中学校英語弁論大会」では、以前、十年間に六回以上出場した中学校が「優秀校」として表彰されることがありました。杉本先生の指導した真美ケ丘中学校は、なんと、その十年間に七回出場の快挙を成し遂げ、並み居る強豪私学校に混じり、全国約三十校の中の一校に選ばれました。

五、杉本先生、教職を去る‼

こうした杉本先生に、県の仕事、国の仕事も入るようになり、まさに順風満帆。それを何を思ったか、五十才で、「これは自分の仕事ではない」と教職生活を、さっさと辞めてしまわれました。

先生は、「教えることに専念したい」と言います。

先生が活躍すればするほど「教える」以外の仕事が増え、生徒が相談に来ても、「会議やから」「出張やから」と、十分相談にのってやることができないのです。二回断られたら、その子はもう二度と相談に来なくなることが多いといいます。

「自分のやりたいことは、こんなことやない。子どもと真向かいになって、子どもを育てていく。HELPが出ている子どもの助けになってやりたい、それが出来ないなら、教師でいる意味がない。」

こうして杉本先生は、学校を辞め、私塾「まなび家カサ・デ・スタディ」を立ち上げたのです。その結果、杉本先生は、真美中の英語教師から、広陵町ばかりか、今は河合町、野迫川村と、地域を越えた英語の先生へとなっていくのです。

なかでも野迫川村は、本州一の過疎の村です。しかも村長が、先生の古くからの友人というばかりで

野迫川公民館での練習風景

なく、「子どもたちに野迫川出身の誇りと自信を」という村長の意気込みに感じ入ってのお手伝いです。それだけに、杉本先生の熱の入れようも気合いが入ります。そうこう言っているうちに、練習会場である野迫川の公民館に到着しました。

会場では、野迫川中学の英語の先生、担任の先生も、日曜返上で駆けつけ、いよいよ練習の総仕上げにかかります。

中学校英語弁論大会 予選会場のサザンカホール

この四日後、奈良県での予選会「奈良県中学校英語スピーチ・レシテーションコンテスト」が、大和高田・さざんかホールで開かれました。

今回、残念ながら全国大会への出場はなりませんでしたが、これからも、杉本先生と子どもたちの挑戦は続いていきます。

最後に、前年度、第六十九回全国大会に出場した野迫川の中迫真弓さんから感想が寄せられています。そのときのスピーチ原稿ともども掲載し、この項を終わらせていただきます。

英語弁論大会に出場して

中迫真弓

私は中学三年生のとき、奈良県中学校英語弁論大会に出場しました。野迫川村からは初めての出場でした。このとき指導してくださった先生が広陵町の杉本先生と、野迫川中学校の岡下先生でした。

私は、中学三年生のときまでこのような英語弁論大会があることすら知りませんでしたし、英語が苦

手だということもあり、出場する気は全くありませんでした。そんなときに、杉本先生が学校に来られて、弁論の楽しさや、チャレンジすることの大切さのお話を聞き、私は出場しようと決意をしました。

それから練習が始まりました。英語への苦手意識と、初めてのチャレンジということもあって、最初は気持ちが乗りませんでした。そんなときに杉本先生と岡下先生が励ましてくださいました。練習が進み、奈良県大会の前日には、「出るのであれば、全国目指してやる！」と、密(ひそ)かに思っていました。そして臨(のぞ)んだ九月の県大会。みごと三位入賞することが出来ました。やったー、バンザイ！

学校へ戻ると、中学校の先生たちが祝福してくれました。とても嬉しかったことを今も覚えています。

野迫川小中学校の校舎

今度は全国大会に向けて、さらに一生懸命練習しました。そして十一月、奈良県代表のひとりとして、上京し、高円宮杯第六九回全日本中学英語弁論大会に出場しました。本当に素晴らしい大会でした。全国にもたくさんの友達ができました。この大会は私の人生にとってかけがえのない経験となりました。

指導していただいた杉本先生、野迫川小中学校の先生方、そしてお父さん、お母さん、本当にありがとうございました。

私はこのことを通じて、挑戦することの大切さを学びました。

これからの人生、ずっとチャレンジ！

スピーチ原稿（訳文）

私は宝物

見てください！ 私、輝いているでしょう。私たちの角谷村長はいつもこう言います。「野迫川の子どもたちは宝物」。ですから私は村の宝物なんです。私たちは 2 年前、グアムに連れて行ってもらいました。もちろん旅行費用は村が負担してくれました。だって私たちは宝物なんですもの。うらやましいでしょう。

ところで、『野迫川村』ってご存じですか。野迫川村は和歌山県の隣、奈良県の南西部にあります。野迫川村の人口はたった 414 人。本州で一番小さな村として有名です。少しは野迫川村に興味を持っていただけましたか。では、私がみなさんを野迫川に案内しましょう。

さあ、野迫川村バーチャルバスツアーにようこそ。私がツアーガイドの中迫真弓です。私たちがいるところは鶴姫公園です。ここでは 5 月の初めに桜の鑑賞を楽しめます。夜にはたくさんの星の観測を楽しめます。バスツアーを始めるに当たり、言っておかなければならないことがあります。野迫川には国道も信号機もありません。ほとんどの道路は曲がりくねっていて、とても狭いので、車の対向がしづらいです。だからとてもスリルがあります。お楽しみに！ さあ、用意はいいですか。それでは出発します。

さて、右手をご覧ください。山です。左手をご覧ください。山です。そうです。みなさんは山々と、たくさんの木々と、そして綺麗な空気に囲まれています。これが野迫川です。あら、お客様、どうされましたか。歯が痛いのですか。それはお気の毒に。野迫川には歯医者はございません。ですから、我慢してください。お客様はコンビニに止まって欲しいのですか。野迫川にはコンビニはございません。あしからず。

たくさんの木材を使ったあの新しい建物を見てください。あれは病院ではなく、野迫川小中学校です。中学校には 12 人の先生と 10 人の生徒がいます。先生と生徒の人数はほぼ同数です。ですから教育環境は大変恵まれています。

夏は奈良県の市街地に比べてずっと涼しいです。その代わり、冬は雪で困らされます。雪かき作業はかなりハードです。野迫川の気候は冷たいですが、野迫川の人々は温かくて親切です。野迫川に引っ越してきませんか。さあ、これで野迫川バスツアーを終わります。まあ、車酔いになった人が何人かおられますね。はい、お大事に。

さて、ここで質問です。私は今までに何回『野迫川』と言ったでしょうか。16 回言いました。なぜなら皆さんに『野迫川』を覚えて欲しいからです。もしみなさんが野迫川に興味を持ってくださったなら、私は幸せです。私は野迫川が大好きです。私は野迫川に何かお返しがしたいと思っています。私には夢があります。それは野迫川中学校の英語の先生になることです。そしてこのコンテストに生徒と一緒に戻ってきたいです。私を覚えておいてください。きっと戻ってきます。私の宝物と一緒に。

スピーチ原稿（原文）

I am a treasure

Look! Am I shining? Our mayor Mr. Kadotani always says, "Children in Nosegawa are treasures." So I am a treasure in my village. We were taken to Guam two years ago. Of course, we didn't have to pay for the trip because we are treasures. Do you envy us?

By the way, do you know "Nosegawa Village"? Nosegawa Village is located in the southwest of Nara next to Wakayama. The population of Nosegawa Village is only 414, famous for the smallest village in the main island of Japan. Do you have a little interest in Nosegawa Village? OK! Let me guide you around Nosegawa.

Welcome to the virtual Nosegawa bus tour. I am a tour guide, Mayumi Nakasako. We are here in Tsuruhime Park. You can enjoy seeing cherry blossoms early in May. You can also enjoy seeing a lot of stars at night. Before starting the bus tour, I have to say something to you. There are no national roads and no traffic signals in Nosegawa. Most of the roads are winding and very narrow. It is difficult for drivers to go by each other. So it's very thrilling. Have fun! Are you ready? Let's go!

Now, look at your right side. There are mountains. Next, look at your left side. There are mountains, too. Yes! You are surrounded by the mountains, a lot of trees and fresh air. This is Nosegawa! Oh, what's the matter with you? Do you have a toothache? That's too bad. There are no dental clinics in Nosegawa. So, be patient. Do you want to drop in a convenience store? There are no convenience stores in Nosegawa. I'm sorry.

Look at that new building with a lot of wood. It's not a hospital but Nosegawa Junior High and Elementary School. There are twelve teachers and ten students in the junior high school. Both numbers are almost the same. So the educational environment is pretty good.

In summer, the weather is much cooler than in the cities of Nara. So most of the houses do not have air conditioners. It's very comfortable to live in summer. On the other hand, in winter, snow makes us troublesome. It is a hard work for us to remove a lot of snow. The weather in Nosegawa is cool or cold, but people in Nosegawa are warm and kind. Why don't you move to Nosegawa? Well, this is the end of Nosegawa bus tour. Some of you look carsick. Take care.

Well, I have a question. How often did I say "Nosegawa" until now? I said it 16 times because I want you to remember Nosegawa. I am happy if you get interested in Nosegawa.

I love Nosegawa very much. I want to do something for Nosegawa in return. Now I have a dream. I will be an English teacher in Nosegawa Junior High School, and I want to return to this contest with my student. Keep me in your mind. I'll be back with my treasure.

Thank you

屯鶴峰地震観測所

京都大学防災研究所屯鶴峰地かく変動観測所

香芝市の屯鶴峰に無人の「京都大学地震観測所」があります。まだここに観測員がおられた頃、この観測所を取材させてもらったことがあります。

もともとは本土決戦に備えた地下要塞があったところです。また、この二上山周辺にはこの地下壕だけではなく、さまざまな軍事施設が存在していたようです。

高射砲台、機関銃座、燃料貯蔵用地下壕。そして、屯鶴峯地下壕はこれらの施設を統括する「陸軍航空部隊・航空総軍」の一大拠点として建設されました。韓国最後の皇太子李垠も航空総軍の指揮官として、この屯鶴峯地下壕に滞在しておられました。

なぜ防空壕跡に地震観測所があるのかというと、要は、坑の中は湿度も温度も一定なので、外気に影響されずに観測されるのだそうです。

ところで近畿には、この屯鶴峰の他、茨木・高槻にまたがる阿武山観測所、滋賀県大津市にある逢坂山観測所の三箇所の観測所があります。この三箇所の観測所で二〇〇三年三月頃から地殻杯の顕著な変化が報告されています。

二〇〇四年九月、二〇〇五年一月には、地下水位の急激な変化も観測されており、このことは近畿地方の地殻活動に変化が生じていることを表しており、規模の大きな地震が発生する可能性もあるといいます。現にこの現象は、阪神淡路大震災の数ヶ月前にも認められており、すわ大地震の前兆かと思われましたが、この報告が平成十七年四月のこと。しかし、今現在、近畿で大きな地震は起こっていません。

幸い、今までは何もなかったにせよ、このような地殻変動が観測されているのですから、用心に越したことはありません。千利休いわく「降らぬ間に雨の用意」。いたずらに恐怖心をあおるのではありませんが、何があっても気持ちだけは対処できるようにしたいものです。

観測機器のチェック

かつらぎのカフェ

katuragi cafe

第九章

広陵町　香芝市　大和高田市　編

大阪芸術大学 デザイン学科　寺山京助

かぐや Cafe

営業時間 9:30～17:00
月曜定休（図書館と同じ）

住所：奈良県北葛城郡広陵町三吉 396-1
広陵町立図書館内

電話番号：0745-51-9304

アクセス：近鉄南大阪線五位堂駅から
奈良交通バスが出ています。
馬見北１丁目バス停下車徒歩５分

※営業時間は朝9時30分から夕方5時までとなっています。定休日は、図書館と同じです。
広陵町立図書館のホームページ「図書館カレンダー」をご覧ください。
また《移住・定住サロン》ならではのイベントも用意されていますが、これについては
「Pancake & Coffee そらみる」の項をご参照ください。

「ゴジラ対シンク爆笑対決！」

ゴジラ対シンク爆笑対決！

かぐやかふぇ落語会開催決定！

かぐや かふぇ新聞

かぐやカフェ祝一周年

かぐやカフェ落語会

「ゴジラ対シンク爆笑対決！」
2018 年 9 月、こんな奇妙な号外が広陵町の町を賑わした。広陵町にある「かぐやカフェ」が満一周年を迎えたのだ。これを記念して、広陵町図書館で落語会が開かれ、そのうえ普段は夕方5時で閉まる図書館が、この日は夜間開館を実施、夜 8 時からはプロジェクションマッピングまでおこなわれるという。

「カフェの一周年に公共図書館が！」

写真右上が、オーナーの谷矢さん（右）とスタッフの宿久さん（左）。
写真左上は、店長の中西さん。
左下は、大きな顔から順に、英語の先生、陶芸の先生、写真家、落語愛好家と、どれが本当の顔か分からぬ杉本先生。その隣が陽気で気さくな広陵町長の山村吉由さん。その隣が取材者の桐生で、左端は広陵町の職員の方です。

ずっとモーニング
馬見古墳群カレー
かぐや月見カレー

「カフェの一周年に公共図書館が！」 不思議に思われる方もいると思うが、実はこのカフェ、昨年、広陵町が「《移住・定住サロン》として機能するカフェを広陵町立図書館内につくりたい」と公募してできたものなのだ。

図書館の入り口近くにあって、カフェを含むこの一角ではコーヒーを楽しみながら「本」を読むこともできる。写真は、このカフェならではのユーモアのきいたサービスメニューの一つ「ずっとモーニング」。カフェのモーニングサービスが一日中楽しめるというすぐれもの、しかもパンかおにぎり、コーヒーか味噌汁までセレクトできてしまう。

もう一つカレーファンに試してほしいのが「馬見古墳群カレー」「かぐや月見カレー」。

前方後円墳をかたどったライス、その周囲をめぐる堀の部分がカレーになっており、ライスの上には青のりがふられ茂った樹々を表している。馬見古墳群と言い、かぐや姫と言い、日本誕生の謎を秘めたキーワード！まさに葛城に思いを馳せるには必見ならぬ、必食のカレー！

Soramilu

Pancake＆Cafe そらみる

営業時間は、朝８時から夜６時までとなっています。基本的に年中無休ですが１月１日と２日はお休みになるそうです。

Café メニューはいろいろありますが、メインはパンケーキ！！　パンケーキは甘いデザートと思われがちですが、お食事にも食べていただけることを広げていこうと、お食事パンケーキがあります。

住所：奈良県北葛城郡広陵町笠 274-5
TEL ：0745-55-3225
最寄り駅は近鉄「箸尾」駅「築山」駅、「大和高田」駅ですが、いずれも歩くと 40 分近くかかります。タクシーか、お車でお越しください。
コミュニティバス広陵元気号「中央公民館」・「さわやかホール」徒歩５分

Café そらみるの活動

かぐやカフェのコーナーで、広陵町が図書館内に「移住定住サロン」としてのカフェを開設しようと出店者を公募したことを記しました。これに手を上げたのが「Café そらみる」のオーナーである谷矢友香子さんというわけです。

それにしても、「かぐやカフェ」といい、この「Café そらみる」といい、ただのカフェではありません。町のイベントを企画し、主催し、まるでカフェ自体が生きもののように活動している、そんな印象を受けます。そこでオーナーの谷矢さんに「活動するカフェ」、そこに何があるのか、お話をお聞きしてみました。

谷矢さんは結婚を機に今まで勤めていた会社を辞めたものの、働くの好き！と確信し、子供が手のかからなくなるまで待ってアルバイトをはじめ、その給与はすべて独立開業するための資金として貯蓄したというのです。カフェ巡りが大好きという谷矢さん。でも行く先々で目につくのはモバイル片手にコーヒーを飲む姿。それが悪いというのでなく、カフェに「人と人のつながり」が感じられないというのです。

お食事パンケーキ「ハワイアンスペシャル」

カフェの起こりはイタリアのベネツィア、その時代カフェは情報交換の場、つまりはコミュニケーションの場としてカフェは誕生したと言います。ならばと、谷矢さん、理想のカフェづくりを目指し、これまで蓄えた資金を元手に広陵町に「Café そらみる」をオープンするに至ったのです。オープン二年目くらいに、夜は予約で営業をしているんですが、広陵町役場の方に宴会で利用いただく機会がありました。そのとき、町長も出席するというので、谷矢さん、日頃思っていることを企画書としてまとめ町長に直に手渡したと言います。

以来、町のイベントをボランティアで手助けするという活動をするようになっていきました。そこへ、広陵町図書館に移住定住サロン「かぐやカフェ」を開設するという公募があったわけです。谷矢さんは一も二もなく応募し、採用されることとなったのです。谷矢さんは、これで「かぐやカフェ」のオーナーになったわけですが、ただ店主というだけでなく、「移住定住コンシェルジュ」という役割をも担うことになったのです。

しかし、「移住定住コンシェルジュ」という役割はあっても、何をしたらいいという指示はありません。まったく雲をつかむような話。ならばと、谷矢さん、図書館を舞台に人と人のつながるコミュニティの場をつくろうとはじめたのが、毎月第2土曜日に、図書館広場で開催される「はぐマルシェ」。子育応援メディアはぐさんとコラボして、出店者を募集し、まさに「活動するカフェ」に恥じない活躍ぶり。10 月には竹取公園を会場に、住民の手でつくる「広陵フェス」を成功させるに至ったのです。翌年1月からは移住定住セミナー落語教室や女性起業セミナー開催。定員 20 人のところ 40 人超えになりました。

谷矢さんのこれからの夢は「古民家旅館」だと言います。「古民家旅館」をベースに、日本の伝統文化を保持し、伝え、同時に理想的な食生活の管理モデルをも構築していこうという構想です。谷矢さんの夢、店の名前と同じく、空の高見を目指して限りなく続いていきそうです。

cafe'de からん

営業時間　朝８時から 11 時までがモーニングメニュー
11 時半からお昼の２時までがランチメニュー
これ以降夕方５時までがカフェタイムになっています。
定休日は、月曜日となっています。

住　　所　奈良県北葛城郡広陵町馬見北１丁目 7-6

電話番号　0745-60-6677

アクセス　最寄り駅は、近鉄大阪線五位堂駅
駅から奈良交通バス「馬見北３丁目」下車

cafe'de からん

予約制でコーヒー教室も

今年でオープンして８年目になるという。当初、珈琲の香りを楽しむという意味合いから「香楽ん」と命名する予定だったが、誰にでも「やさしく」という意味合いから「ひらがな」の「からん」になったという。この「人にやさしく」という思いは、コーヒーにも料理にも息づいている。特に、介護福祉士の経験から**「高齢者にやさしいカフェ」**づくりを目指したが、それがひいては**「人」にやさしいカフェ**となって、北葛城の人たちの憩いの場として人気のカフェになった。

コーヒーは、豆からカップまで（From seed to cup）こだわった**「スペシャルティコーヒー」**。このためオーナーは「コーヒーマイスター」の資格を取られた。また、飲むだけでなく、本物のコーヒーを淹れる楽しみを伝えたいと、予約制で「コーヒー教室」も開いておられる。

ここのもう一つの楽しみがランチだ。週替わりランチもおいしく楽しいが、なんと言っても月に一度楽しめるスペシャルランチが素晴らしい。**季節を地の食材で表現したランチ**は、見た目も味わいも抜群！　身体へのやさしさにもあふれている。写真はその一例なのだが、１月はお正月、２月は節分、３月はひな祭り、４月は桜祭り、５月は端午の節句、６月はあじさい祭り、７月は七夕祭り、８月はひまわり祭り、９月はお月見、10 月はハロウィン、11 月はカフェの周年記念ランチ、12 月はクリスマス……と、季節のスペシャルランチ目当ての方も多いという。
一年に 12 食、完食に挑戦してみるというのもおもしろそうだ。

季節のスペシャルランチ

2F 席の VIP ランチ（要予約）

大仏Cafe
Koryo nara

営業時間：{木～火} 9:00～:18:00
(LO 17:30)
{　水　} 11:00～16:00
(LO 15:30)

※定休日については「不定休」のため、お問い合わせください。

住所：635-0832
奈良県北葛城郡広陵町馬見中 1-1-3C

電話番号：0745-43-6123

アクセス：最寄り駅・近鉄大阪線五位堂駅、
五位堂駅からはバスの便（奈良交通）あり。

大仏カフェとは？

「大仏カフェ」とは、なんとも大胆でインパクトのある店の名だろう。この店のおすすめは、なんといっても「山焼きチーズオムカレー」。と言っても、あくまでも取材者である僕自身のおすすめなのだが……。
盛りつけられたカレーの上にふわりとオムレツがかぶせられ、そこにとろけるチーズが山焼きよろしく焼かれている。美味しそうな焦げ目がたまらないが、使われているライスはといえば、黒米、いわゆる奈良の古代米。
ここまでされると、カレーの発祥は「横浜」でなく「奈良」だと信じている筆者には、まわりの人にどうしてもすすめたくなるカレーである。
「カレーの発祥は奈良？ウソーッ、横浜でしょう」、そんなことを言う常識人のために、カレーの蘊蓄をひとくさり。

カレーの発祥はインド

「カレーの発祥はインド」、これについてはどなたも異論がないであろう。そのインドの地に、「ブッダ」という仏教の創始者が現れた。
大昔のお話しだが、そのブッダが、人々を病から救うため、様々な薬草や香辛料をブレンドし、スープにしてふるまったことがカレーの起源とも言われている。

これを日本で再現した奇特な坊さまがいる。時は天平勝宝４年（753年）、奈良東大寺では大仏開眼の法要が荘厳華麗に執り行われた。
このとき、大仏の開眼導師としてインドから招かれたのが、「ボーディセーナ」、日本では「菩提僊那（ぼだいせんな）」として知られる高僧。
その菩提僊那が大仏開眼法会で、集まった人々に、故郷インドより持参したスパイスや薬草を使い、ブッダがおこなった薬膳スープの施しをおこなったというのだ。あくまで「そのようだ」というお話しなのだが、奈良の黒米を使った「大仏カフェ」の山焼きカレー。天平の昔を偲びながら、味わってみるのも一興ではないだろうか。

GoodJob! Center KASHIBA

グッドジョブ! センター香芝

営業時間：11:00~17:00
祝祭日は営業時間が変わる場合があります。定休日は、日曜・祝日日となっています。

住所：奈良県香芝市下田西2丁目8-1
電話番号：0745-44-8229
アクセス：最寄り駅は、近鉄大阪線「下田駅」より徒歩7分。またはＪＲ「香芝駅」より徒歩5分です。

ここは「カフェ」であるとともに、障害のある方とともに仕事を創造する場所であり、仕事を提供する場所でもあります。それは画一的な仕事から、障害のある方に、音楽、アート等、さまざまな分野で機会を提供していくというクリエイティブな場所でもあります。

その意味で従来の「作業所」と呼ばれる施設とは、連携しつつも一線を画しているように感じます。世間から離れるのでなく、世間にこの場所がどういう場所かを発信していく。そのための基地でもありますから、さまざまなイベントが創造され、施設内に一般に開放された「カフェ」も併設されるということになります。

「バックヤード」を探検するようなワクワク感！

ここは更に多くの関連施設で作り出されるグッズの中継拠点でもあり、このため流通倉庫としての役割をも持っています。

つまり、作業所であり、流通倉庫であり、イベントの開催場所にもなるわけで、カフェは、まさにこの中にあって、自然な形で、施設の活動を伝えていく要となっているようです。

このためでしょうか、カフェが実に心地のよい空間になっているのです。さまざまなグッズを見る、というよりも「バックヤード」を探検するようなワクワク感と、ゆったり落ち着くという、この相反する要素が見事に混じり合って、奇妙な調和を作り出しています。

建物や環境ばかりでなく、ここで出されるコーヒーが実にうまい。コーヒー豆のピッキングもこの場でおこなわれ、上質なコーヒーが提供されています。コーヒー以外にも、タンポポの根を焙煎した「タンポポコーヒー」なるものを、ここで初めて体験しましたが、これも実に良い。後で知ったことですが、漢方では解毒や利尿の生薬としても用いられているとか……。

おすすめの「特製ホットドッグ」！

最後に、これだけはぜひお薦めしたいメニューがあります。
「特性ホットドッグ」です。
無添加のソーセージと、米粉を使ったパン。小麦粉だけのパンよりもやさしい甘みがあり、もっちりとした感触で、これをコーヒーとともに自家製ケチャップで楽しむ、最高のランチタイムになること請け合いです。

ココロ森のカフェ

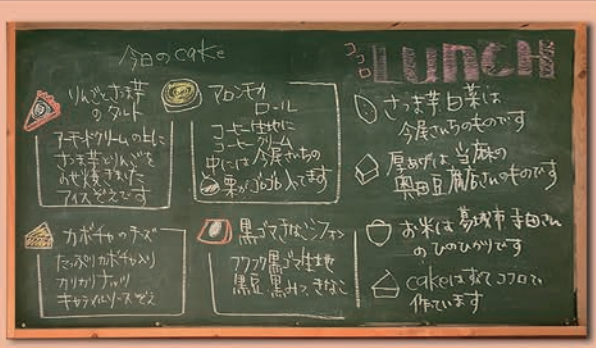
営業時間 11:00～17:00
日曜・月曜定休日

住所：奈良県香芝市穴虫 3268-2

電話番号：0745-78-3958

アクセス：最寄り駅は、近鉄大阪線二上駅になるのですが、徒歩だと30分ぐらいかかります。駐車場完備（15台駐車可）

森の中のカフェ



香芝市穴虫に新しく出来た「香芝生喜病院」という総合病院があります。目的のカフェへ行くには、この病院を100メートルほど過ぎると案内看板がありますので、これを右折してください。国道165号穴虫交差点から向かう場合は、中和幹線へ入ってすぐのところにこの看板がありますので、この看板を左折して上りつめたところが「ココロ森のカフェ」駐車場です。 その名前通り、静かな森の環境にあって、建物はと言えば、一見も二見も民家としか見えない一軒家。聞けばオーナーのお爺さんが暮らしていた築50年の家屋だと言います。玄関左手に手前に突き出した居間があって、ガラス戸越しに楽しげなランチ風景がまず目に飛び込んできます。これで、看板や表札を確認するまでもなく、ここが「森の cafe」だと分かるという次第。玄関でスリッパに履き替えると、左手にメインのテーブル席。逆に右手には座敷風の席もありますが、メインのテーブル席が空いていればここがお勧めです。ここからは広々とした窓の外に、夏は青々とした樹木、秋には紅葉した二上山の景観も眺められ、店内の落ち着いた雰囲気とともに季節を楽しみながら、お茶や食事が楽しめるという寸法です。

ココロランチ

一押しの「ココロランチ」は、月によって変わりますが、健康を考えたメニューで、好き嫌いの多い私でさえ、どれも残さず完食するほどの美味しさでした。食後の珈琲、ここでは、「コーヒー」と書かず「珈琲」と書きたくなるほどの味わい深さ。さらに人気のデザート「さつまいもとリンゴのタルトアイス添え」を賞味しましたが、これまた珈琲によく合って、本当にゆったりとした時間を過ごすことが出来ました。料理やデザートがおいしいばかりでなく、上質な時間を味わえるカフェ、そんな印象を持ったカフェを後にした次第です。

CAFE クローバー

営業時間 11:00～17:00
定休日は木曜日となっていますが、不定休もありますのでご注意ください。

住所：奈良県大和高田市片塩町 13-8

電話番号：0745-43-7369

アクセス：最寄り駅は「高田市駅」、徒歩3分ぐらい。

店の雰囲気

近鉄南大阪線「高田市駅」のすぐ近くに片塩商店街があります。最近、商店街と言っても、シャッターの閉まった店が多く閑散とした商店街が増えていますが、この商店街は住民の息づかいが感じられる生き生きした商店街になっています。その商店街の中ほどに１メートル近くある大きな木彫りの猫が２匹並んで通る人を眺めています。ここがお目当てのカフェ「クローバー」さん。入り口では、クリスマスプレゼント用の小物が売られており、中へ入ると、木彫りの置物ばかりか、木製のカウンターや椅子の存在感に目を奪われます。聞けば、オーナーのお父さんが木の関係のお仕事をされていたようで、ご自身でつくられたり購入されたりしたのでしょうか、それがアンティークにありがちな暗い古風な感じでなく、明るく清々しい空間を創りだしています。お父さんの「木」への愛着と、娘であるオーナーさんの趣味の良さがコラボした空間になっているのです。空間を楽しみ、料理を楽しみコーヒーを楽しむ、まさにカフェの楽しさを満喫させてくれる場所です。

オーナーのおすすめ

オーナーのおすすめを聞くと、日替わりランチはもちろんですが、オムライスが人気のようです。それを裏付けるように、僕が居る間に入ってきたお客さんは、たまたまでしょうか、みんなオムライスを注文していました。またクローバーでは、人気の絵手紙や手作りポーチなどのレッスンも定期的に開かれているということで、ただ飲食の場というだけでなく、コミュニケートの場としても機能しているように感じました。

ふくみみ Cafe

営業時間　11:30〜18:00
祝祭日は営業時間が変わる場合があります。定休日は、火曜日と第3月曜日となっています。

住所：奈良県大和高田市池尻２６

電話番号：0745-44-8069

アクセス：最寄り駅は、近鉄大阪線大和高田駅になるのですが、徒歩だと 20 分ぐらいかかります。

ふくみみ Cafe

2017 年 10 月にオープンした「ふくみみ cafe」。左肩上がりの勾配を持った白い清潔感のある建物が印象的。店内はロフト席につながる階段に誘われるように、上方に広がりを感じさせる造りになっており、ゆったりした開放感が店内を包んでいます。オーナーに、カフェをオープンした経緯を伺いました。「もともとこの場所は、祖父が仕出し屋をしていた店だったんです。それが祖父が亡くなって何十年も使われずにきたのですが、私の家族はみんな飲食業をしている、そんな影響でしょうか、この空いている場所を 使ってカフェをやってみたくなったんです。」「店の名の《ふくみみ》って、すごく可愛くて、それでいてインパクトがありますが、何か意味があるんですか。」「そこのカレンダーの写真、私の飼っている犬なんですが、名前が《ふくちゃん》、犬種がパピヨンっていう蝶々のような耳をしたやつです。それで《ふくみみ》って名前をつけました。」「カフェをはじめるにあたって、何か、こうしたいってことは……？」「やっぱり健康志向かなぁ。カラダに良いもの出したいし、それでフルーツを発酵させた天然酵母菌を使ってパンを焼いてるんです。それにケーキだって手作りだし、ランチだって地のものを使って健康に良いものをって考えてお出ししています。」

オーナーお勧め

オーナーお勧めの「黒豆のタルト」、でも季節限定メニューで、季節によってタルトの内容は変わるそうです。

次は取材でなくランチのためにお伺いし、食べ損なったカレーと、この黒豆タルト、ぜひ味わってみるつもりです。

ぎらさくつたんかた日記

今回は、【二上神社口】に行ってきました。

ふらふらっと駅を降りてみるのもいいかな、と思って近鉄の「二上神社口」で降りてみました。

「にじょうじんじゃぐち」って読むみたいです。「ふたうえ」って呼んでたわ。

降りたらすぐそこには坂道にきれいな空と踏み切り。とてもいい感じ。

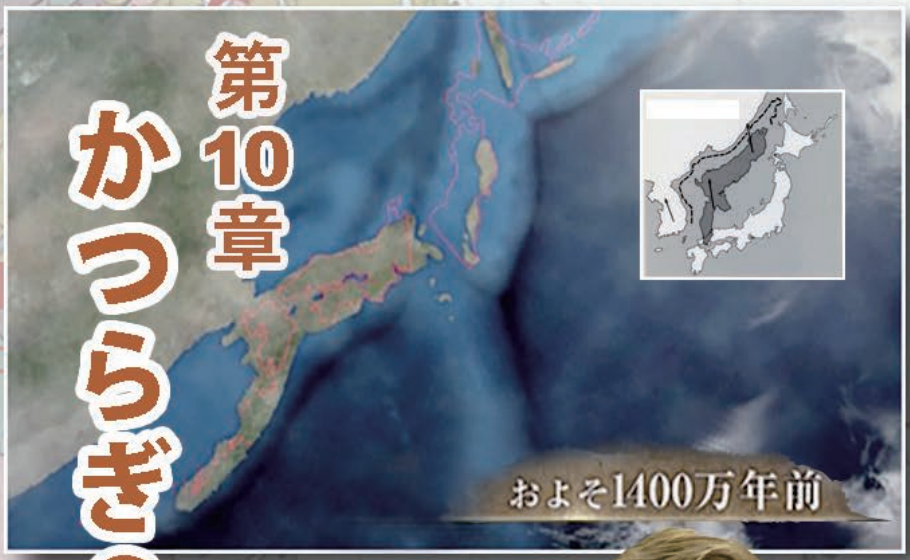
でもなんでこんなに良い景色なんだろう？と思って考えた所、坂のせいかな？と気づきました。

坂があるおかげで遠くまでの景色が見渡せるのです。

小さな良い発見があって、この駅で降りて良かったなと思いました。

大阪芸術大学 デザイン学科　田中美羽

第10章 かつらぎの自然と防災



一、菅野耕三さんという地質の先生

菅野耕三さんは、大阪教育大学で地質学や微古生物学を専門に研究されていた先生です。

「いた」と言ったのは、現在は退職されているからですが、退職された今も大阪教育大の名誉教授として広陵町に住まいされ、地震の先生として引っ張りだこ、呼ばれればどこへでも出かけていき、防災の話をやさしく、住民の方に、あるいは子どもたちに話して聞かせています。

阪神淡路大震災・鉄道被害

というのは、菅野先生が、阪神大震災の直後、震災後の調査団の一員として現地の調査に当たられたことがあります。そのとき、ある被災者の方から次のような厳しい言葉が返ってきました。

「あんたらは調査、調査というが、調査するのは結構だが、こうなる前に、何か私たちに話してくれたことがあるのか。地震に関する知識を知っていれば助かった者もおるはずや。」

以来、菅野先生は、地震のこと、防災のこと、防災知識のこと等々、話す機会があれば、どこへでも出かけていって話されるようになったといいます。

菅野先生は言います。

「地震は地球で生活する限り、どこでも起こり、災害は必ず起こる」、また「日本は地震大国、地震に遭遇することを想定して生きていかなければならない。災害に遭(あ)うことを前提に備(そな)えることで、より被害を少なくできる」と。

そんな菅野先生に、「あなたの知らない奈良のかつらぎさん」出版に先立ち、葛城(かつらぎ)の自然と防災について、

自遊空間ゼロでお話ししていただきました。

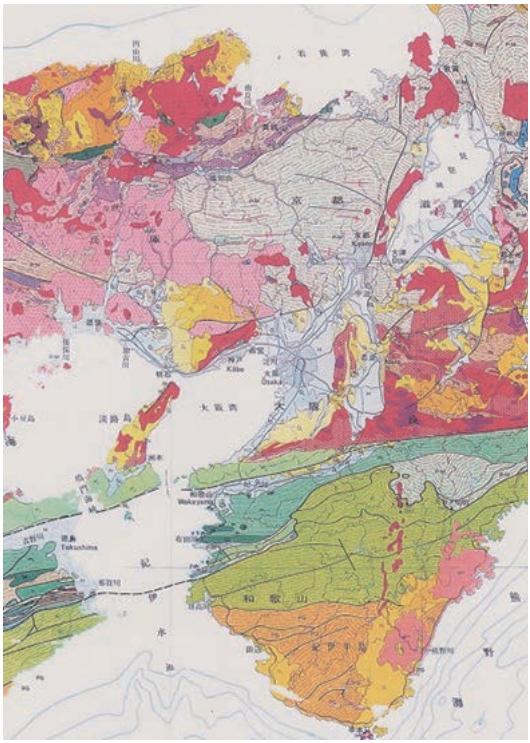
以下は、その要約です。なお使用した画像は、その際、使われたパワーポイントの画像を主に使わせていただいています。

二、石とは何か

石は何でできているか？鉱物です。鉱物の中で出る量が少なく、磨くときれいな色を発するものを宝石といいます。そして鉱物が集まったものが岩石になります。鉱物は現在分かっているだけで一三〇種ぐらいあるといわれています。その中で主に、すべての岩石に共通して入っているものを造岩鉱物と呼んでいます。無色鉱物では、石英、長石があげられ、独特の色を持っている鉱物では、黒雲母、角閃石、輝石、かんらん石などがあります。

このように鉱物が集まったものが岩石ですが、岩石にはマグマが冷え固まった火成岩、岩石のかけらが集まった堆積岩、化石が集まった堆積岩、岩石が押しつぶされて性質の変わった変成岩に分けられています。

この岩石を調べていくと、近畿地方では、北と南ではまったく違った様相になっています。北には、マグマが冷え固まった火成岩が数多く見られるのに、南には、ほとんど火成岩が見られない。これによって、北と南の出来方がまったく違うということが分かります。さらに東西に直線上に走った筋が何本も見られますが、これが断層であり、紀伊半島は断層の巣ということが分かります。



近畿地域の地質図　赤い部分が火成岩

で知られている二上山があります。この山は、安山岩や玄武岩からなっています。また、麓には凝灰岩からなる屯鶴峯があります。従って、この山はかっては火山であったことが分かります。

また、屯鶴峯の凝灰岩は、一九九三年の雲仙普賢岳で発生した火砕流と同じものです。ただ普賢岳は陸上ですが、屯鶴峯のものは、層をなしていることから、これらは水中で堆積したことが分かります。

では、これらの地層・岩石はいつごろできたのでしょうか。この時期に出来た地層・岩石を調べていくと、岐阜県の瑞浪地方から山陰地方に広がって分布していることが分かっています。そして、この地層からは、海に生息していた考えられる二枚貝のビカリアやヒルキシジミの化石が出てきます。

すなわち、一〇〇万年～一七〇〇万年前には、現在の瀬戸内海の原型である「第一瀬戸内海」があっ

では次に、我々の住む奈良の葛城地区について見ていくことにしましょう。

三、葛城地区は、昔、海だった

大阪府と奈良県の境に、大津皇子の墓があること

たことが分かっており、二上山は、海底で噴火した火山ということになります。

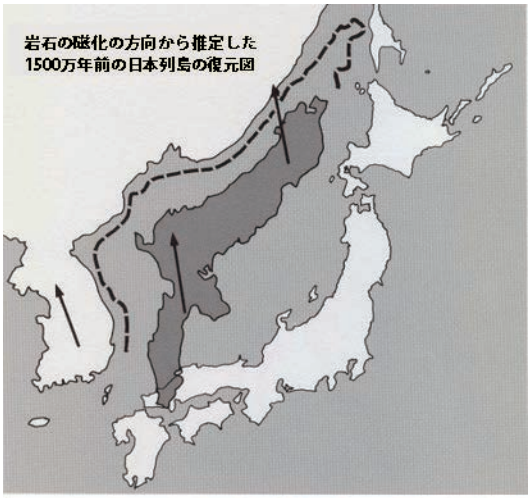
この時期は、火山活動が活発で、二上山の近くには、明神山、寺山、春日山などの旧火山があります。

なお、二上山が火山かと言えば、現在では火山ではありません。以前、火山の分類に、活火山・休火山・死火山という分け方がありましたが、一九七九年十月二十八日、その時まで死火山とされていた木曾の御嶽山が突然噴火し、死火山が活火山になったことから、これらの区別ができなくなり、この分け方では対応できなくなったのです。

現在は、火山とは、噴火していた時の山の形が残っているものを火山と呼ぶことになりました。従って、二上山は海底火山ですから、噴火していた時の山の形は分かりませんので、火山と言わないことになります。現在の二上山の形は、その後、断層運動により隆起（りゅうき）してきて陸上に姿を表すと、雨水によって削（けず）られますので、浸食地形であります。

二上山に登山されると、馬の背というところに二上山の説明板がありますが、ここに書かれている「二上山は、雄岳（おだけ）と雌岳（めだけ）よりなるトロイデ型火山です」というのは明らかには間違いです。トロイデ型火山というのは昭和新山のように、マグマがネバリ気が強く、そのまま上がってきて固まった、それをトロイデ型と言います。

なお、岩石の磁化の方向から推測された一五〇〇万年前の日本列島は、まだ、日本海がなく、西南日本だけがかろうじて存在していた、それも大陸にくっついてあったことが分かっています。



四、人間が利用してきた二上山の石

二上山を造る火山岩の中には、含ザクロ石安山岩と呼ばれる岩石があります。名前のごとく、一月の誕生石であるガーネット（ザクロ石）を含んでおり、それが長い年月の風化作用で砂になって、麓の竹田川に堆積しています。一九八〇年代の初頭までは、これらを採集し、選り分けて、サンドペーパー用のザクロ石として商業利用されていました。

このほか、火砕流が水中で堆積してできた凝灰岩、これは古墳造営のための石棺や石室、石塔などに使われ、二上山やその周辺には古代の石切場が造営されていました。飛鳥の高松塚古墳やマルコ山古墳の石槨材として利用されたことが知られています。

二上山は、また、サヌカイトが採れることでも有名です。

古銅輝石安山岩の一種で、非常に硬く、叩くとカンカンと高い音を発するため、別名カンカン石とも呼ばれています。表面は白いですが、中は真っ黒。割れ口が鋭く、硬いので、昔の人はナイフや矢じりなどに使っていました。サヌカイトという名称は、

二上山の古代石切場跡　案内板に高松塚の文字

明治政府に招かれ、日本各地の地質を調査したドイツ人地質学者ナウマン博士が、讃岐岩を本国に持ち帰り、知人のバインシェンク博士が研究して命名したものです。

五、約一〇〇万年前の海

馬見丘陵は、未凝固の礫（れき）・砂・粘土（ねんど）で出来ています。これらは、大阪層群と呼ばれる地層で、大阪やその周辺の丘陵地を作っている地層です。これらが堆積した時代は、地球が寒くなったり（氷河期という）、暖かくなったり（間氷期という）を繰（く）り返していました。寒くなると、雪が氷河になり、水が海へ到着しなくなりますので、海水面がどんどん低くなり、大阪湾も陸地になってしまいます。その反対に、暖かくなれば世界の氷河がどんどん溶（と）けて、海水面はどんどん高くなります。大阪湾の海水面も高くな

れば、大阪平野は海になってしまいます。大阪平野で縄文遺跡を探しても出てきません。なぜかというと海だったからです。

さらに、暖かくなれば、海水面は、当時は大和川はありませんので、淀川を伝って京都盆地に入り、更に奈良盆地にまで達します。馬見丘陵の地層は、このような海に堆積した地層から出来ています。このような海に堆積した地層を大阪層群と呼びます。これは大阪の丘陵地、千里、泉北、泉南の丘陵地は、全部大阪層群の地層から出来ています。

馬見丘陵からゾウの化石が……

この大阪層群が、いつ頃出来たのかというと、真美ヶ丘ニュータウンを造るときにボーリングをした結果、真美ヶ丘中学校の一四メートル下からピンク火山灰が見つかり、これにより、大阪層群は、百万年前にできた地層だということが分かったわけです。

海があったのかは粘土を調べればわかります。粘土には、琵琶湖のような淡水の湖に堆積した淡水成粘土と大阪湾のような海に堆積した海成粘土があります。

淡水成粘土は割れ方が直線状になるのに対して、海成粘土は、湾曲状に割れます。また、その表面にはイオウの粉が吹いています。

馬見丘陵公園の中央入口の前の崖には、その海成粘土があります。

この海成粘土で陶器を造ると、窯で焼いた途端に崩れてしまって焼き物になりません。古代の人は、淡水成粘土のある場所を経験則で知っており、土器類の焼成をおこなっていたということになります。

また震災時、悪影響をもたらすのも海成粘土です。

海成粘土で埋め立てられた土地は危険となってくるわけで、その点からも、埋め立て地よりも、切り崩して造成された土地のほうが安全となってくるわけです。

この大阪層群が出来た一〇〇万年前には、この葛城には象やワニが生息していました。北葛城の馬見丘陵からは一九七一年にステゴドン象の犬歯が発見（河合町）されていますし、同じ河合町の穴闇からは、シカマフシゾウ（大型のシカ）の角が、上牧町からはスギヤマゾウの臼歯が発見されています。

六、アズキ火山灰層

ピンク火山灰が、一〇〇万年前の大規模噴火の火山灰だということが分かっていますが、同じ大阪層群の地層の中にアズキ火山灰があります。この大阪層群のアズキ火山灰の残留磁化の方向を測定すると、これが現在の地球磁場と逆方向に帯磁していることが見出されたといいます。これは堆積物についてはじめて逆帯磁のものが報告された例で、この時期（一〇〇万年前～九〇万年前）、地球のN極とS極が入れ替わっていたというのです。

磁場が反転したとき、何が起こるのか予測不明ですが、現時点ですでに地球の磁場が弱くなっていることから、磁場が反転するときは近いとも言われています。

もし地球磁場が逆転したら……？

地球の磁場が反転しても何も起こらないという説と、反対に、地球の極が移動することにより「地球は内部から攻撃される」とし、極の移動（極の位置の南北

葛城市新庄町の大阪層群の露頭　（アズキ火山灰層）

の逆転）が悲惨な結果をもたらす可能性があるという説と、一部の世界では、喧々囂々（けんけんがくがく）の論議が巻き起こっていると言います。

話が幾分、ＳＦ的になってきました。予測不能の事態にどう対処するかを考えるより、最後は、菅野耕三先生の話に戻り、防災の話でこの章を締めくくりたいと思います。

七、自然災害に対する備え

自然災害とは、一九六一（昭和三十六）年に制定された「災害対策基本法」によれば、

「豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象または大規模な火事、若しくは爆発その他その及ぼす被害の程度において、これらに類する政令で定める原因によって生（しょう）ずる被害をいう」と規定されています。

この「災害対策基本法」に基づき、中央防災会議によって「防災基本計画」がつくられ、さらに各地域においても、この計画に基づき「地域防災計画」がつくられています。

具体的な話に移りましょう。

今回ではありませんが、菅野先生に「広陵町の自然災害」に関してお話しいただいたことがあります。広陵町ばかりでなく、葛城全体としても通じる話ですので、その内容を以下に箇条書きで掲（かか）げておきますので参考にしてください。

①奈良県内には京都府南部から奈良市～天理市～桜井市付近にわたり奈良盆地東縁断層がほぼ南北に延びている。この断層が動けば広陵町内でも震度６強の地震の恐れがある。

②町内の地震被害の恐れとしては、液状化現象と地面の陥没（かんぼつ）、隆起（りゅうき）が考えられる。液状化現象は、一〇世紀後半に広陵町でも起こっており危険地域

である。（箸尾遺跡で液状化が起こった状況が解る）
・液状化が起こり、建物が〇・三％傾くと人間は生活できない（三平規管がおかしくなり感覚が麻痺）。
・地面の陥没については、真美ヶ丘ニュータウンは山を削った造成地であるので切土地、盛土地が存在するが、切土地は安全と考えられるが、盛土地は危険が予想される。特に切土地と盛土地の境界が一番危険が予想される。
・また道路については基礎補強などを施せないので、陥没や隆起の危険は大きい。
③水害等の恐れとしては、奈良県の下水道は時間雨量三〇ミリを予想して作られているので、最近の八〇～一〇〇ミリの雨量には対応できない。
（五〇年前では時間三〇ミリの雨量でも一〇〇年に一度の雨量と想定されていた）

災害への備え

①地震が起きると木造家屋では一階が潰されるので、二階の方が安全。一番安全な場所はトイレ（但し、ドアは開けておかないと閉込められる危険がある）。
②倒れそうな物の近くでは寝ない、倒れそうな物は固定する。
③家の外に出るときは、絶対ハダシで逃げない（ケガの危険が大きい）。
④道路に水が溢れた時は逃げずに家の一番高い場所で救助を待つ（道路が水に浸かると状況が解らず危険である。また水面は静かでも水中は流れが速く危険な場合がある。）
⑤行政の避難指示等は非常に遅いので、予め自主避難することも大事。
⑥避難場所は予め確認しておく。
⑦避難の際は、最小限の物だけを持つ。
⑧津波の発生箇所近くにいた場合は、大阪市であれば地震発生から津波到達までは二時間近く時間があるので、慌てずに避難する。

・災害に対する考え方

①防災に特効薬はない（自然災害は止められない）。
②減災を考えていく（少しの備えで大きく変わる）。
③災害にあう事を前提に生きていかねばならない。
④自分の居住している場所のことをよく知っておく。
⑤３つの教訓

油断大敵（油断こそが災害の最大の敵）
用意周到（事前の備えこそが最大の防備）
自主連携（自助と共に共助（互助）が不可欠）

人間は天・地・水の動きがある地球に養われている。
地球からみれば災害も自然論理の一つである。

スタッフ紹介

「あなたの知らないかつらぎさん」制作のために集まった
スタッフの紹介をしていきたいと思います!

大阪芸術大学 デザイン学科　髙山ひなの（デザイン）
大阪芸術大学 デザイン学科　津村凪咲　（イラスト）

私たちの沢山の
【努力】が詰まった本、
楽しんでもらえたら幸いです。

デジタルメディアコース
田中 美羽（3回生）

今回の本づくりで学んだことを、
将来に活かしていきたいと思います。

グラフィックデザインコース
Palau Paula（3回生）

本づくりは学生たちに
いろいろな発見を
与えてくれました!!

デザイン学科
清水柾行 教授

この3年間で
全く初めての経験。
ありがとうございました!

デザインプロデュースコース
原口 萌（3回生）

応援団チーム 3名

多くの方々に、
この本を読んでいただく
ことを期待しています。

大阪教育大学名誉教授
菅野 耕三

かつらぎとの関係が深い
「古事記のものがたり」
ぜひ読んでくださいね。

古事記チーム
宮崎 みどり

宮崎みどりとの共著
「古事記のものがたり」
20刷りの記念出版が
できあってきました。

古事記チーム
小林 晴明

大阪芸術大学 11名

貴重な体験を
させていただき、
本づくりにもっと興味が
湧きました！

グラフィックデザインコース
鈴木 将輝（3回生）

かつらぎの様々な場所に
取材に行きました。
とても明るい町でした。

グラフィックデザインコース
地頭所 樹（3回生）

初めての本の編集は、
未知なことばかりで
やりがいを感じました。

グラフィックデザインコース
寺山 京助（3回生）

初めて訪れた「かつらぎ」。
知っていくうちに
大好きな場所になりました。

デザインプロデュースコース
津村 凪咲（3回生）

本を制作する楽しさ。
伝えるという事の難しさ。
全てが勉強になりました！

デザインプロデュースコース
髙山 ひなの（3回生）

自分の感じたことを
本にするという
貴重な体験が出来ました。

デザインプロデュースコース
的場 大輝（3回生）

グループで作品を作る
大変さと楽しさを
知る事が出来ました。

グラフィックデザインコース
筒井 拓哉（3回生）

広陵町 4名

広陵町担当
谷矢 友香子

結婚を機に大阪から
奈良に移住しました。奈良
の歴史自然に触れ大好きに♡
ご縁があり広陵町にOPEN。以来、
奈良・広陵町のアピールが趣味！
すべての基準は楽しいこと！
一緒に楽しみましょう〜♪

広陵町担当
宿久 和美

沢山の出会いに恵まれ、
発見の連続でした。
皆様とのご縁に感謝 !!!
広陵は魅力的な町です。

動物担当 中学生記者
林 珠理

今回、参加して普段じゃ
聞けないことや、体験できない
ことができて楽しかったです。

動物担当 小学生記者
林 あこ

初めて聞く話がいっぱい
ありました。
わんこ堂のわんちゃんが、
かわいかったです。

編集工房DEP 3名

マネージャー
朝日 めぐみ

この本を開いて
たくさんの人との出会いを
楽しんでいただけたら
嬉しいです。

総括担当
桐生 敏明

若い人の発想力は、
半端ないです。「それはない
だろう」と思っても、形になれ
ば「ウーン」と感心させられる
ことが何度もありました。

営業担当
桐生 紘次

かつらぎからイメージ
するものといえば**公園**や**おい
しいランチ**。あまり目立たない
店が、びっくりするくらいおいし
かったりするんです。それ以外
にも、この本には**かつらぎ**の
魅力がぎっしり！

御所市 2名

御所市担当
樣原 愛奈

この本で葛城地域の魅力をたくさんの方に知ってもらい、もっと発展していくことを願っています。

この機会で、地域のいいところや、いい人に、たくさん出会えてよかったです。

御所市担当 中学生記者
樣原 由依

香芝市 6名

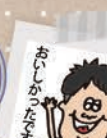
香芝市担当
多田 美砂

こどもたちと
一緒に取材をしたり、
またしてもらったり……
とっても楽しかったです。

目分が（活動のひとつである）あそぼう会に参加してたので、こんなに色々と考えて工夫してくれてたことを知っておどろいたし、うれしかったです。

子ども記者
西本 昊結

今回が人生初の取材ということで、少し緊張しましたが、大森さんたちの「たこやきドーナツ」に対する 熱い思いを教えてもらったり、とても楽しかったです。



小学生記者
田中 大暉

小学生記者
河合 ひかり

質問したことにちゃんと答えてくれて、うれしかった。焼いたり、油で揚げたり、食べた人がおいしいと思うように工夫して一生懸命作ってくれていて大変だなあと思いました。

小学生記者
時山 ゆり

好きな花は、ゆり
好きな動物は、犬と猫
好きな虫は、蚕
香芝市の花はスミレ
だから、スミレのパンを作ってほしいなあ～

性格はおてんばだけど、静かな時もあります。食べ物が大好きで、いつも学校でおかわりしてます。趣味はギターで、練習が大変だけど、上手くできるとうれしいです。

小学生記者
田中 瑠音

あなたの知らない奈良のかつらぎさん ―― かつらぎガイドブック

2019 年 7 月 15 日発行

編　者　自遊空間ゼロ
発行者　桐生敏明
デザイン　大阪芸術大学デザイン学科
監　修　菅野耕三（大阪教育大学名誉教授）
　　清水柾行（大阪芸術大学教授）
発行所　編集工房ＤＥＰ
　　奈良県北葛城郡広陵町三吉 345-14
　　tel 0745-54-1218

印刷 / 製本 …… 株式会社 モリモト印刷

© Free space ZERO　Printed in Japan 2019